

茨城県ケアラー実態調査 結果報告書

令和8年3月

茨城県福祉部福祉政策課

目 次

I 調査の概要	1
1. 目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 実施時期.....	1
4. 回答状況.....	2
II 調査結果	3
1. ケアラー当事者調査（高齢者・障害者・ダブルケア）	3
1) 基本情報.....	3
2) ケアの状況について.....	9
3) ケアラー自身へのケアの影響について.....	32
4) ケアに関する相談について.....	63
5) 求める支援について.....	86
6) ダブルケアについて.....	92
7) 自由記述.....	107
2. ケアラー当事者団体調査	113
1) 会員のケアの状況について.....	113
3. ケアラー支援機関調査	116
1) 支援機関の種別.....	116
2) ケアラー・ヤングケアラーの認知度	119
3) ケアラーについて	123
4) ヤングケアラーについて	140
III 資料編（調査票）	156

I 調査の概要

1. 目的

本調査は、茨城県内におけるケアラーの実態についてアンケート調査を実施することにより、課題を抱えるケアラーを早期発見・把握し、支援につなげるための資料とすることを目的とする。

2. 調査対象

対象	調査方法	対象者
①-1 当事者 高齢者のケアラー	WEB アンケート調査 ※支援機関の利用者へ周知、協力を依頼	地域包括支援センターを利用しているケアラー：564 人、1 施設あたり6人を目途に依頼 居宅介護支援事業所を利用しているケアラー：848 人、1 施設あたり1人を目途に依頼
①-2 当事者 障害者のケアラー	WEB アンケート調査 ※支援機関の利用者へ周知、協力を依頼	障害者相談支援事業所を利用しているケアラー：1,488 人、1 施設あたり4人を目途に依頼
①-3 当事者 ダブルケアを行うケアラー	WEB アンケート調査 ※保育施設、地域子育て拠点の利用者へ周知、協力を依頼	保育施設を利用している保育園児等の保護者：約 81,000 人 地域子育て支援拠点の利用者：273 力所に周知を依頼
②ケアラー当事者団体	WEB アンケート調査 ※団体へメール等による依頼	ケアラー支援団体：16 力所
③ケアラー支援機関	WEB アンケート調査 ※支援機関へメール等による依頼	民生委員児童委員協議会：141 力所 地域包括支援センター：94 力所 障害者相談支援事業所：372 力所 居宅介護支援事業所：848 力所

3. 実施時期

令和7年7月18日～8月31日

4. 回答状況

対象	対象数	有効回答数	回答率
①-1 当事者：高齢者のケアラー	1,412 人	217 人	15.4%
①-2 当事者：障害者のケアラー	1,488 人	84 人	5.6%
①-3 当事者：ダブルケアを行う ケアラー	81,273 人	89 人	0.11%
② ケアラー当事者団体	16 カ所	13 カ所	81.3%
③ ケアラー支援機関	1,455 カ所	477 カ所	32.8%

※①-3 ダブルケアを行うケアラーは、回答者数 1,406 件のうちダブルケア該当者 89 人であった。

※対象数は、施設に回答を依頼したケアラー（利用者）の数を掲載している。回答率については、今回の調査は、各ケアラーへ調査票の配布は行わず、施設からケアラーへのメール配信又はケアラーによるQRコードの読み込みによる回答としたため、回答率が低くなったと考えられる。

II 調査結果

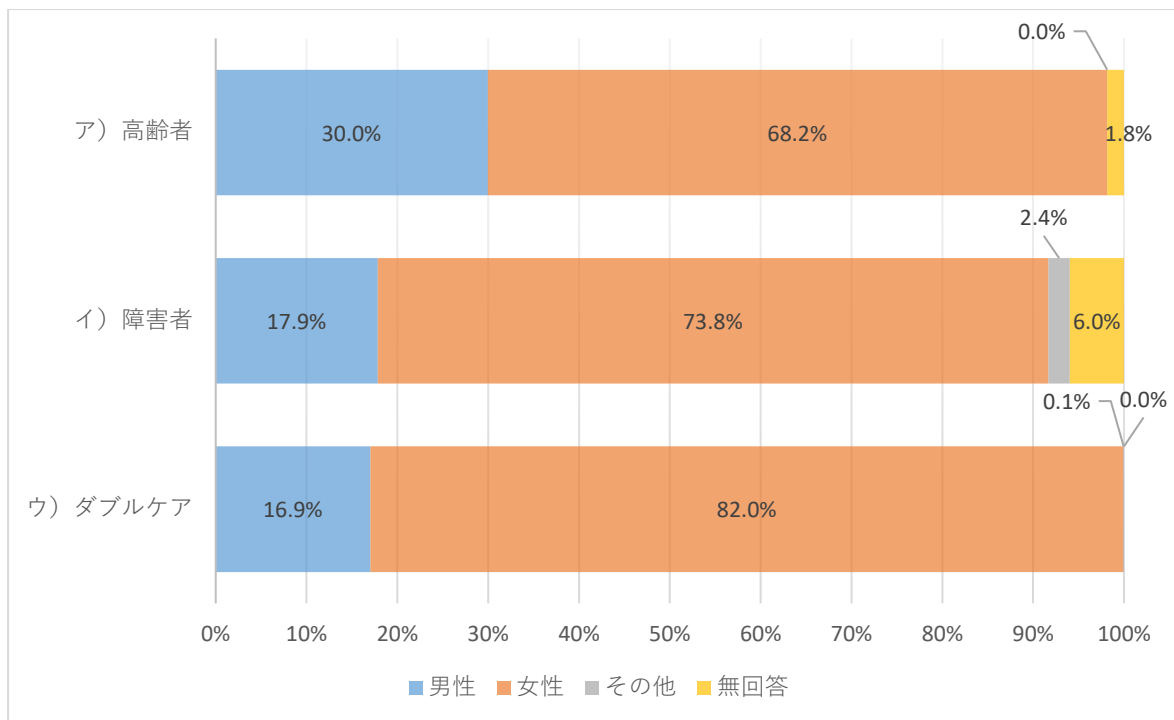
1. ケアラー当事者調査（高齢者・障害者・ダブルケア）

1) 基本情報

(1) 性別・年齢

【性別】

ケアラー自身の性別については、高齢者では「男性」が30.0%、「女性」が68.2%となっている。障害者では「男性」が17.9%、「女性」が73.8%となっている。ダブルケアでは「男性」が16.9%、「女性」が82.0%となっている。



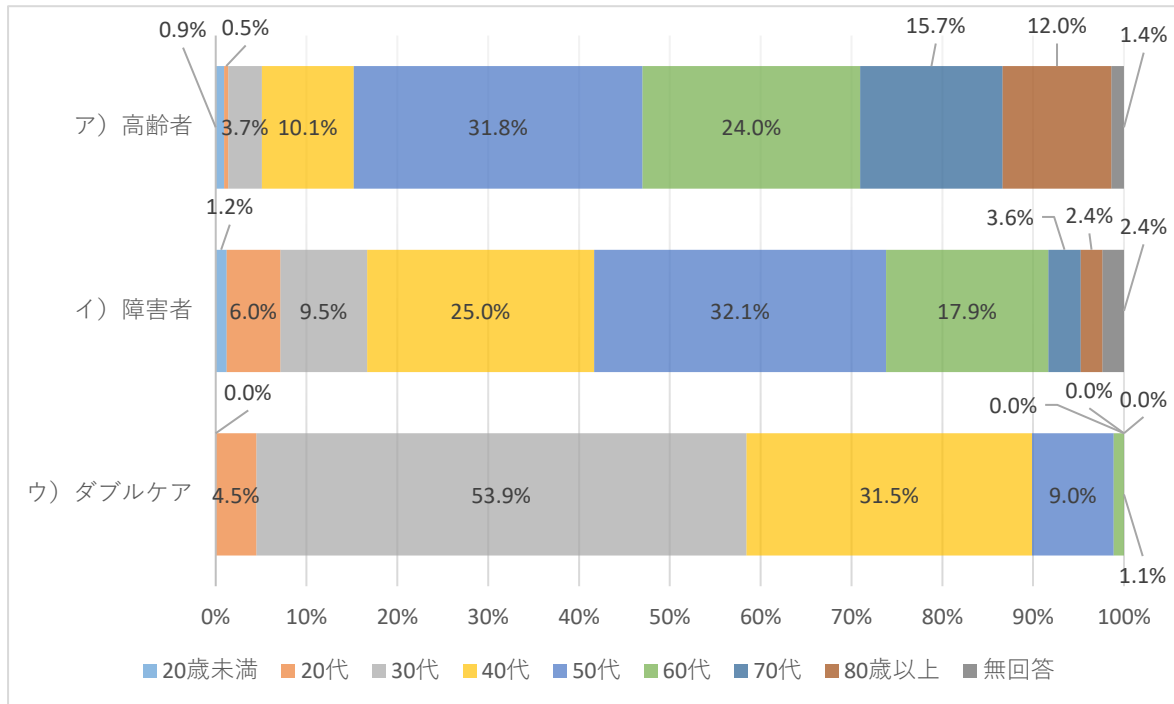
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	65	30.0%	15	17.9%	15	16.9%
女性	148	68.2%	62	73.8%	73	82.0%
その他	0	0.0%	2	2.4%	1	0.1%
無回答	4	1.8%	5	6.0%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【年齢】

ケアラー自身の年齢については、高齢者では「50代」が31.8%と最も高く、次いで「60代」が24.0%となっている。障害者では「50代」が32.1%と最も高く、次いで「40代」が25.0%となっている。ダブルケアでは「30代」が53.9%と最も高く、次いで「40代」が31.5%となっている。



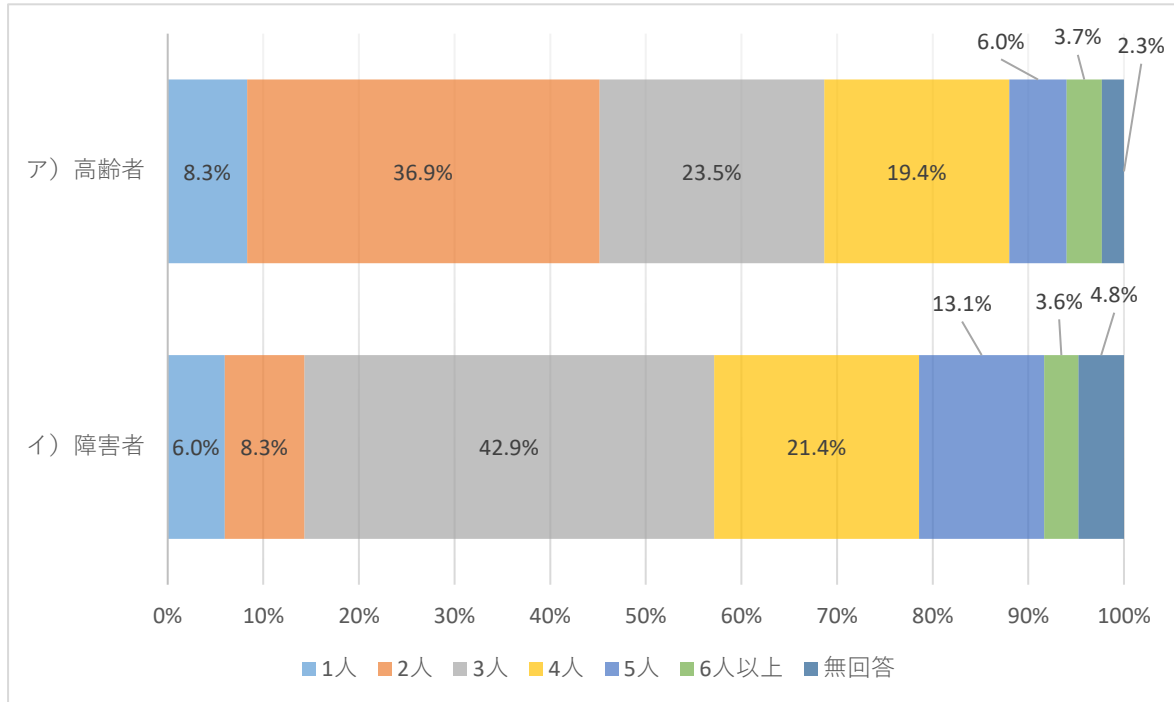
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20歳未満	2	0.9%	1	1.2%	0	0.0%
20代	1	0.5%	5	6.0%	4	4.5%
30代	8	3.7%	8	9.5%	48	53.9%
40代	22	10.1%	21	25.0%	28	31.5%
50代	69	31.8%	27	32.1%	8	9.0%
60代	52	24.0%	15	17.9%	1	1.1%
70代	34	15.7%	3	3.6%	0	0.0%
80歳以上	26	12.0%	2	2.4%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	2	2.4%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(2) 同居人数

同居人数については、高齢者では「2人」が36.9%で最も高く、次いで「3人」23.5%、「4人」が19.4%となっている。障害者では「3人」が42.9%で最も高く、次いで「4人」21.4%、「5人」13.1%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
1人	18	8.3%	5	6.0%
2人	80	36.9%	7	8.3%
3人	51	23.5%	36	42.9%
4人	42	19.4%	18	21.4%
5人	13	6.0%	11	13.1%
6人以上	8	3.7%	3	3.6%
無回答	5	2.3%	4	4.8%
合計	217	100.0%	84	100.0%

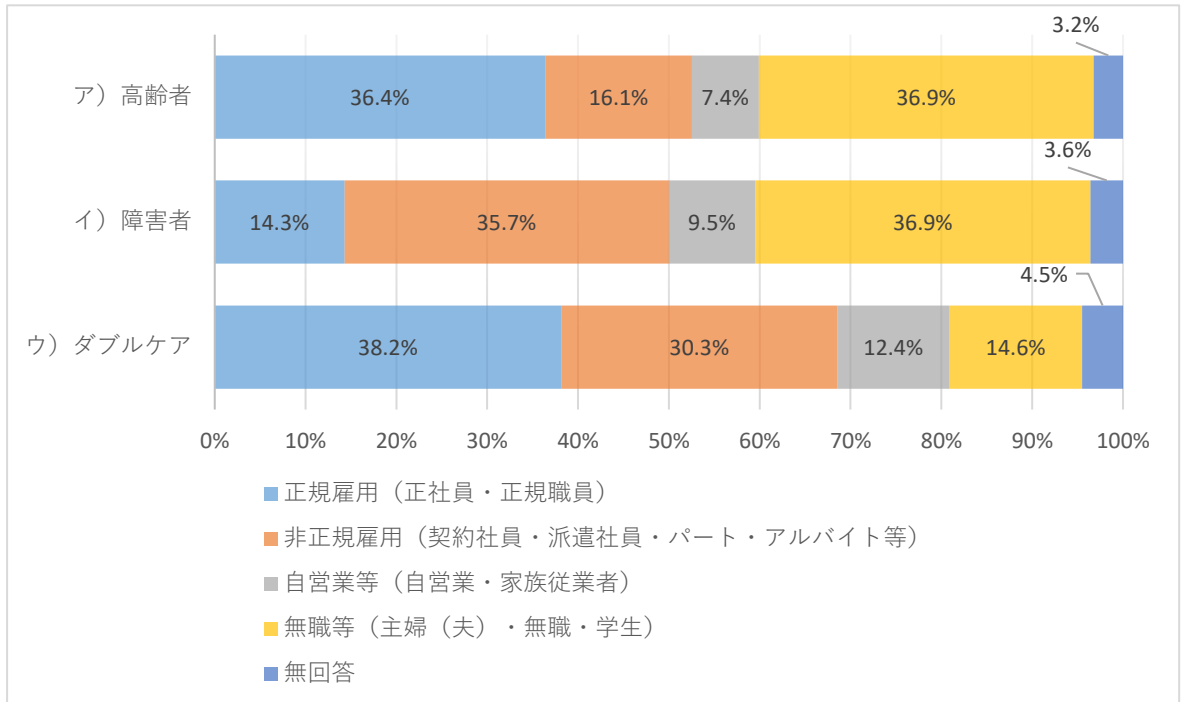
※ダブルケアについては、「同居人数」は設問項目になし。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(3) 就労状況

ケアラー自身の就労状況については、高齢者では「無職等」が36.9%で最も高く、次いで「正規雇用」が36.4%、「非正規雇用」が16.1%となっている。障害者では「無職等」が36.9%で最も高く、次いで「非正規雇用」が35.7%、「正規雇用」が14.3%となっている。ダブルケアでは「正規雇用」が38.2%で最も高く、次いで「非正規雇用」が30.3%、「無職等」が14.6%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
正規雇用 (正社員・正規職員)	79	36.4%	12	14.3%	34	38.2%
非正規雇用 (契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等)	35	16.1%	30	35.7%	27	30.3%
自営業等 (自営業・家族従業者)	16	7.4%	8	9.5%	11	12.4%
無職等 (主婦(夫)・無職・学生)	80	36.9%	31	36.9%	13	14.6%
無回答	7	3.2%	3	3.6%	4	4.5%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【詳細表】

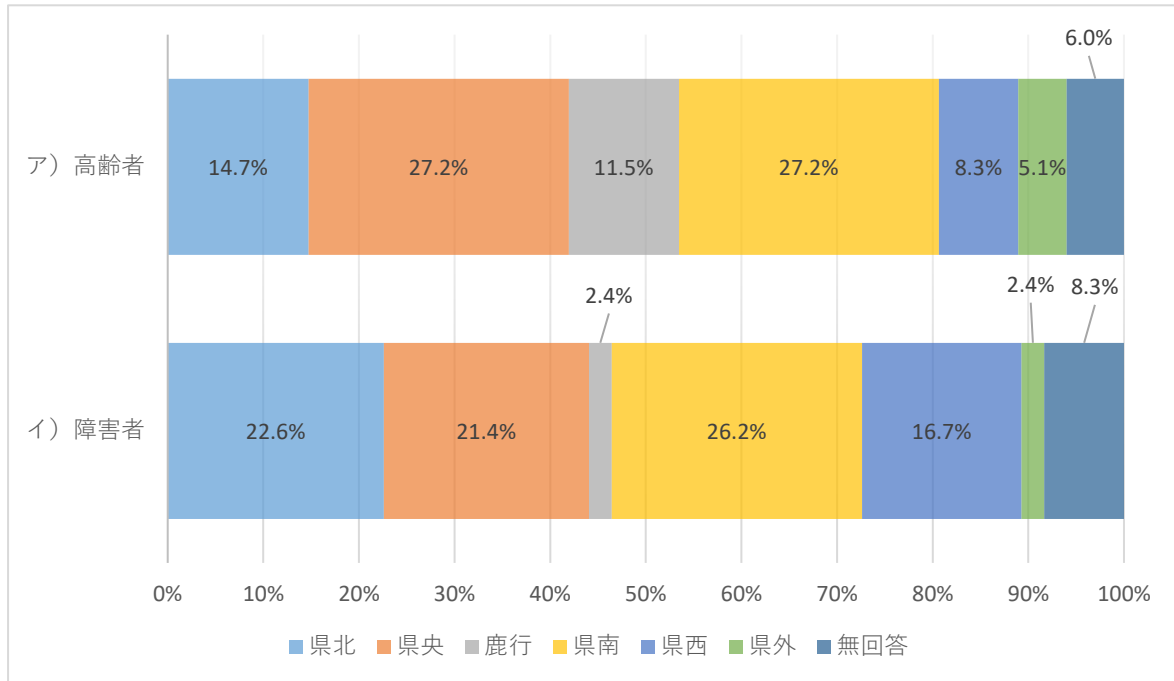
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
正規雇用（正社員・正規職員）	79	36.4%	12	14.3%
非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）	35	16.1%	30	35.7%
自営業	15	6.9%	6	7.1%
主婦（夫）	34	15.7%	16	19.0%
家族従業者	1	0.5%	2	2.4%
無職	44	20.3%	14	16.7%
学生	2	0.9%	1	1.2%
無回答	7	3.2%	3	3.6%
合計	217	100.0%	84	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(4) 居住地

ケアラー自身の居住地については、高齢者は「県央」「県南」が27.2%、「県北」が14.7%、「鹿行」11.5%となっている。障害者は「県南」が26.2%、「県北」が22.6%、「県央」が21.4%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
県北	32	14.7%	19	22.6%
県央	59	27.2%	18	21.4%
鹿行	25	11.5%	2	2.4%
県南	59	27.2%	22	26.2%
県西	18	8.3%	14	16.7%
県外	11	5.1%	2	2.4%
無回答	13	6.0%	7	8.3%
合計	217	100.0%	84	100.0%

※ダブルケアについては、「居住地」は設問項目になし。

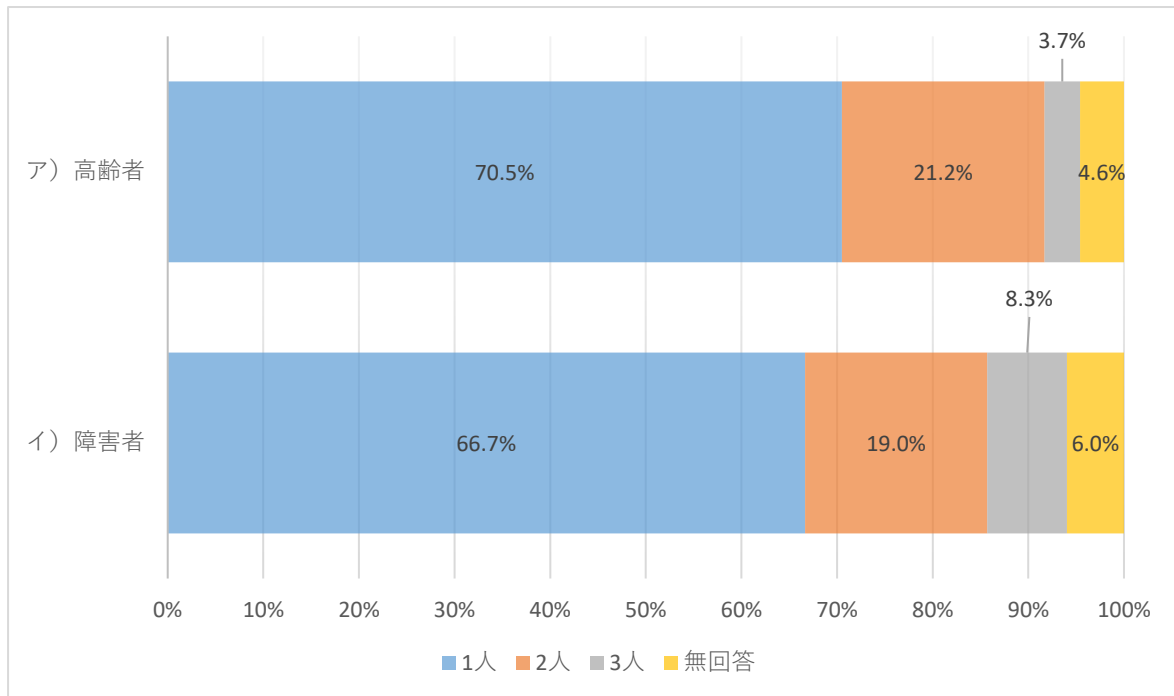
2) ケアの状況について

※ケアをしている人が複数いる場合は、ケアが大変な順に、1人目、2人目、3人目としている。

(1) 被介護者との関係

【ケアをしている人数】

ケアをしている人数については、高齢者では「1人」が70.5%、「2人」が21.2%、「3人」が3.7%となっている。障害者では「1人」が66.7%、「2人」が19.0%、「3人」が8.3%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
1人	153	70.5%	56	66.7%
2人	46	21.2%	16	19.0%
3人	8	3.7%	7	8.3%
無回答	10	4.6%	5	6.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%

※ダブルケアについては、「ケアをしている人数」は設問項目になし。

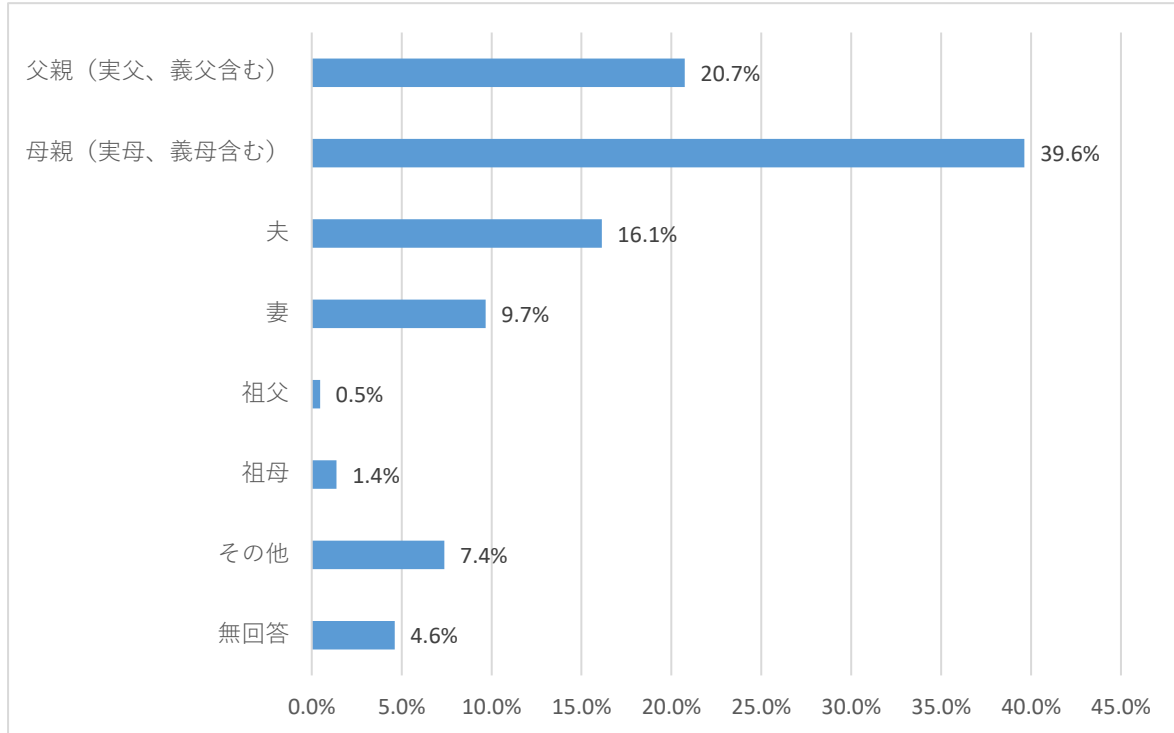
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【被介護者との関係】

ア) 高齢者

1人目の被介護者との関係については、「母親」が39.6%で最も高く、次いで「父親」が20.7%、「夫」が16.1%となっている。



※グラフについては、1人目のみ作成。

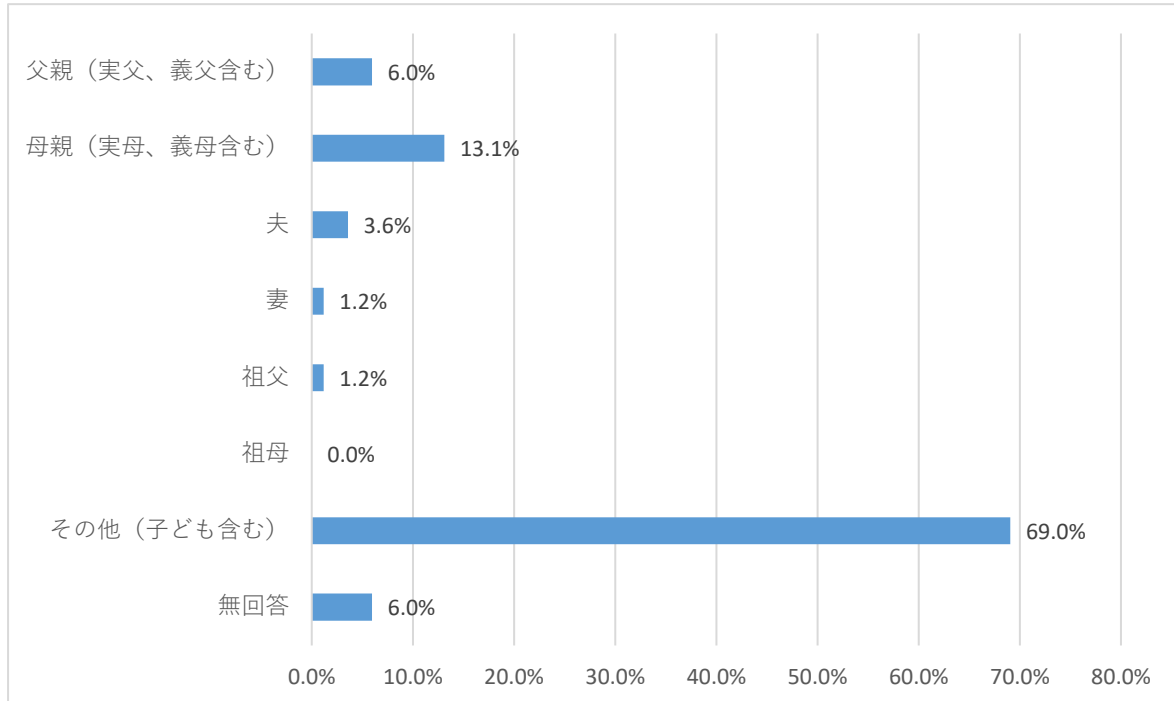
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
父親（実父、義父含む）	45	20.7%	14	6.5%	1	0.5%
母親（実母、義母含む）	86	39.6%	22	10.1%	3	1.4%
夫	35	16.1%	1	0.5%	0	0.0%
妻	21	9.7%	1	0.5%	1	0.5%
祖父	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
祖母	3	1.4%	1	0.5%	0	0.0%
その他	16	7.4%	7	3.2%	3	1.4%
無回答	10	4.6%	171	78.8%	209	96.3%
合計	217	100.0%	217	100.0%	217	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

1人目の被介護者との関係については、「その他（子ども含む）」が69.0%で最も高く、次いで「母親」が13.1%、「父親」が6.0%となっている。



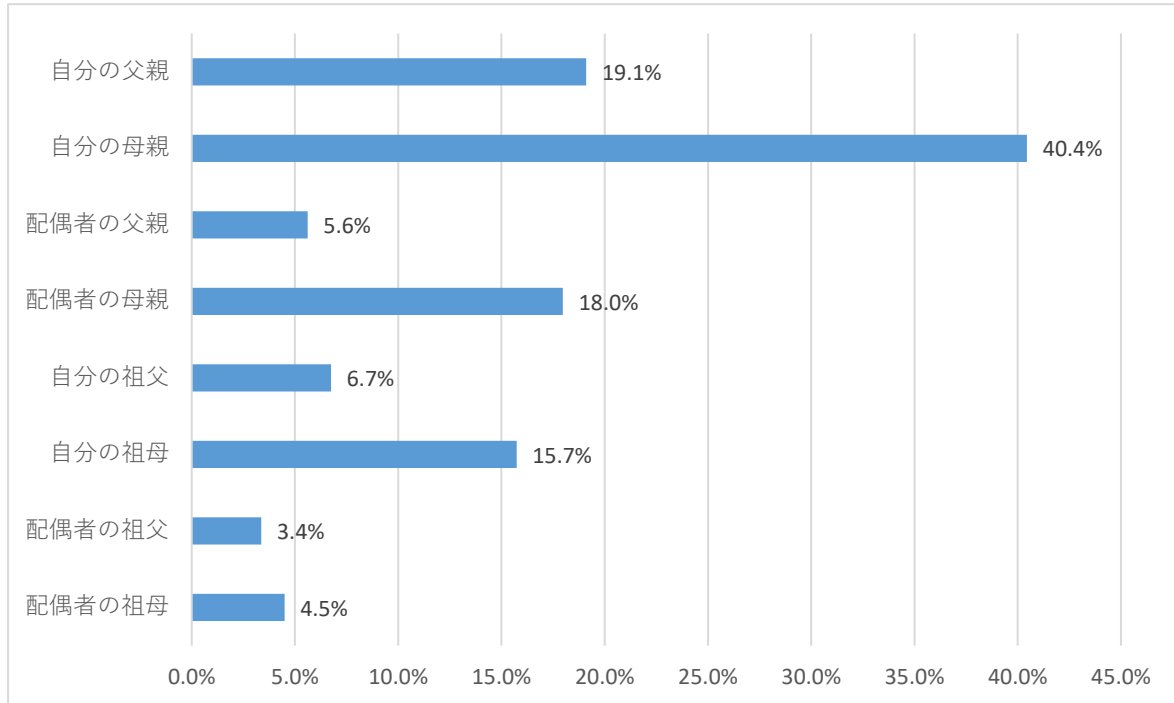
※グラフについては、1人目のみ作成。

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
父親（実父、義父含む）	5	6.0%	1	1.2%	2	2.4%
母親（実母、義母含む）	11	13.1%	3	3.6%	0	0.0%
夫	3	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
妻	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
祖父	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
祖母	0	0.0%	1	1.2%	1	1.2%
その他（子ども含む）	58	69.0%	11	13.1%	4	4.8%
無回答	5	6.0%	68	81.0%	77	91.7%
合計	84	100.0%	84	100.0%	84	100.0%

ウ) ダブルケア

被介護者との関係については、「自分の母親」が40.4%で最も高く、次いで「自分の父親」が19.1%、「配偶者の母親」が18.0%となっている。

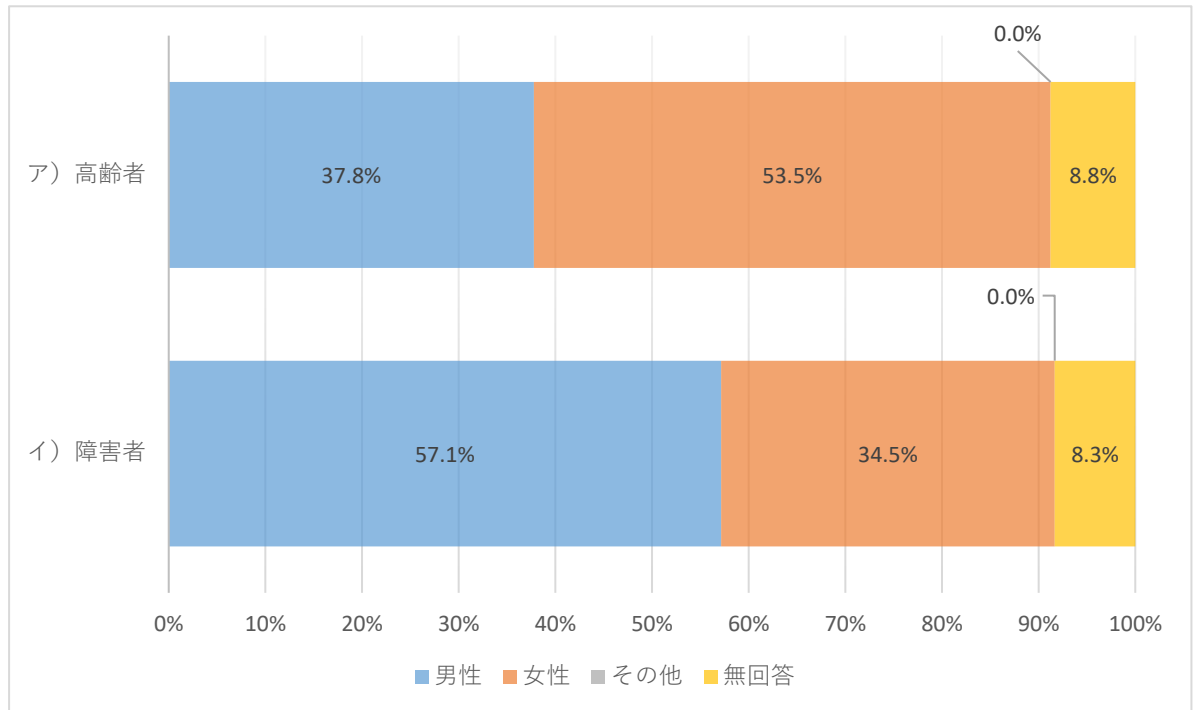
(複数回答)



項目	回答数	割合
自分の父親	17	19.1%
自分の母親	36	40.4%
配偶者の父親	5	5.6%
配偶者の母親	16	18.0%
自分の祖父	6	6.7%
自分の祖母	14	15.7%
配偶者の祖父	3	3.4%
配偶者の祖母	4	4.5%

(2) 被介護者の性別

1人目の被介護者の性別については、高齢者では「男性」が37.8%、「女性」が53.5%となっている。障害者では「男性」が57.1%、「女性」が34.5%となっている。



※グラフについては、1人目のみ作成。

ア) 高齢者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	82	37.8%	19	8.8%	4	1.8%
女性	116	53.5%	28	12.9%	4	1.8%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	19	8.8%	170	78.3%	209	96.3%
合計	217	100.0%	217	100.0%	217	100.0%

イ) 障害者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	48	57.1%	9	10.7%	2	2.4%
女性	29	34.5%	7	8.3%	5	6.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	8.3%	68	81.0%	77	91.7%
合計	84	100.0%	84	100.0%	84	100.0%

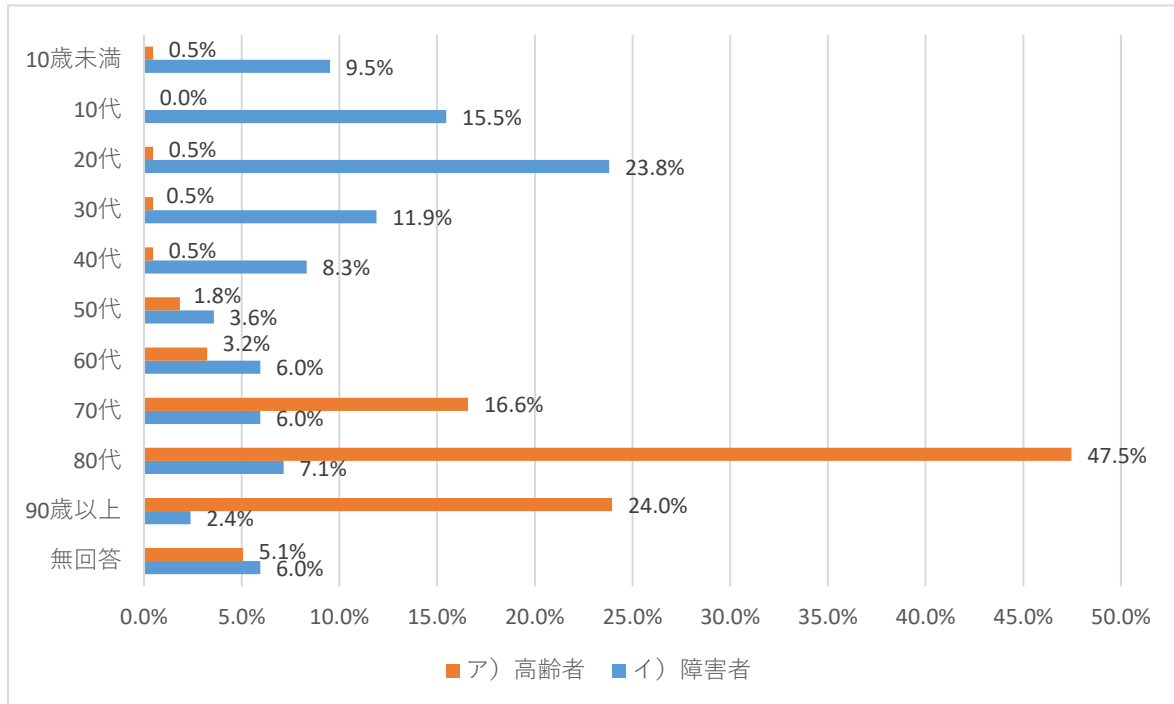
※ダブルケアについては、「被介護者の性別」は設問項目になし。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(3) 被介護者の年齢

1人目の被介護者の年齢については、高齢者では「80代」が47.5%で最も高く、次いで「90歳以上」が24.0%、「70代」が16.6%となっている。障害者では「20代」が23.8%で最も高く、次いで「10代」が15.5%、「30代」が11.9%となっている。



※グラフについては、1人目のみ作成。

ア) 高齢者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10歳未満	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
10代	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
20代	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
30代	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
40代	1	0.5%	2	0.9%	0	0.0%
50代	4	1.8%	3	1.4%	0	0.0%
60代	7	3.2%	1	0.5%	2	0.9%
70代	36	16.6%	10	4.6%	2	0.9%
80代	103	47.5%	23	10.6%	2	0.9%
90歳以上	52	24.0%	7	3.2%	1	0.5%
無回答	11	5.1%	170	78.3%	209	96.3%
合計	217	100.0%	217	100.0%	217	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10歳未満	8	9.5%	4	4.8%	1	1.2%
10代	13	15.5%	1	1.2%	1	1.2%
20代	20	23.8%	1	1.2%	1	1.2%
30代	10	11.9%	1	1.2%	0	0.0%
40代	7	8.3%	2	2.4%	0	0.0%
50代	3	3.6%	3	3.6%	1	1.2%
60代	5	6.0%	1	1.2%	0	0.0%
70代	5	6.0%	0	0.0%	1	1.2%
80代	6	7.1%	3	3.6%	2	2.4%
90歳以上	2	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	5	6.0%	68	81.0%	77	91.7%
合計	84	100.0%	84	100.0%	84	100.0%

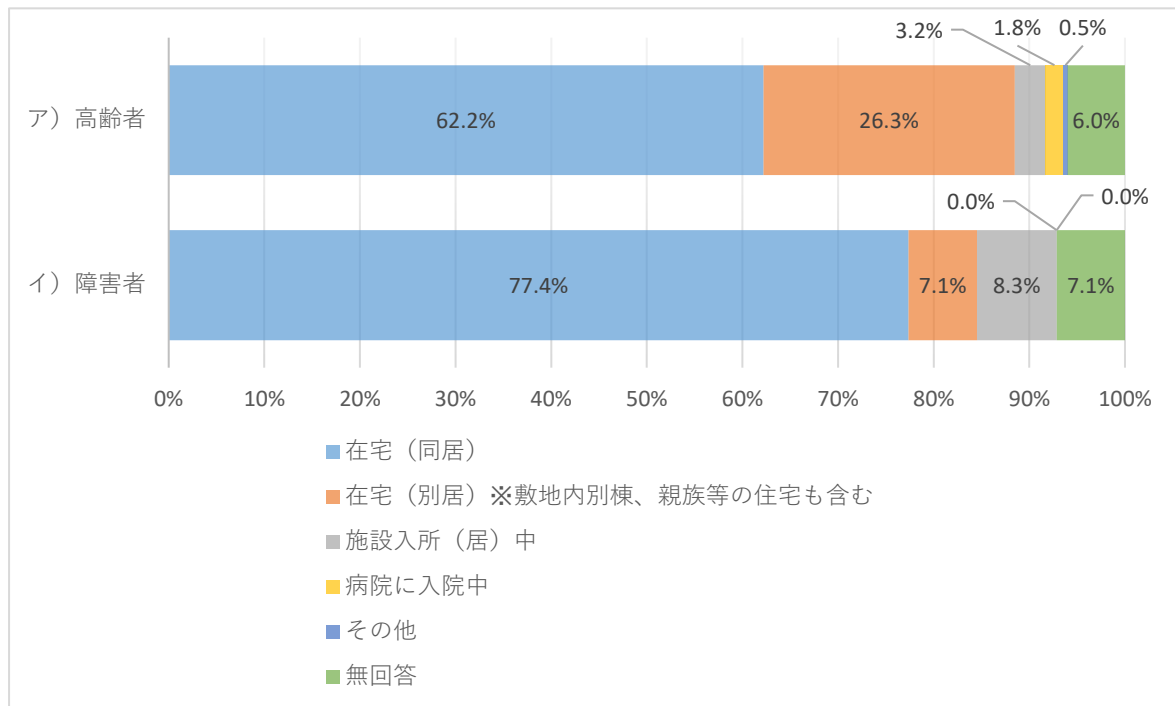
※ダブルケアについては、「被介護者の年齢」は設問項目になし。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(4) 被介護者の生活の場所

1人目の被介護者が生活している場所については、高齢者では「在宅（同居）」が62.2%で最も高く、次いで「在宅（別居）」が26.3%となっている。障害者では「在宅（同居）」が77.4%で最も高く、次いで「施設入所（居）中」が8.3%、「在宅（別居）」「その他」が7.1%となっている。



※グラフについては、1人目のみ作成。

ア) 高齢者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
在宅（同居）	135	62.2%	21	9.7%	4	1.8%
在宅（別居）※敷地内別棟、親族等の住宅も含む	57	26.3%	21	9.7%	4	1.8%
施設入所（居）中	7	3.2%	6	2.8%	0	0.0%
病院に入院中	4	1.8%	1	0.5%	0	0.0%
その他	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	13	6.0%	168	77.4%	209	96.3%
合計	217	100.0%	217	100.0%	217	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
在宅（同居）	65	77.4%	12	14.3%	6	7.1%
在宅（別居）※敷地内別棟、親族等の住宅も含む	6	7.1%	3	3.6%	1	1.2%
施設入所（居）中	7	8.3%	2	2.4%	0	0.0%
病院に入院中	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	7.1%	67	79.8%	77	91.7%
合計	84	100.0%	84	100.0%	84	100.0%

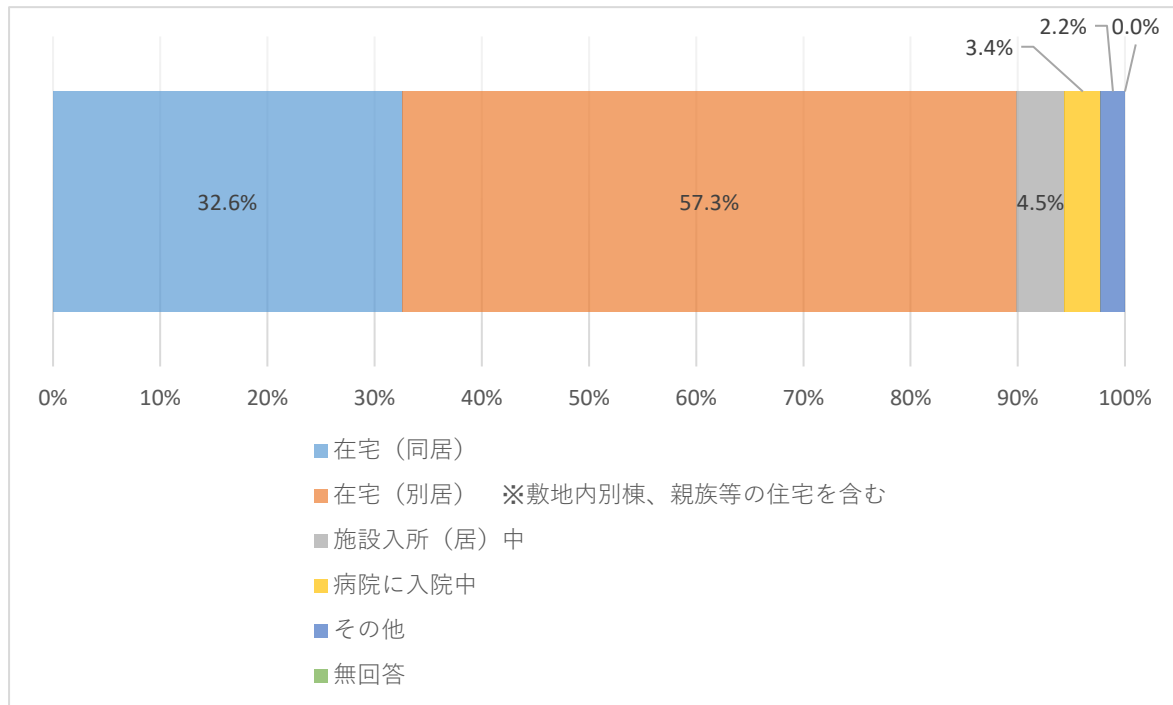
※グラフについては、1人目のみ作成。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

被介護者が生活している場所については、「在宅（別居）」が57.3%と最も高く、次いで「在宅（同居）」と32.6%となっている。



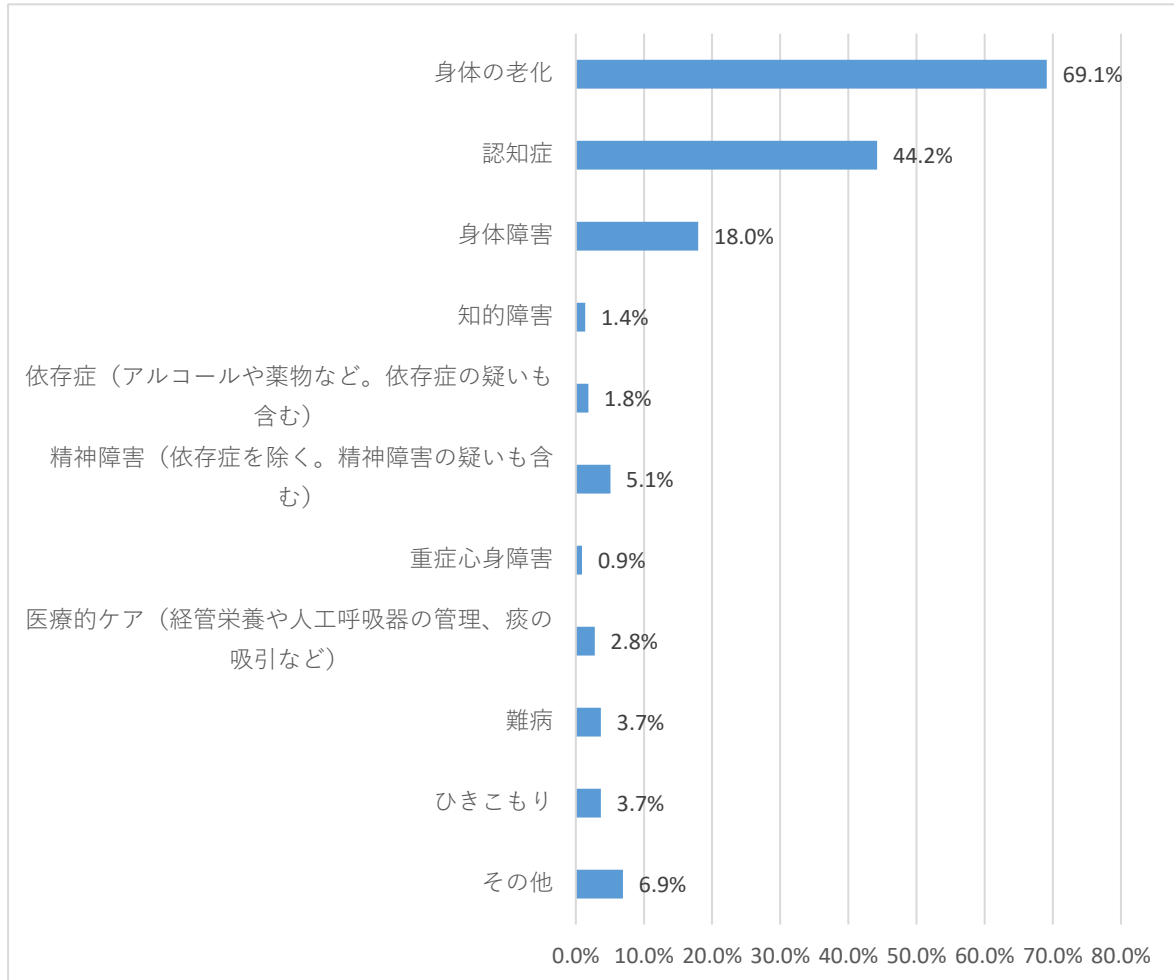
項目	ダブルケア	
	回答数	割合
在宅（同居）	29	32.6%
在宅（別居） ※敷地内別棟、親族等の住宅を含む	51	57.3%
施設入所（居）中	4	4.5%
病院に入院中	3	3.4%
その他	2	2.2%
無回答	0	0.0%
合計	89	100.0%

(5) 被介護者の状況

ア) 高齢者

1人目の被介護者の状況については、「身体の老化」が69.1%で最も高く、次いで「認知症」が44.2%、「身体障害」が18.0%となっている。

(複数回答)



※グラフについては、1人目のみ作成。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
身体の老化	150	69.1%	31	14.3%	4	1.8%
認知症	96	44.2%	17	7.8%	1	0.5%
身体障害	39	18.0%	7	3.2%	1	0.5%
知的障害	3	1.4%	4	1.8%	0	0.0%
依存症（アルコールや薬物など。 依存症の疑いも含む）	4	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
精神障害（依存症を除く。 精神障害の疑いも含む）	11	5.1%	3	1.4%	1	0.5%
重症心身障害	2	0.9%	1	0.5%	1	0.5%
医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器 の管理、痰の吸引など）	6	2.8%	1	0.5%	0	0.0%
難病	8	3.7%	0	0.0%	2	0.9%
ひきこもり	8	3.7%	3	1.4%	2	0.9%
その他	15	6.9%	2	0.9%	0	0.0%
回答者数	217	—	217	—	217	—

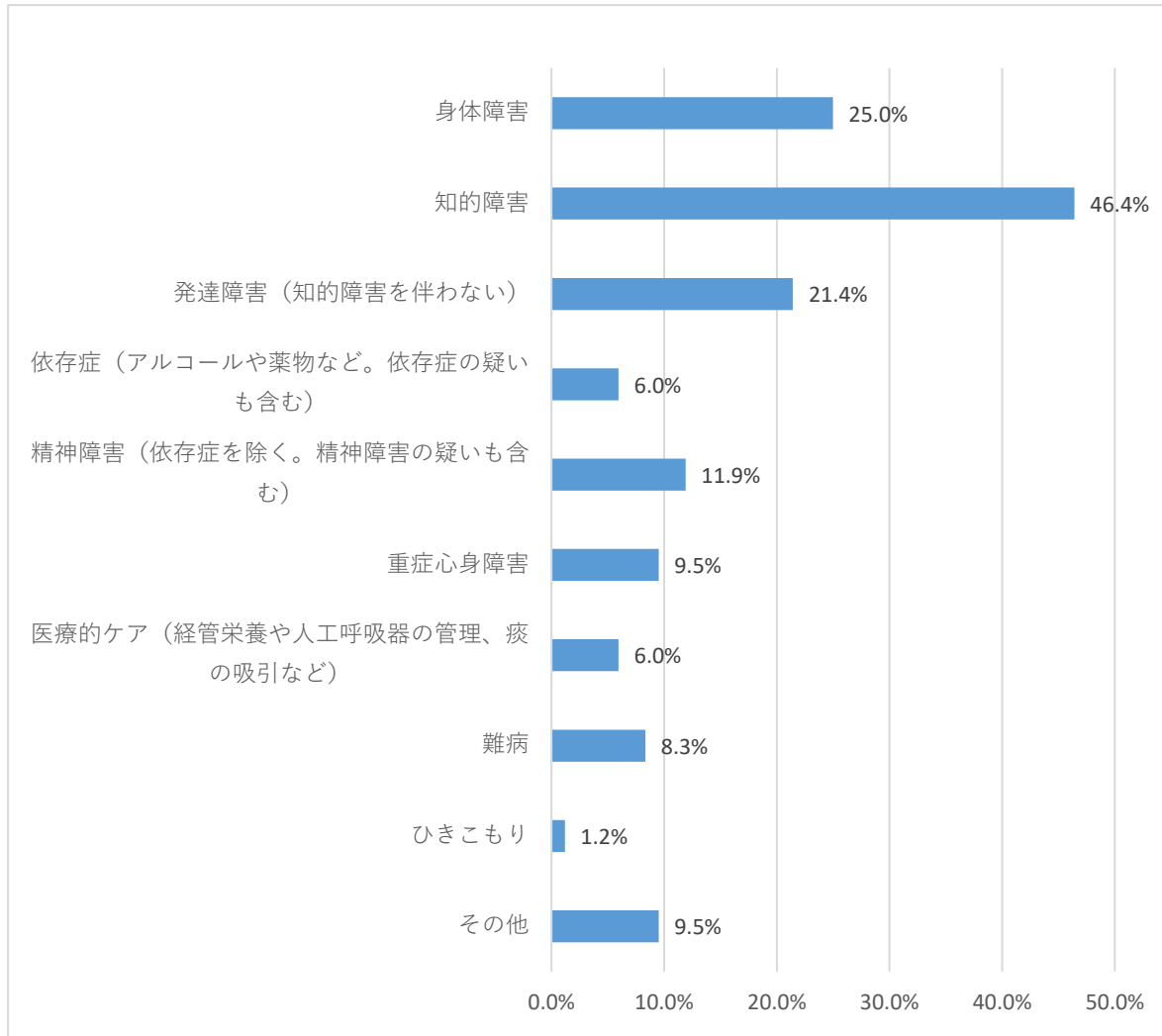
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

1人目の被介護者の状況については、「知的障害」が46.4%で最も高く、次いで「身体障害」25.0%、「発達障害（知的障害を伴わない）」21.4%となっている。

(複数回答)



※グラフについては、1人目のみ作成。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

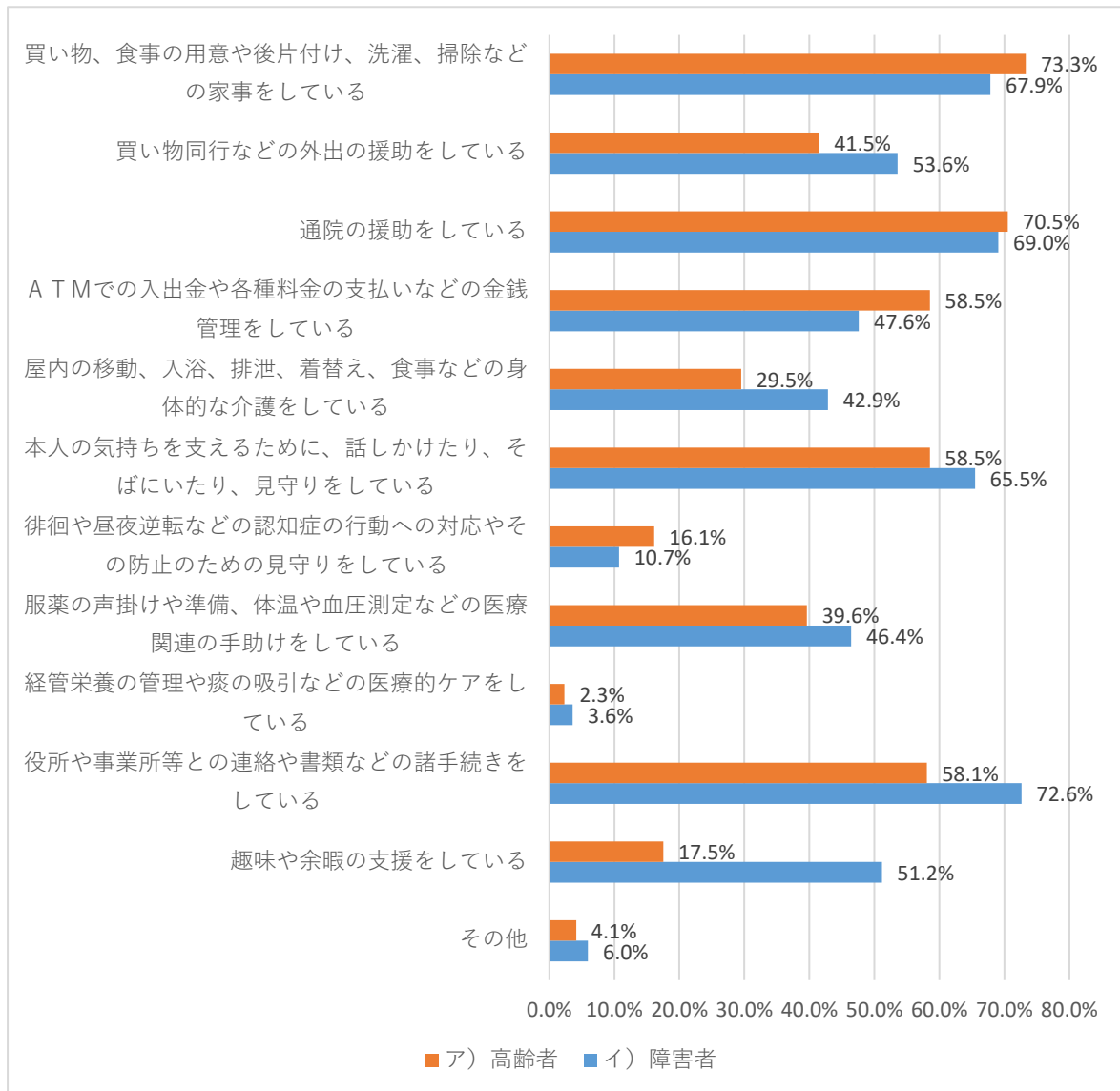
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
身体障害	21	25.0%	7	8.3%	2	2.4%
知的障害	39	46.4%	4	4.8%	2	2.4%
発達障害（知的障害を伴わない）	18	21.4%	5	6.0%	1	1.2%
依存症（アルコールや薬物など。 依存症の疑いも含む）	5	6.0%	0	0.0%	1	1.2%
精神障害（依存症を除く。 精神障害の疑いも含む）	10	11.9%	2	2.4%	1	1.2%
重症心身障害	8	9.5%	0	0.0%	0	0.0%
医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器 の管理、痰の吸引など）	5	6.0%	1	1.2%	1	1.2%
難病	7	8.3%	1	1.2%	1	1.2%
ひきこもり	1	1.2%	2	2.4%	0	0.0%
その他	8	9.5%	2	2.4%	2	2.4%
回答者数	84	—	84	—	84	—

※ダブルケアについては、「被介護者の状況」は設問項目になし。

(6) ケアの内容

1人目の被介護者のケアの内容については、高齢者では「買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている」が73.3%で最も高く、次いで「通院の援助をしている」が70.5%、「ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている」「本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている」が58.5%となっている。障害者では「役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている」が72.6%で最も高く、次いで「通院の援助をしている」が69.0%、「買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている」が67.9%となっている。

(複数回答)



※グラフについては、1人目のみ作成。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ア) 高齢者

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている	159	73.3%	26	12.0%	3	1.4%
買い物同行などの外出の援助をしている	90	41.5%	18	8.3%	2	0.9%
通院の援助をしている	153	70.5%	25	11.5%	5	2.3%
A T Mでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている	127	58.5%	21	9.7%	2	0.9%
屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている	64	29.5%	7	3.2%	1	0.5%
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている	127	58.5%	19	8.8%	5	2.3%
徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている	35	16.1%	2	0.9%	2	0.9%
服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている	86	39.6%	8	3.7%	3	1.4%
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている	5	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている	126	58.1%	27	12.4%	1	0.5%
趣味や余暇の支援をしている	38	17.5%	7	3.2%	1	0.5%
その他	9	4.1%	2	0.9%	0	0.0%
回答者数	217	—	217	—	217	—

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている	57	67.9%	13	15.5%	5	6.0%
買い物同行などの外出の援助をしている	45	53.6%	9	10.7%	3	3.6%
通院の援助をしている	58	69.0%	9	10.7%	4	4.8%
A T Mでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている	40	47.6%	8	9.5%	2	2.4%
屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている	36	42.9%	5	6.0%	3	3.6%
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている	55	65.5%	10	11.9%	5	6.0%
徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている	9	10.7%	1	1.2%	0	0.0%
服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている	39	46.4%	5	6.0%	4	4.8%
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている	3	3.6%	0	0.0%	1	1.2%
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている	61	72.6%	12	14.3%	3	3.6%
趣味や余暇の支援をしている	43	51.2%	8	9.5%	3	3.6%
その他	5	6.0%	1	1.2%	1	1.2%
回答者数	84	—	84	—	84	—

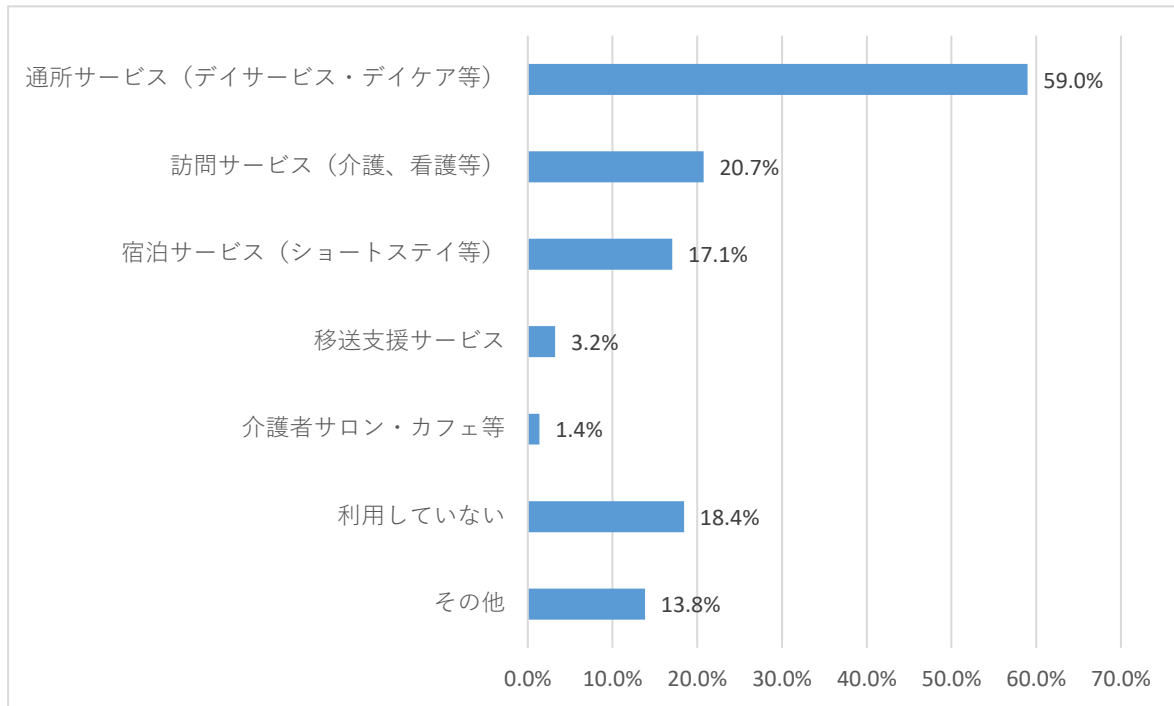
※ダブルケアについては、「ケアの内容」は設問項目になし。

(7) 利用している（したことがある）サービス

ア) 高齢者

1人目の被介護者の利用しているサービスについては、「通所サービス（デイサービス・デイケア等）」が59.0%で最も高く、次いで「訪問サービス（介護、看護等）」が20.7%、「宿泊サービス（ショートステイ）」が17.1%となっている。また、「利用していない」が18.4%となっている。

(複数回答)



※グラフについては、1人目のみ作成。

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通所サービス（デイサービス・デイケア等）	128	59.0%	13	6.0%	2	0.9%
訪問サービス（介護、看護等）	45	20.7%	9	4.1%	3	1.4%
宿泊サービス（ショートステイ等）	37	17.1%	8	3.7%	0	0.0%
移送支援サービス	7	3.2%	1	0.5%	0	0.0%
介護者サロン・カフェ等	3	1.4%	1	0.5%	1	0.5%
利用していない	40	18.4%	19	8.8%	1	0.5%
その他	30	13.8%	5	2.3%	2	0.9%
回答者数	217	—	217	—	217	—

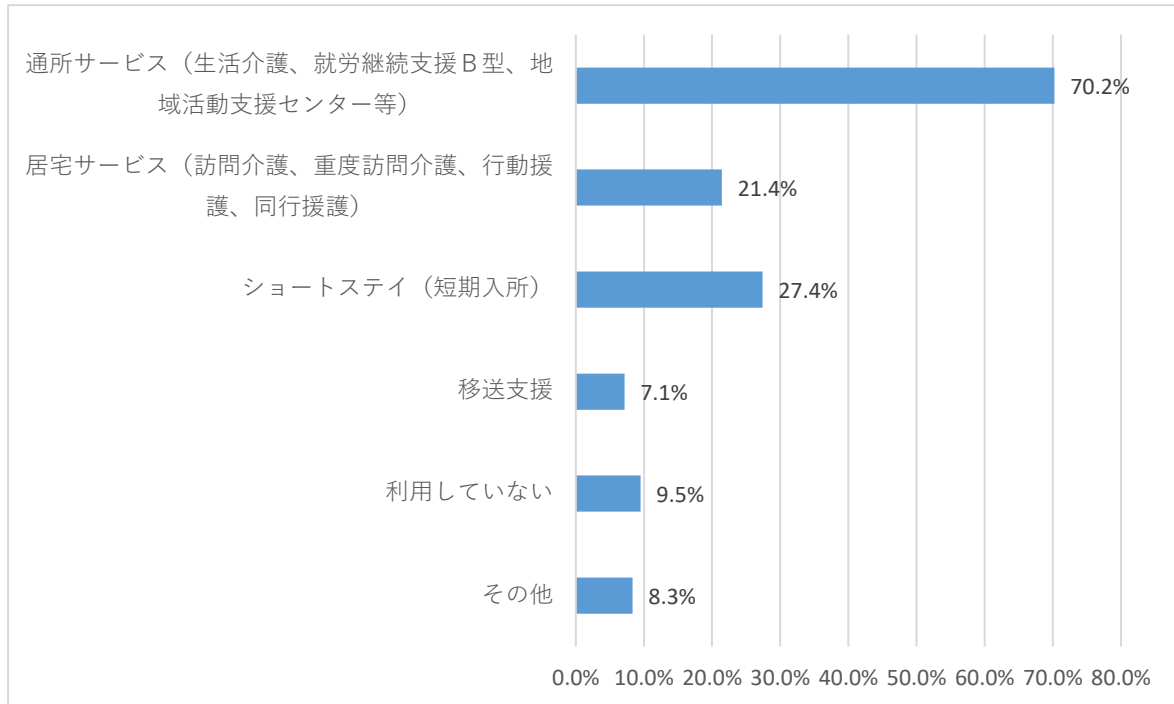
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

1人目の被介護者の利用しているサービスについては、「通所サービス（生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等）」が70.2%で最も高く、次いで「ショートステイ（短期入所）」が27.4%、「居宅サービス（訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護）」が21.4%となっている。

(複数回答)



※グラフについては、1人目のみ作成。

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通所サービス（生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等）	59	70.2%	9	10.7%	4	4.8%
居宅サービス（訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護）	18	21.4%	2	2.4%	1	1.2%
ショートステイ（短期入所）	23	27.4%	3	3.6%	0	0.0%
移送支援	6	7.1%	1	1.2%	0	0.0%
利用していない	8	9.5%	7	8.3%	4	4.8%
その他	7	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	84	—	84	—	84	—

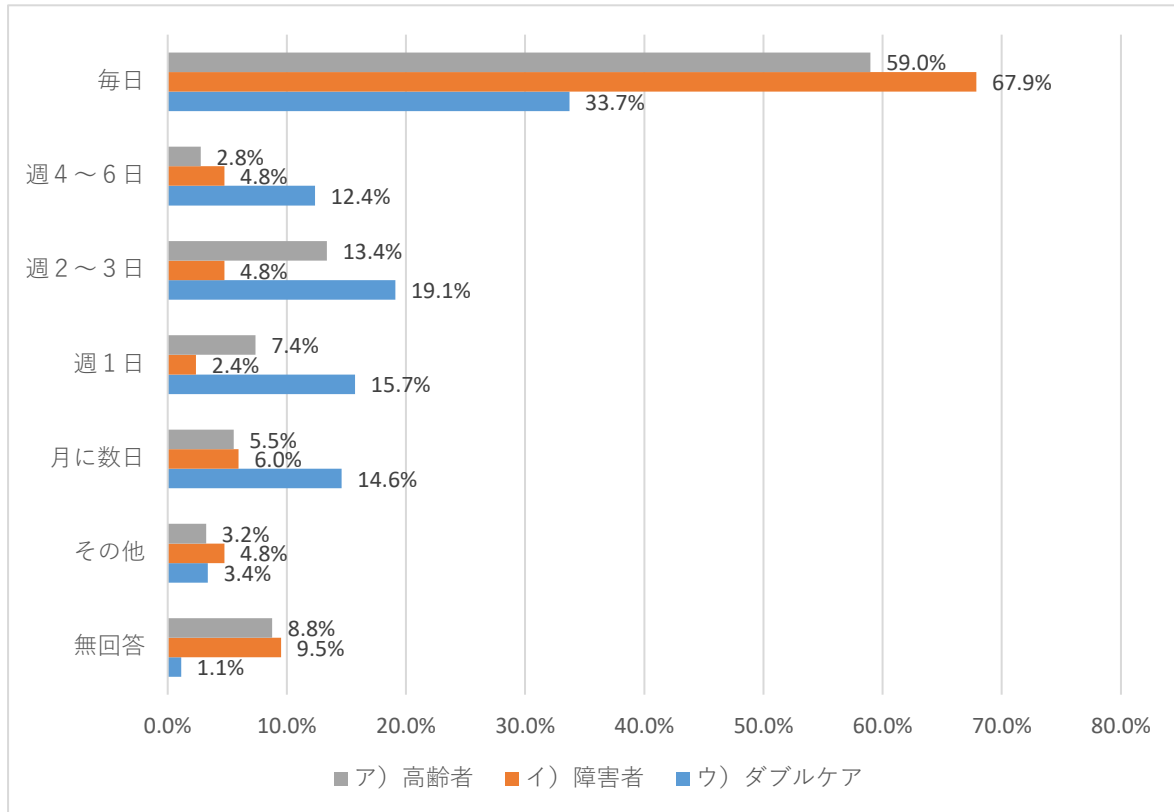
※ダブルケアについては、「利用している（したことがある）サービス」は設問項目になし。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(8) ケアの頻度

ケアの頻度については、高齢者では「毎日」が59.0%で最も高く、次いで「週2～3日」が13.4%となっている。障害者では「毎日」が67.9%で最も高く、次いで「月に数日」が6.0%となっている。ダブルケアでは「毎日」が33.7%で最も高く、次いで「週2～3日」が19.1%となっている。



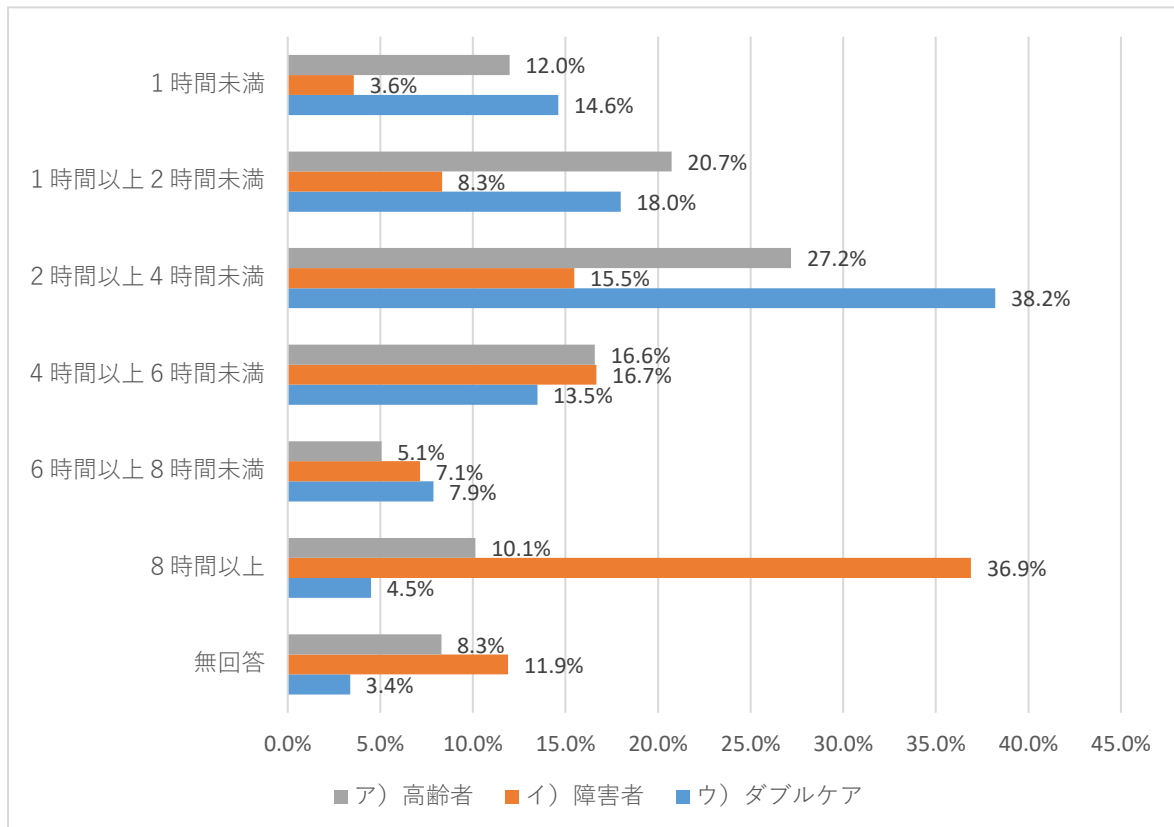
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
毎日	128	59.0%	57	67.9%	30	33.7%
週4～6日	6	2.8%	4	4.8%	11	12.4%
週2～3日	29	13.4%	4	4.8%	17	19.1%
週1日	16	7.4%	2	2.4%	14	15.7%
月に数日	12	5.5%	5	6.0%	13	14.6%
その他	7	3.2%	4	4.8%	3	3.4%
無回答	19	8.8%	8	9.5%	1	1.1%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(9) 1日のケア時間

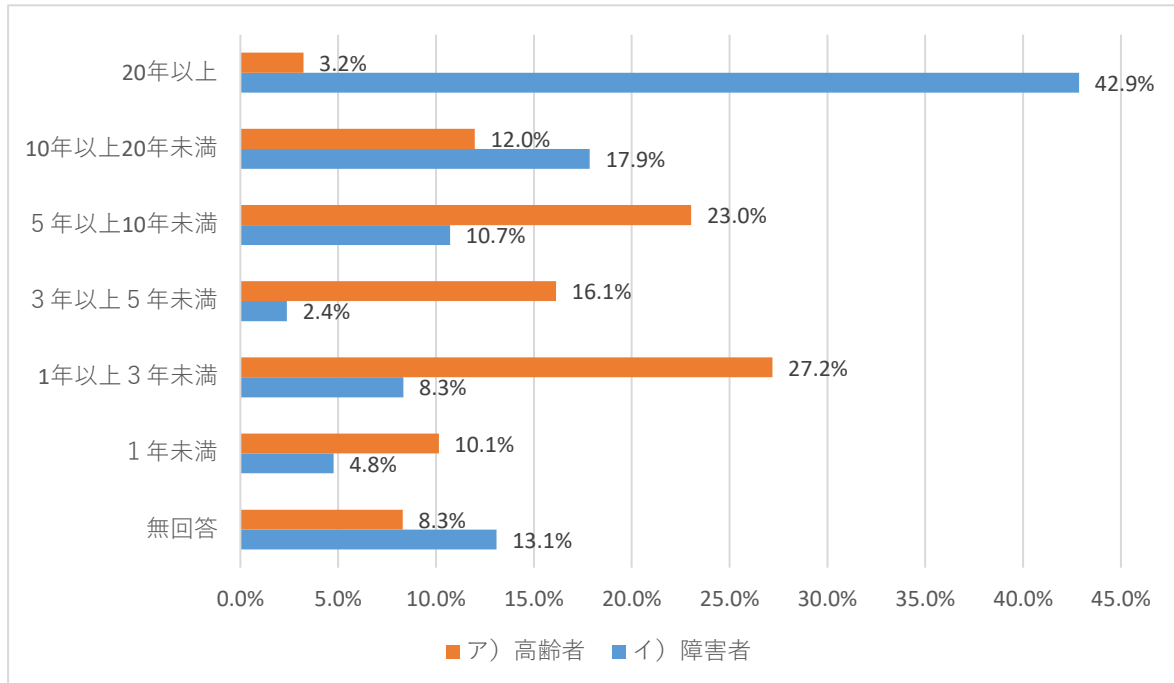
1日のケア時間については、高齢者では「2時間以上4時間未満」が27.2%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が20.7%、「4時間以上6時間未満」が16.6%となっている。障害者では「8時間以上」が36.9%で最も高く、次いで「4時間以上6時間未満」が16.7%、「2時間以上4時間未満」が15.5%となっている。ダブルケアでは「2時間以上4時間未満」が38.2%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が18.0%、「1時間未満」が14.6%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1時間未満	26	12.0%	3	3.6%	13	14.6%
1時間以上2時間未満	45	20.7%	7	8.3%	16	18.0%
2時間以上4時間未満	59	27.2%	13	15.5%	34	38.2%
4時間以上6時間未満	36	16.6%	14	16.7%	12	13.5%
6時間以上8時間未満	11	5.1%	6	7.1%	7	7.9%
8時間以上	22	10.1%	31	36.9%	4	4.5%
無回答	18	8.3%	10	11.9%	3	3.4%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

(10) ケアの年数

ケアの年数については、高齢者では「1年以上3年未満」が27.2%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が23.0%となっている。障害者では「20年以上」が42.9%で最も高く、次いで「10年以上20年未満」が17.9%となっている。

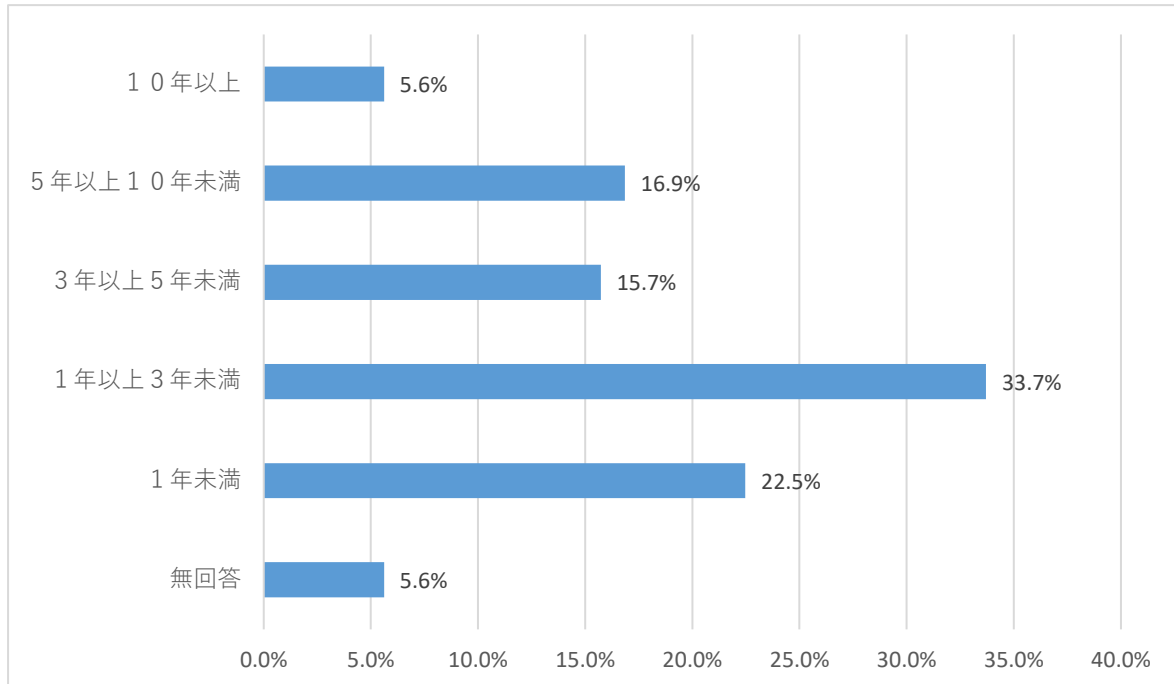


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
20年以上	7	3.2%	36	42.9%
10年以上20年未満	26	12.0%	15	17.9%
5年以上10年未満	50	23.0%	9	10.7%
3年以上5年未満	35	16.1%	2	2.4%
1年以上3年未満	59	27.2%	7	8.3%
1年未満	22	10.1%	4	4.8%
無回答	18	8.3%	11	13.1%
合計	217	100.0%	84	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ダブルケアのケアの年数については、「1年以上3年未満」が33.7%で最も高く、次いで「1年未満」が22.5%となっている。



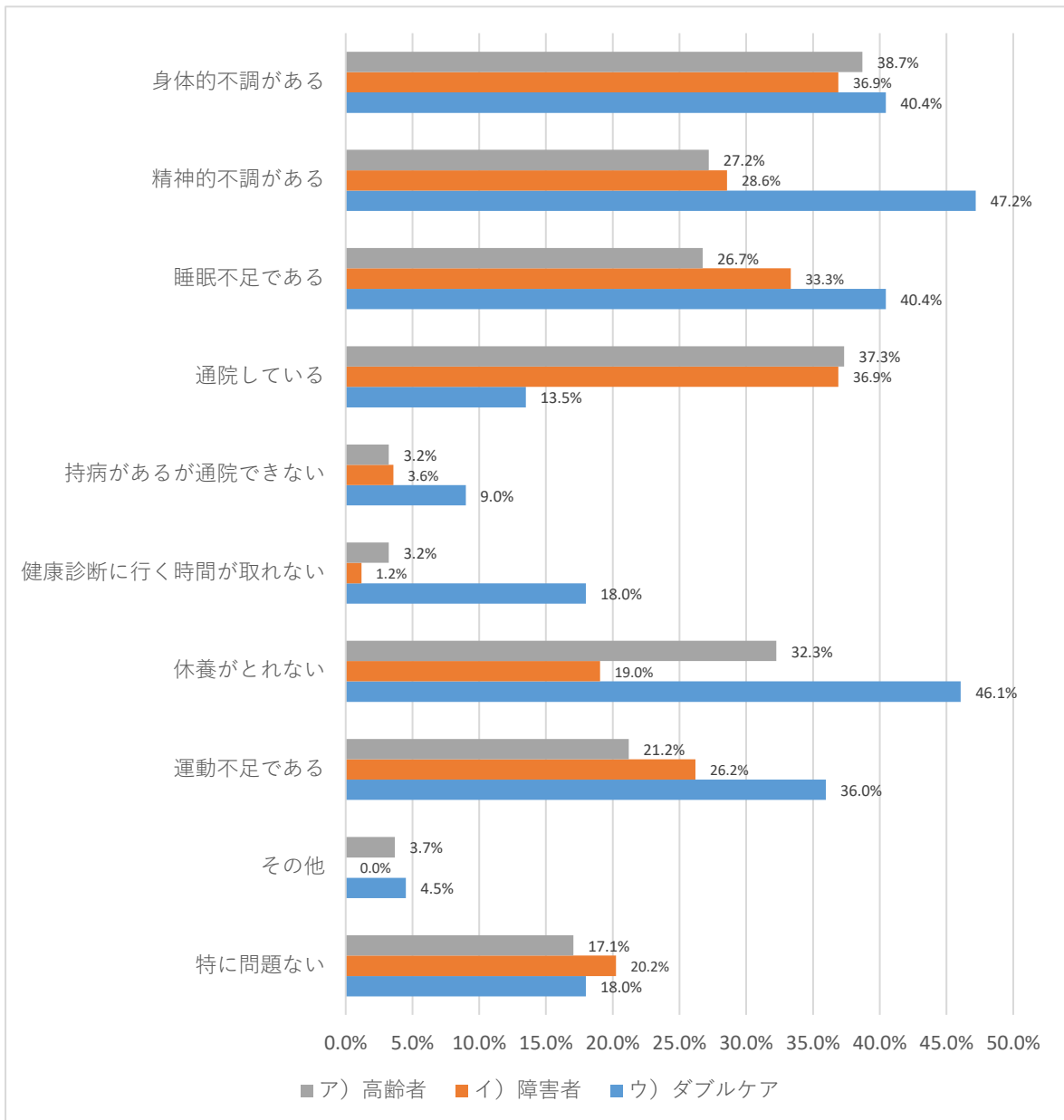
項目	ウ) ダブルケア	
	回答数	割合
10年以上	5	5.6%
5年以上10年未満	15	16.9%
3年以上5年未満	14	15.7%
1年以上3年未満	30	33.7%
1年未満	20	22.5%
無回答	5	5.6%
合計	89	100.0%

3) ケアラー自身へのケアの影響について

(1) ケアラーの健康状態

ケアラーの健康状態については、高齢者では「身体的不調がある」が 38.7%で最も高く、次いで「通院している」が 37.3%、「休養がとれない」が 32.3%となっている。障害者では、「身体的不調がある」「通院している」が 36.9%で最も高く、次いで「睡眠不足である」が 33.3%となっている。ダブルケアでは「精神的不調がある」が 47.2%で最も高く、次いで「休養がとれない」が 46.1%、「身体的不調がある」「睡眠不足である」が 40.4%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

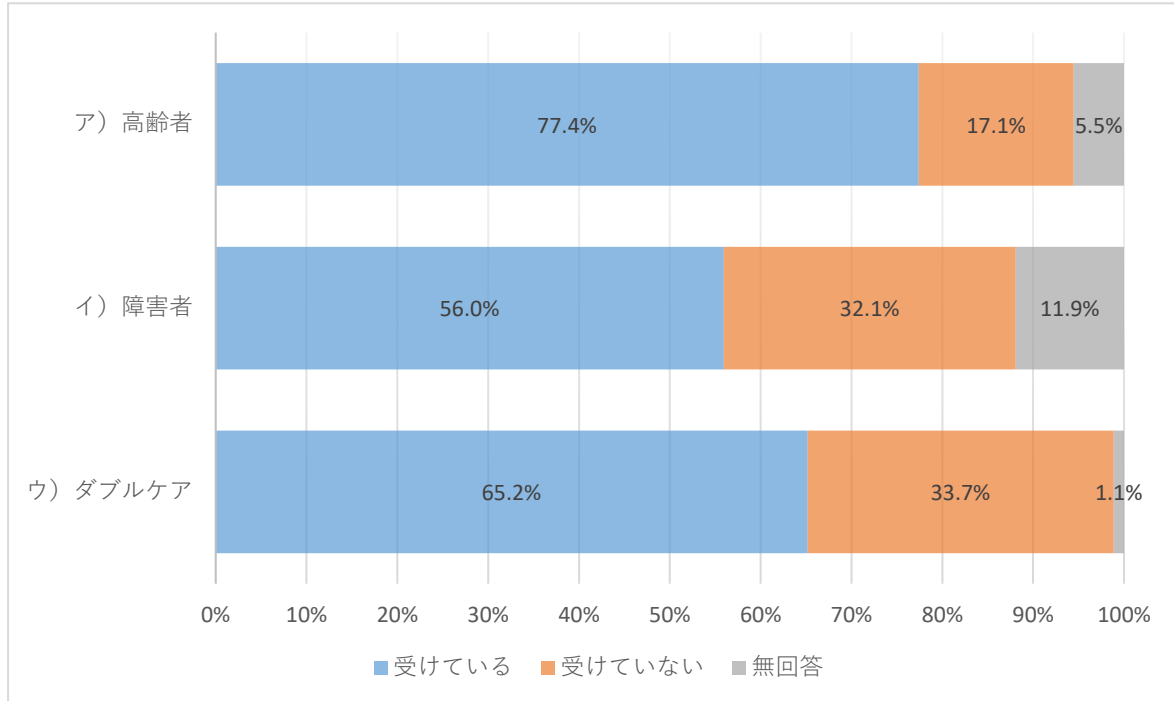
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
身体的不調がある	84	38.7%	31	36.9%	36	40.4%
精神的不調がある	59	27.2%	24	28.6%	42	47.2%
睡眠不足である	58	26.7%	28	33.3%	36	40.4%
通院している	81	37.3%	31	36.9%	12	13.5%
持病があるが通院できない	7	3.2%	3	3.6%	8	9.0%
健康診断に行く時間が取れない	7	3.2%	1	1.2%	16	18.0%
休養がとれない	70	32.3%	16	19.0%	41	46.1%
運動不足である	46	21.2%	22	26.2%	32	36.0%
その他	8	3.7%	0	0.0%	4	4.5%
特に問題ない	37	17.1%	17	20.2%	16	18.0%
回答者数	217	—	84	—	89	—

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(2) ケアラーの健康診断受診の有無

ケアラーが年に一度、健康診断を受けているかどうかについては、高齢者では「受けている」が77.4%、障害者では56.0%、ダブルケアは65.2%となっている。「受けていない」は高齢者が17.1%、障害者は32.1%、ダブルケアは33.7%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
受けている	168	77.4%	47	56.0%	58	65.2%
受けていない	37	17.1%	27	32.1%	30	33.7%
無回答	12	5.5%	10	11.9%	1	1.1%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

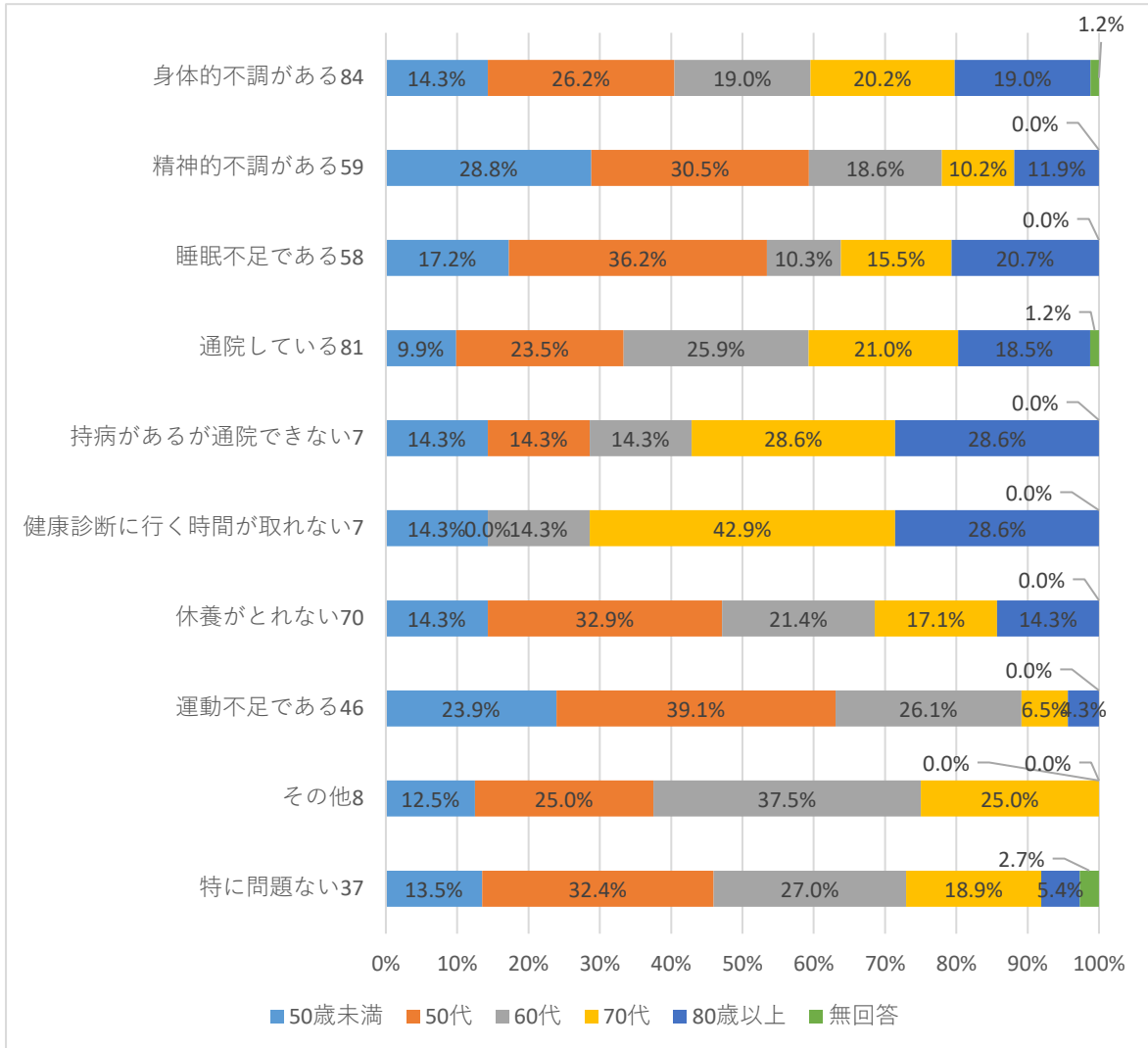
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアラーの健康状態×年齢区分

ア) 高齢者

ケアラーの健康状態と年齢区分については、50歳未満と50代で「運動不足である」「精神的不調がある」の割合が高くなっている。また、50代で「運動不足である」「睡眠不足である」「休養がとれない」の割合が他の年代に比べ高くなっている。



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

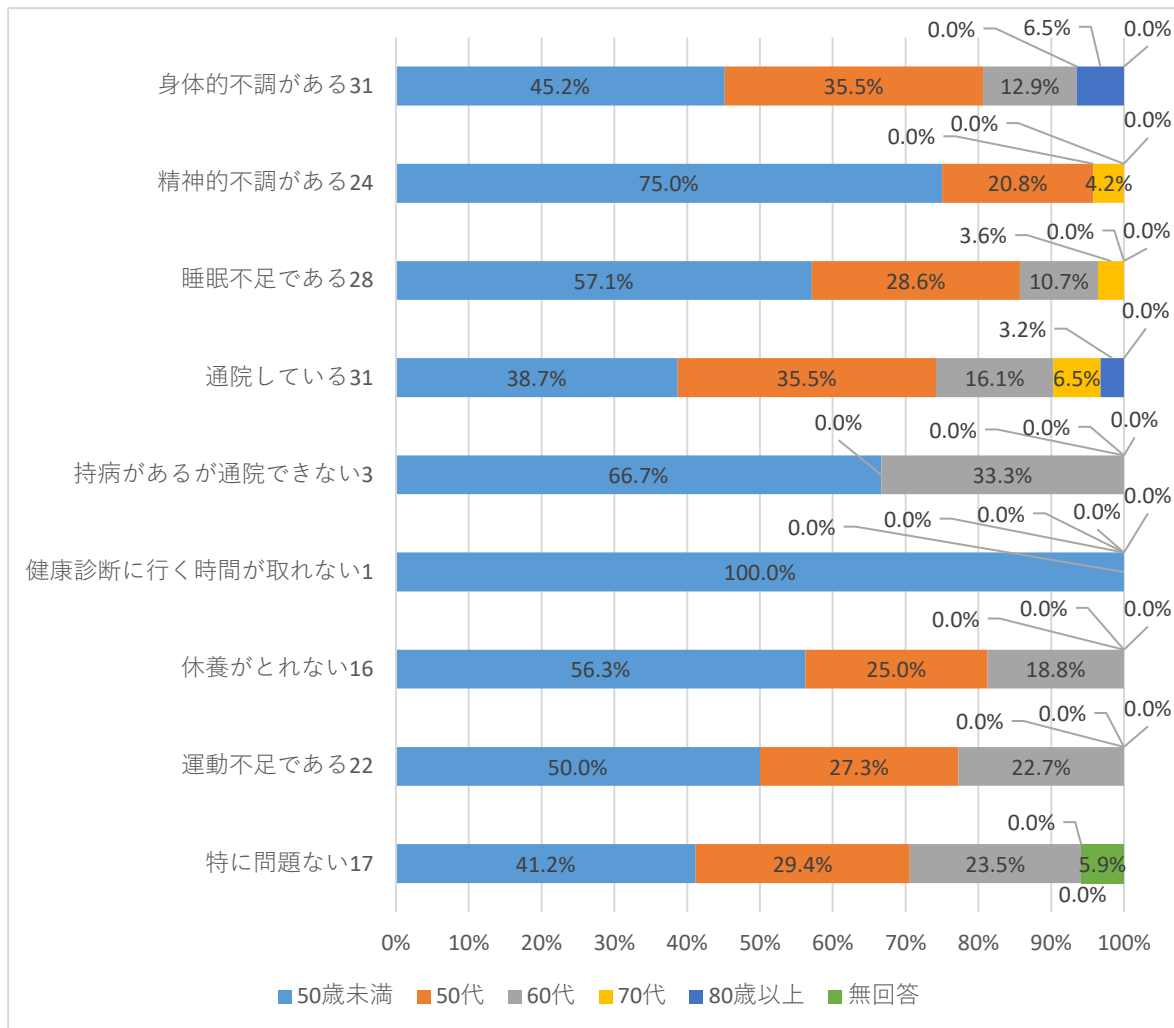
項目	50歳未満	50代	60代	70代	80歳以上
	割合	割合	割合	割合	割合
身体的不調がある	14.3%	26.2%	19.0%	20.2%	19.0%
精神的不調がある	28.8%	30.5%	18.6%	10.2%	11.9%
睡眠不足である	17.2%	36.2%	10.3%	15.5%	20.7%
通院している	9.9%	23.5%	25.9%	21.0%	18.5%
持病があるが通院できない	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	28.6%
健康診断に行く時間が取れない	14.3%	0.0%	14.3%	42.9%	28.6%
休養がとれない	14.3%	32.9%	21.4%	17.1%	14.3%
運動不足である	23.9%	39.1%	26.1%	6.5%	4.3%
その他	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	0.0%
特に問題ない	13.5%	32.4%	27.0%	18.9%	5.4%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアラーの健康状態と年齢区分については、50歳未満が全項目にて割合が高い傾向にある。また、50代、50歳未満と年齢が若い層の健康状態不調の割合が高くなっている。



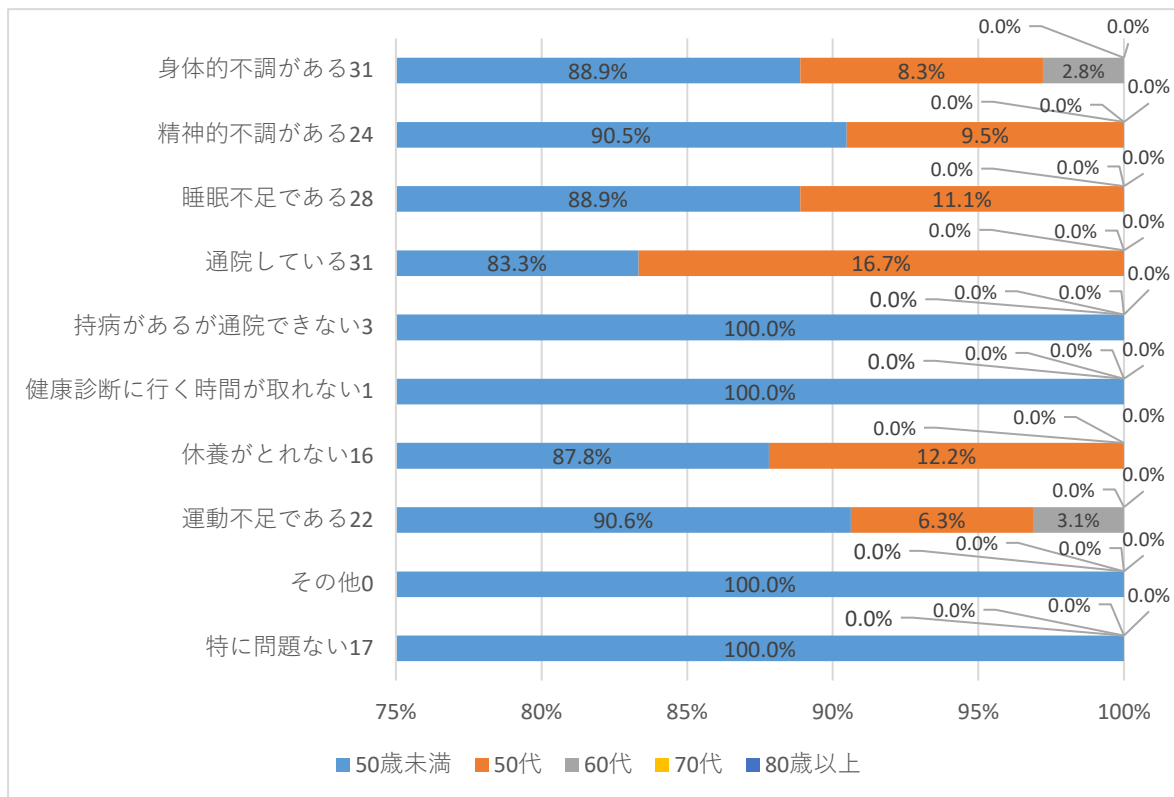
項目	50歳未満	50代	60代	70代	80歳以上
	割合	割合	割合	割合	割合
身体的不調がある	45.2%	35.5%	12.9%	0.0%	6.5%
精神的不調がある	75.0%	20.8%	0.0%	4.2%	0.0%
睡眠不足である	57.1%	28.6%	10.7%	3.6%	0.0%
通院している	38.7%	35.5%	16.1%	6.5%	3.2%
持病があるが通院できない	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
健康診断に行く時間が取れない	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
休養がとれない	56.3%	25.0%	18.8%	0.0%	0.0%
運動不足である	50.0%	27.3%	22.7%	0.0%	0.0%
特に問題ない	41.2%	29.4%	23.5%	0.0%	0.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

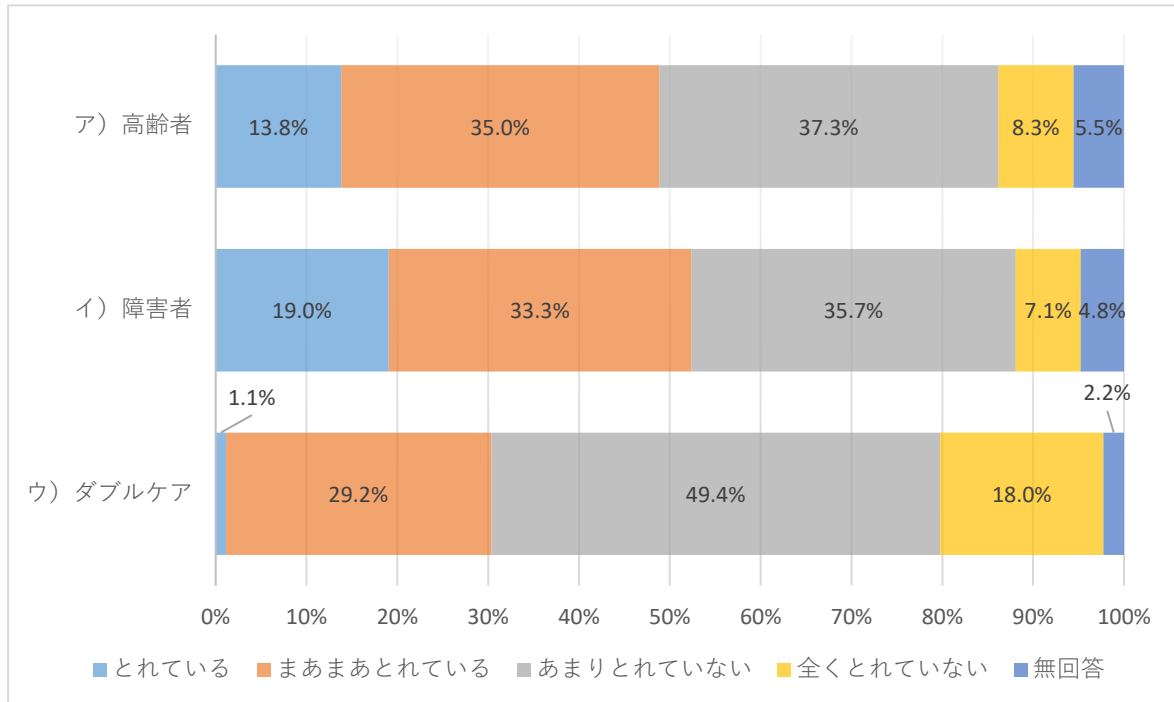
ケアラーの健康状態と年齢区分については、ダブルケアのケアラーは50歳未満が約9割を占めていることもあり、50歳未満で多くの項目の割合が高い結果となっている。



項目	50歳未満	50代	60代	70代	80歳以上
	割合	割合	割合	割合	割合
身体的不調がある	88.9%	8.3%	2.8%	0.0%	0.0%
精神的不調がある	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%
睡眠不足である	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
通院している	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
持病があるが通院できない	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
健康診断に行く時間が取れない	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
休養がとれない	87.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
運動不足である	90.6%	6.3%	3.1%	0.0%	0.0%
その他	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特に問題ない	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(3) 自分のための時間（趣味や休息など）の取得

自分の時間がとれているかについては、高齢者では「あまりとれていない」が37.3%で最も高く、次いで「まあまあとれている」が35.0%、「とれている」が13.8%と時間がとれている方は5割弱にとどまっている。障害者でも同様に「あまりとれていない」が35.7%で最も高く、次いで「まあまあとれている」が33.3%、「とれている」が19.0%と時間がとれている方は5割強にとどまっている。ダブルケアでは「あまりとれていない」が49.4%と最も高く、次いで「まあまあとれている」が29.2%、「全くとれていない」が18.0%と時間がとれている方は約3割にとどまっている。



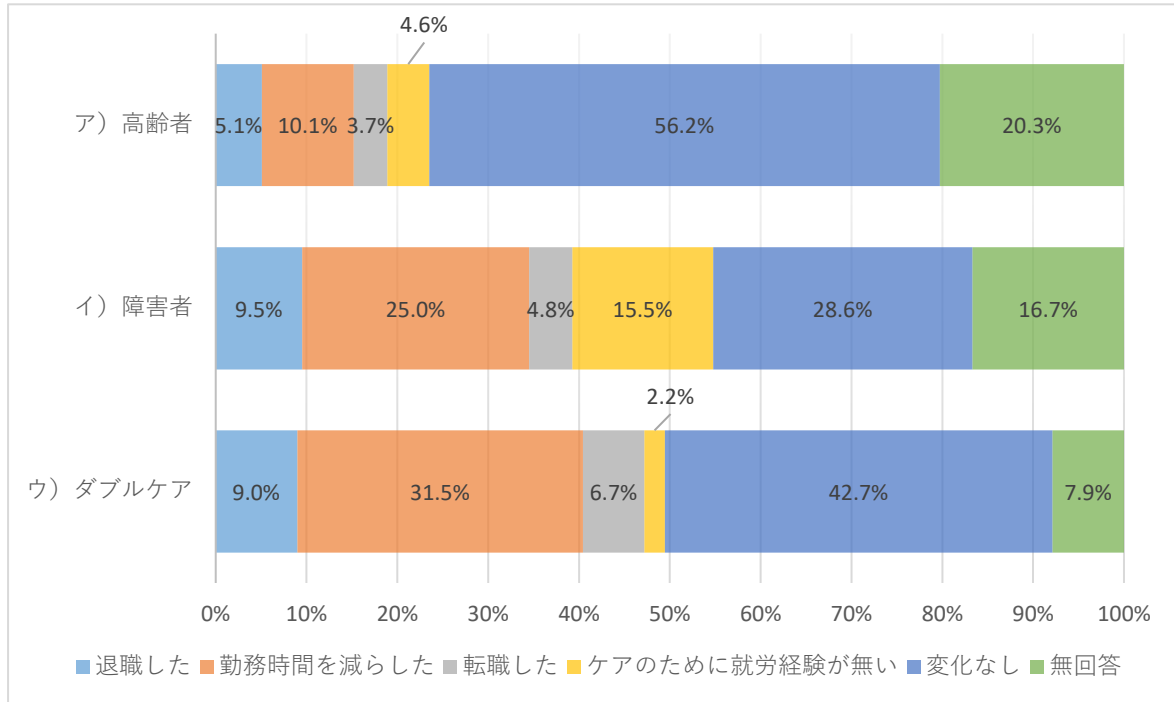
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
とれている	30	13.8%	16	19.0%	1	1.1%
まあまあとれている	76	35.0%	28	33.3%	26	29.2%
あまりとれていない	81	37.3%	30	35.7%	44	49.4%
全くとれていない	18	8.3%	6	7.1%	16	18.0%
無回答	12	5.5%	4	4.8%	2	2.2%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(4) ケアによる就労状況の変化

就労状況の変化については、「ケアのために退職した」「ケアのために勤務時間を減らした」「ケアのために転職した」を合わせると高齢者では 18.9%、障害者では 39.3%、ダブルケアでは 47.2%となっており、就労状況の変化はダブルケアが最も高く、次いで障害者、高齢者の順になっている。

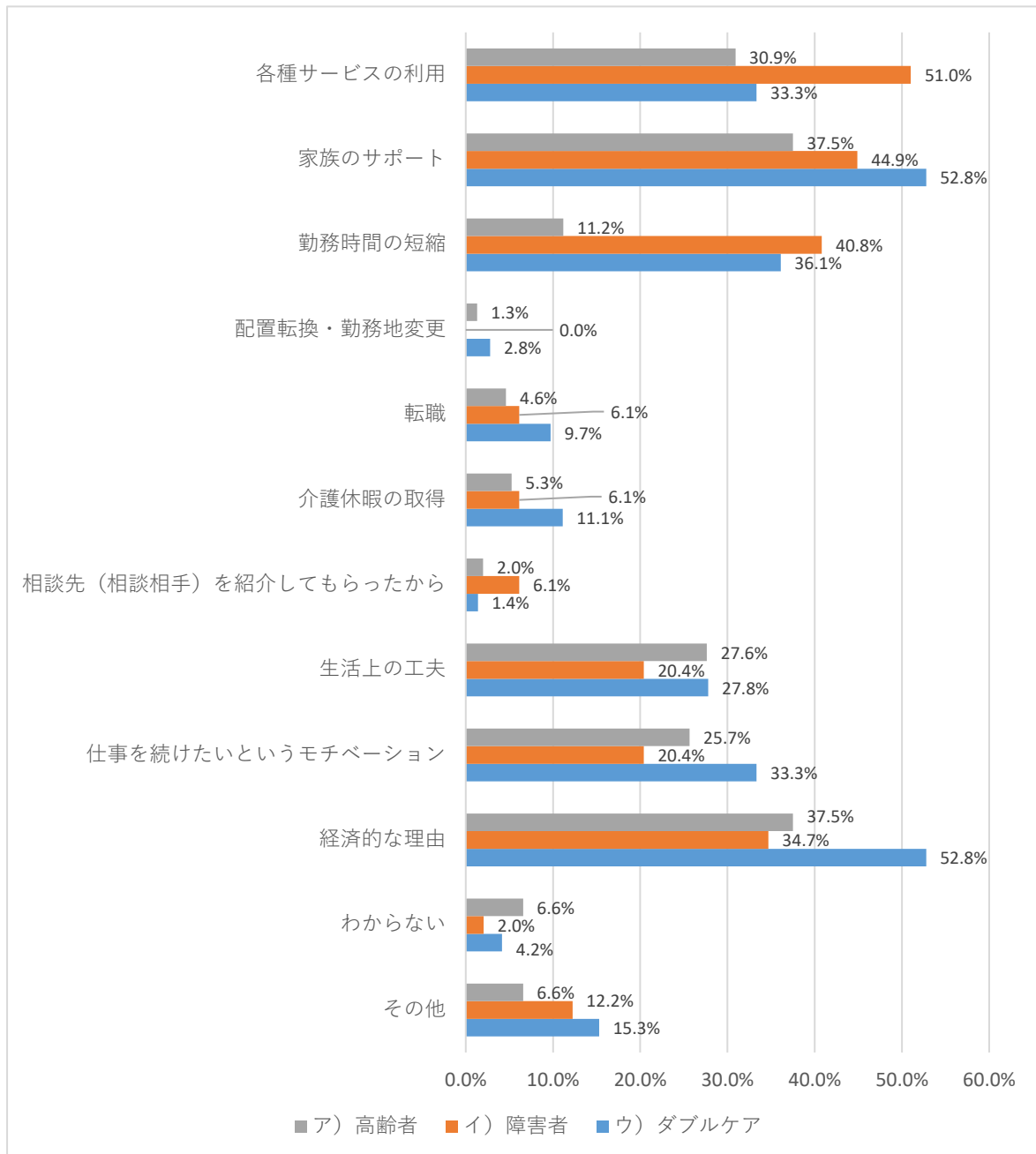


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
退職した	11	5.1%	8	9.5%	8	9.0%
勤務時間を減らした	22	10.1%	21	25.0%	28	31.5%
転職した	8	3.7%	4	4.8%	6	6.7%
ケアのために就労経験が無い	10	4.6%	13	15.5%	2	2.2%
変化なし	122	56.2%	24	28.6%	38	42.7%
無回答	44	20.3%	14	16.7%	7	7.9%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

(5-1) 就労を続けられている理由

就労を続けられている理由については、高齢者では「家族のサポート」「経済的な理由」が37.5%で最も高く、次いで「各種サービスの利用」が30.9%となっている。障害者では「各種サービスの利用」が51.0%で最も高く、次いで「家族のサポート」が44.9%、「経済的な理由」が34.7%となっている。ダブルケアでは「家族のサポート」「経済的な理由」が52.8%で最も高く、次いで「勤務時間の短縮」が36.1%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
各種サービスの利用	47	30.9%	25	51.0%	24	33.3%
家族のサポート	57	37.5%	22	44.9%	38	52.8%
勤務時間の短縮	17	11.2%	20	40.8%	26	36.1%
配置転換・勤務地変更	2	1.3%	0	0.0%	2	2.8%
転職	7	4.6%	3	6.1%	7	9.7%
介護休暇の取得	8	5.3%	3	6.1%	8	11.1%
相談先（相談相手）を紹介してもらったから	3	2.0%	3	6.1%	1	1.4%
生活上の工夫	42	27.6%	10	20.4%	20	27.8%
仕事を続けたいというモチベーション	39	25.7%	10	20.4%	24	33.3%
経済的な理由	57	37.5%	17	34.7%	38	52.8%
わからない	10	6.6%	1	2.0%	3	4.2%
その他	10	6.6%	6	12.2%	11	15.3%
回答者数	152	—	49	—	72	—

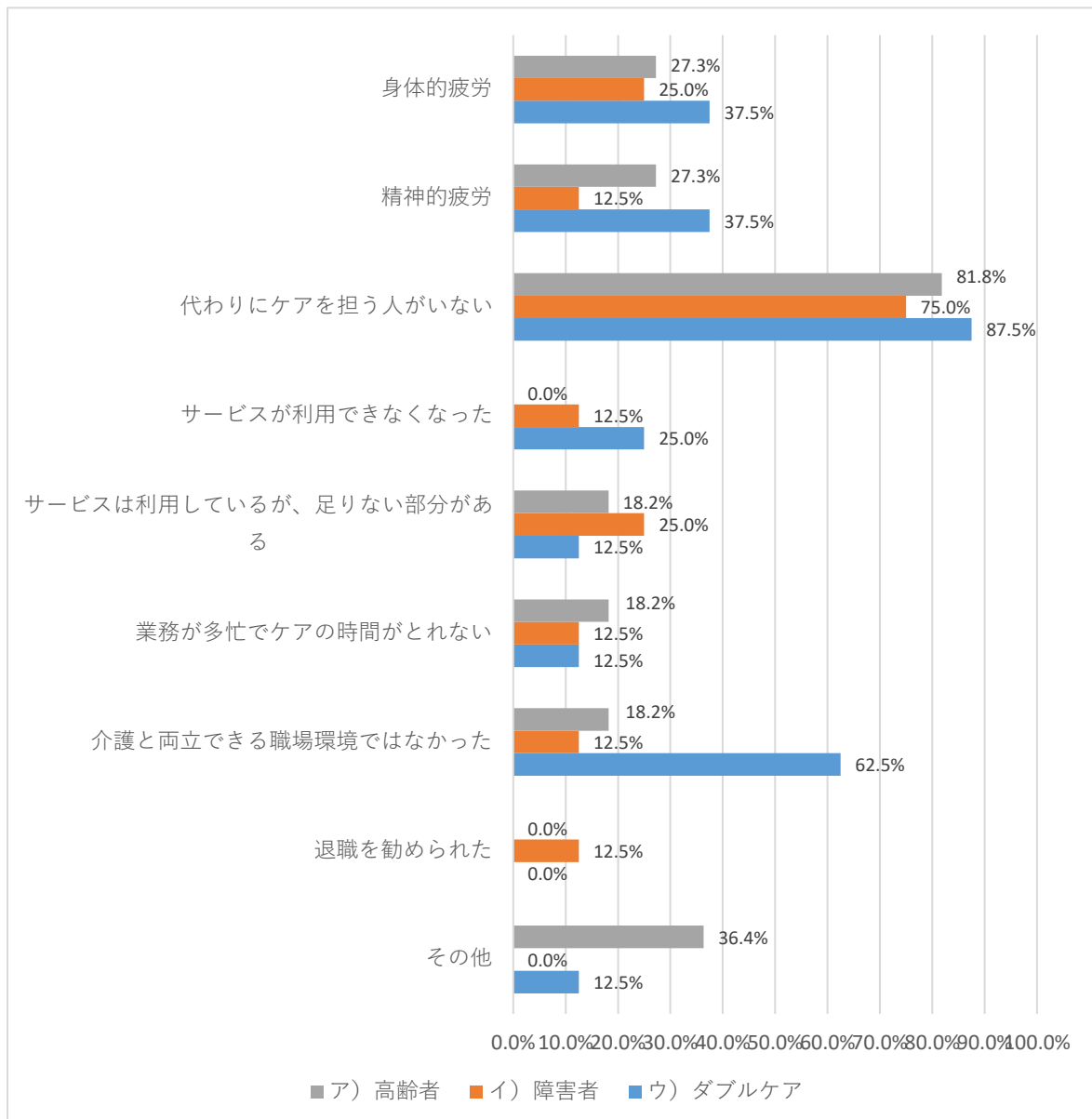
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(5-2) ケアを機に退職した理由

ケアを機に退職した理由については、高齢者では「代わりにケアを担う人がいない」が81.8%で最も高く、次いで「身体的疲労」「精神的疲労」が27.3%となっている。障害者では、「代わりにケアを担う人がいない」が75.0%で最も高く、次いで「身体的疲労」「サービスは利用しているが、足りない部分がある」が25.0%となっている。ダブルケアでは「代わりにケアを担う人がいない」が87.5%で最も高く、次いで「介護と両立できる職場環境ではなかった」が62.5%、「身体的疲労」「精神的疲労」が37.5%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

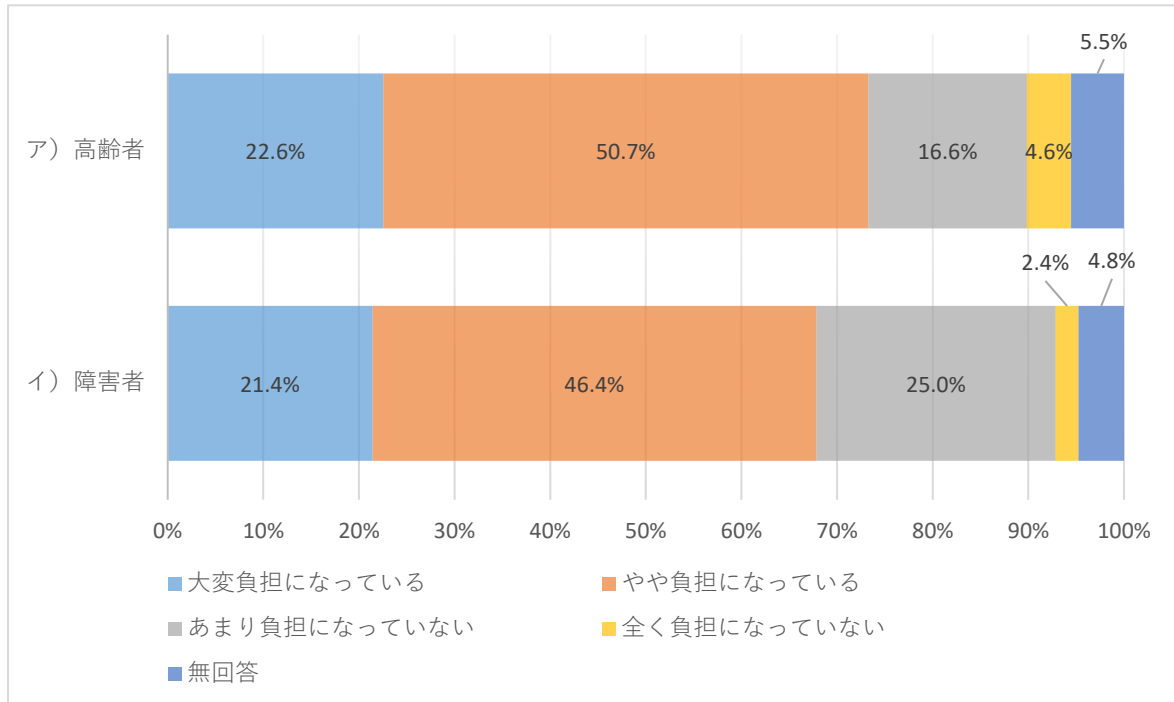
(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
身体的疲労	3	27.3%	2	25.0%	3	37.5%
精神的疲労	3	27.3%	1	12.5%	3	37.5%
代わりにケアを担う人がいない	9	81.8%	6	75.0%	7	87.5%
サービスが利用できなくなった	0	0.0%	1	12.5%	2	25.0%
サービスは利用しているが、足りない部分がある	2	18.2%	2	25.0%	1	12.5%
業務が多忙でケアの時間がとれない	2	18.2%	1	12.5%	1	12.5%
介護と両立できる職場環境ではなかった	2	18.2%	1	12.5%	5	62.5%
退職を勧められた	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
その他	4	36.4%	0	0.0%	1	12.5%
回答者数	11	—	8	—	8	—

(6) ケアの負担感

ア) 高齢者 ・ イ) 障害者

ケアの負担感については、高齢者では「大変負担になっている」「やや負担になっている」を合わせると73.3%の人が負担と感じている。障害者でも同様に、67.8%の人が負担と感じている。



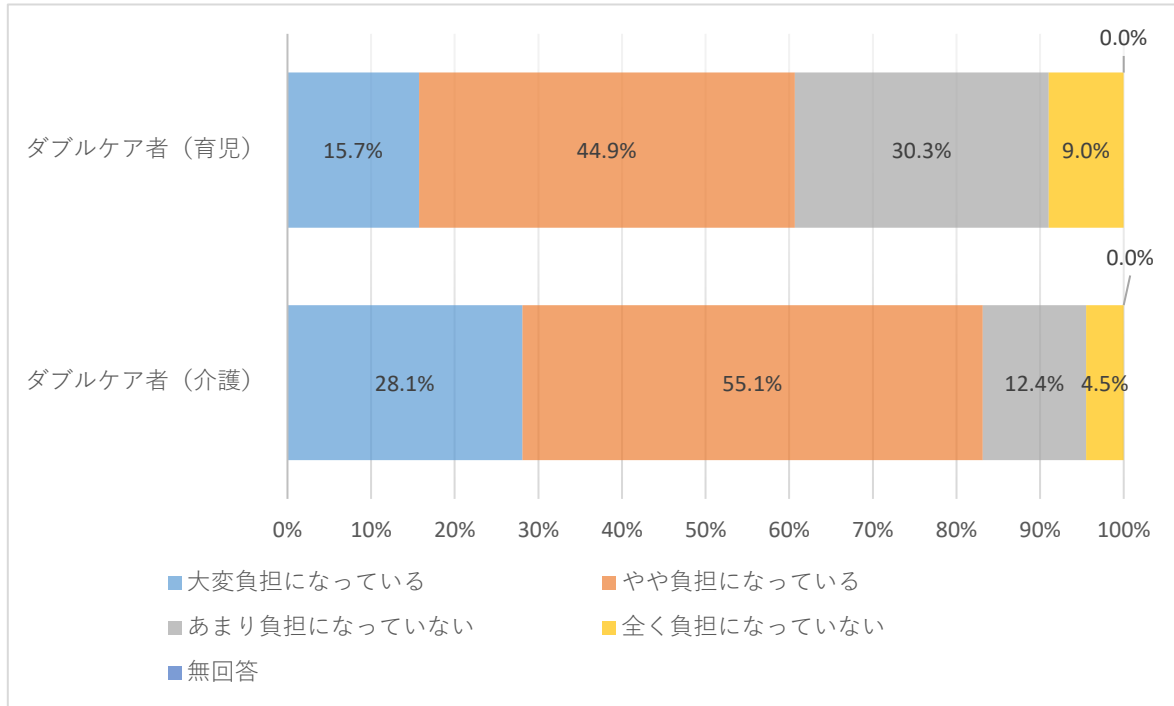
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
大変負担になっている	49	22.6%	18	21.4%
やや負担になっている	110	50.7%	39	46.4%
あまり負担になっていない	36	16.6%	21	25.0%
全く負担になっていない	10	4.6%	2	2.4%
無回答	12	5.5%	4	4.8%
合計	217	100.0%	84	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア（育児・介護）

ケアの負担感については、育児については「大変負担になっている」「やや負担になっている」を合わせると60.6%の人が負担と感じている。介護でも同様に、83.2%の人が負担と感じている。育児に比べ介護に負担を感じている割合が高くなっている。

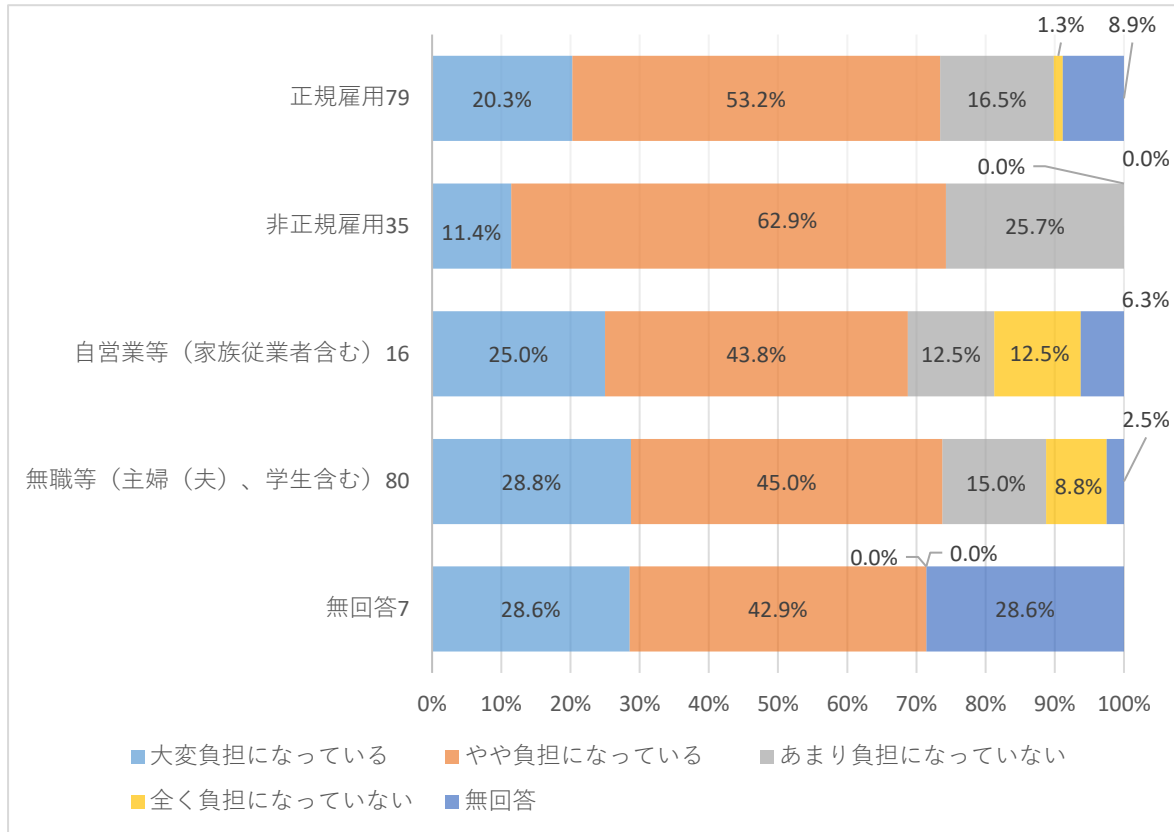


項目	ダブルケア者（育児）		ダブルケア者（介護）	
	回答数	割合	回答数	割合
大変負担になっている	14	15.7%	25	28.1%
やや負担になっている	40	44.9%	49	55.1%
あまり負担になっていない	27	30.3%	11	12.4%
全く負担になっていない	8	9.0%	4	4.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	89	100.0%	89	100.0%

【クロス集計】 ケアの負担感×ケアラー自身の就労状況

ア) 高齢者

ケアの負担感とケアラー自身の就労状況については、「無職等（主婦（夫）、学生含む）」が「大変負担になっている」の割合が高く、次いで「自営業等（家族従業者含む）」が高くなっている。（「無回答」を除く。以下同じ。）



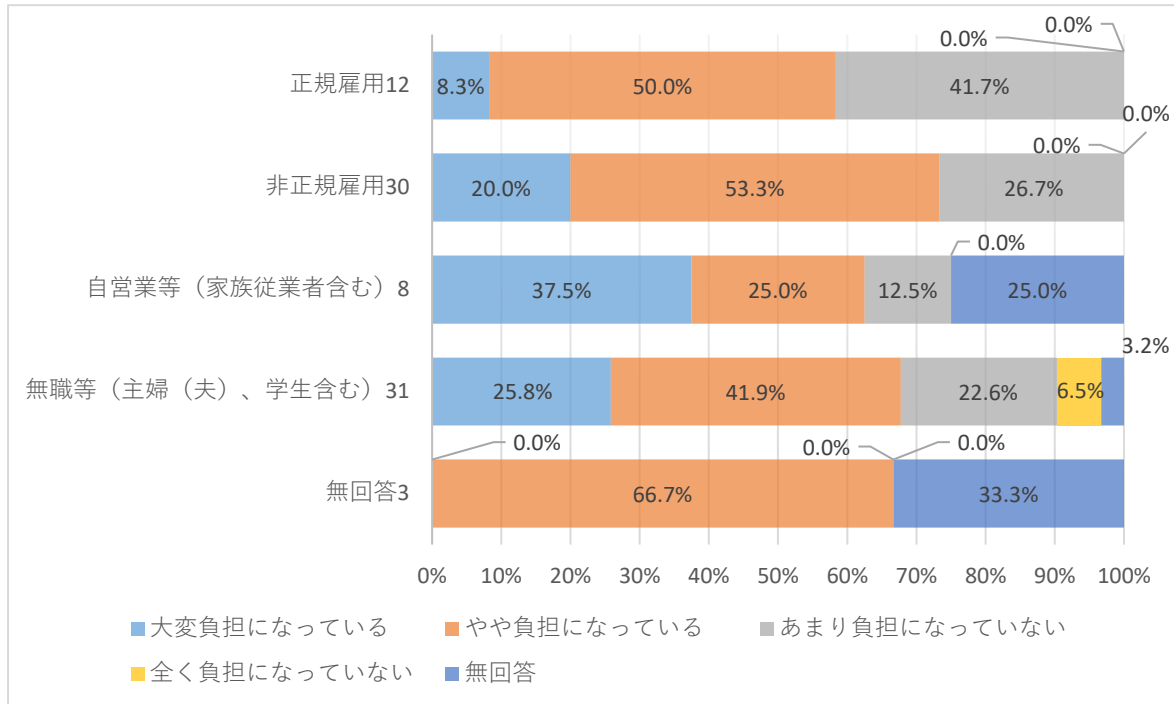
※左軸の項目名の右隣の数値は回答数を示す。以下同じ。

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアの負担感とケアラー自身の就労状況については、「自営業等（家族従業者含む）」が「大変負担になっている」の割合が高く、次いで「無職等（主婦（夫）、学生含む）」が高くなっている。

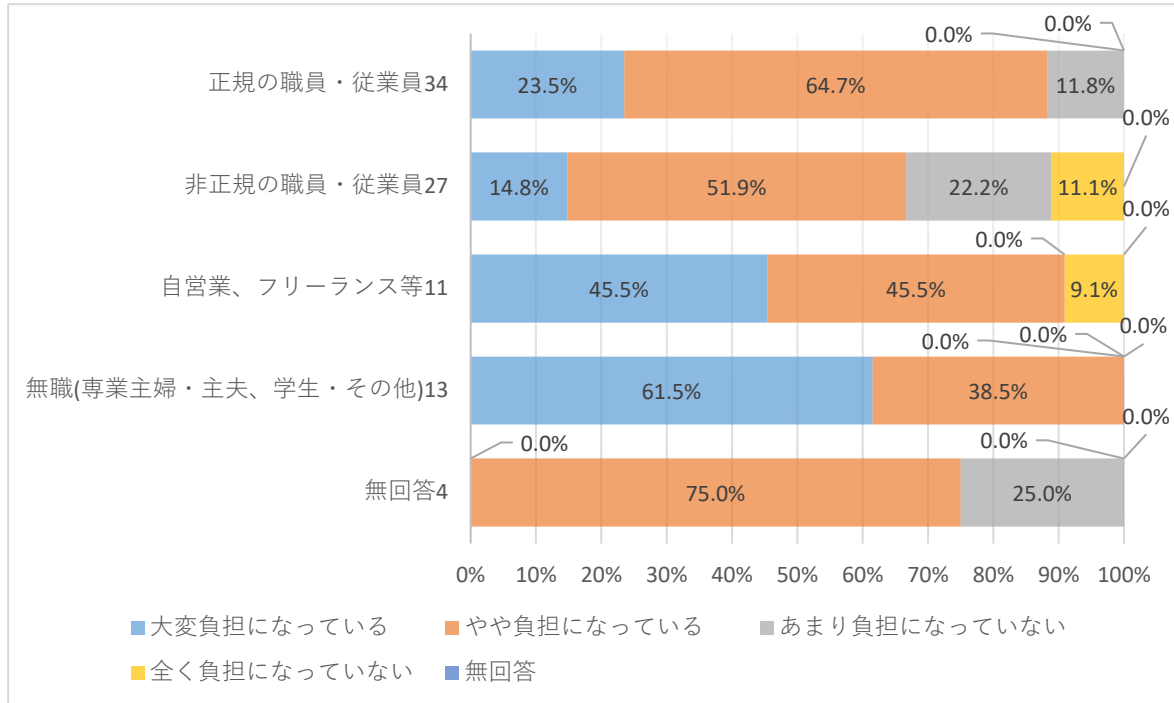


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアの負担感とケアラー自身の就労状況については、「無職（専業主婦・主夫、学生、その他）」が「大変負担になっている」の割合が高く、次いで「自営業、フリーランス等」が高くなっている。



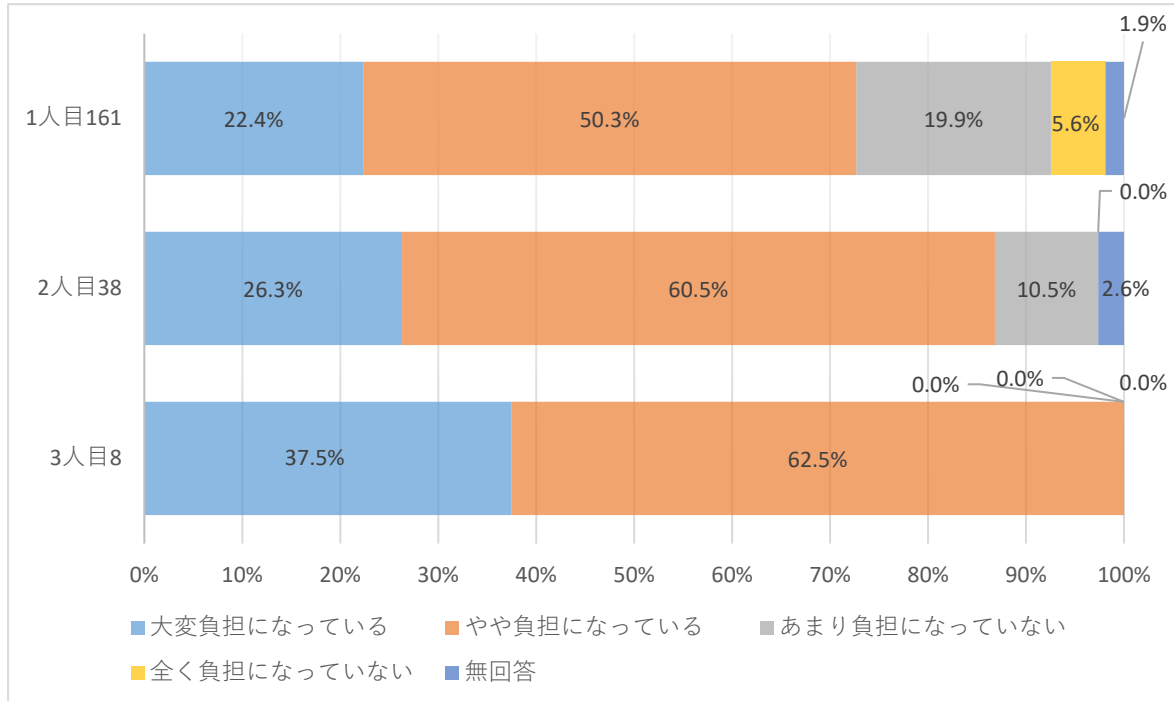
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアの負担感×ケアをしている人数

ア) 高齢者

ケアの負担感とケアをしている人数については、ケアをしている人数が多くなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

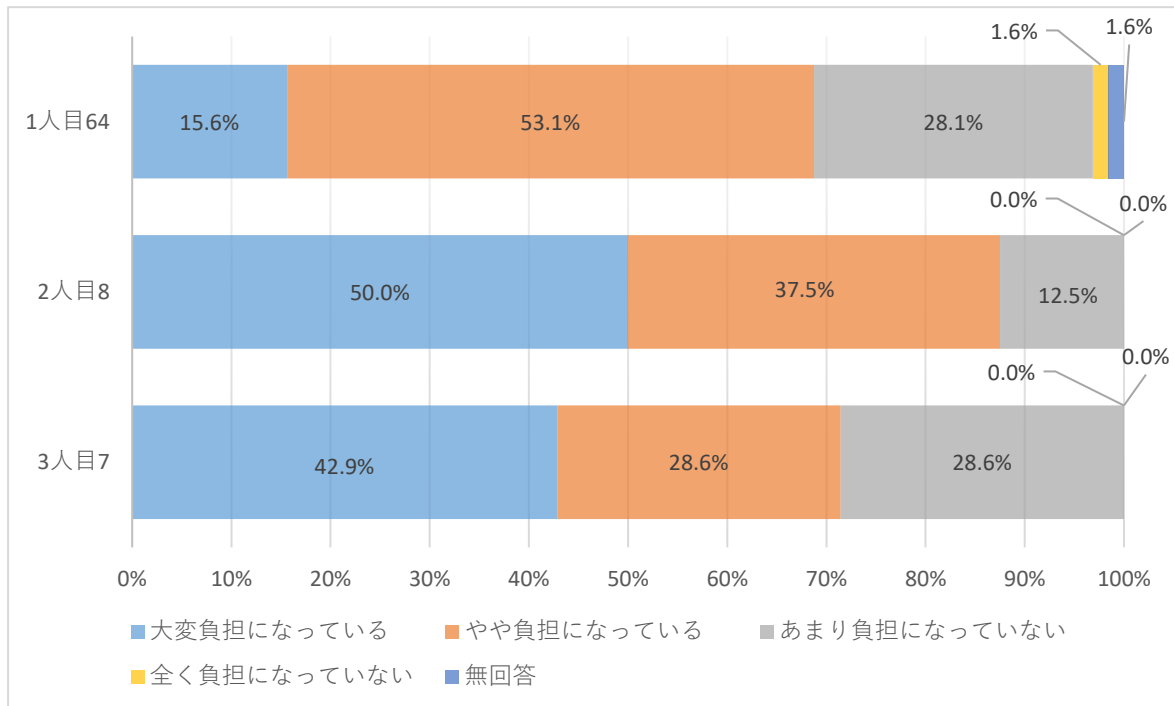


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアの負担感とケアをしている人数については、ケアをしている人数が1人より2人の場合が「大変負担になっている」の割合が高くなっている。また、ケアをしている人数が1人では「やや負担になっている」の割合が高くなっている。



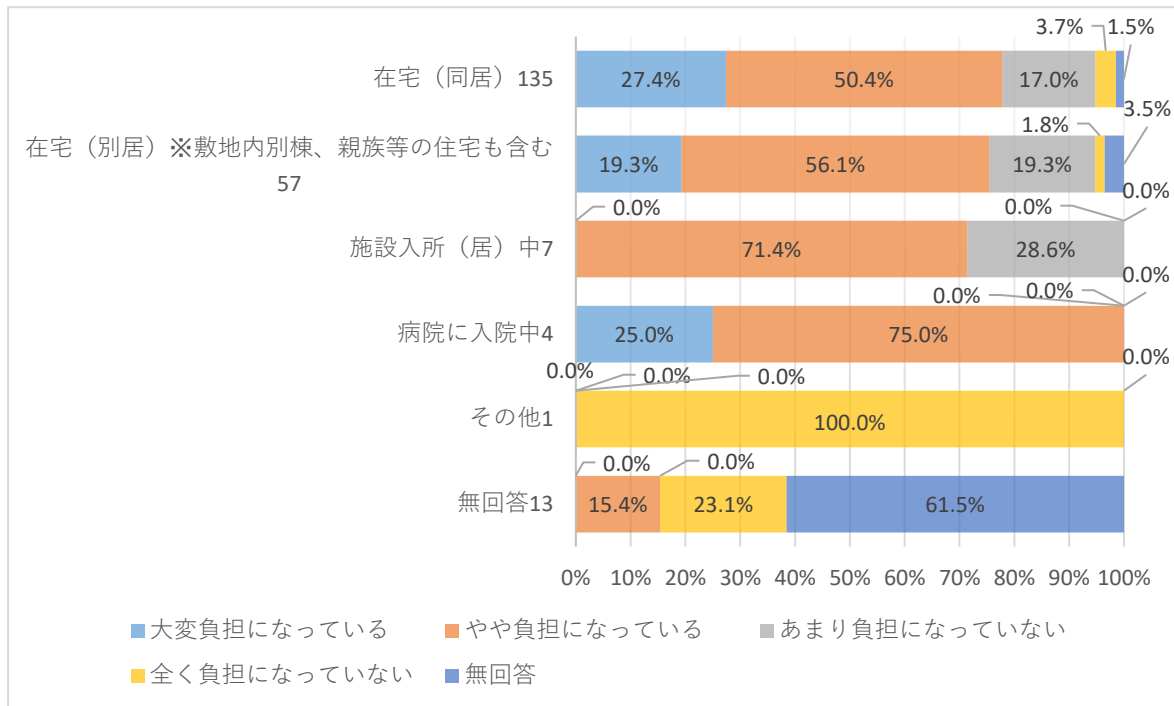
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアの負担感×被介護者の生活の場所

ア) 高齢者

ケアの負担感と被介護者の生活の場所については、「在宅（同居）」と「病院に入院中」が他の項目に比べ「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

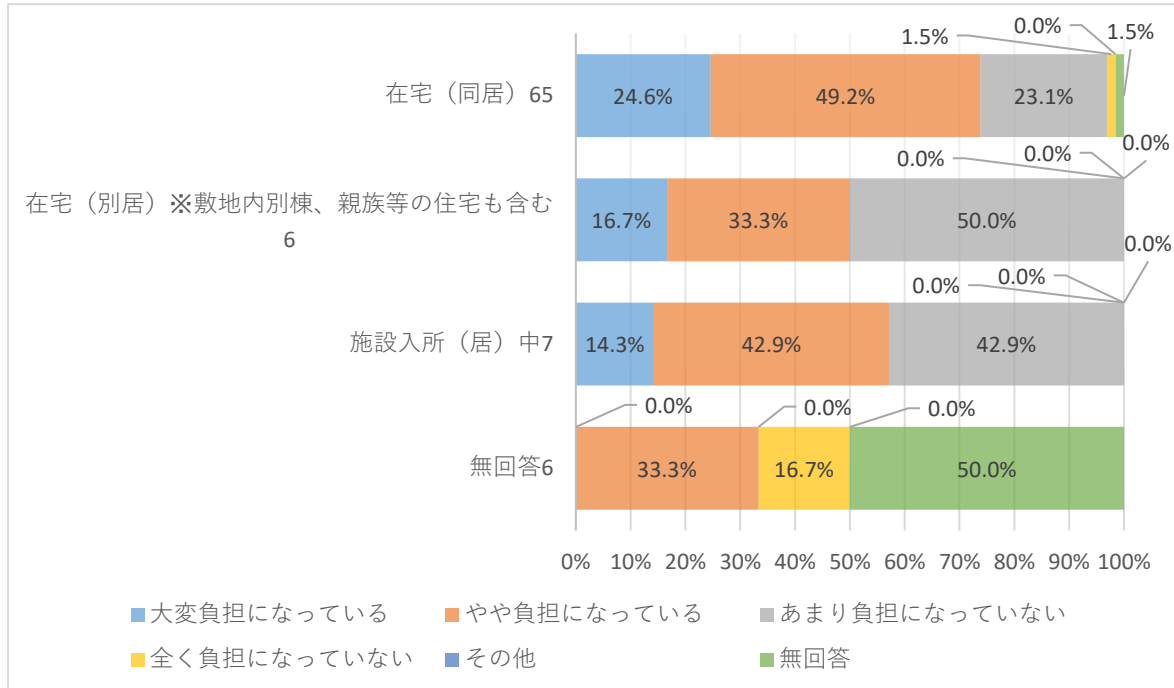


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアの負担感と被介護者の生活の場所については、「在宅（同居）」が他の項目に比べ「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

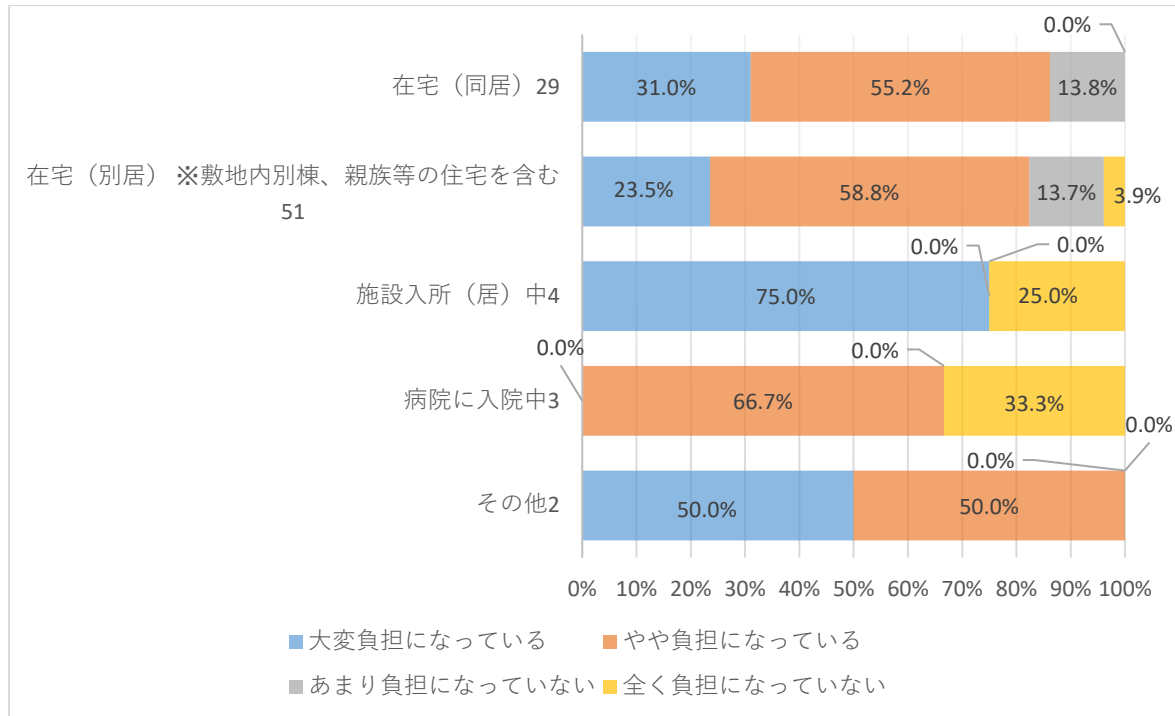


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアの負担感と被介護者の生活の場所については、「施設入所（居）中」が他の項目に比べ「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



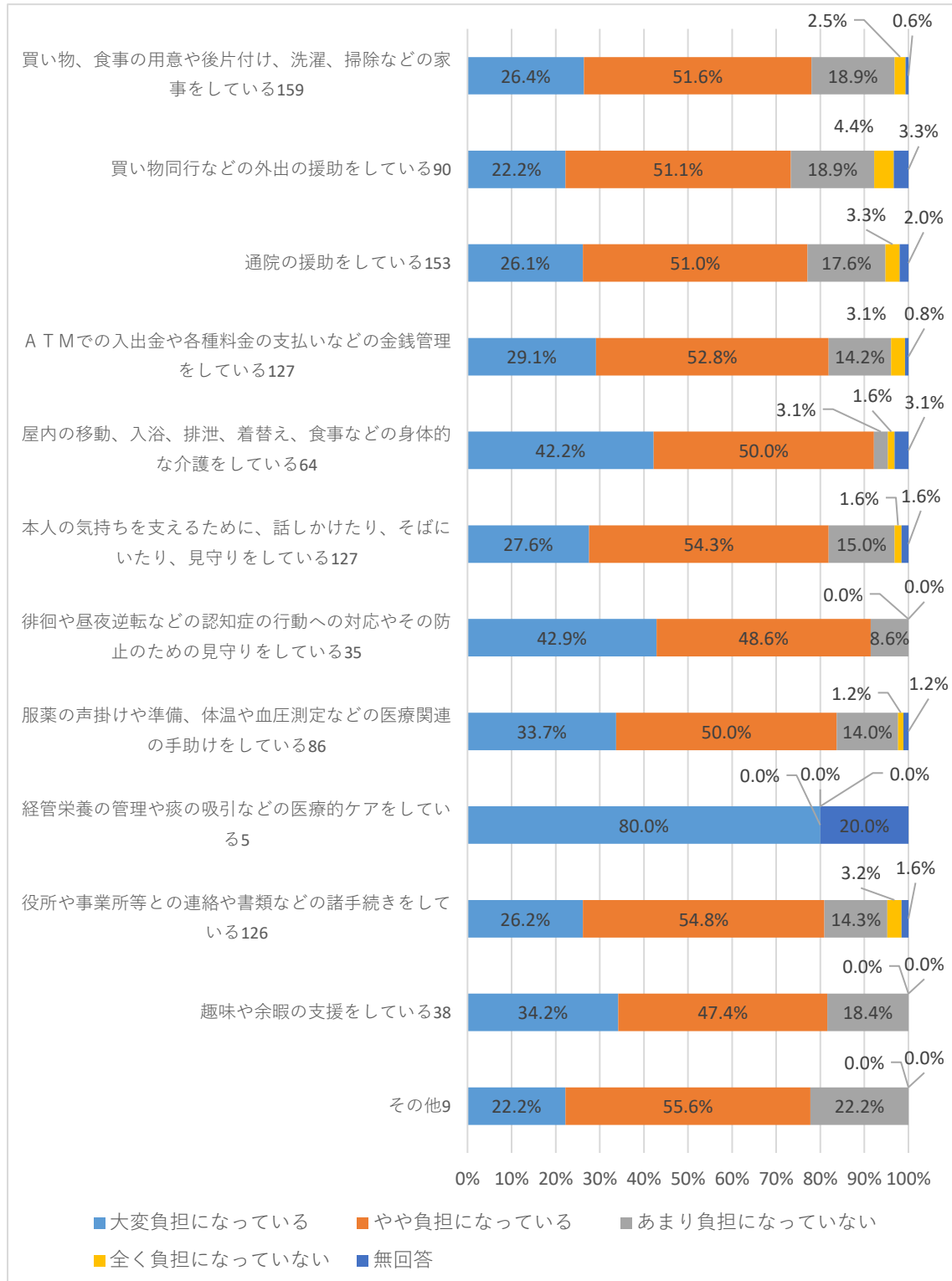
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアの負担感×ケアの内容

ア) 高齢者

ケアの負担感とケアの内容については、「経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている」の場合に、「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

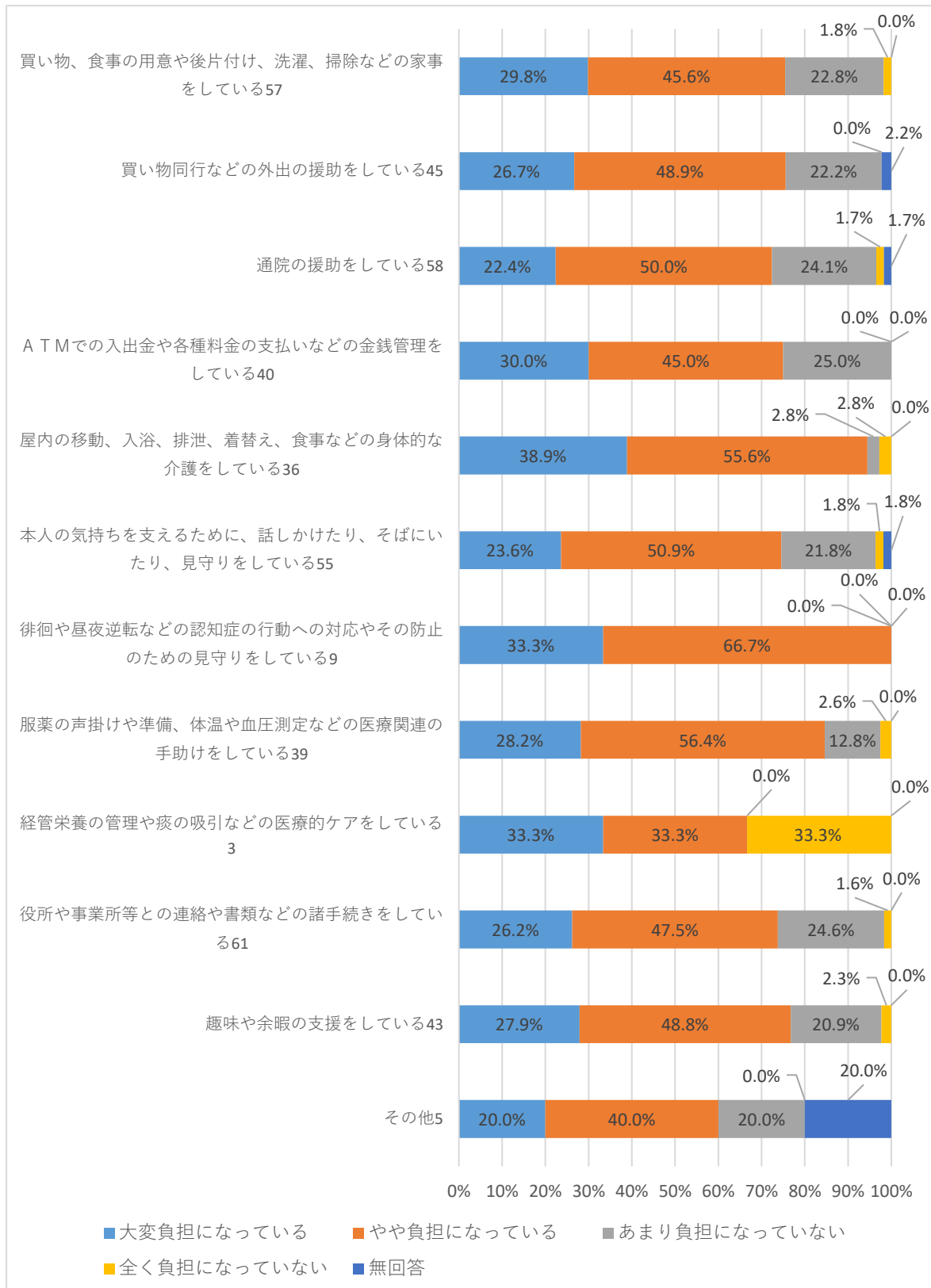


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアの負担感とケアの内容については、「屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている」の場合に、「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



※ダブルケアについては、「ケアの内容」は設問項目になし。

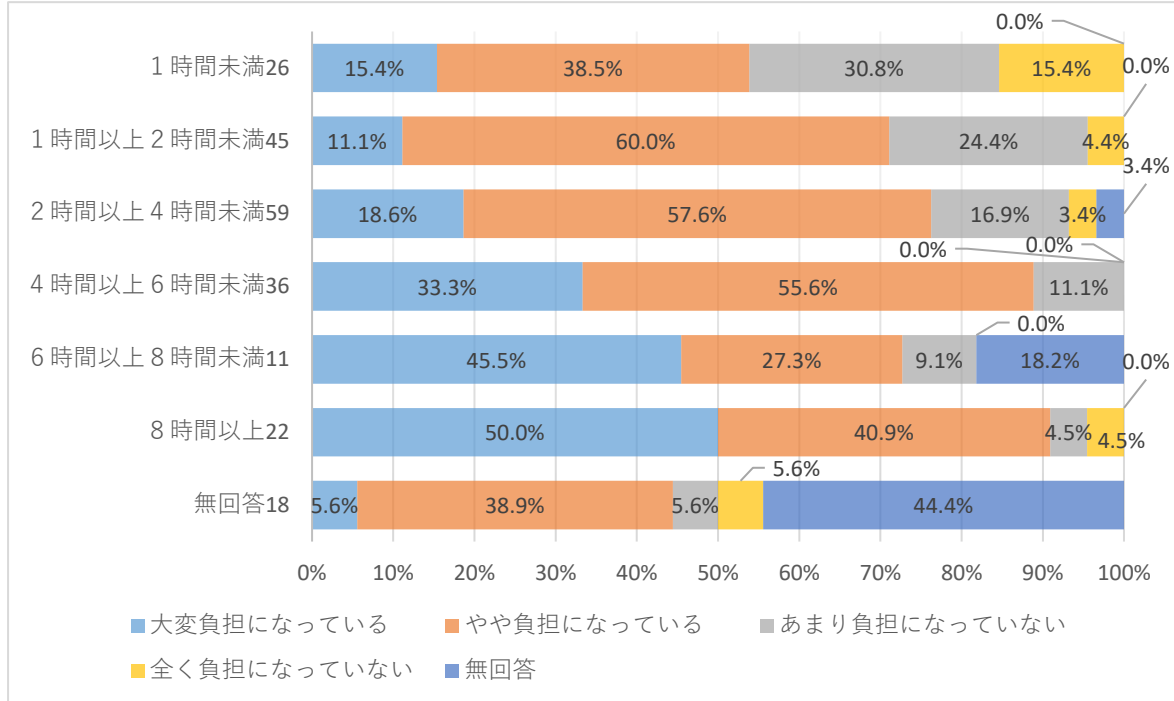
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアの負担感× 1日のケア時間

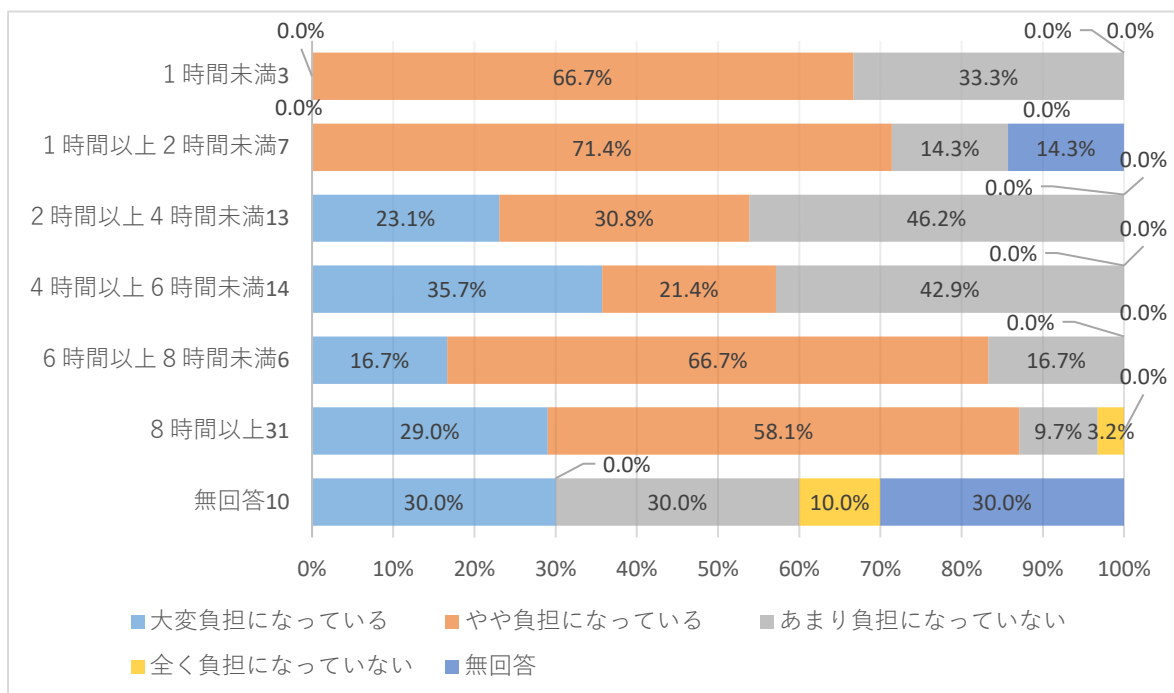
ア) 高齢者

ケアの負担感と1日のケア時間については、時間が長くなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



イ) 障害者

ケアの負担感と1日のケア時間については、「4 時間以上 6 時間未満」「8 時間以上」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

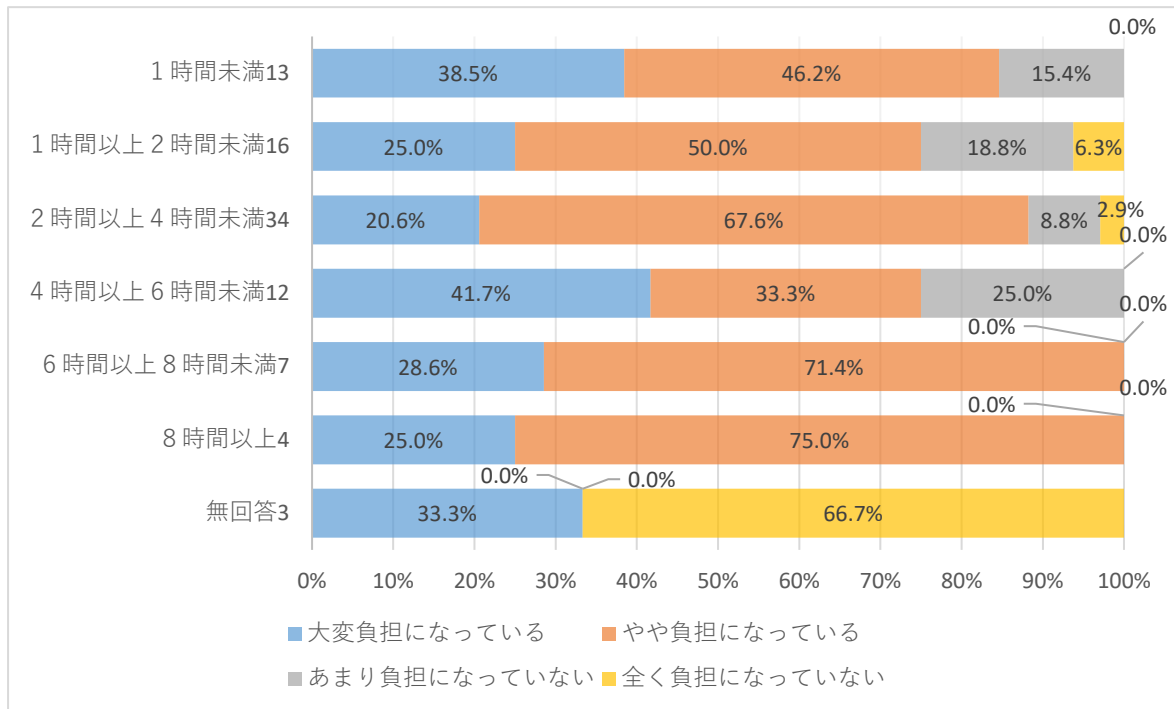


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアの負担感と1日のケア時間については、「4時間以上6時間未満」「1時間未満」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



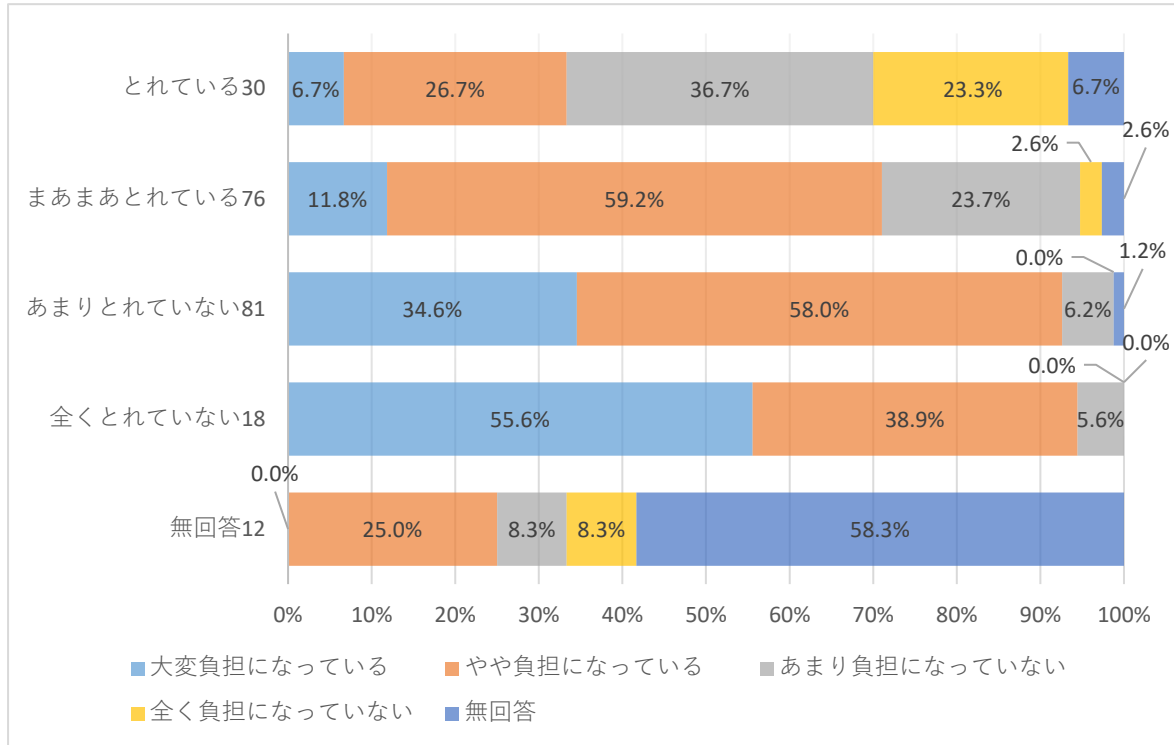
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアの負担感×自分のための時間の取得

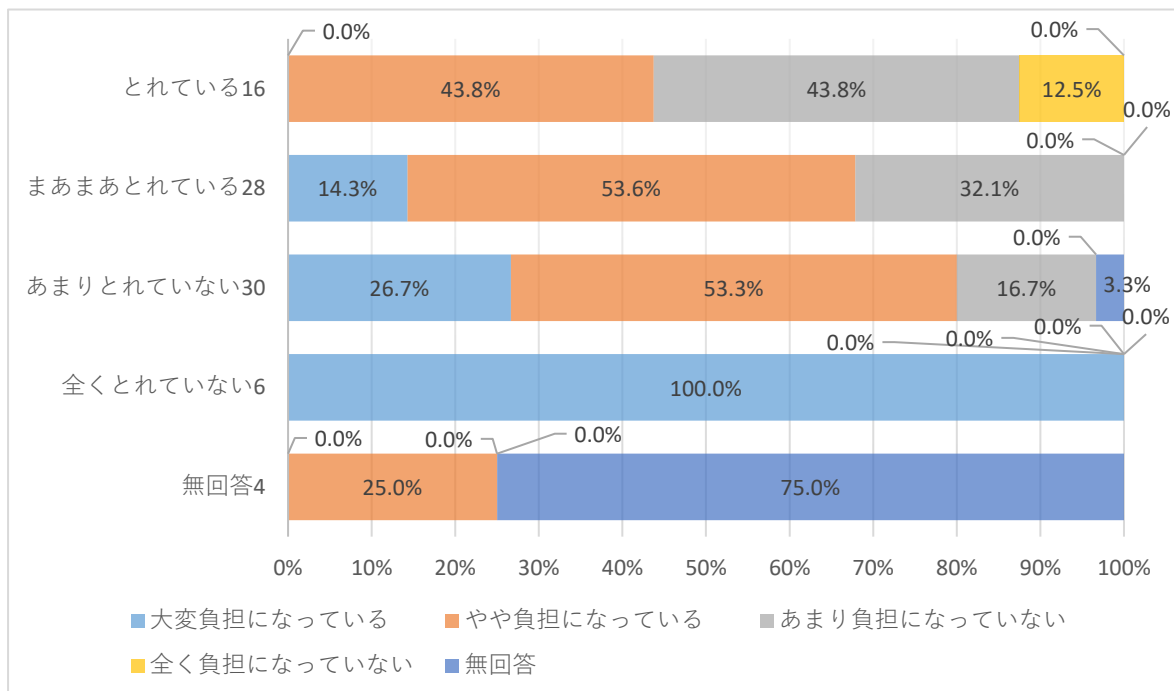
ア) 高齢者

ケアの負担感と自分のための時間の取得については、自分の時間が取れなくなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



イ) 障害者

ケアの負担感と自分のための時間の取得については、自分の時間が取れなくなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

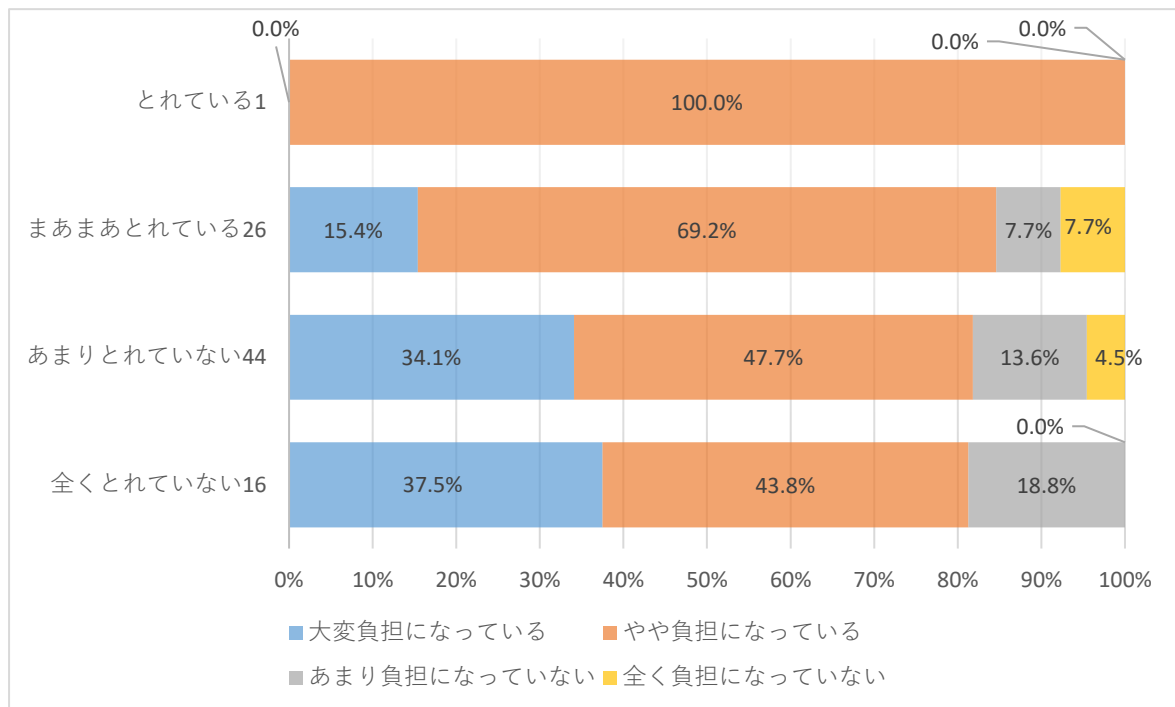


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアの負担感と自分のための時間の取得については、自分の時間が取れなくなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



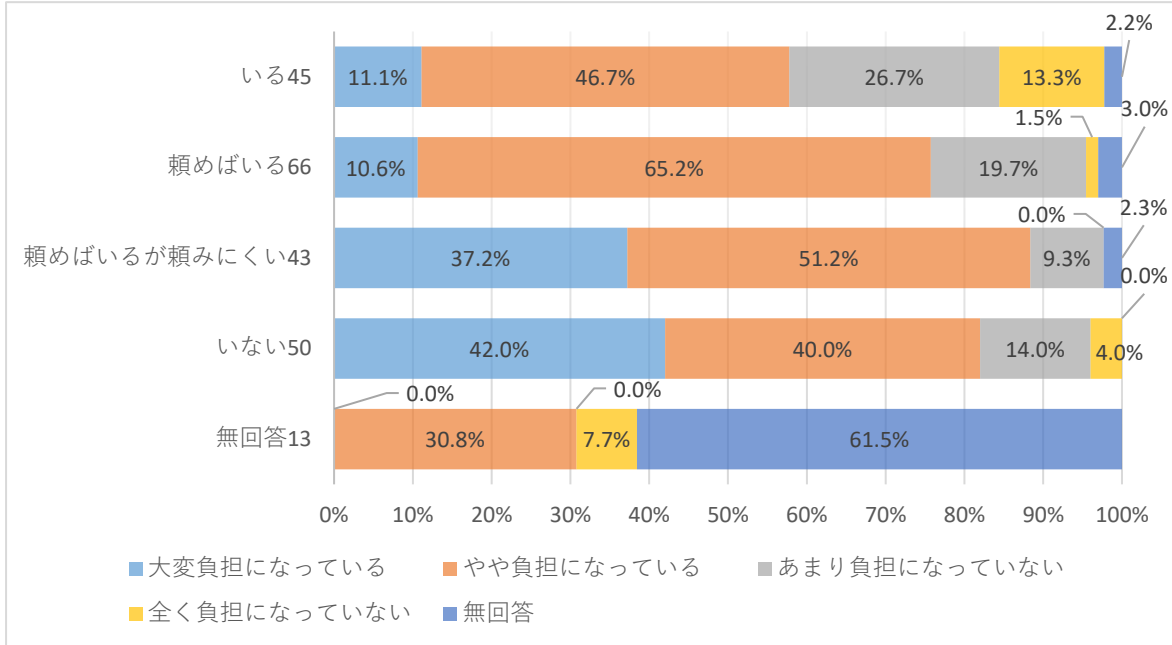
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアの負担感×代わりにケアを担う人の有無

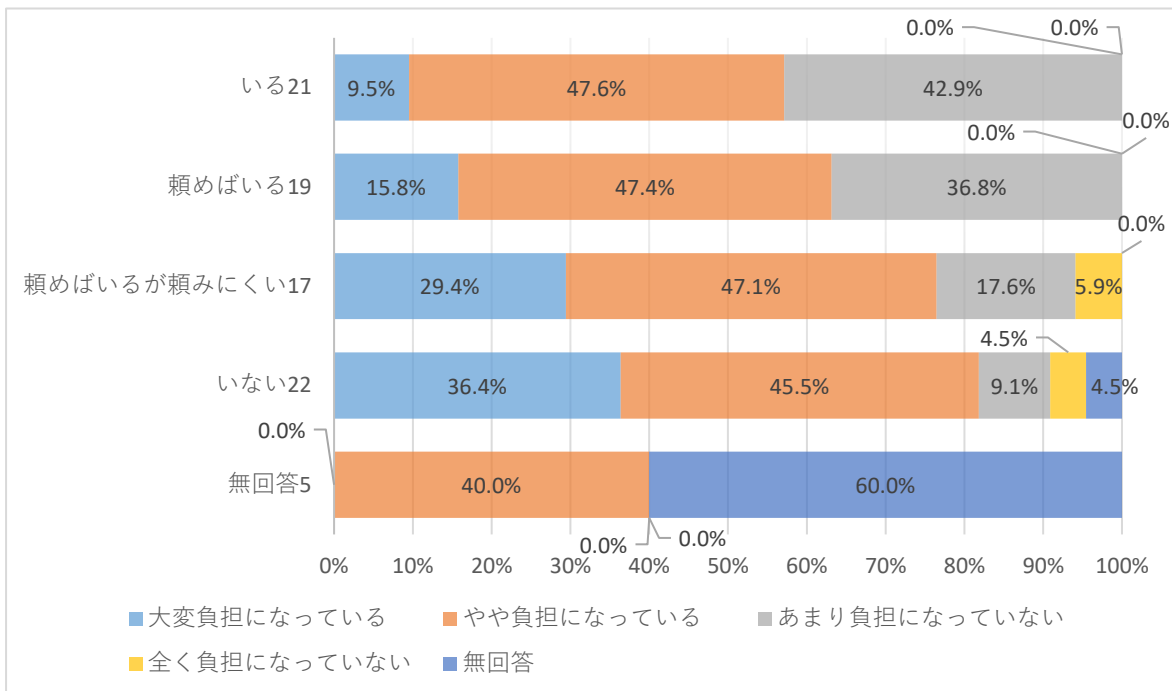
ア) 高齢者

ケアの負担感と代わりにケアを担う人の有無については、「いない」「頼めばいるが頼みにくい」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



イ) 障害者

ケアの負担感と代わりにケアを担う人の有無については、「いない」「頼めばいるが頼みにくい」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

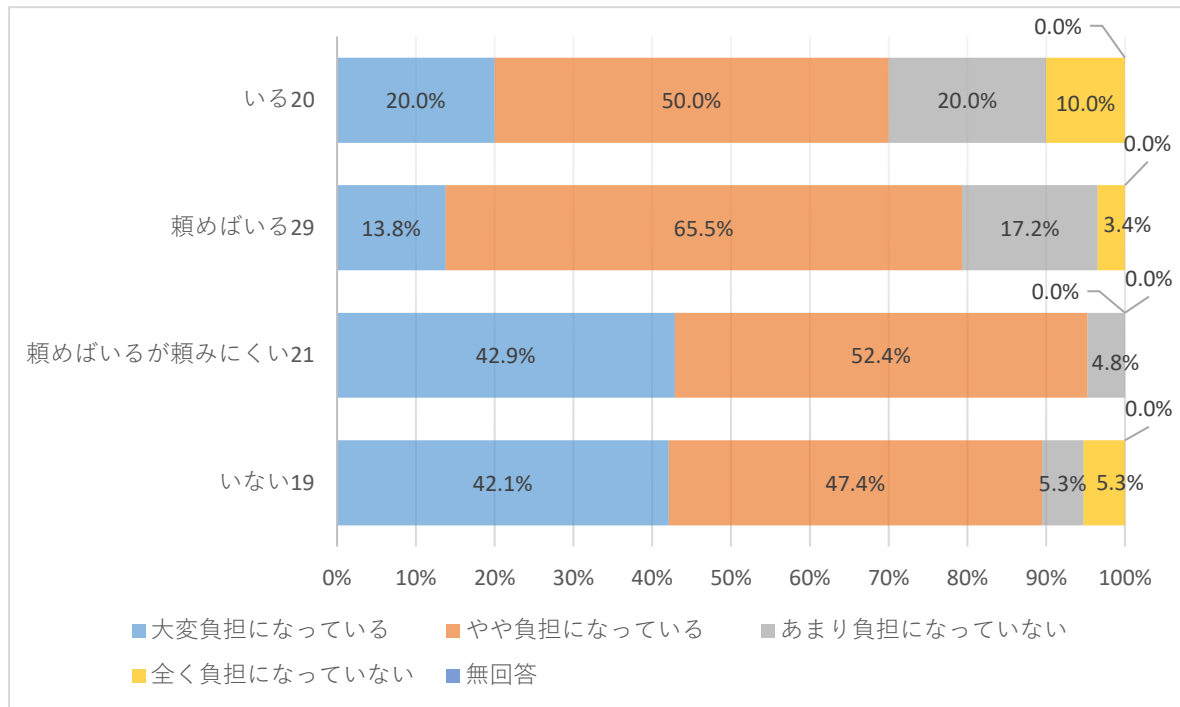


II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアの負担感と代わりにケアを担う人の有無については、「頼めばいるが頼みにくい」「いない」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

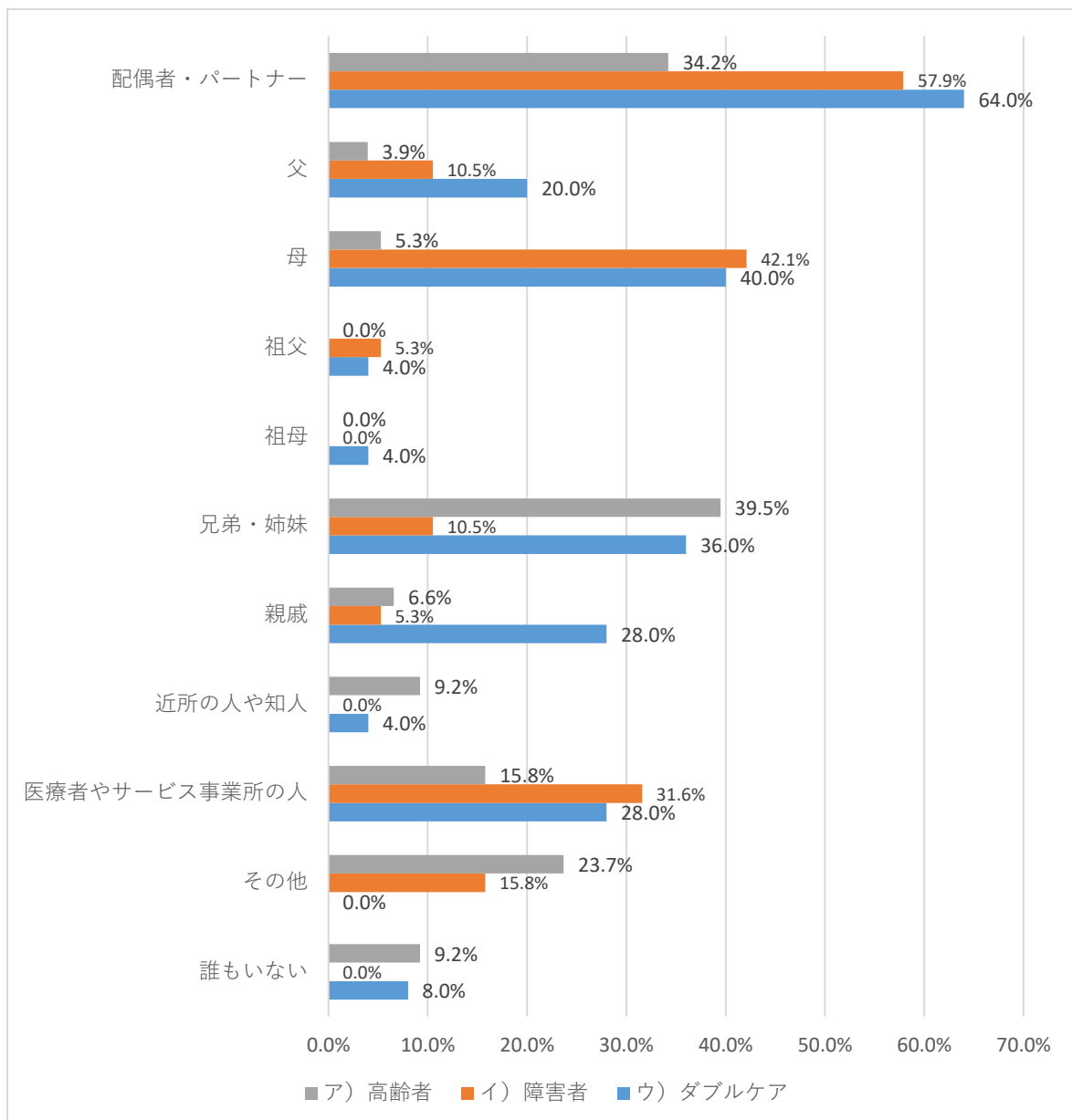


4) ケアに関する相談について

(1) ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人については、高齢者では「兄弟・姉妹」が39.5%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が34.2%、「医療者やサービス事業所の人」が15.8%となっている。障害者では「配偶者・パートナー」が57.9%で最も高く、次いで「母」が42.1%、「医療者やサービス事業所の人」が31.6%となっている。ダブルケアでは「配偶者・パートナー」が64.0%で最も高く、次いで「母」が40.0%、「兄弟・姉妹」が36.0%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
配偶者・パートナー	26	34.2%	11	57.9%	16	64.0%
父	3	3.9%	2	10.5%	5	20.0%
母	4	5.3%	8	42.1%	10	40.0%
祖父	0	0.0%	1	5.3%	1	4.0%
祖母	0	0.0%	0	0.0%	1	4.0%
兄弟・姉妹	30	39.5%	2	10.5%	9	36.0%
親戚	5	6.6%	1	5.3%	7	28.0%
近所の人や知人	7	9.2%	0	0.0%	1	4.0%
医療者やサービス事業所の人	12	15.8%	6	31.6%	7	28.0%
その他	18	23.7%	3	15.8%	0	0.0%
誰もいない	7	9.2%	0	0.0%	2	8.0%
無回答	141	—	64	—	64	—
回答者数	76	—	19	—	25	—

※「悩みがない」と答えた方のみ回答

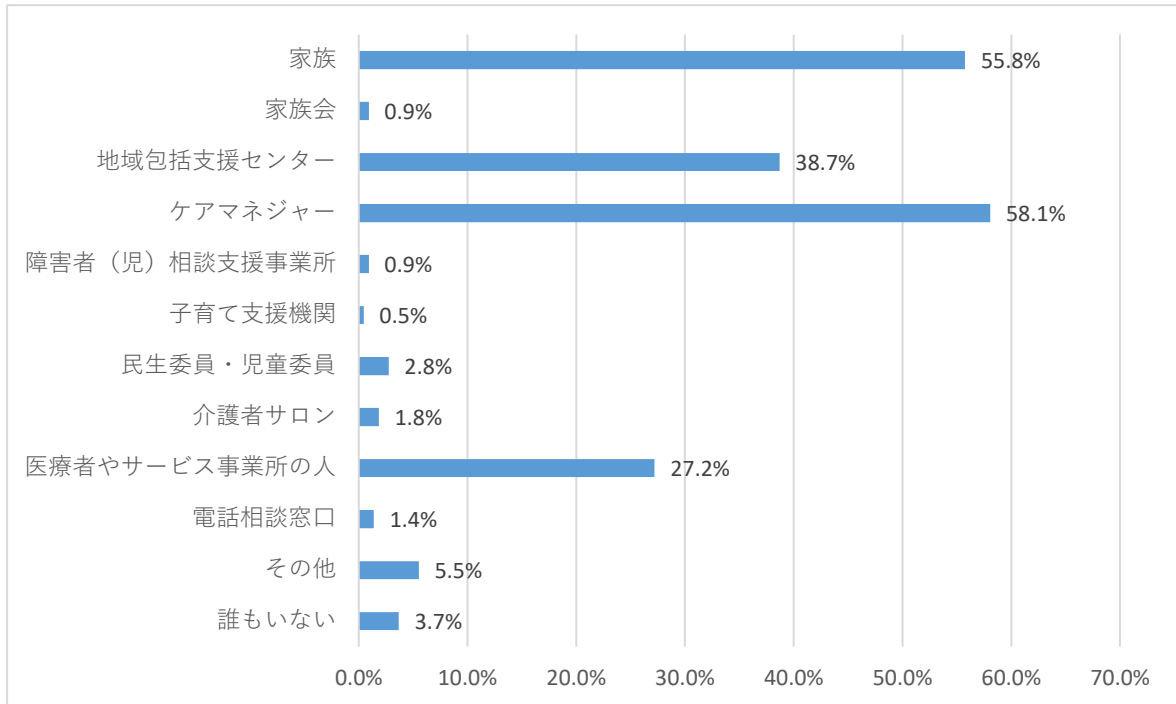
※「無回答」は、いずれの項目も選択しなかった者の数

(2) 信頼できる相談相手や窓口・機関

ア) 高齢者

① ケアを必要としている本人のことを相談する窓口・機関

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「ケアマネジャー」が58.1%で最も高く、次いで「家族」が55.8%、「地域包括支援センター」が38.7%となっている。(複数回答)



(複数回答)

項目	回答数	割合
家族	121	55.8%
家族会	2	0.9%
地域包括支援センター	84	38.7%
ケアマネジャー	126	58.1%
障害者(児)相談支援事業所	2	0.9%
子育て支援機関	1	0.5%
民生委員・児童委員	6	2.8%
介護者サロン	4	1.8%
医療者やサービス事業所の人	59	27.2%
電話相談窓口	3	1.4%
その他	12	5.5%
誰もいない	8	3.7%
無回答	9	—
回答者数	217	—

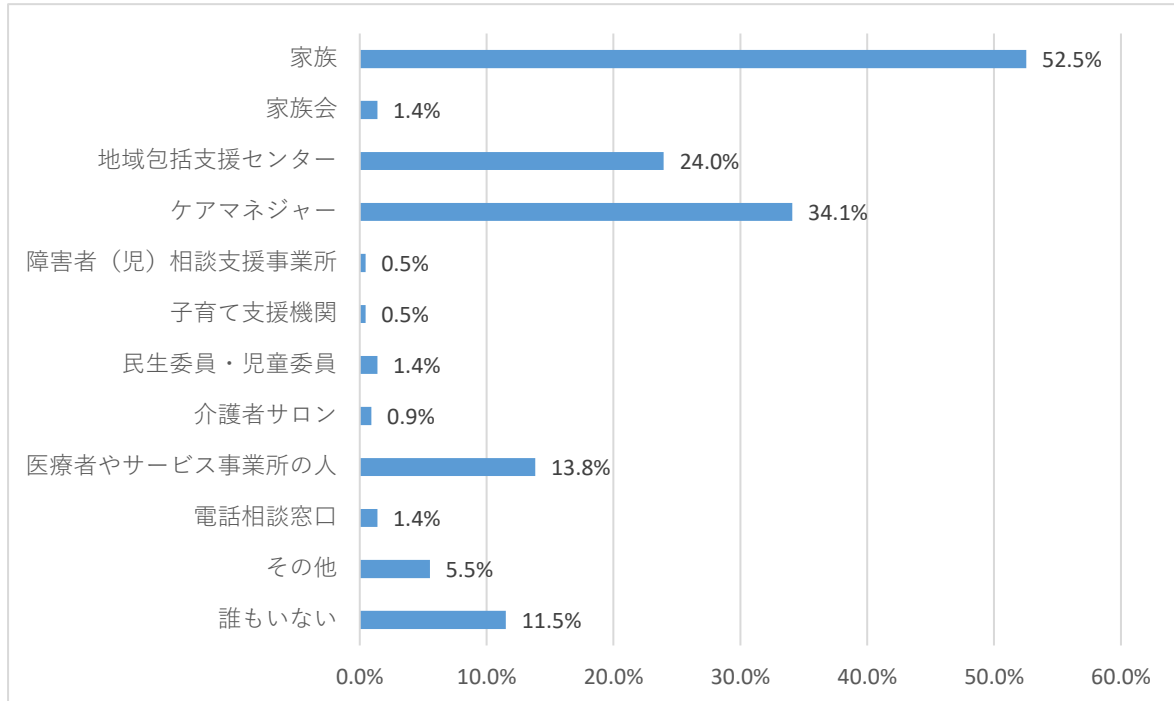
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

②高齢者のケアラー自身のことを相談する窓口・機関

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「家族」が52.5%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」が34.1%、「地域包括支援センター」が24.0%となっている。

(複数回答)



(複数回答)

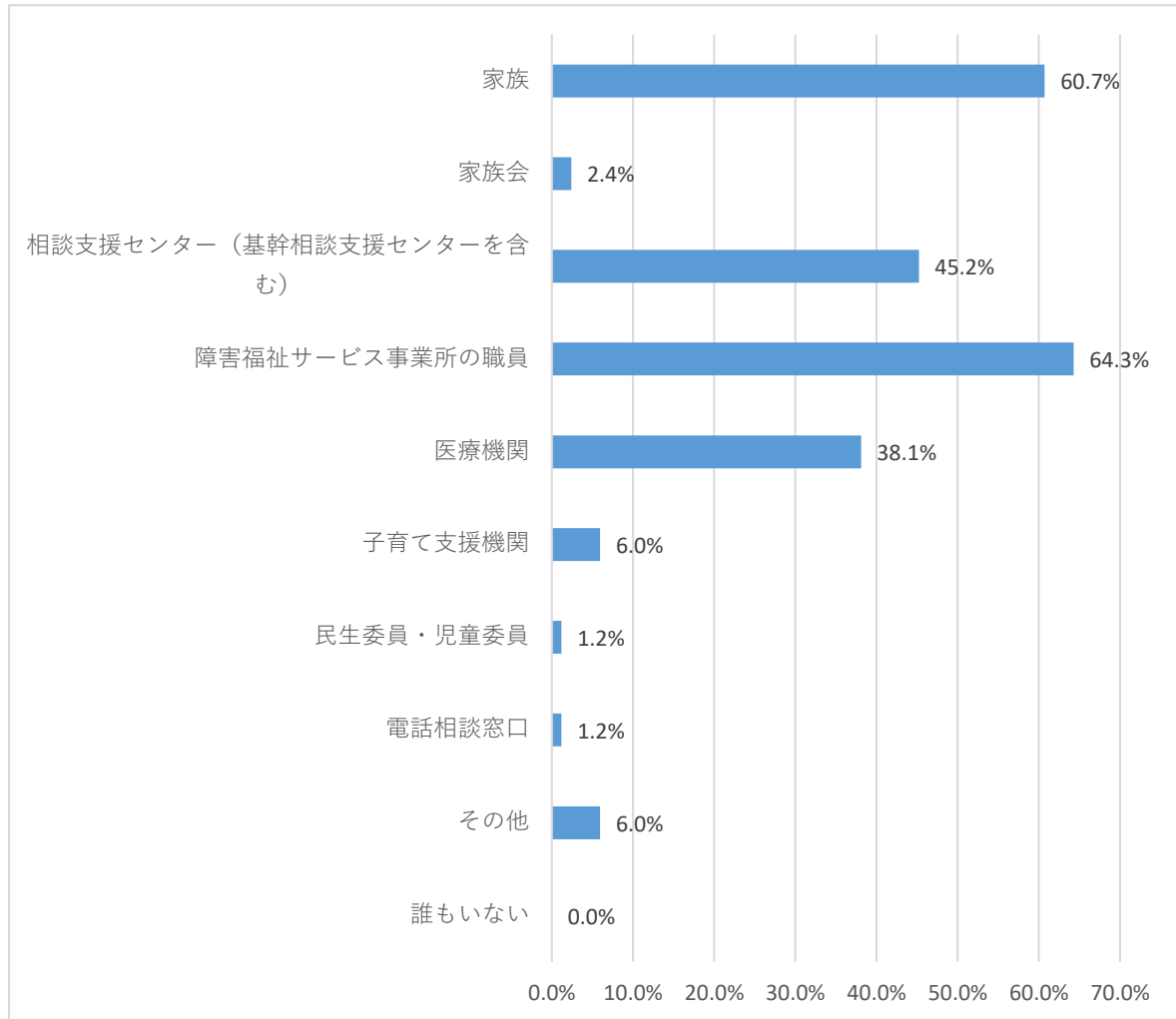
項目	回答数	割合
家族	114	52.5%
家族会	3	1.4%
地域包括支援センター	52	24.0%
ケアマネジャー	74	34.1%
障害者(児)相談支援事業所	1	0.5%
子育て支援機関	1	0.5%
民生委員・児童委員	3	1.4%
介護者サロン	2	0.9%
医療者やサービス事業所の人	30	13.8%
電話相談窓口	3	1.4%
その他	12	5.5%
誰もいない	25	11.5%
無回答	20	—
回答者数	217	—

イ) 障害者

① ケアを必要としている本人のことを相談する窓口・機関

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「障害福祉サービス事業所の職員」が64.3%で最も高く、次いで「家族」が60.7%、「相談支援センター（基幹相談支援センターを含む）」が45.2%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
家族	51	60.7%
家族会	2	2.4%
相談支援センター（基幹相談支援センターを含む）	38	45.2%
障害福祉サービス事業所の職員	54	64.3%
医療機関	32	38.1%
子育て支援機関	5	6.0%
民生委員・児童委員	1	1.2%
電話相談窓口	1	1.2%
その他	5	6.0%
誰もいない	0	0.0%
無回答	2	—
回答者数	84	—

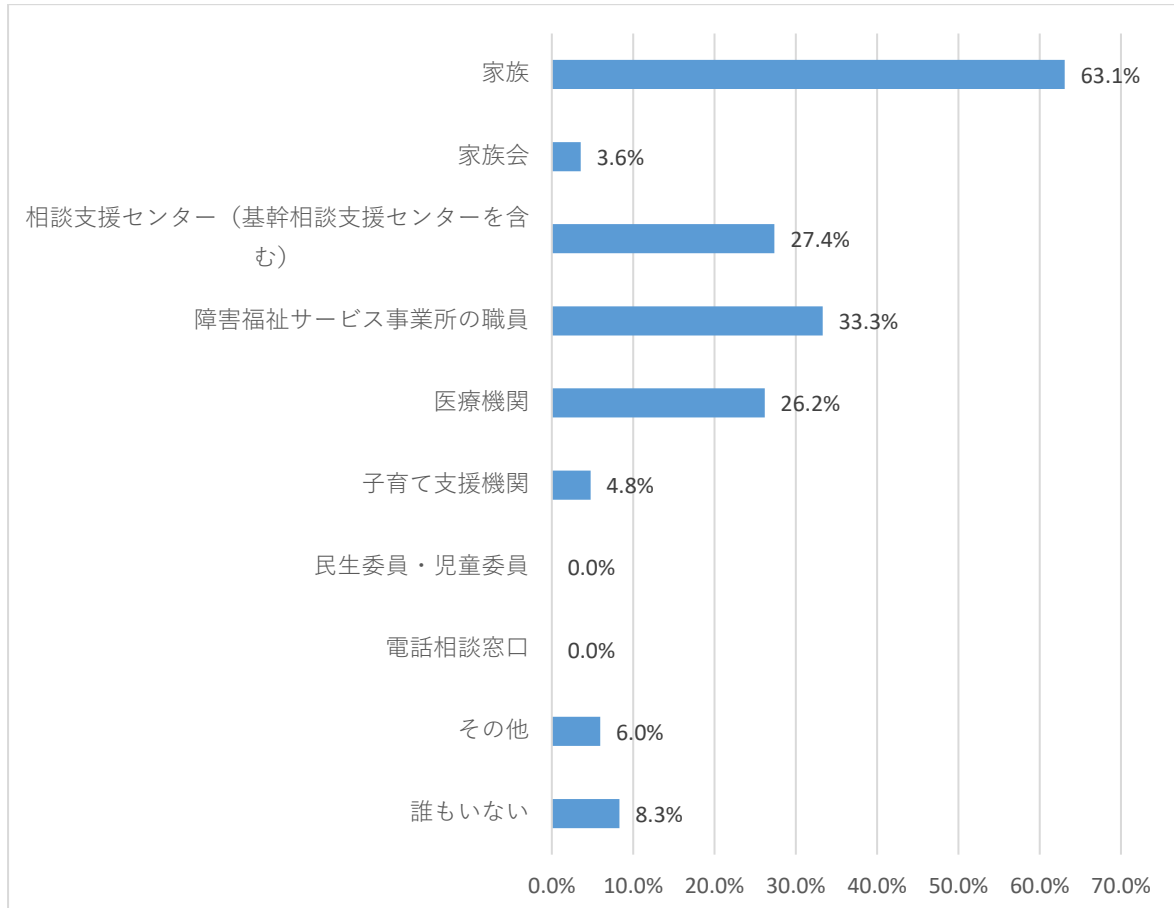
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

② 障害者のケアラー自身のことを相談する窓口・機関

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「家族」が 63.1%で最も高く、次いで「障害福祉サービス事業所の職員」が 33.3%、「相談支援センター（基幹相談支援センターを含む）」が 27.4%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
家族	53	63.1%
家族会	3	3.6%
相談支援センター（基幹相談支援センターを含む）	23	27.4%
障害福祉サービス事業所の職員	28	33.3%
医療機関	22	26.2%
子育て支援機関	4	4.8%
民生委員・児童委員	0	0.0%
電話相談窓口	0	0.0%
その他	5	6.0%
誰もいない	7	8.3%
無回答	7	—
回答者数	84	—

II 調査結果

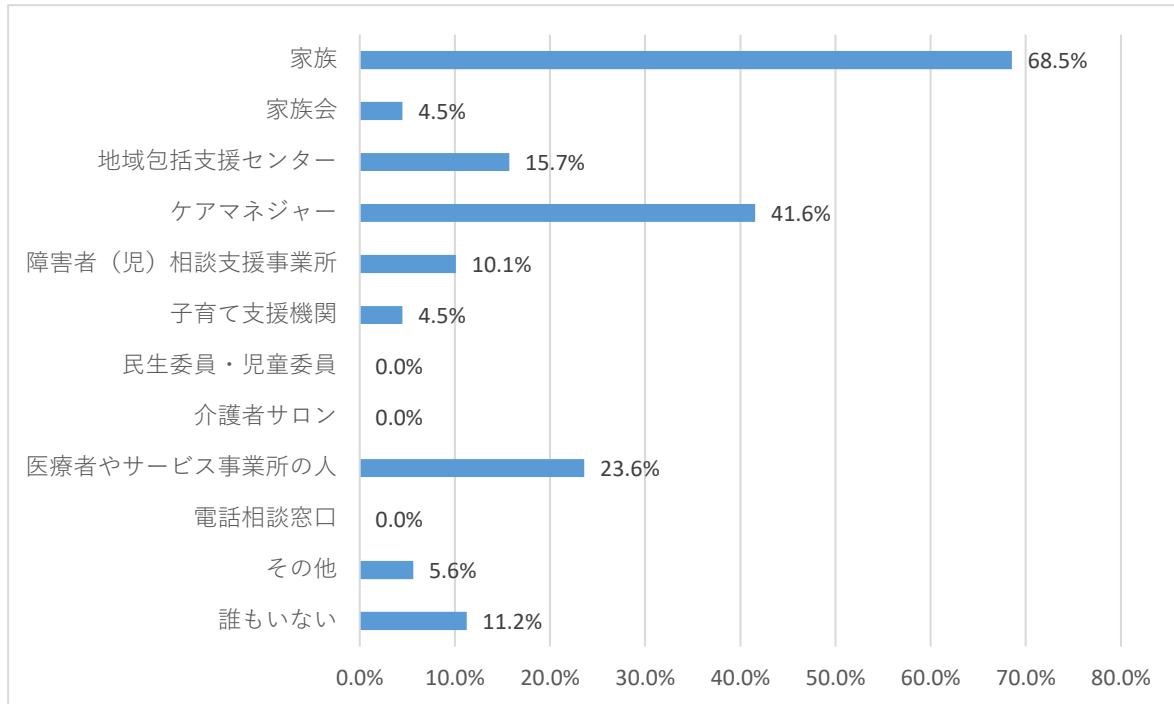
1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

① ケアを必要としている本人のことを相談する窓口・機関

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「家族」が 68.5%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」が 41.6%、「医療者やサービス事業所の人」が 23.6%となっている。

(複数回答)



(複数回答)

項目	回答数	割合
家族	61	68.5%
家族会	4	4.5%
地域包括支援センター	14	15.7%
ケアマネジャー	37	41.6%
障害者(児)相談支援事業所	9	10.1%
子育て支援機関	4	4.5%
民生委員・児童委員	0	0.0%
介護者サロン	0	0.0%
医療者やサービス事業所の人	21	23.6%
電話相談窓口	0	0.0%
その他	5	5.6%
誰もいない	10	11.2%
無回答	0	—
回答者数	89	—

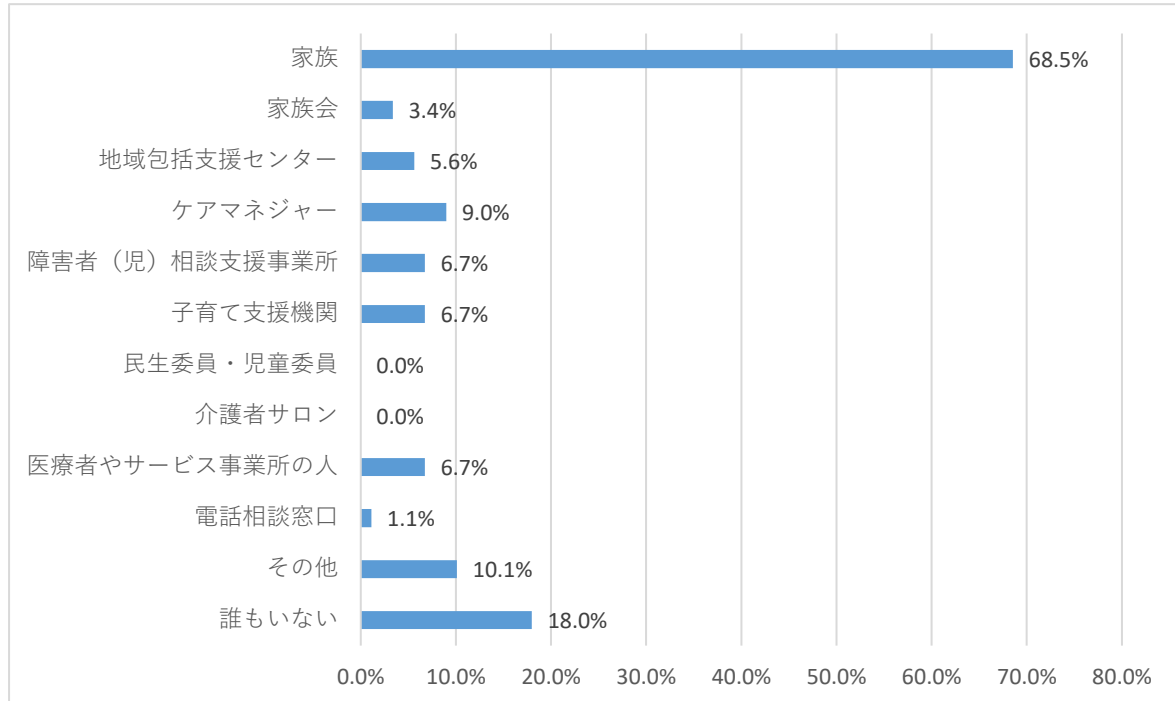
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

②ダブルケア者自身のことを相談する窓口・機関

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「家族」が68.5%で最も高く、次いで「誰もいない」が18.0%、「その他」が10.1%となっている。

(複数回答)

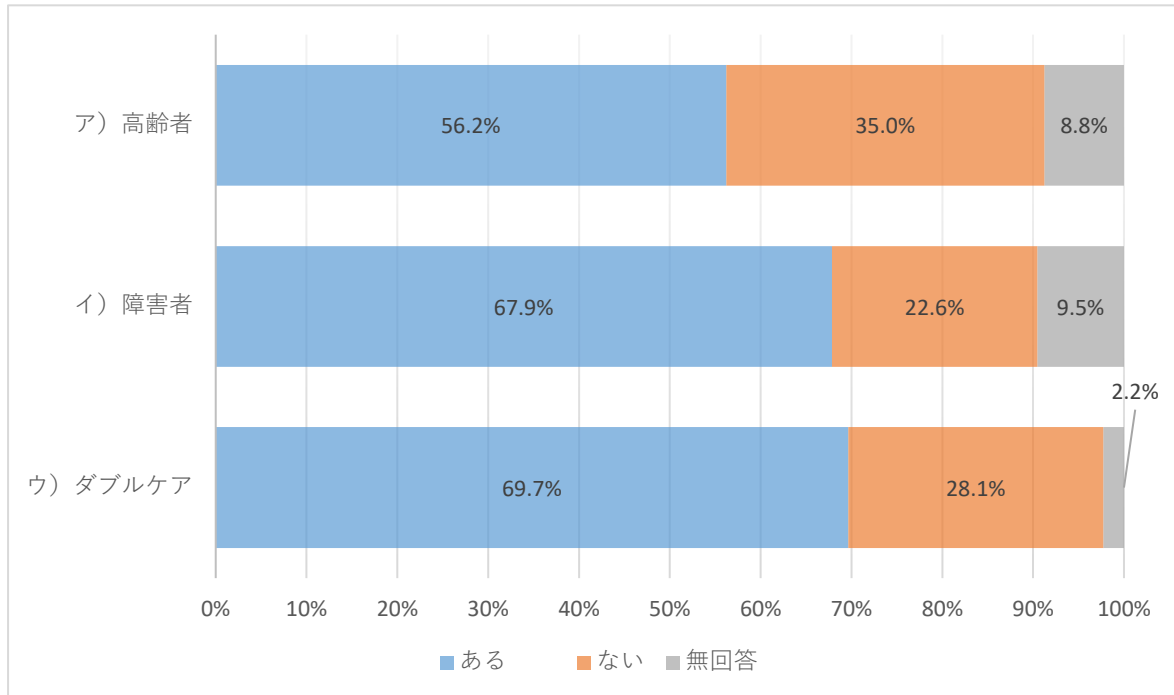


(複数回答)

項目	回答数	割合
家族	61	68.5%
家族会	3	3.4%
地域包括支援センター	5	5.6%
ケアマネジャー	8	9.0%
障害者（児）相談支援事業所	6	6.7%
子育て支援機関	6	6.7%
民生委員・児童委員	0	0.0%
介護者サロン	0	0.0%
医療者やサービス事業所の人	6	6.7%
電話相談窓口	1	1.1%
その他	9	10.1%
誰もいない	16	18.0%
無回答	1	—
回答者数	89	—

(3) ケアラーの悩みの有無

ケアラーの悩みの有無については、高齢者では「ある」が56.2%、「ない」が35.0%となっている。障害者では「ある」が67.9%、「ない」が22.6%となっている。ダブルケアでは、「ある」が69.7%、「ない」が28.1%となっている。障害者とダブルケアは、約7割の方が悩みがあると回答している。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	122	56.2%	57	67.9%	62	69.7%
ない	76	35.0%	19	22.6%	25	28.1%
無回答	19	8.8%	8	9.5%	2	2.2%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

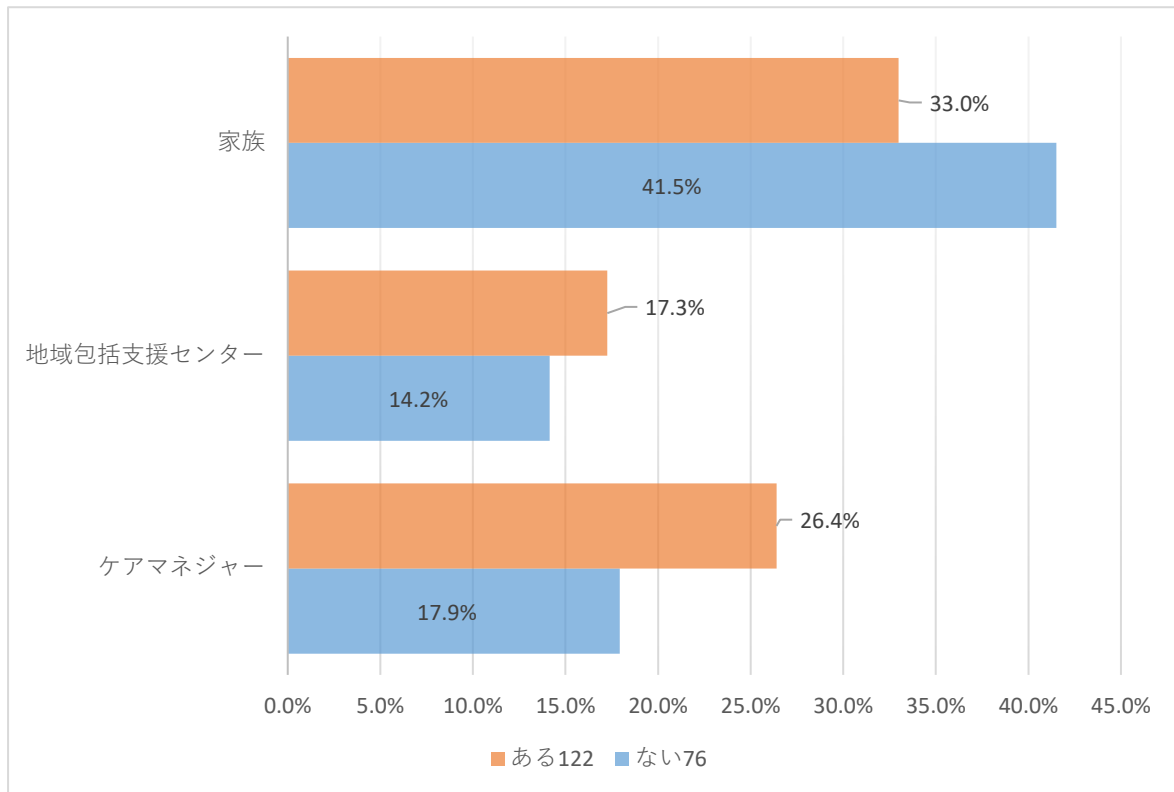
1. ケアラー当事者調査

【クロス集計】 ケアラーの悩みの有無×信頼できる相談相手や窓口・機関(抜粋)

ア) 高齢者

ケアラーの悩みの有無と信頼できる相談相手や窓口・機関※については、相談相手が「家族」の場合は「悩みがない」の割合が高く、「ケアマネジャー」の場合は「悩みがある」の割合が高くなっている。

※回答数が多い項目を抜粋



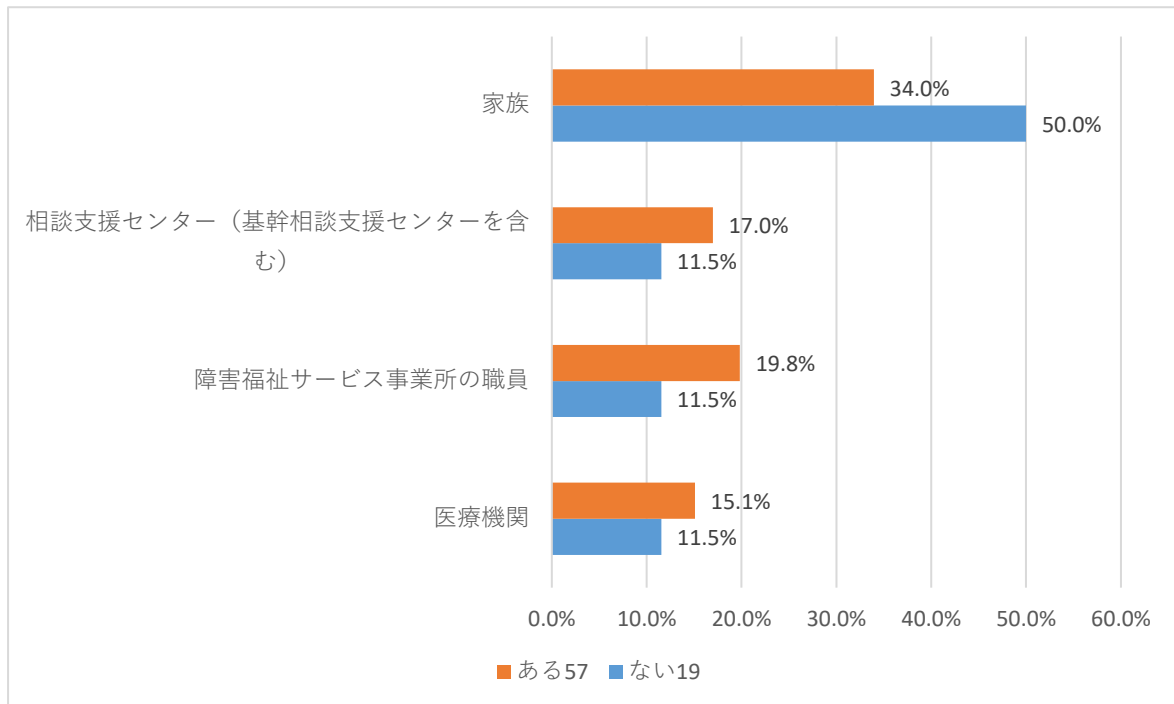
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアラーの悩みの有無と信頼できる相談相手や窓口・機関※については、相談相手が「家族」の場合は「悩みがない」の割合が高く、「障害福祉サービス事業所の職員」の場合は「悩みがある」の割合がやや高くなっている。

※回答数が多い項目を抜粋



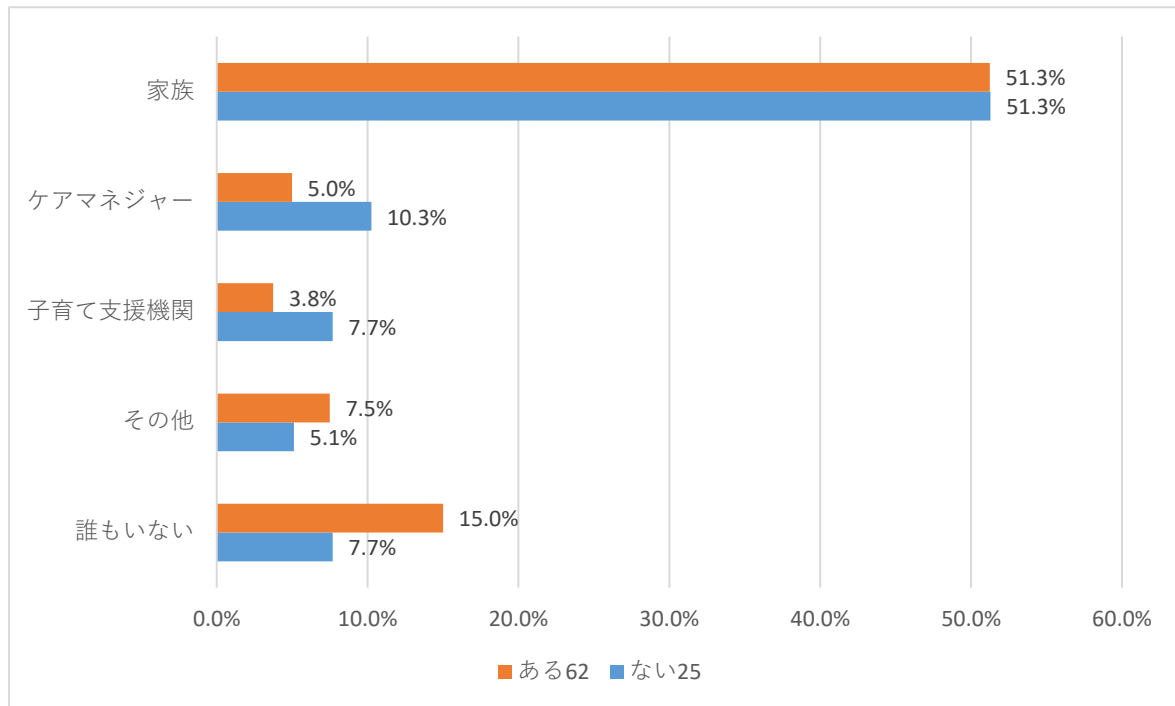
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアラーの悩みの有無と信頼できる相談相手や窓口・機関※については、相談相手が「家族」の場合は「悩みがある」「悩みがない」の割合が同じとなっており、「誰もいない」の場合は「悩みがある」の割合が高くなっている。

※回答数が多い項目を抜粋

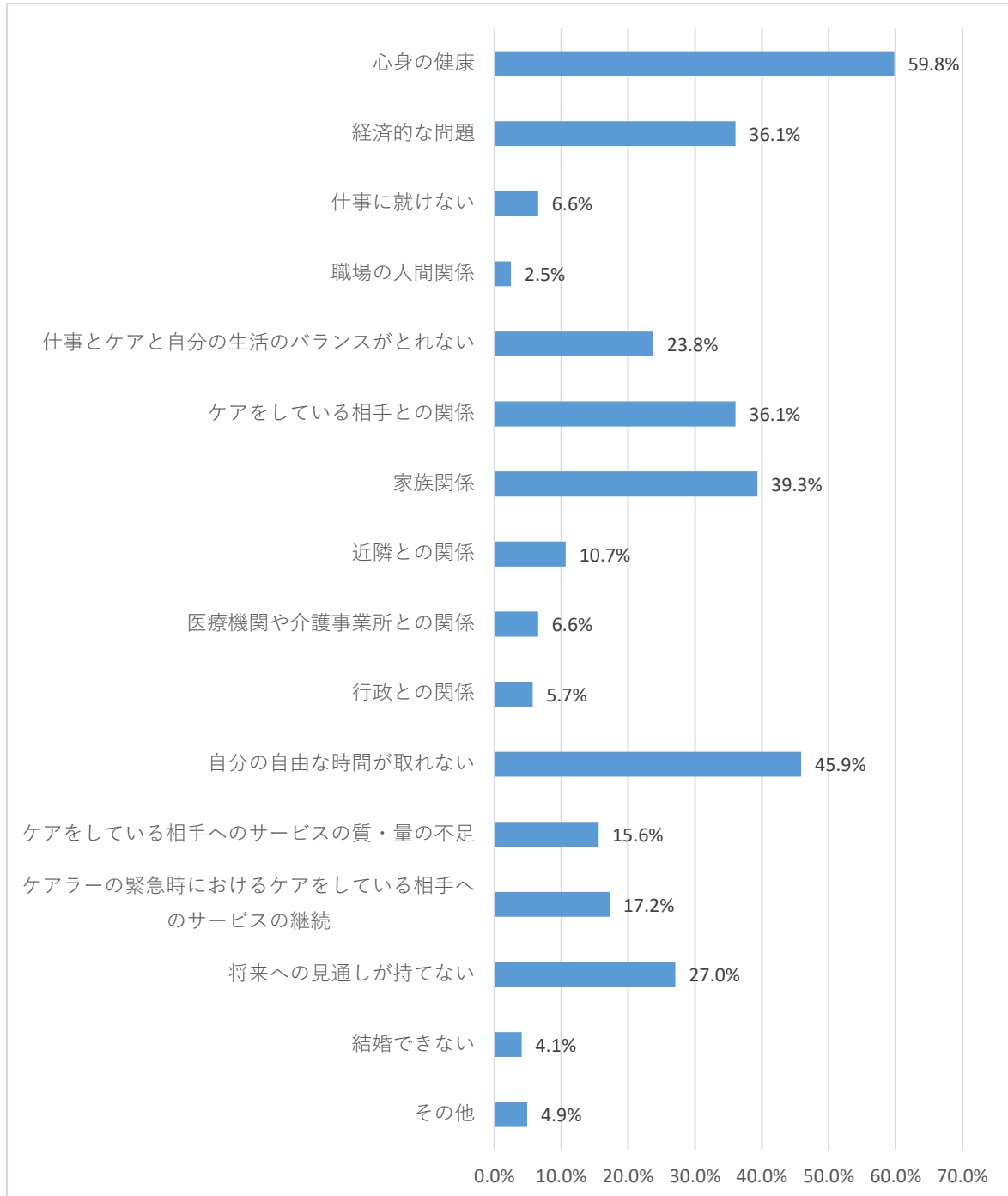


(4) ケアラーの生活や人生に関する悩み

ア) 高齢者

ケアラーの生活や人生に関する悩みについては、「心身の健康」59.8%で最も高く、次いで「自分の自由な時間が取れない」が45.9%、「家族関係」が39.3%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
心身の健康	73	59.8%
経済的な問題	44	36.1%
仕事に就けない	8	6.6%
職場の人間関係	3	2.5%
仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない	29	23.8%
ケアをしている相手との関係	44	36.1%
家族関係	48	39.3%
近隣との関係	13	10.7%
医療機関や介護事業所との関係	8	6.6%
行政との関係	7	5.7%
自分の自由な時間が取れない	56	45.9%
ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足	19	15.6%
ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続	21	17.2%
将来への見通しが持てない	33	27.0%
結婚できない	5	4.1%
その他	6	4.9%
回答者数	122	—

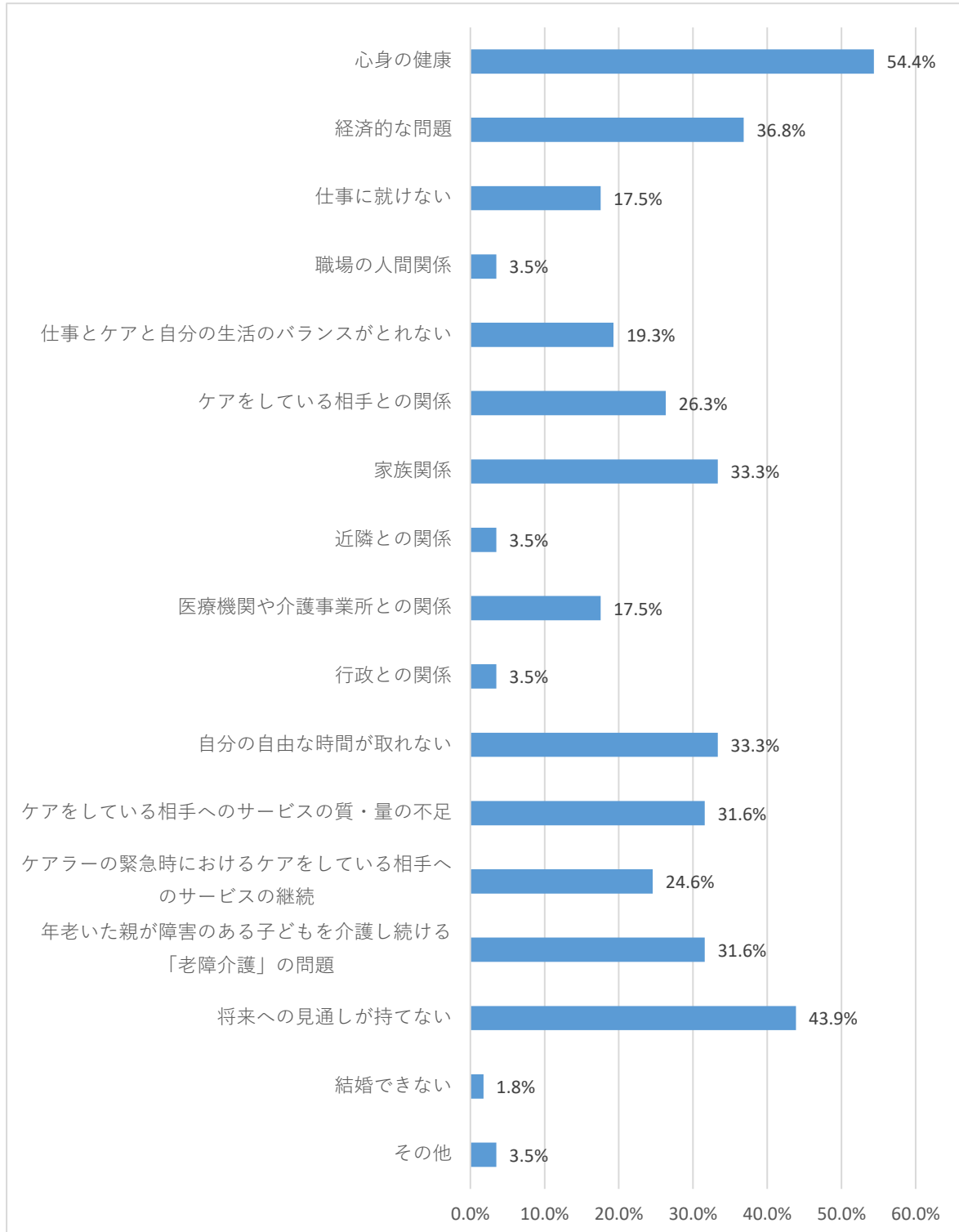
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

イ) 障害者

ケアラーの生活や人生に関する悩みについては、「心身の健康」が54.4%で最も高く、次いで「将来への見通しが持てない」が43.9%、「経済的な問題」が36.8%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
心身の健康	31	54.4%
経済的な問題	21	36.8%
仕事に就けない	10	17.5%
職場の人間関係	2	3.5%
仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない	11	19.3%
ケアをしている相手との関係	15	26.3%
家族関係	19	33.3%
近隣との関係	2	3.5%
医療機関や介護事業所との関係	10	17.5%
行政との関係	2	3.5%
自分の自由な時間が取れない	19	33.3%
ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足	18	31.6%
ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続	14	24.6%
年老いた親が障害のある子どもを介護し続ける「老障介護」の問題	18	31.6%
将来への見通しが持てない	25	43.9%
結婚できない	1	1.8%
その他	2	3.5%
回答者数	57	—

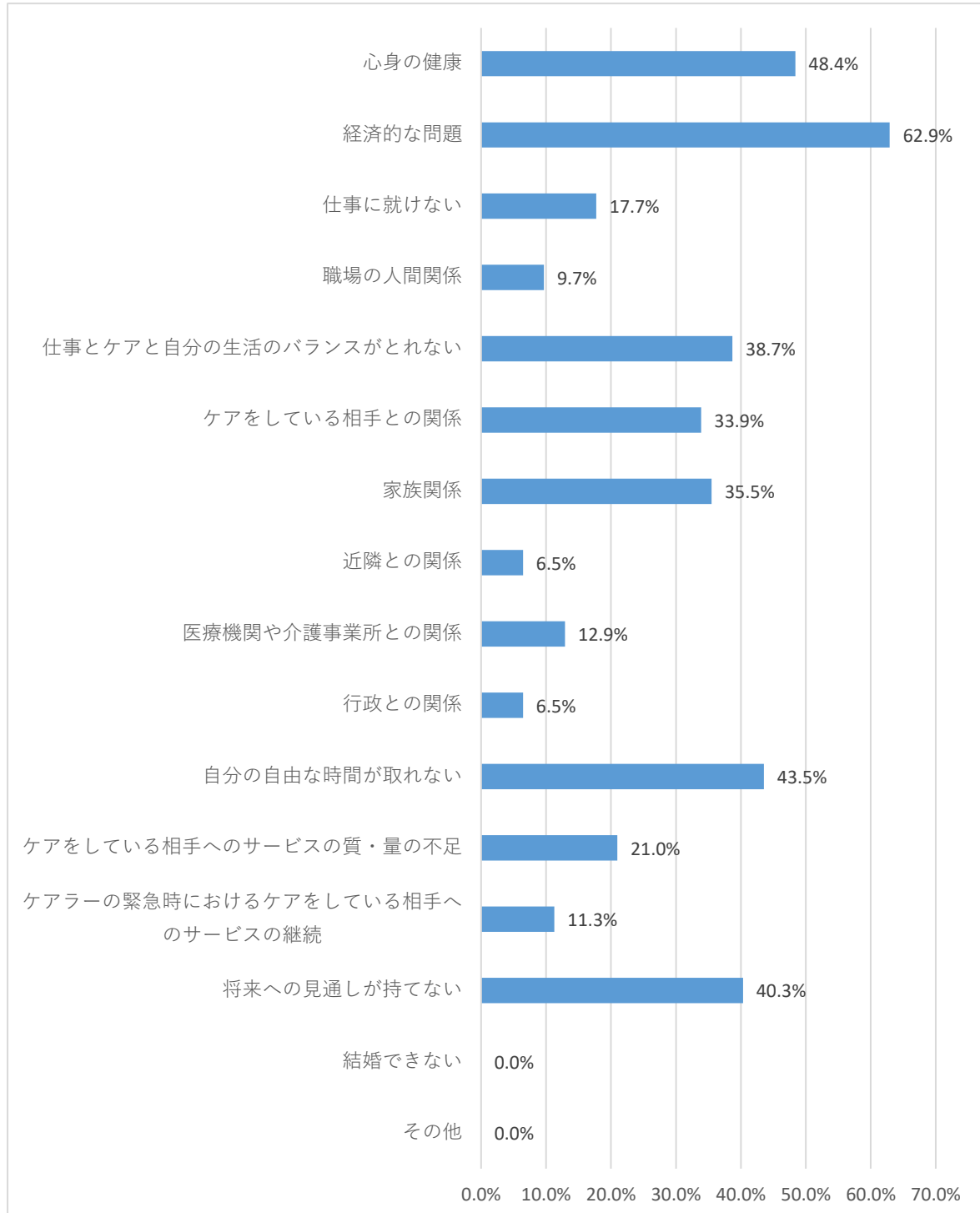
II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ウ) ダブルケア

ケアラーの生活や人生に関する悩みについては、「経済的な問題」が62.9%で最も高く、次いで「心身の健康」が48.4%、「自分の自由な時間が取れない」が43.5%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

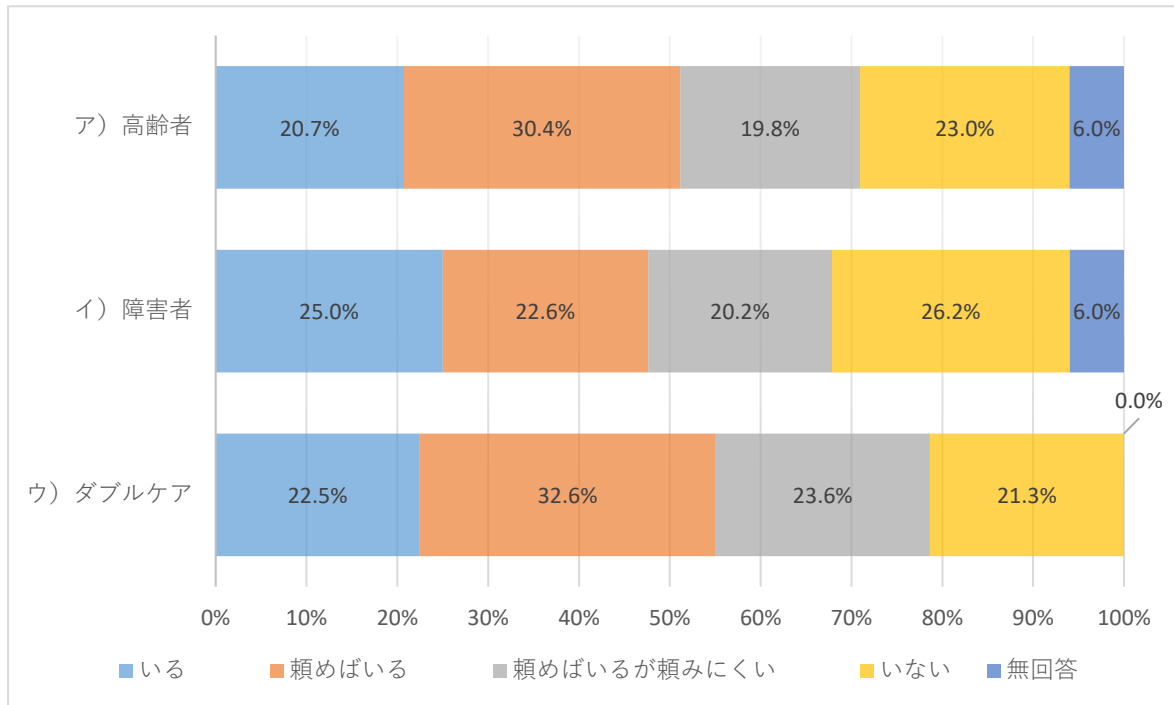
項目	回答数	割合
心身の健康	30	48.4%
経済的な問題	39	62.9%
仕事に就けない	11	17.7%
職場の人間関係	6	9.7%
仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない	24	38.7%
ケアをしている相手との関係	21	33.9%
家族関係	22	35.5%
近隣との関係	4	6.5%
医療機関や介護事業所との関係	8	12.9%
行政との関係	4	6.5%
自分の自由な時間が取れない	27	43.5%
ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足	13	21.0%
ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続	7	11.3%
将来への見通しが持てない	25	40.3%
結婚できない	0	0.0%
その他	0	0.0%
回答者数	62	—

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(5) 代わりにケアを担う人の有無

代わりにケアを担う人の有無については、「いる」「頼めばいる」を合わせると、高齢者では51.1%、障害者では47.6%、ダブルケアでは55.1%となっている。



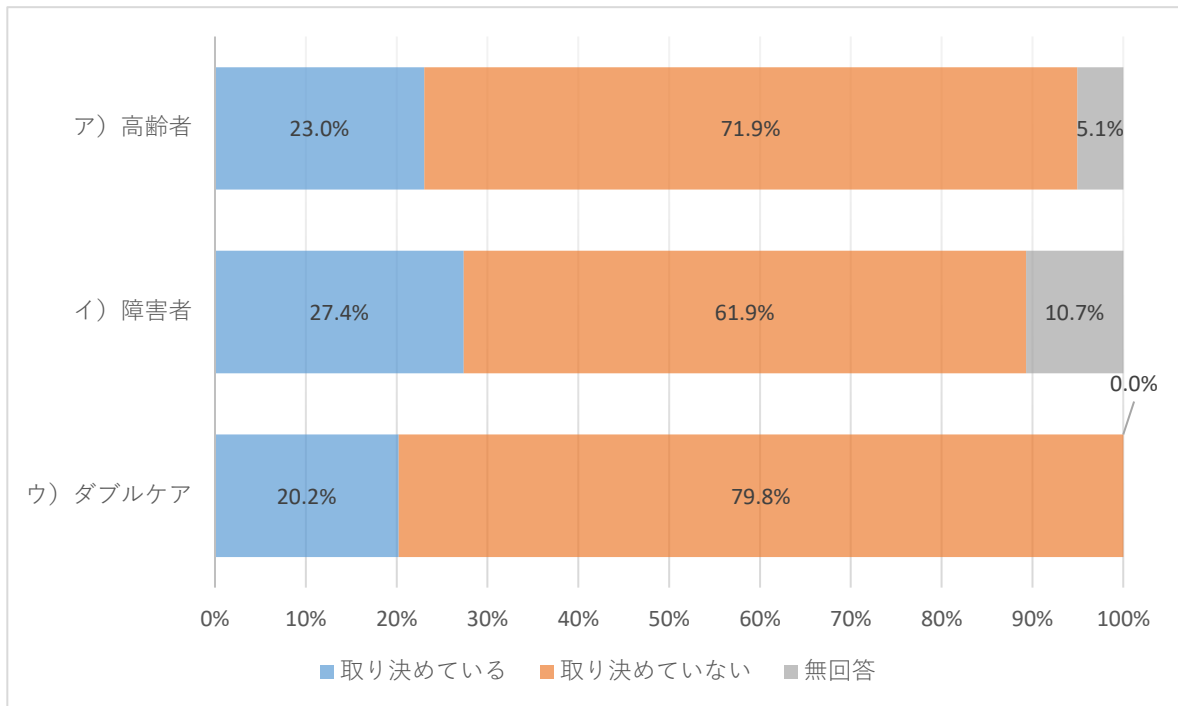
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
いる	45	20.7%	21	25.0%	20	22.5%
頼めばいる	66	30.4%	19	22.6%	29	32.6%
頼めばいるが頼みにくい	43	19.8%	17	20.2%	21	23.6%
いない	50	23.0%	22	26.2%	19	21.3%
無回答	13	6.0%	5	6.0%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(6) 緊急時にどう対応するかを取り決め

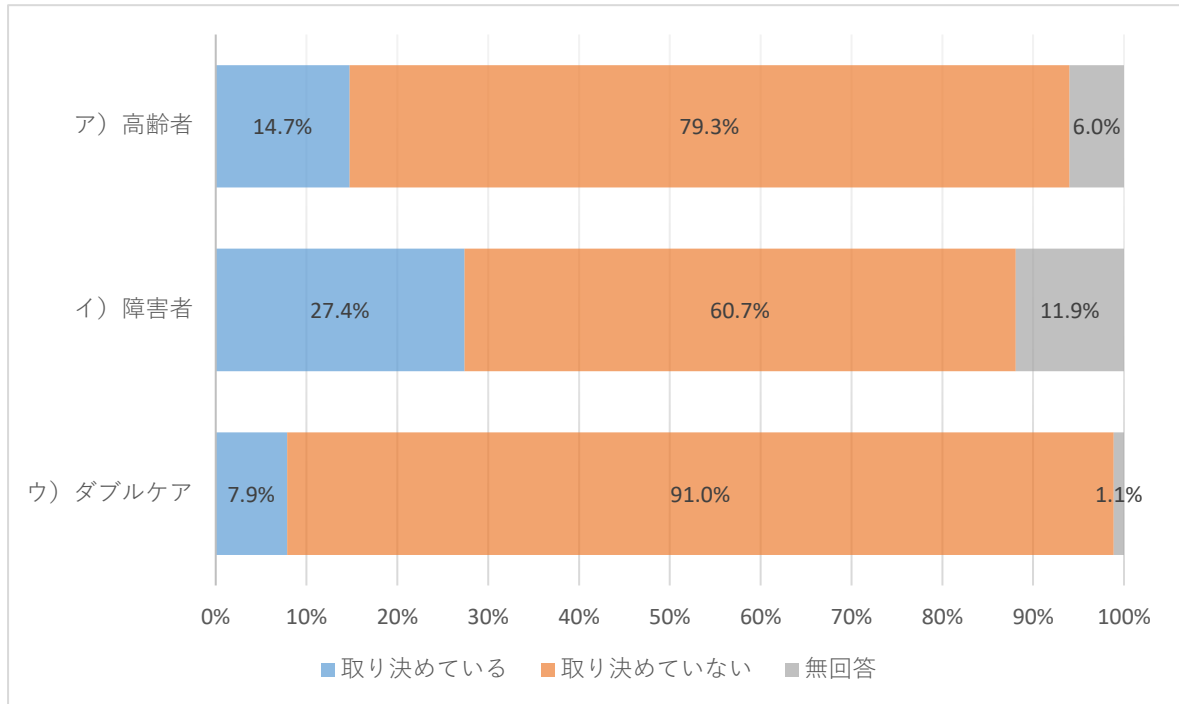
体調不良を含めた緊急時にどう対応するかを取り決めについては、「取り決めていない」が高齢者では71.9%、障害者では61.9%、ダブルケアでは79.8%と、いずれも「取り決めていない」に比べて高くなっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
取り決めていない	156	71.9%	52	61.9%	71	79.8%
取り決めていない	50	23.0%	23	27.4%	18	20.2%
無回答	11	5.1%	9	10.7%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

(7) 災害時に備えた対応の取り決め

災害時に備えた対応の取り決めについては、「取り決めていない」が高齢者では79.3%、障害者では60.7%、ダブルケアでは91.0%と、いずれも「取り決めていない」に比べて高くなっている。



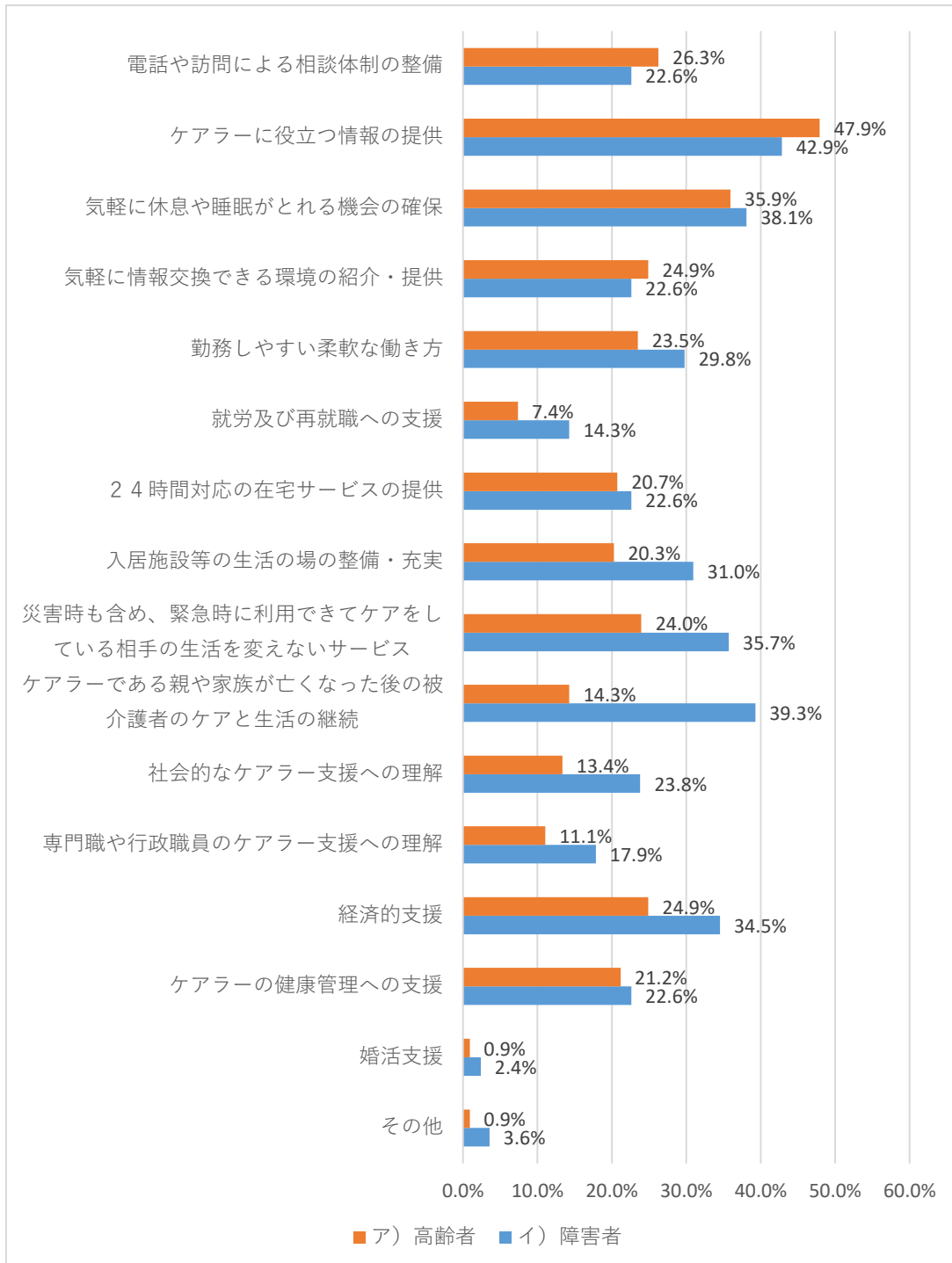
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
取り決めていない	172	79.3%	51	60.7%	81	91.0%
取り決めていない	32	14.7%	23	27.4%	7	7.9%
無回答	13	6.0%	10	11.9%	1	1.1%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

5) 求める支援について

(1) 必要な支援

ア) 高齢者 ・ イ) 障害者

必要な支援については、高齢者では「ケアラーに役立つ情報の提供」が47.9%で最も高く、次いで「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」が35.9%、「電話や訪問による相談体制の整備」が26.3%となっている。障害者では「ケアラーに役立つ情報の提供」が42.9%で最も高く、次いで「ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」が39.3%、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」が38.1%となっている。(複数回答)



II 調査結果

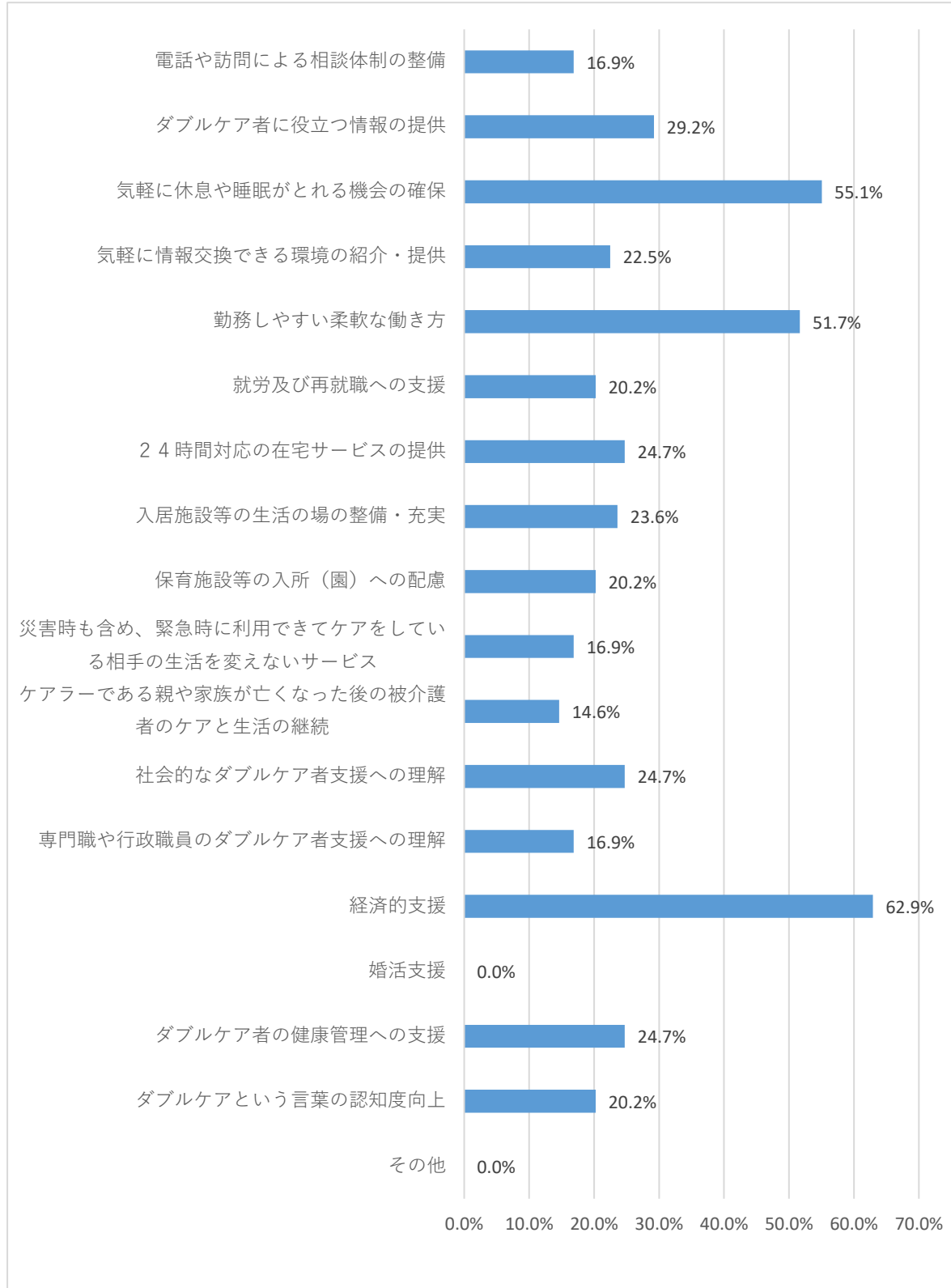
1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
電話や訪問による相談体制の整備	57	26.3%	19	22.6%
ケアラーに役立つ情報の提供	104	47.9%	36	42.9%
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	78	35.9%	32	38.1%
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	54	24.9%	19	22.6%
勤務しやすい柔軟な働き方	51	23.5%	25	29.8%
就労及び再就職への支援	16	7.4%	12	14.3%
24時間対応の在宅サービスの提供	45	20.7%	19	22.6%
入居施設等の生活の場の整備・充実	44	20.3%	26	31.0%
災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス	52	24.0%	30	35.7%
ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続	31	14.3%	33	39.3%
社会的なケアラー支援への理解	29	13.4%	20	23.8%
専門職や行政職員のケアラー支援への理解	24	11.1%	15	17.9%
経済的支援	54	24.9%	29	34.5%
ケアラーの健康管理への支援	46	21.2%	19	22.6%
婚活支援	2	0.9%	2	2.4%
その他	2	0.9%	3	3.6%
回答者数	217	—	84	—

ウ) ダブルケア

必要な支援については、「経済的支援」が 62.9%で最も高く、次いで「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」が 55.1%、「勤務しやすい柔軟な働き方」が 51.7%となっている。
(複数回答)



II 調査結果

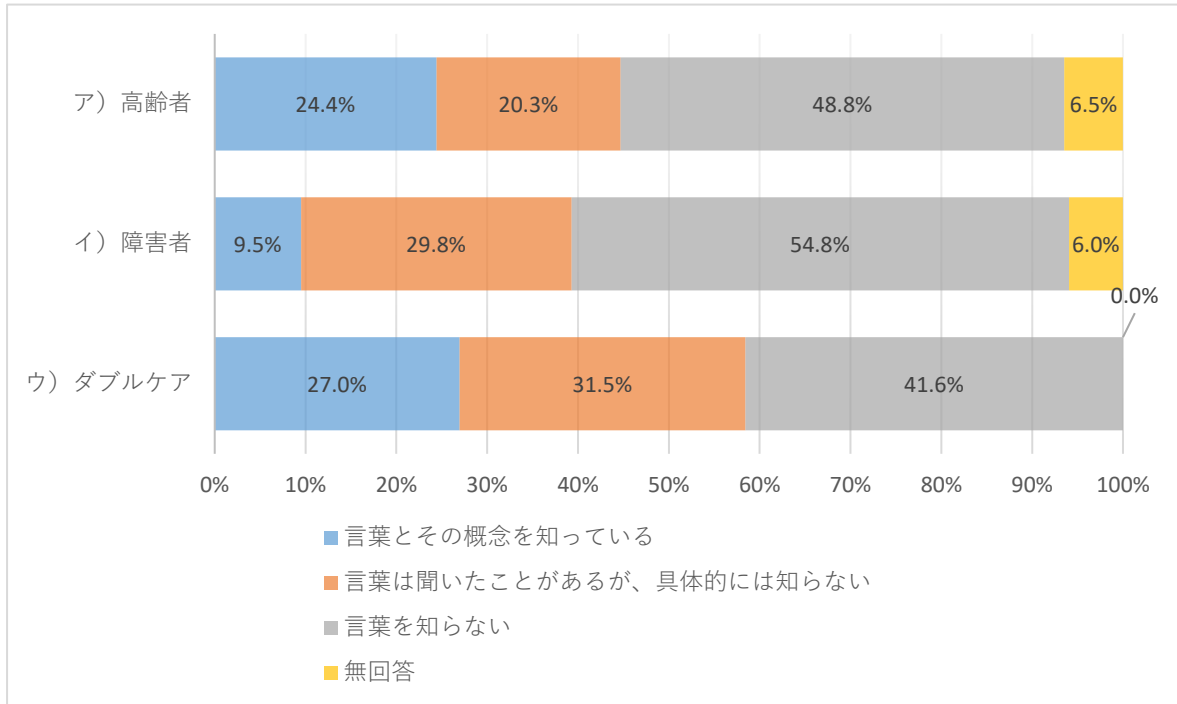
1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	ウ) ダブルケア	
	回答数	割合
電話や訪問による相談体制の整備	15	16.9%
ダブルケア者に役立つ情報の提供	26	29.2%
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	49	55.1%
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	20	22.5%
勤務しやすい柔軟な働き方	46	51.7%
就労及び再就職への支援	18	20.2%
24時間対応の在宅サービスの提供	22	24.7%
入居施設等の生活の場の整備・充実	21	23.6%
保育施設等の入所(園)への配慮	18	20.2%
災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス	15	16.9%
ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続	13	14.6%
社会的なダブルケア者支援への理解	22	24.7%
専門職や行政職員のダブルケア者支援への理解	15	16.9%
経済的支援	56	62.9%
婚活支援	0	0.0%
ダブルケア者の健康管理への支援	22	24.7%
ダブルケアという言葉の認知度向上	18	20.2%
その他	0	0.0%
回答者数	89	—

(2) 「ダブルケア」という言葉の認知度

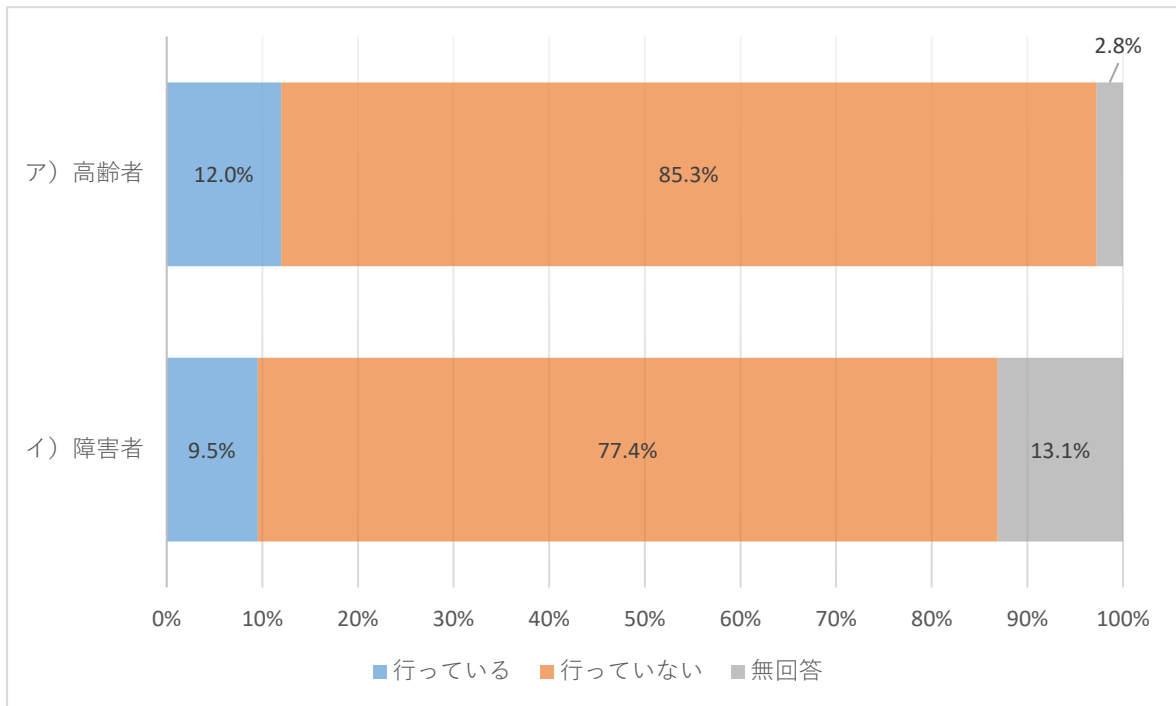
「ダブルケア」という言葉の認知度については、「言葉を知らない」が高齢者では48.8%、障害者では54.8%、ダブルケアでは41.6%となっており、「言葉とその概念を知っている」「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」よりも高くなっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
言葉とその概念を知っている	53	24.4%	8	9.5%	24	27.0%
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	44	20.3%	25	29.8%	28	31.5%
言葉を知らない	106	48.8%	46	54.8%	37	41.6%
無回答	14	6.5%	5	6.0%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

(3) 「ダブルケア」を行っているか

育児と介護を同時に担うダブルケアを行っているかについては、「行っていない」が高齢者では85.3%、障害者では77.4%となっている。

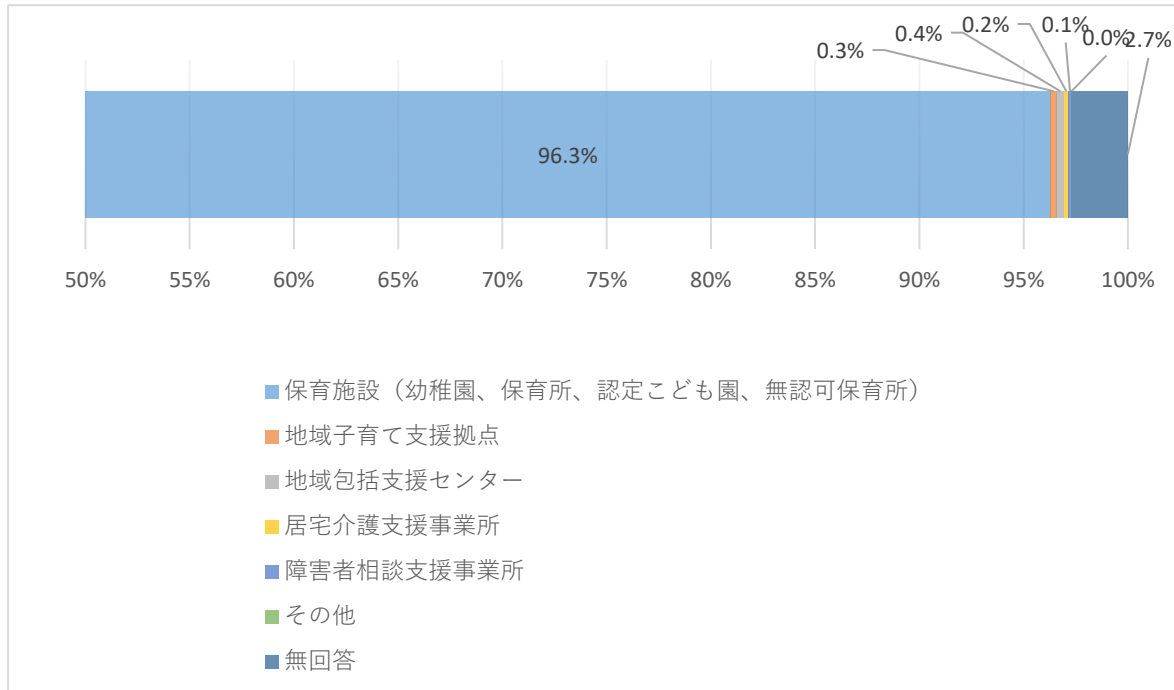


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
行っている	26	12.0%	8	9.5%
行っていない	185	85.3%	65	77.4%
無回答	6	2.8%	11	13.1%
合計	217	100.0%	84	100.0%

6) ダブルケアについて

(1) アンケート依頼を受けた施設

育児と介護のダブルケアに関するアンケート依頼を受けた施設については、「保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、無認可保育所）」が96.3%と最も高くなっている。



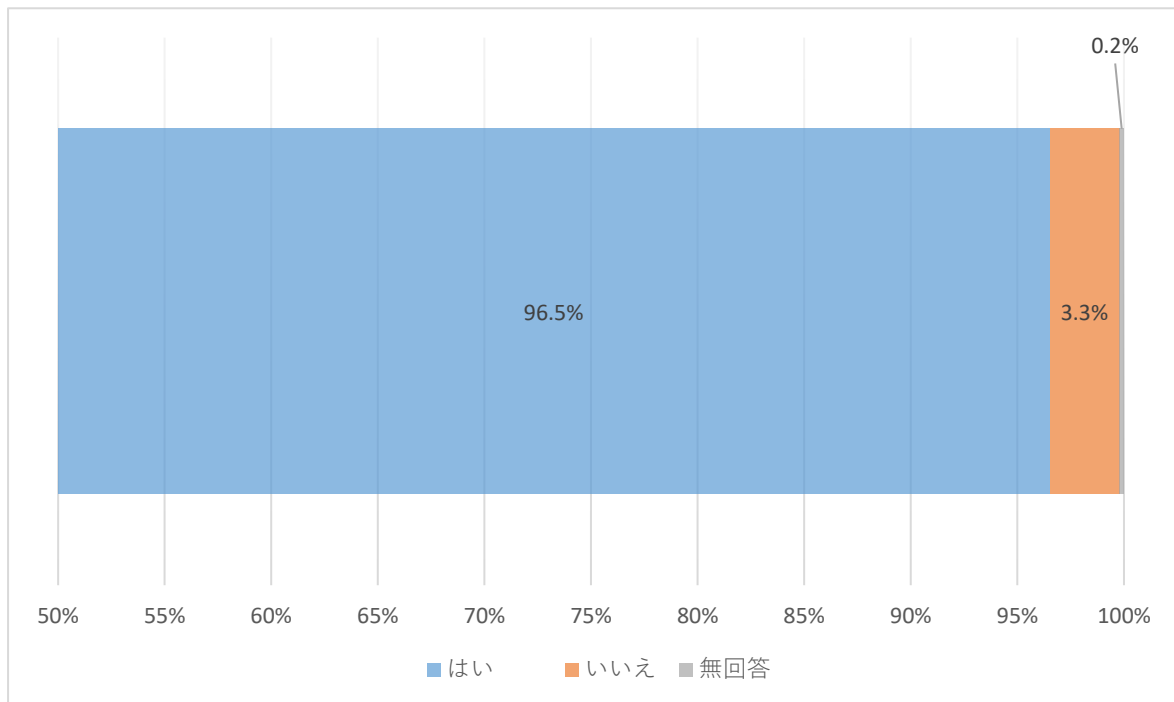
項目	ダブルケア	
	回答数	割合
保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、無認可保育所）」	1,354	96.3%
地域子育て支援拠点	4	0.3%
地域包括支援センター	5	0.4%
居宅介護支援事業所	3	0.2%
障害者相談支援事業所	2	0.1%
その他	0	0.0%
無回答	38	2.7%
回答者数	1,406	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(2) 育児の状況

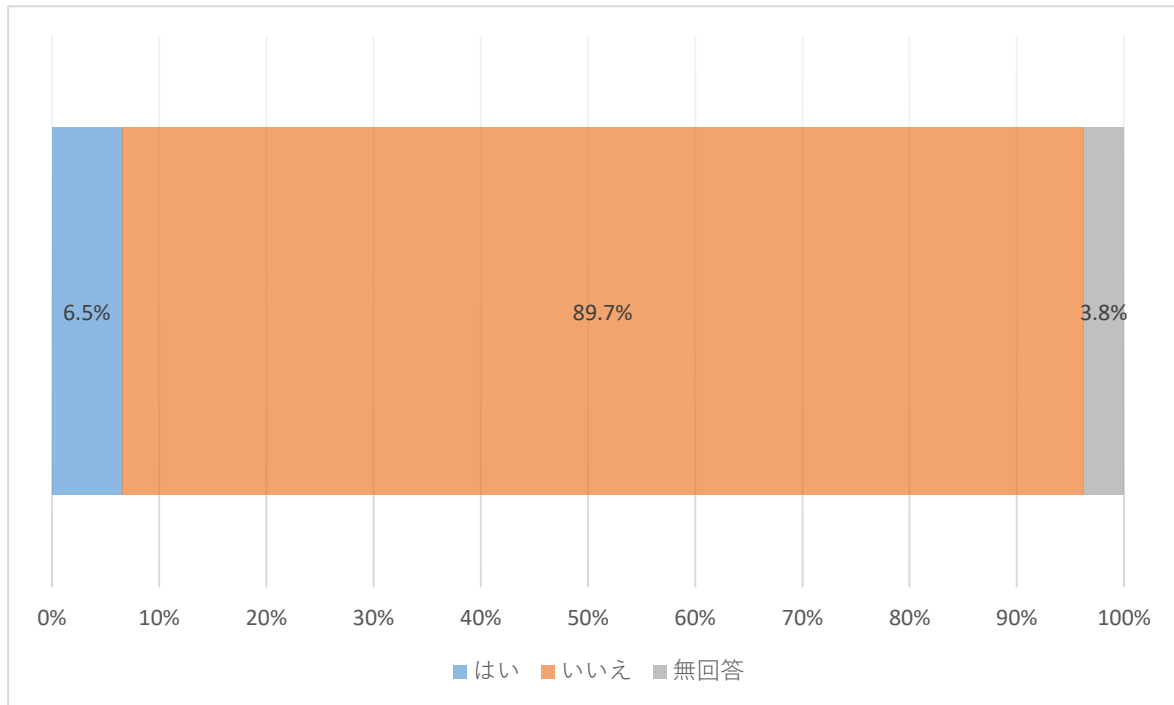
ふだん子ども（小学校就学前の未就学児のご自身の子）の育児をしているかについては、「はい」96.5%、「いいえ」が3.3%となっている。



項目	ダブルケア	
	回答数	割合
はい	1,357	96.5%
いいえ	46	3.3%
無回答	3	0.2%
回答者数	1,406	100.0%

(3) 介護の状況

ふだん家族の介護をしているかについては、「はい」が6.5%、「いいえ」が89.7%となっている。



項目	ダブルケア	
	回答数	割合
はい	92	6.5%
いいえ	1,261	89.7%
無回答	53	3.8%
回答者数	1,406	100.0%

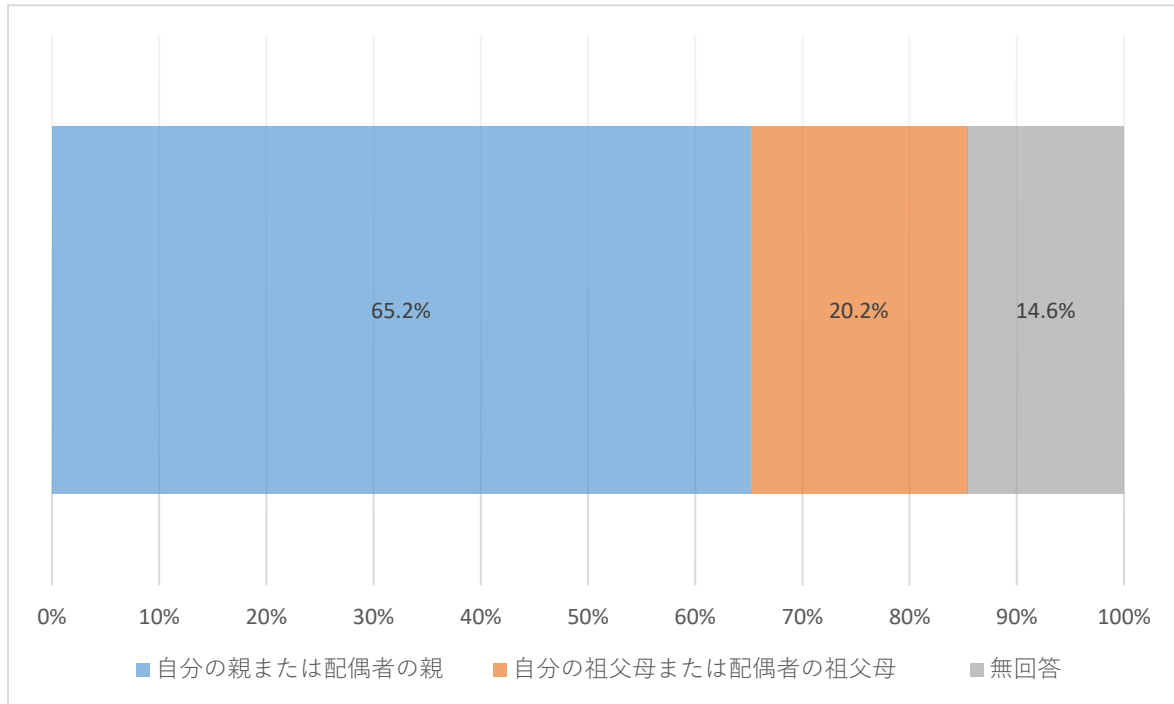
【ダブルケア調査の集計対象者、調査結果の掲載箇所について】

・(2)育児の状況と(3)介護の状況の両方に「はい」と回答した方を、本調査において「ダブルケアを担っている方」とし、集計を行った。

・高齢者のケアラー、障害者のケアラーとの比較が可能な項目については当該項目の欄に併せて掲載し、ダブルケアに関する設問やダブルケアのみにお尋ねした項目については、これ以降に整理している。

(4) 最も時間を割いている介護者

介護に最も時間を割いている方の続柄については、「自分の親または配偶者の親」が65.2%で最も高く、次いで「自分の祖父母または配偶者の祖父母」が20.2%となっている。



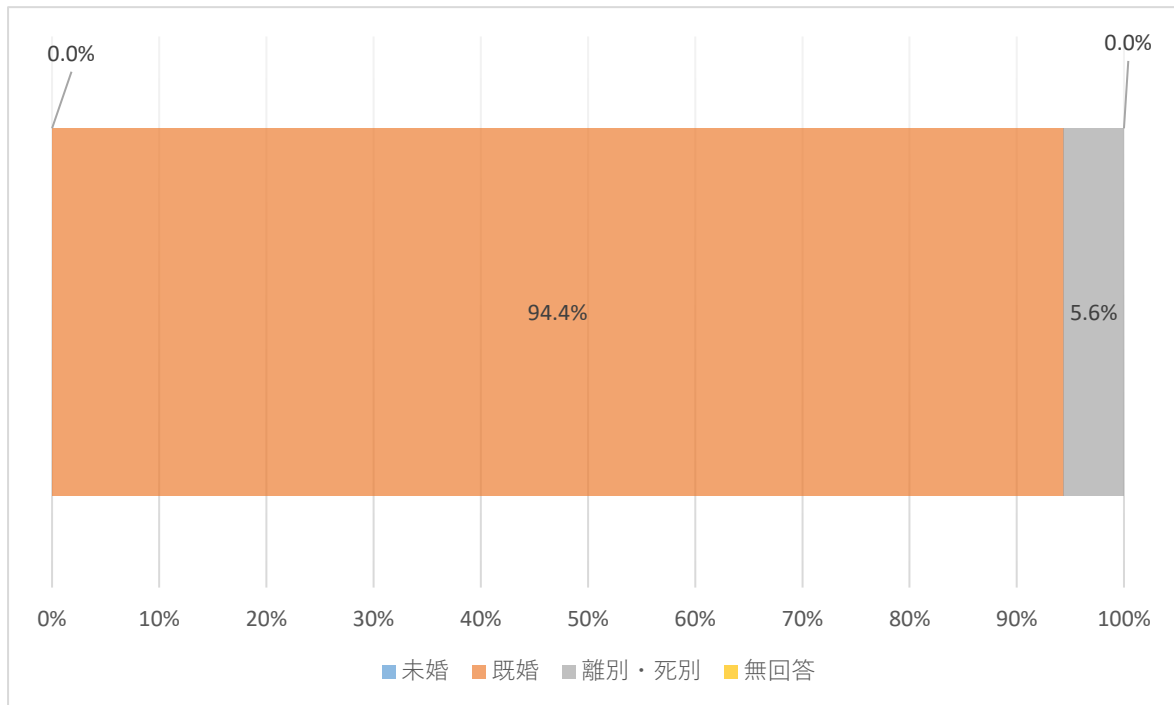
項目	ダブルケア	
	回答数	割合
自分の親または配偶者の親	58	65.2%
自分の祖父母または配偶者の祖父母	18	20.2%
無回答	13	14.6%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(5) 婚姻の状況

ダブルケアを行っている方の婚姻状況については、「既婚」が94.4%で、「離別・死別」が5.6%となっている。

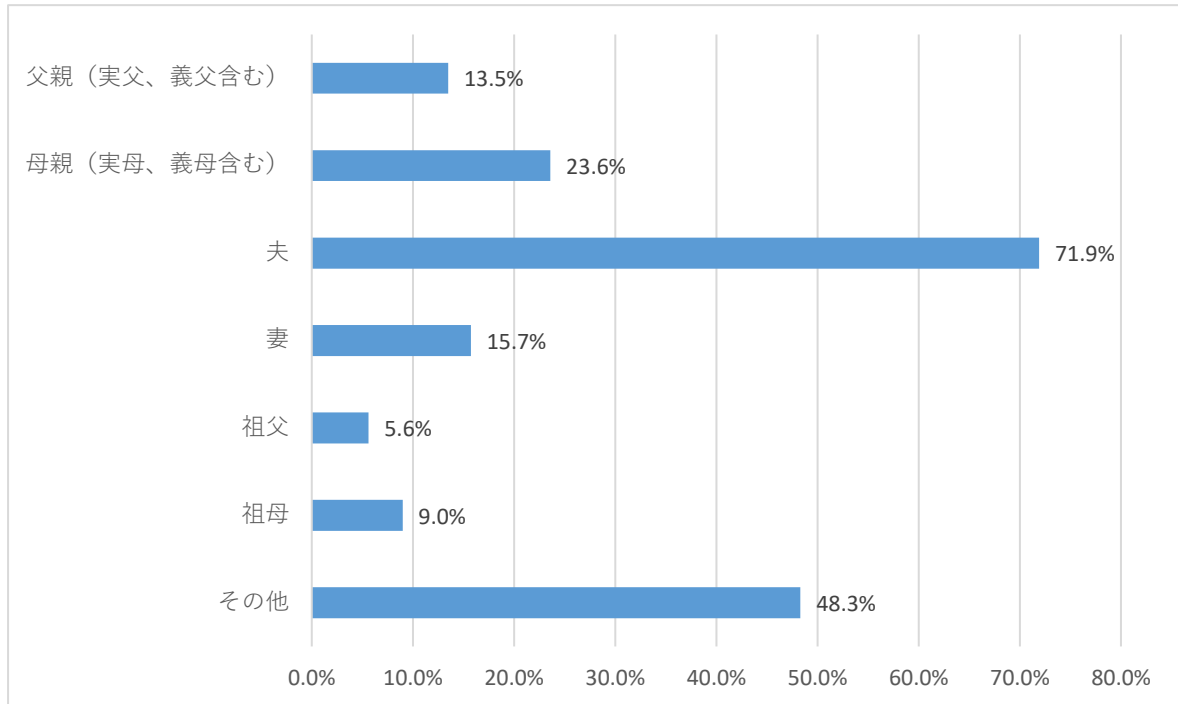


項目	ダブルケア	
	回答数	割合
未婚	0	0.0%
既婚	84	94.4%
離別・死別	5	5.6%
無回答	0	0.0%
合計	89	100.0%

(6) 同居者について

ダブルケアを行っている方の同居者については、「夫」が71.9%で、次いで「母親（実母、義母含む）」が23.6%、「妻」が15.7%となっている。

(複数回答)



(複数回答)

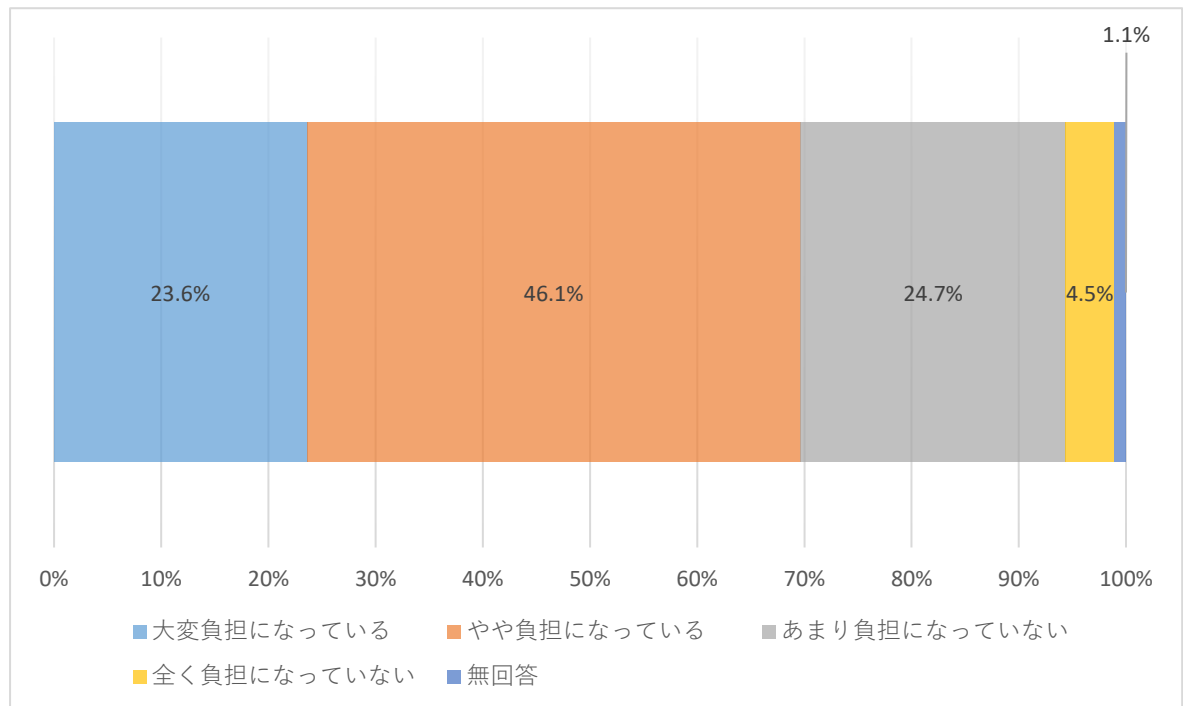
項目	ダブルケア	
	回答数	割合
父親（実父、義父含む）	12	13.5%
母親（実母、義母含む）	21	23.6%
夫	64	71.9%
妻	14	15.7%
祖父	5	5.6%
祖母	8	9.0%
その他	43	48.3%
回答者数	89	—

(7) 「育児」の負担について

ふだん「育児」を行うことに対して、どのようなことが負担になっているか、各項目ごとの負担感は次のとおりであった。

① 社会活動の制約（仕事や他の社会活動に支障が出る等）

社会活動の制約については、「やや負担になっている」が46.1%と最も高くなっている。



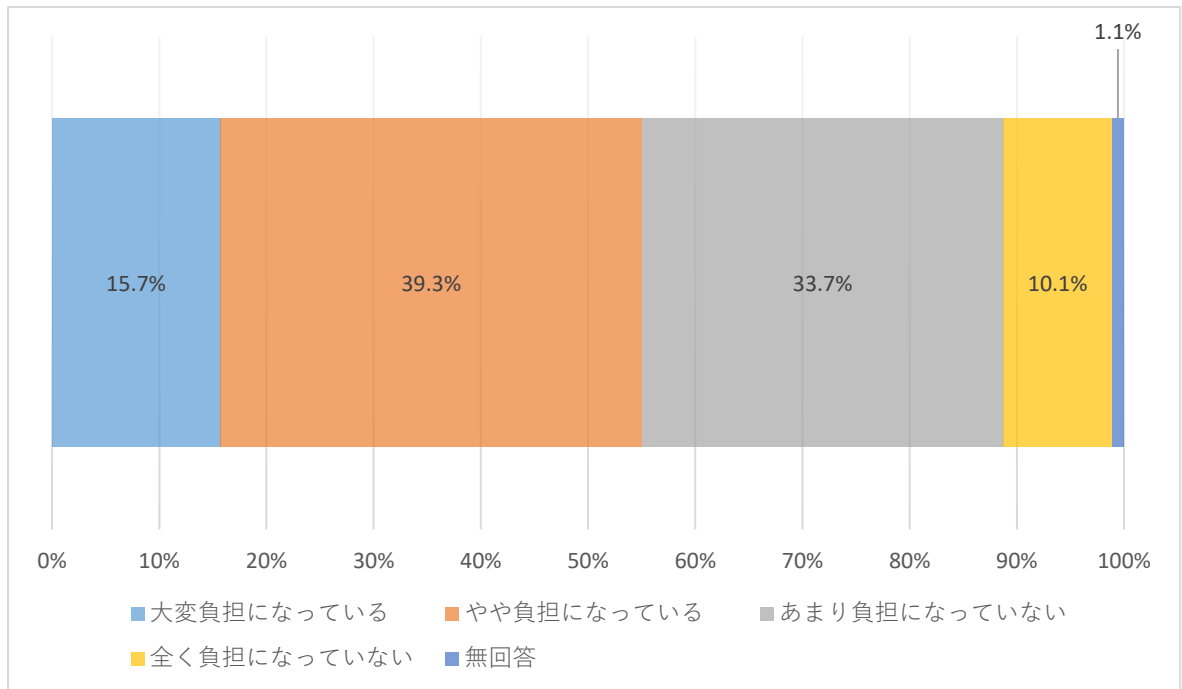
項目	回答数	割合
大変負担になっている	21	23.6%
やや負担になっている	41	46.1%
あまり負担になっていない	22	24.7%
全く負担になっていない	4	4.5%
無回答	1	1.1%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

② 精神的負担感（報われない気がする、ストレスや孤独を感じる等）

精神的負担感については、「やや負担になっている」が39.3%と最も高くなっている。



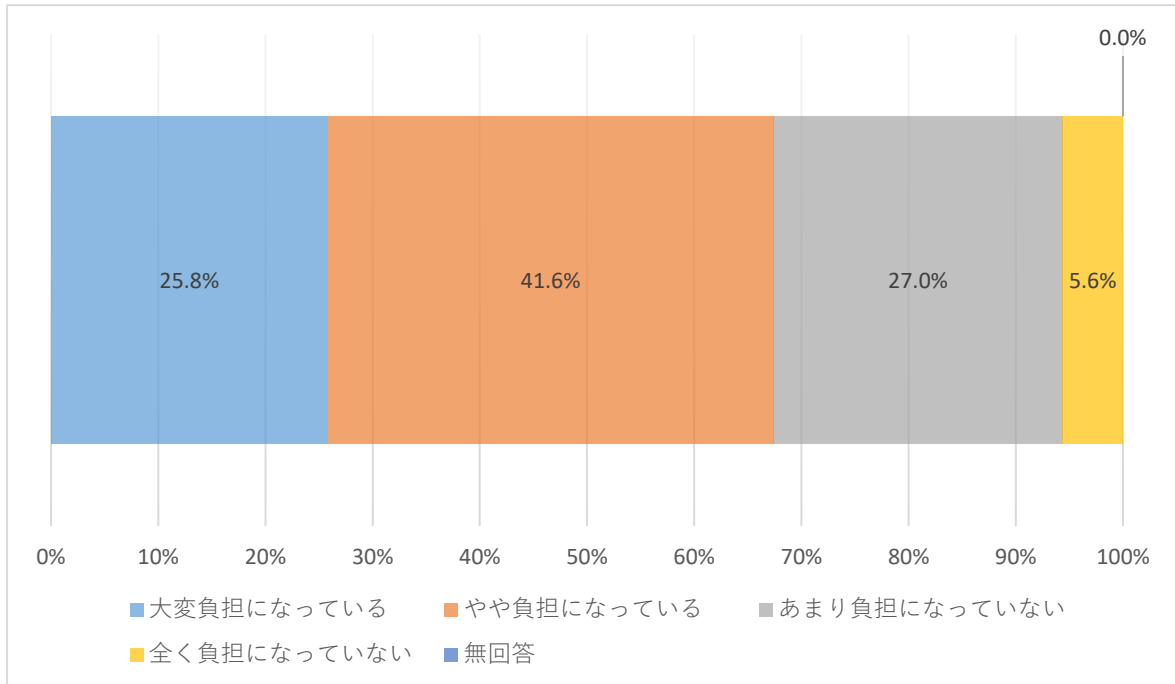
項目	回答数	割合
大変負担になっている	14	15.7%
やや負担になっている	35	39.3%
あまり負担になっていない	30	33.7%
全く負担になっていない	9	10.1%
無回答	1	1.1%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

③ 経済的負担感（費用が家計を圧迫している）

経済的負担感については、「やや負担になっている」が41.6%と最も高くなっている。



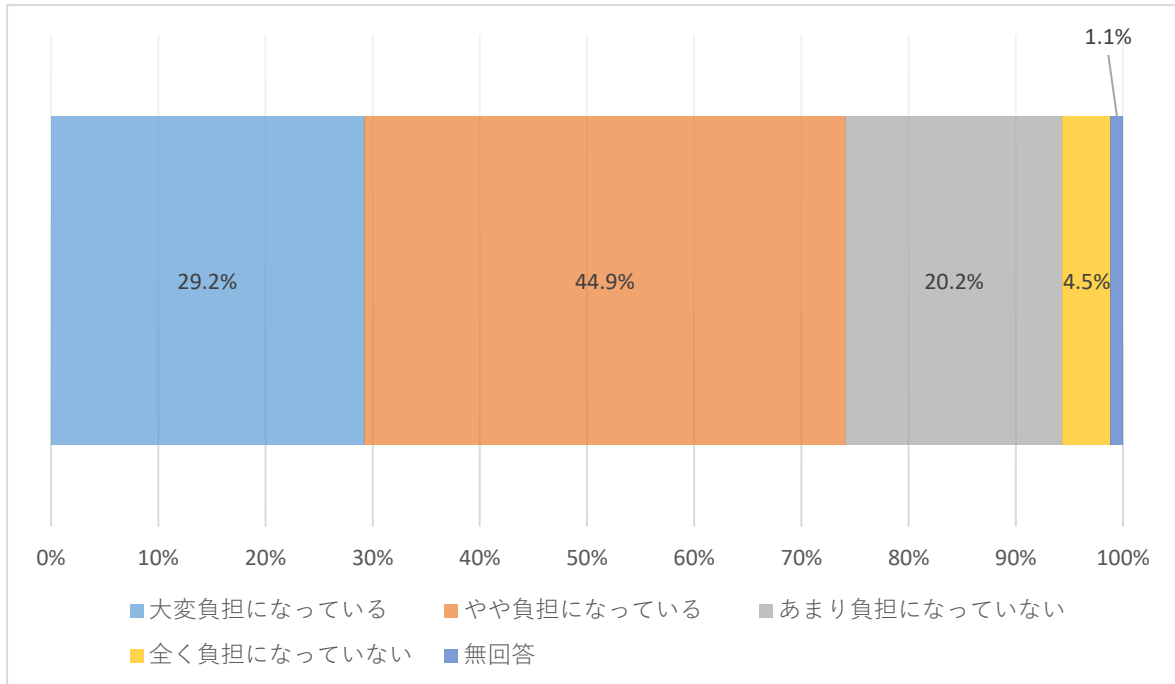
項目	回答数	割合
大変負担になっている	23	25.8%
やや負担になっている	37	41.6%
あまり負担になっていない	24	27.0%
全く負担になっていない	5	5.6%
無回答	0	0.0%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

④ 肉体的負担感（体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等）

肉体的負担感については、「やや負担になっている」が44.9%と最も高くなっている。



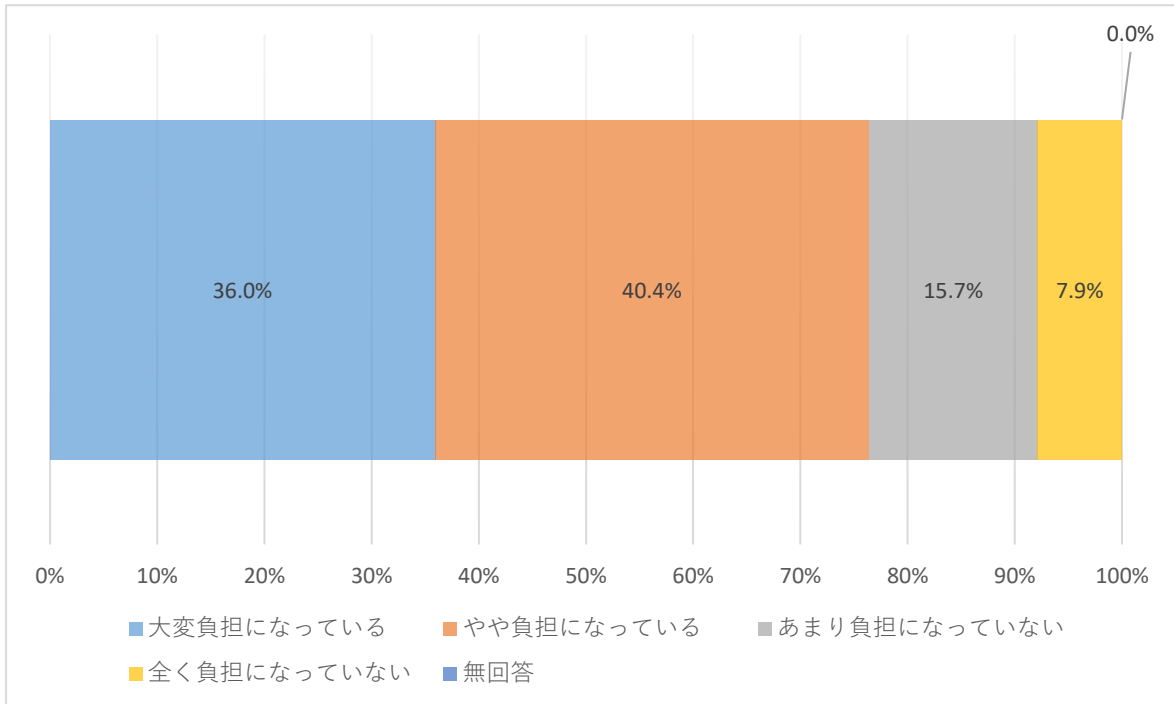
項目	回答数	割合
大変負担になっている	26	29.2%
やや負担になっている	40	44.9%
あまり負担になっていない	18	20.2%
全く負担になっていない	4	4.5%
無回答	1	1.1%
合計	89	100.0%

(8) 「介護」の負担について

ふだん「介護」を行うことに対して、どのようなことが負担になっているか、各項目ごとの負担感は次のとおりであった。

① 社会活動の制約（仕事や他の社会活動に支障が出る等）

社会活動の制約については、「やや負担になっている」が40.4%と最も高くなっている。



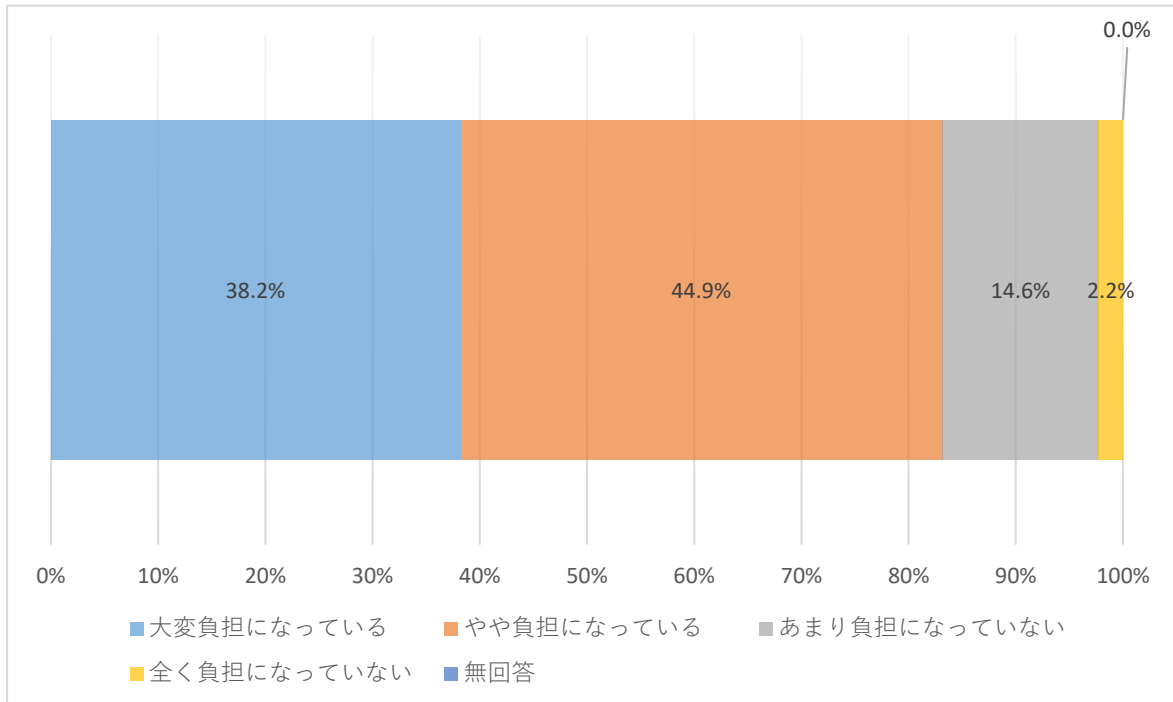
項目	回答数	割合
大変負担になっている	32	36.0%
やや負担になっている	36	40.4%
あまり負担になっていない	14	15.7%
全く負担になっていない	7	7.9%
無回答	0	0.0%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

② 精神的負担感（報われない気がする、ストレスや孤独を感じる等）

精神的負担感については、「やや負担になっている」が44.9%と最も高くなっている。



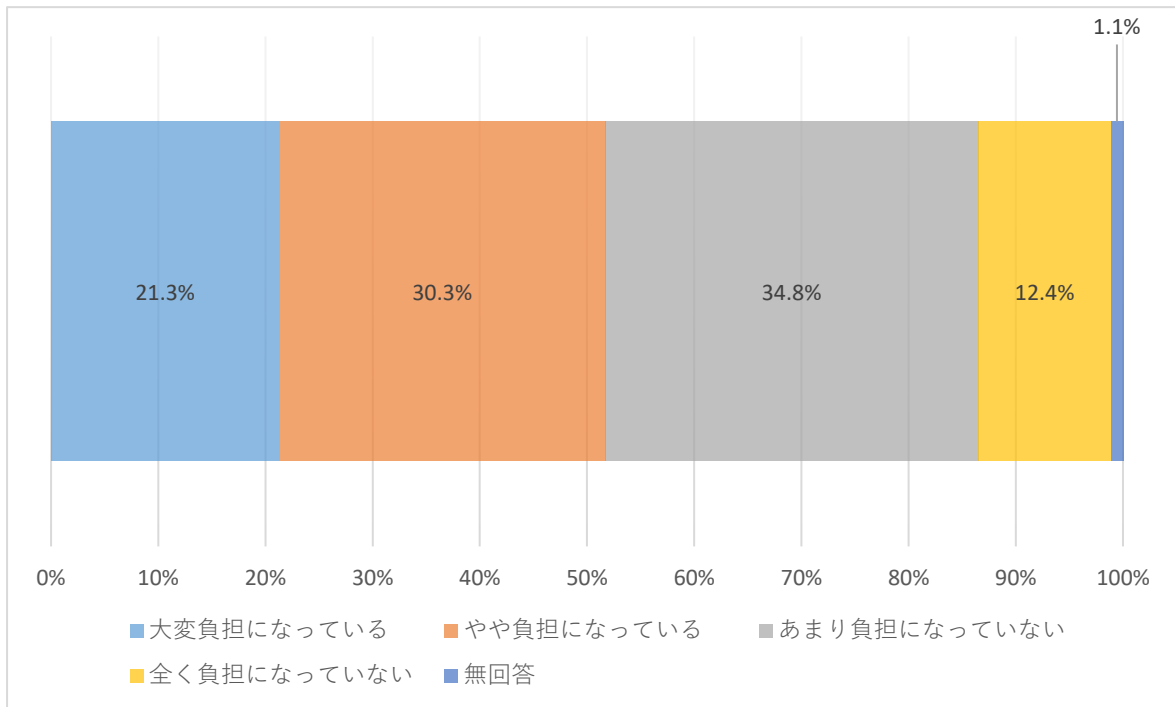
項目	回答数	割合
大変負担になっている	34	38.2%
やや負担になっている	40	44.9%
あまり負担になっていない	13	14.6%
全く負担になっていない	2	2.2%
無回答	0	0.0%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

③ 経済的負担感（費用が家計を圧迫している）

経済的負担感については、「あまり負担になっていない」が34.8%と最も高くなっている。



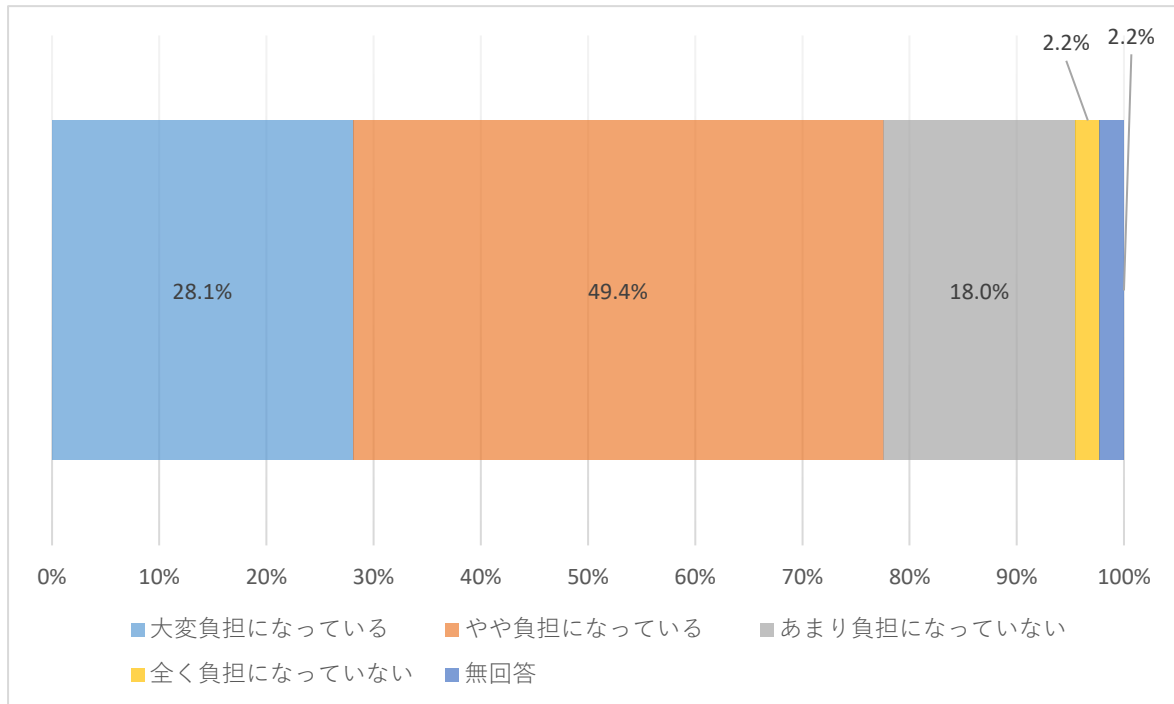
項目	回答数	割合
大変負担になっている	19	21.3%
やや負担になっている	27	30.3%
あまり負担になっていない	31	34.8%
全く負担になっていない	11	12.4%
無回答	1	1.1%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

④ 肉体的負担感（体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等）

肉体的負担感については、「やや負担になっている」が49.4%と最も高くなっている。



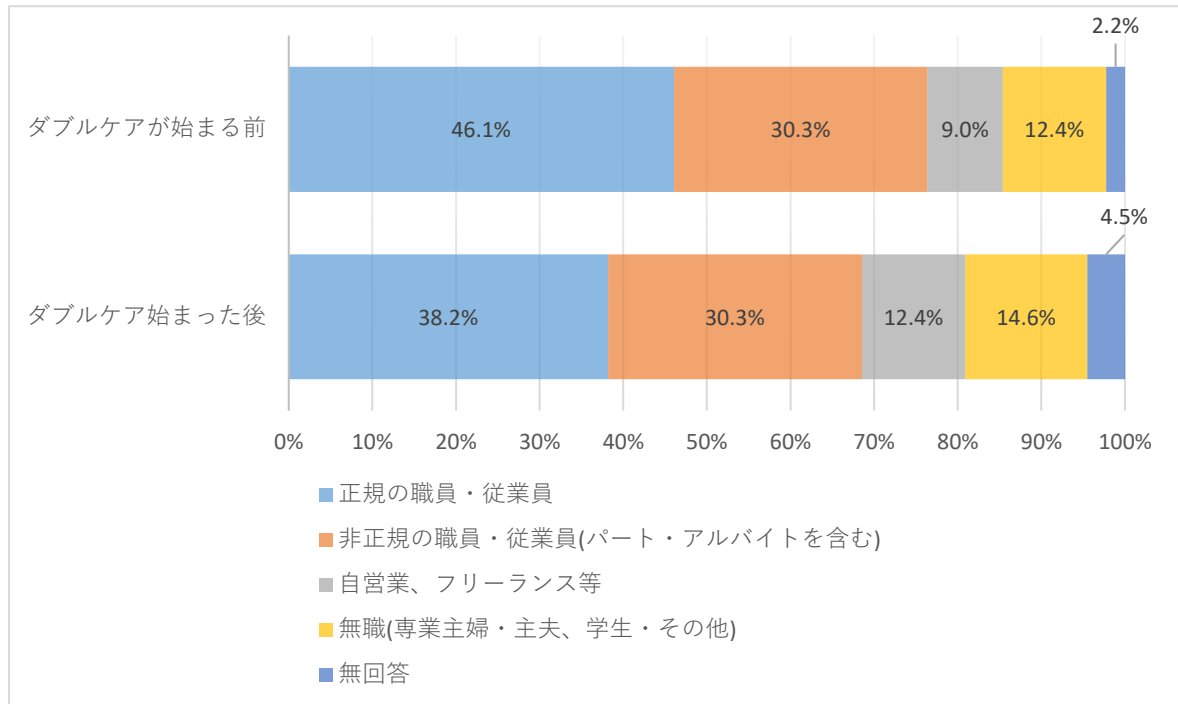
項目	回答数	割合
大変負担になっている	25	28.1%
やや負担になっている	44	49.4%
あまり負担になっていない	16	18.0%
全く負担になっていない	2	2.2%
無回答	2	2.2%
合計	89	100.0%

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

(9) ダブルケアが始まった前後の就労状況

ダブルケアが始まる前と始まった後での就労状況については、「正規の職員・従業員」が46.1%から38.2%へと減少し、「非正規の職員・従業員」が30.3%と増減はなく、「自営業・フリーランス等」が9.0%から12.4%と増加し、「無職」は2.2%から4.5%へ増加している。



項目	ダブルケアが始まる前		ダブルケアが始まった後	
	回答数	割合	回答数	割合
正規の職員・従業員	41	46.1%	34	38.2%
非正規の職員・従業員(パート・アルバイトを含む)	27	30.3%	27	30.3%
自営業、フリーランス等	8	9.0%	11	12.4%
無職(専業主婦・主夫、学生・その他)	11	12.4%	13	14.6%
無回答	2	2.2%	4	4.5%
合計	89	100.0%	89	100.0%

7) 自由記述

(1) ケアラーにとっての悩みや行政や関係機関等への要望

※主なもののみ、編集して記載

ア) 高齢者のケアラー

◎サービスや支援の充実について

- 家族と同居の被介護者(要支援)であっても通院乗降、通院の付き添いまで行ってもらえるサービスがあると助かる。要支援でも要介護と同じサービスを受けたい。仕事しながら家族は支えなければいけないのは支援でも介護でも変わらないと思います。(50代、女性)
- 高齢であり、手帳の申請など、とても面倒で大変である。自分の事もあるが、行政サービスが、もう少しわかりやすいと良い。(70代、女性)
- 介護や医療、障害者福祉とそれぞれ縦割りにするのではなく、窓口1ヶ所で受け付けて、受け取った中で本当に必要だと思われるサービスを受けられるようになるといいと思う。(50代、女性)
- 運転免許を返納してしまって、通院(車椅子)などの交通手段がないので、低額で使えるようなサービスがほしい。(80歳以上、男性)
- 要介護認定が、より簡略化されスピーディー化されるとよいと思います。(60代、女性)
- 経済的な支援と「ケア休暇(介護休暇)」の日数をもっと増やしてほしい。(60代、女性)
- 父は要支援1ですが、予防の為にデイサービスを週1回しか受けられないのが不満です。例えば2回以降は金額がプラスαになるがサービスを受けられる等、予防策の考慮・検討をして頂きたいです。(50代、女性)
- 介護する側の立場に立った福祉の確立を切に願います(50代、女性)
- 要支援の状態利用できる施設、場所、サークル、集まり、催し物などの情報を集めるのが大変。(60代、女性)

◎相談や連携について

- 言葉やサービスの内容に詳しくないので、どこに相談に行けばよいのかわからない。(40代、女性)
- 身内の事で外部に相談しにくい、恥ずかしい、みっともないと思ってしまい、何とか自分自身で解決しようとする結果、身体的、精神的、金銭的負担が大きく共倒れ寸前になる。追い込まれてやっと相談に行ったら、寄り添って話を聞いて貰えて、未来に希望が持て、また、前向きに過ごせそうだと思った。本当に感謝しています。(30代、無回答)
- 自分の業務を代わりに行ってもらうことが難しいので頼みづらい。行政に相談しても、どこまで親身になって話を聞いてもらえるか不安がある(50代、女性)
- ケアラーの悩みは自身の仕事や健康状態、経済的なことが複雑に絡んでくるため、ワンストップの相談窓口があると相談者の負担の軽減につながると思います。(50代、女性)

◎ケアラーのメンタルケアについて

- 二親の介護を一人でする事への不安が有る(兄弟、近くの親戚が居ない。夫は頼りにならない)。(50代、女性)
- 介護は、先が見えない(40代、女性)

◎経済的支援について

- サービスをたくさん入れると費用がかかる。二人分なので負担が大きい。(40代、男性)

◎緊急時の支援について

- 本人の突発的な体調の変化により、病院を受診しなければならないとか、デイサービスに行けない場合、自宅で面倒をみることになるが、いつまで仕事を休む事になるかわからず、不安でいっぱいになる。(50代、男性)
- 母が認知証なので、在宅中は一人にできず、目を光らせていなければならない状況下にある。急な用事が出来た時に、数時間から半日程度預けられるような制度が欲しい。(50代、女性)
- 親のひとり住まいで週末介護しているが、緊急時に対応して貰える方が居ない。また、高齢の為、急に入所等お願い出来るか不安があります。(60代、男性)
- 自宅で介護をしているが、万が一、朝、亡くなっていたらどうしたらいいのか。救急車は来ないと思うし、どこに連絡をしたらいいのか分からないことが一番の心配事である。(80歳以上、男性)

◎ケアラーの生活環境について

- 親の介護も自らの家庭のことも中途半端になっている。限られた時間で行わなければならないため、優先順位をつけて行っているが、あきらめなければならないことがたくさんある。結局、自分のための時間、自分をいたわる時間が減ってしまう。(40代、女性)
- 認知症や身体的な問題が無くても、独居の場合は足を運ぶことが多くなる。身体的な介護ばかりでなく、予防的なことも負担になることもある。介護休暇も取りやすい環境になると良い。(50代、女性)

◎その他

- ヤングケアラーやビジネスケアラーの実態を早めに把握して対策も迅速に行うべきだ。(40代、男性)
- 本人が(母)が、サービス拒否しているので、しかたないと思っている。(60代、女性)
- ヤクルト配達員や民生委員による訪問など、被介護者と離れて暮らしていると心配なのでとても助かっています。(60代、男性)
- 今は、母親にたずさわっている方々にとても満足ですし、全てに助かっています。(50代、女性)
- 現状は、本人の状態も良い方向に向かっている感じなので、現状のサービス内容で問題ない。(70代、男性)

イ) 障害者のケアラー

◎ サービスや支援の充実について

- 手続きに時間・日数がとてもかかっているような気がします。1日でも早く、要介護者がまだ歩けるうちに老人ホームに入ってもらい、介護をお願いしたいです。(50代、女性)
- ケアラーが亡くなった後、障害者を程度に応じてサポートしてくれるシステムがあると安心です。(50代、女性)
- ケアする相手(年齢・発達状況)に合った支援(学習・運動など)を多種作って欲しい。(60代、女性)
- 家の中のことなので、大変さが伝わりにくく、介護を会社に例えると、とてつもないブラック企業だと思うが、自身の体調不良も気にかける余裕もなく、そのまま生活は続く。訪問などで定期的に来ていただけるとありがたい。(40代、女性)
- 情報弱者のための支援、人的支援が不足しているので、高齢の方や障害のある方に寄り添うサービスをお願いします。(60代、女性)

◎ 相談や連携について

- 家族以外に話を聞いてくれる環境が欲しい(60代、女性)
- 自分の子供ということもあり、やって当たり前、やらなくてはいけない、親の責務と思っているが、大変な事は大変であり、相談機関がもっとあっていいと思う。(40代、女性)

◎ ケアラーのメンタルケアについて

- 私が介護出来なくなったらどうするのか心配です。(60代、女性)
- 障害者のいる家庭でシングルの割合も増加している。生活していくには就労しなければ生きていけないが、我が子に障害があるゆえに働けない親も多数いる。障害が重度であればあるほど預けられる施設も限られ、地域差にも悩まされる。(50代、女性)

◎ 将来の不安について

- 子供の将来が心配。(30代、女性)
- 自閉症と重度知的障害の5歳の子供をケアしています。将来的に理想としては、親が亡くなってからは公的介助などで本人が独り暮らしやグループホームでの暮らしが出来るようになればいいなと思っている。(40代、女性)

◎ 緊急時の支援について

- ケアラーの緊急時(入院等)、介護している子供がスムーズにサービスを利用できるか不安です。(50代、女性)
- 現在 24 歳になる知的障害者がある娘と 6 人暮らしをしている。ケアをしている私が入院をするに当たって、女の子が入れる入所施設が少なく、利用出来る施設がありません。(50代、女性)
- 身体障害者の短期入所先が少ない(50代、女性)

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

■障害のある子供が利用できるショートステイ施設が不足していて、利用できません。親の私が体調を崩しても、預け先が無く困っています。受け入れ先が増えたらありがたいです。(40代、女性)

◎ケアラーの生活環境について

■仕事をしているが、施設の送迎の時間がその日その日で変わって困っている。帰って来る時間も早いので、仕事終わってから買い物する時間がない。急に施設に行けないときに仕事を休まなければならない。(50代、女性)

■3人兄弟で3人とも症状はバラバラだが、みんな難病指定の病気で、病院通いや家での生活で不安になることがあり、私が心療内科に通い薬を飲みながら生活している。(40代、女性)

■放課後等デイサービスを利用していた頃は、18時まで預かってもらえたのでフルタイムでも働けた。18歳になり特別支援学校卒業後は生活介護施設に通所しているが、どこも降所時刻が早く、時短勤務しかできなくなった。(50代、女性)

■ケアラー自身も精神障害の為、入院している状況である。にもかかわらず外出、外泊時に家族のケアを行っている。ケアにより体調が安定しないため、なかなか退院できない。ケアしている家族が入居等を拒んでいる。(40代、女性)

◎その他

■行政職員の障害者への理解が進んでほしい。(50代、女性)

■ケアを必要としている家族がまだ軽い方の障害なので、自分がケアラーだという自覚がまずない。周りに言われて初めて「私はケアラーだったのか…」という認識に変わった。(30代、女性)

ウ) ダブルケア

◎ サービスや支援の充実について

- 介護認定などの手続きも精神疾患者には億劫で、頭ではわかっているが行動に移すのが大変。正直に言えば、75 歳以上の年寄りがいるところには定期的に行政や福祉関係の方が訪問して経過をみて判断してほしい。(30代、女性)

◎ 相談や連携について

- 相談場所、寄り添ってくれるところがほしい。(30代、女性)
- ダブルケアをしている方は疲弊している方が多い。私自身も頭が回らず、電話をする気力もない、訪問していただくにも部屋が汚くて無理、ということがあります。産後ケアの助産師相談みたいな感じの場所が欲しいです。(30代、女性)

◎ ケアラーのメンタルケアについて

- 起きてから寝るまでずっと家族誰かの世話をし続けている状況がずっと続いています。1 人の時間もあまりなく、認知症の母の頓珍漢な話と子供の幼い話の相手を繰り返していると、時折挫けそうになります。(30代、女性)

◎ 経済的支援について

- 育児も介護も、年々経済的な負担は増えていくので、経済的支援があれば知りたいし受けたいです。(30代、男性)

◎ 緊急時の支援について

- 常陸大宮市をはじめ県全体的に医療的ケア児が入所出来る施設がなさ過ぎる。介護をする私が入院するとき預かってくれるところがなく、もの凄く苦労した。(30代、女性)

◎ ケアラーの生活環境について

- 介護者たる私がいつ倒れるかわかりません。同居ではないので移動時間も余計にかかります。(40代、女性)
- 0 歳、2 歳、5 歳の育児が大変な中で、母親の病院や買い物の送迎など妻と共同で行っているが、時間や労力がかかる。(40代、男性)
- 母子家庭で子どもが複数人いて、そのうちの 1 人が障害児の場合、介護の必要な親だけではなく、未就学児、障害児と見るのがとても大変で、経済的、にも肉体的、精神的に大変なので、何か対策をしてほしい。(30代、女性)
- 仕事、育児、家事、介護に時間を取られ、自由な時間を作るには睡眠時間を削るしかありませんが、そうすると今度は体調が心配です。考えなければいけないこともたくさんあるため、心の余裕もありません。ストレスが溜まることもしばしばです。せめて仕事量を減らせればありがたいですが、職場は介護休暇の取得に非協力的です。(40代、男性)

II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

■想定していた時期よりもとても早く、突然、その時が来ました。一旦仕事を辞めてでもケアに集中する他はない状況でした。しかし育児もあり家族の生活もあります。どう両立すべきか、どんな職に転職すべきかずっと悩んでいます。圧倒的にお金が足りません。(30代、女性)

◎その他

■少しでも、私よりも大変な人たちが救われる社会になってほしいと思います。(30代、男性)

■我が家は、施設にお願いしているので実際には困る事もほぼないです。(40代、女性)

■家族が多いので、1人にそこまでの負担はありません。とにかく子育て、フルタイムの仕事と合間の介護は大変です。でも大切な家族だからこそやるしかないって思います。(30代、女性)

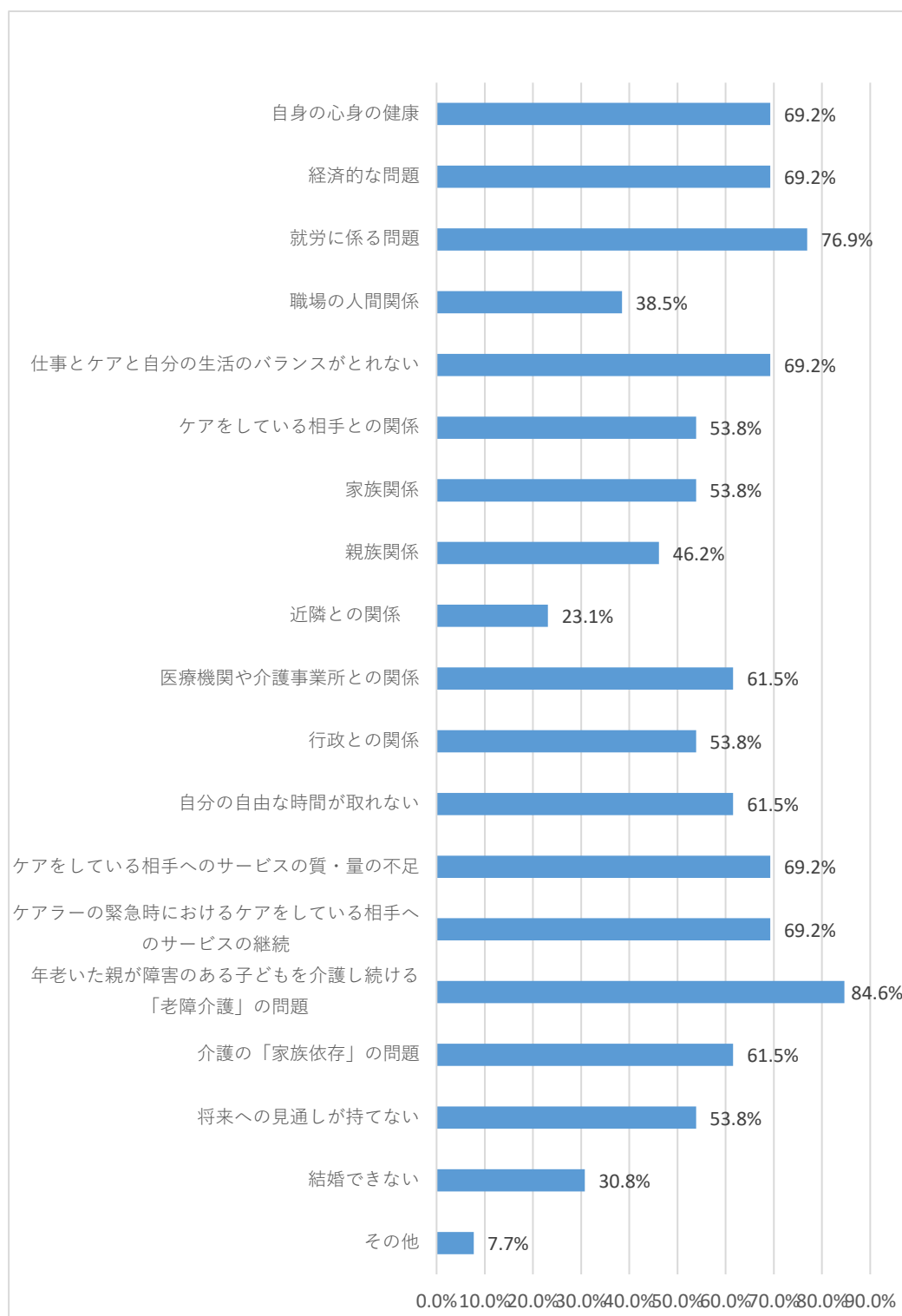
■ケアをしている者が孫であると、手続きがとても面倒なことがたくさんあります。孫というだけで全てを担っているのはこちらなのに。介護休暇を取るためにも会社の理解が必要だったりもします。(30代、女性)

2. ケアラー当事者団体調査

1) 会員のケアの状況について

(1) 会員のケアラーとしての悩み

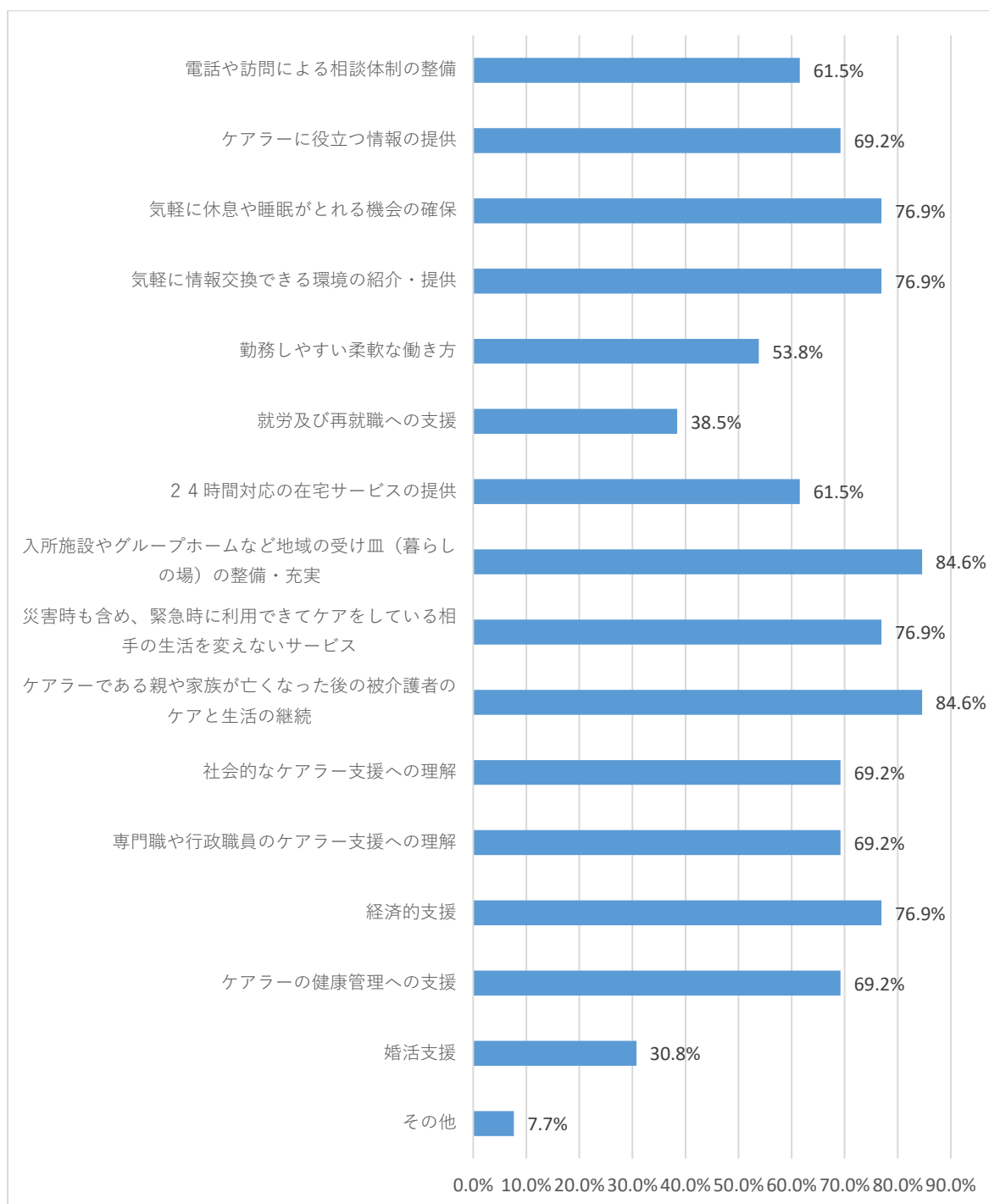
会員のケアラーとしての悩みについては、「年長いた親が障害のある子どもを介護し続ける「老障介護」の問題」が84.6%で最も多く、次いで「就労に係る問題」が76.9%となっている。
(複数回答)



(2) ケアラーに求められる(必要と思われる)支援

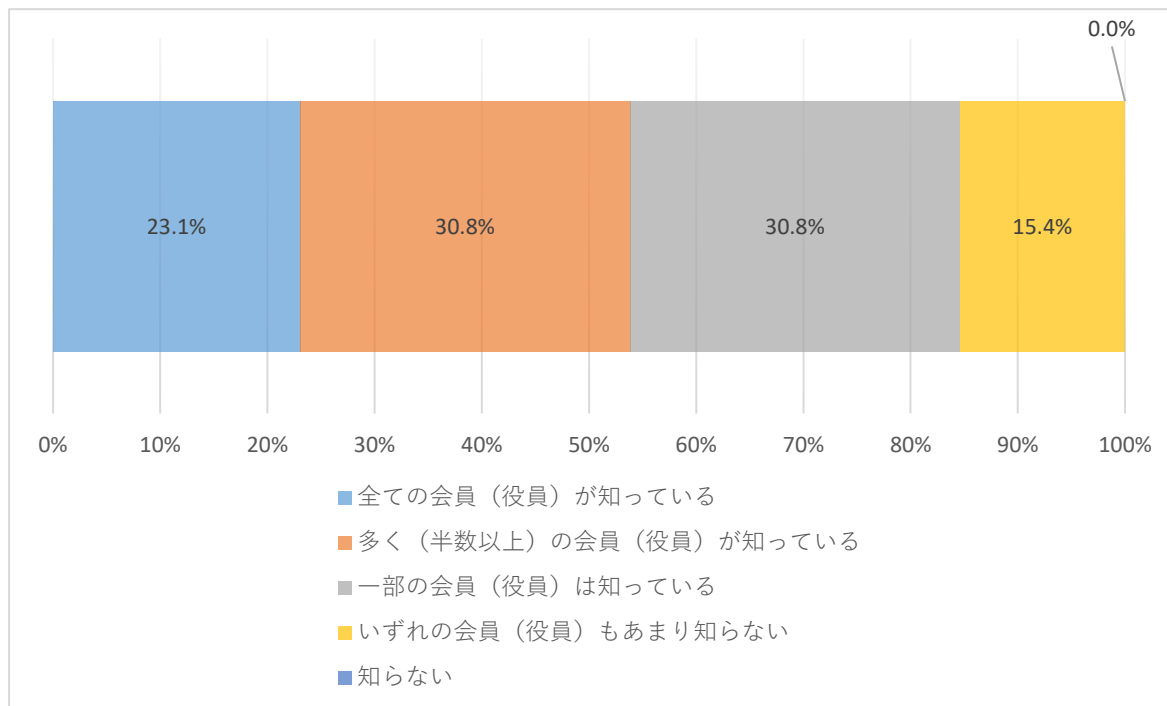
ケアラーに求められる支援については、「入所施設やグループホームなど地域の受け皿(暮らしの場)の整備・充実」「ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」が84.6%で最も多く、次いで「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」「気軽に情報交換できる環境の紹介・提供」「災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス」「経済的支援」が76.9%となっている。

(複数回答)



(3) 「ダブルケア」という言葉の認知度

「ダブルケア」という言葉の認知度については、「多く（半数以上）の会員（役員）が知っている」「一部の会員（役員）は知っている」がそれぞれ 30.8%と高くなっている。



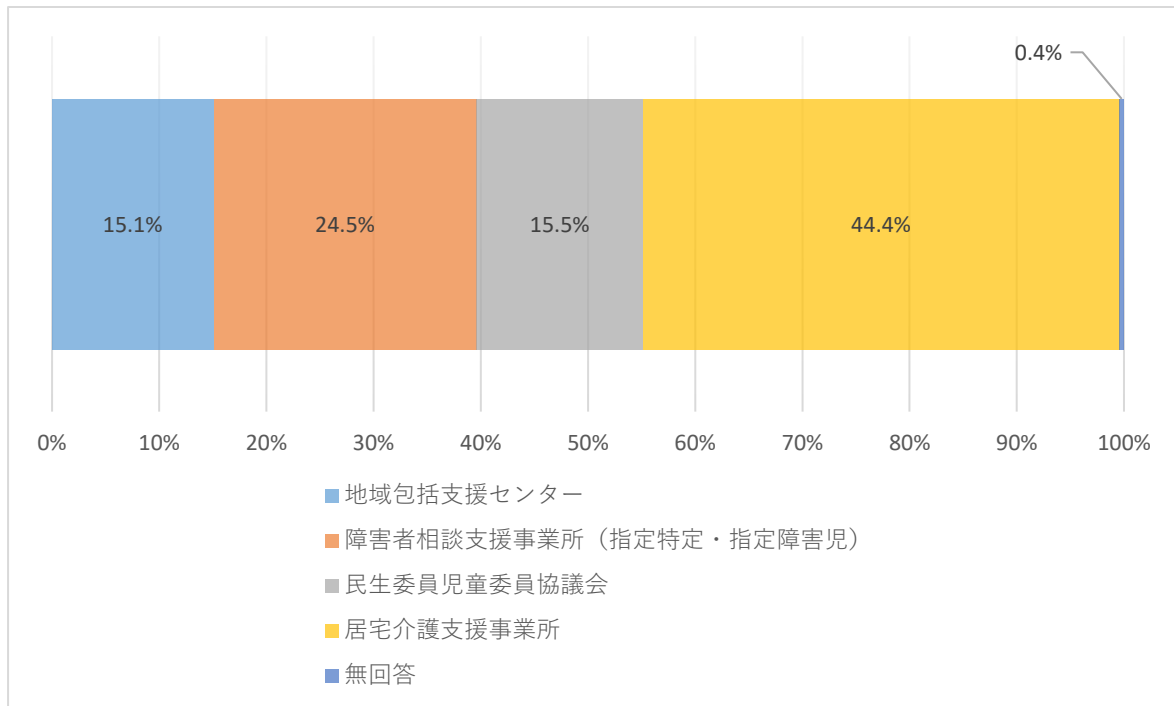
項目	回答数	割合
全ての会員（役員）が知っている	3	23.1%
多く（半数以上）の会員（役員）が知っている	4	30.8%
一部の会員（役員）は知っている	4	30.8%
いずれの会員（役員）もあまり知らない	2	15.4%
知らない	0	0.0%
合計	13	100.0%

3. ケアラー支援機関調査

1) 支援機関の種別

(1) 回答者の支援機関別

回答者の支援機関別については、「居宅介護支援事務所」が 44.4%、「障害者相談支援事業所(指定特定・指定障害児)」が 24.5%、「民生委員児童委員協議会」が 15.5%、「地域包括支援センター」が 15.1%となっている。

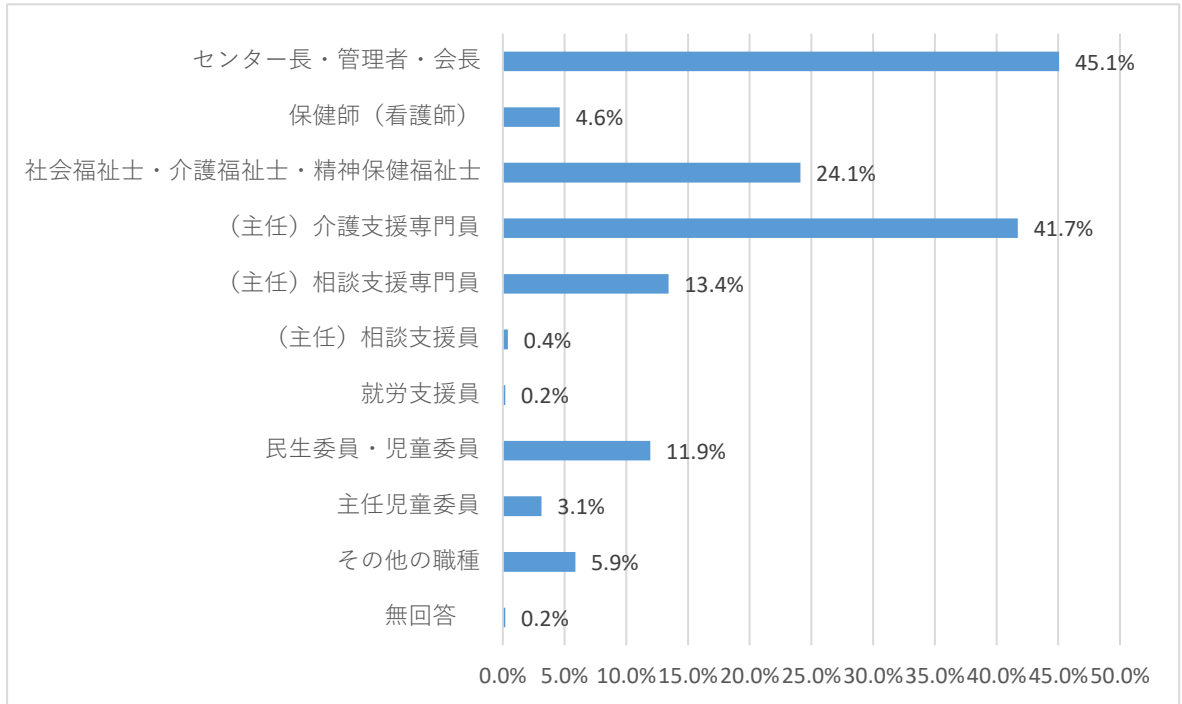


項目	回答数	割合
地域包括支援センター	72	15.1%
障害者相談支援事業所 (指定特定・指定障害児)	117	24.5%
民生委員児童委員協議会	74	15.5%
居宅介護支援事務所	212	44.4%
無回答	2	0.4%
合計	477	100.0%

(2) 回答者の職種

回答者の職種については、「センター長・管理者・会長」が 45.1%で最も多く、次いで「(主任) 介護支援専門員」が 41.7%、「社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士」が 24.1%となっている。

(複数回答)



項目	回答数	割合
センター長・管理者・会長	215	45.1%
保健師 (看護師)	22	4.6%
社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士	115	24.1%
(主任) 介護支援専門員	199	41.7%
(主任) 相談支援専門員	64	13.4%
(主任) 相談支援員	2	0.4%
就労支援員	1	0.2%
民生委員・児童委員	57	11.9%
主任児童委員	15	3.1%
その他の職種	28	5.9%
無回答	1	0.2%
回答者数	477	—

II 調査結果
3. ケアラー支援機関調査

【その他の職種】

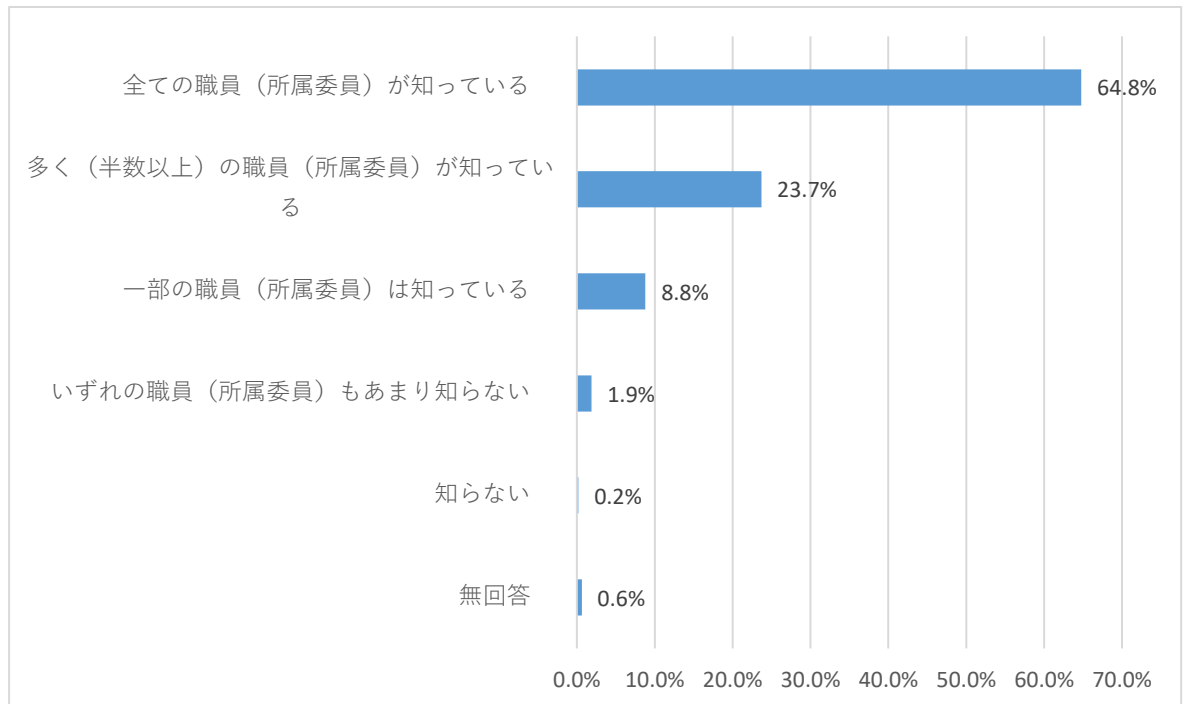
項目	回答数
一般事務・事務局職員	12
介護支援専門員	3
公認心理士	1
障害者相談支援専門員	1
相談支援専門員	10
理学療法士	1

2) ケアラー・ヤングケアラーの認知度

(1) ケアラー・ヤングケアラーの認知度

① ケアラーの概念

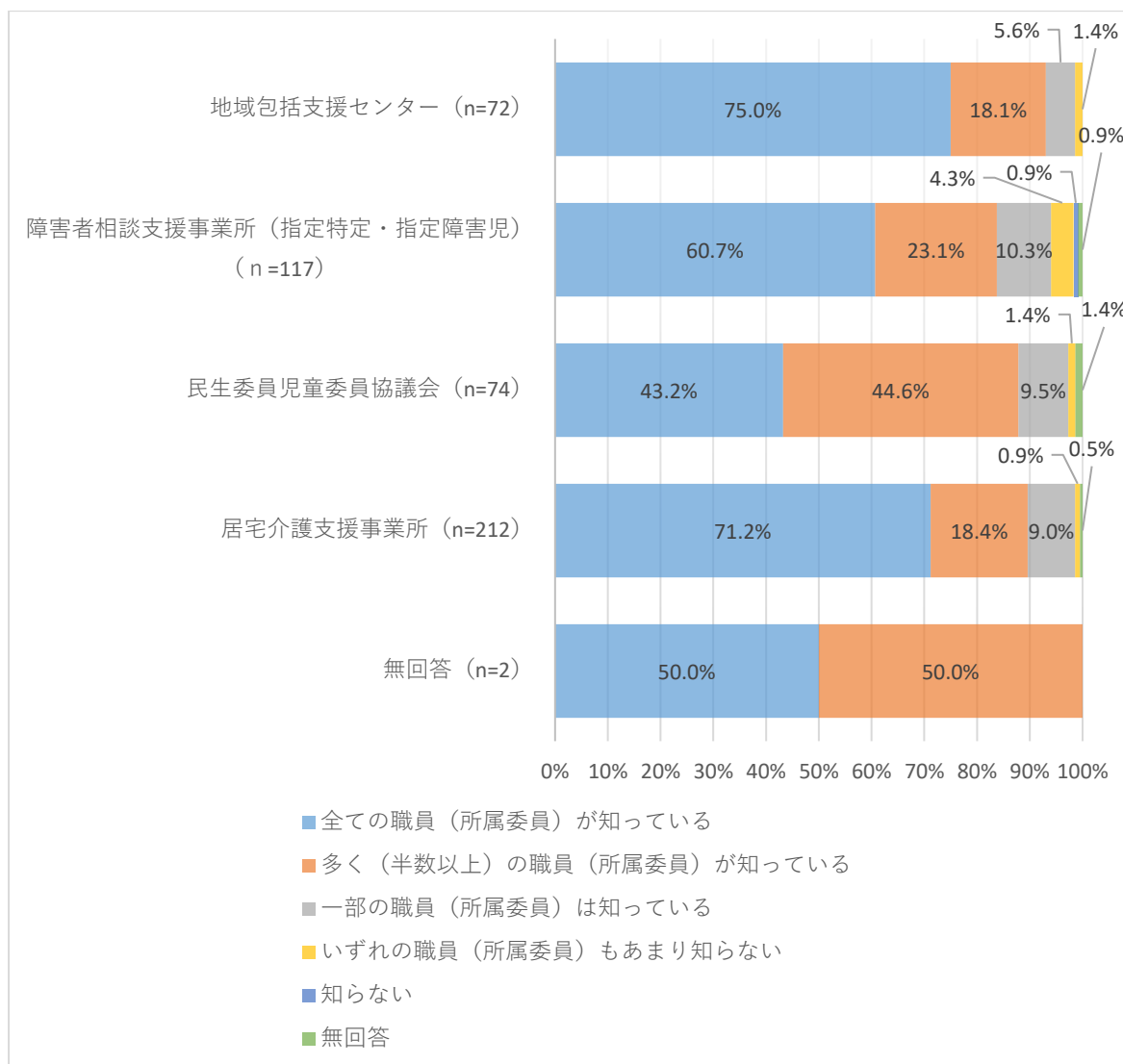
ケアラーの概念については、「全ての職員（所属委員）が知っている」が 64.8%で最も高く、次いで「多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている」が 23.7%、「一部の職員（所属委員）は知っている」が 8.8%となっている。



項目	回答数	割合
全ての職員（所属委員）が知っている	309	64.8%
多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている	113	23.7%
一部の職員（所属委員）は知っている	42	8.8%
いずれの職員（所属委員）もあまり知らない	9	1.9%
知らない	1	0.2%
無回答	3	0.6%
合計	477	100.0%

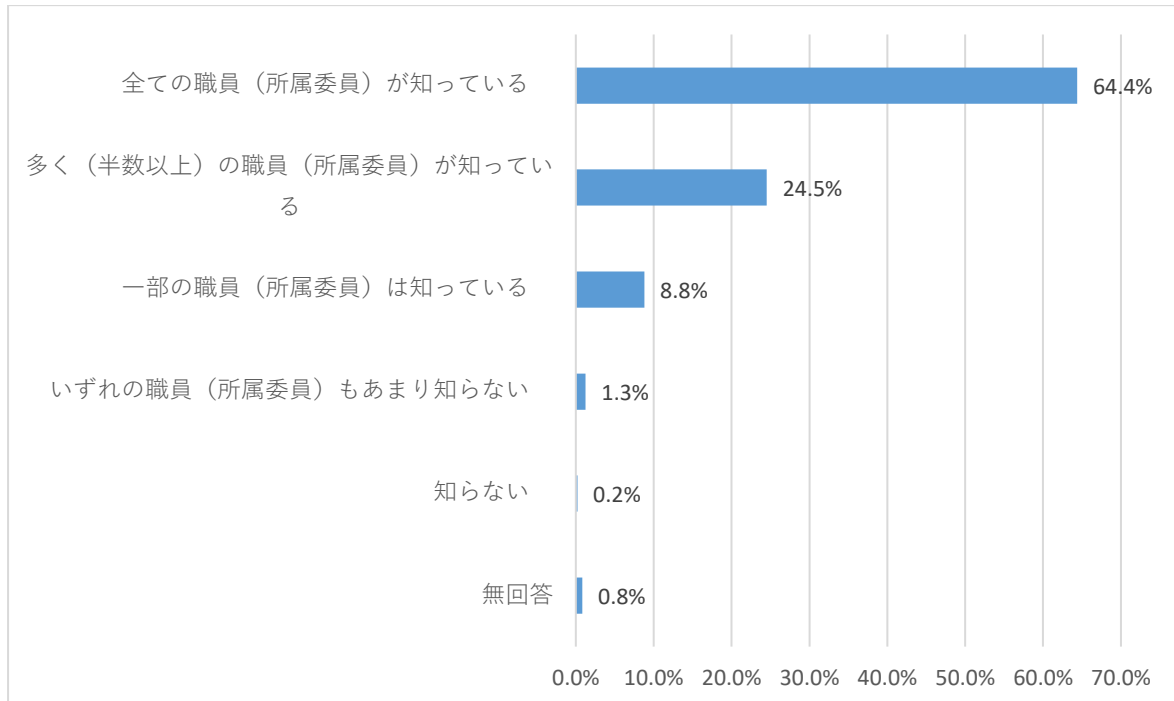
【支援機関別集計】

ケアラーの概念について「全ての職員（所属委員）が知っている」割合は、地域包括支援センターが 75.0%、障害者相談支援事業所が 60.7%、民生委員児童委員協議会が 43.2%、居宅介護支援事業所が 71.2%となっている。



① ヤングケアラーの概念

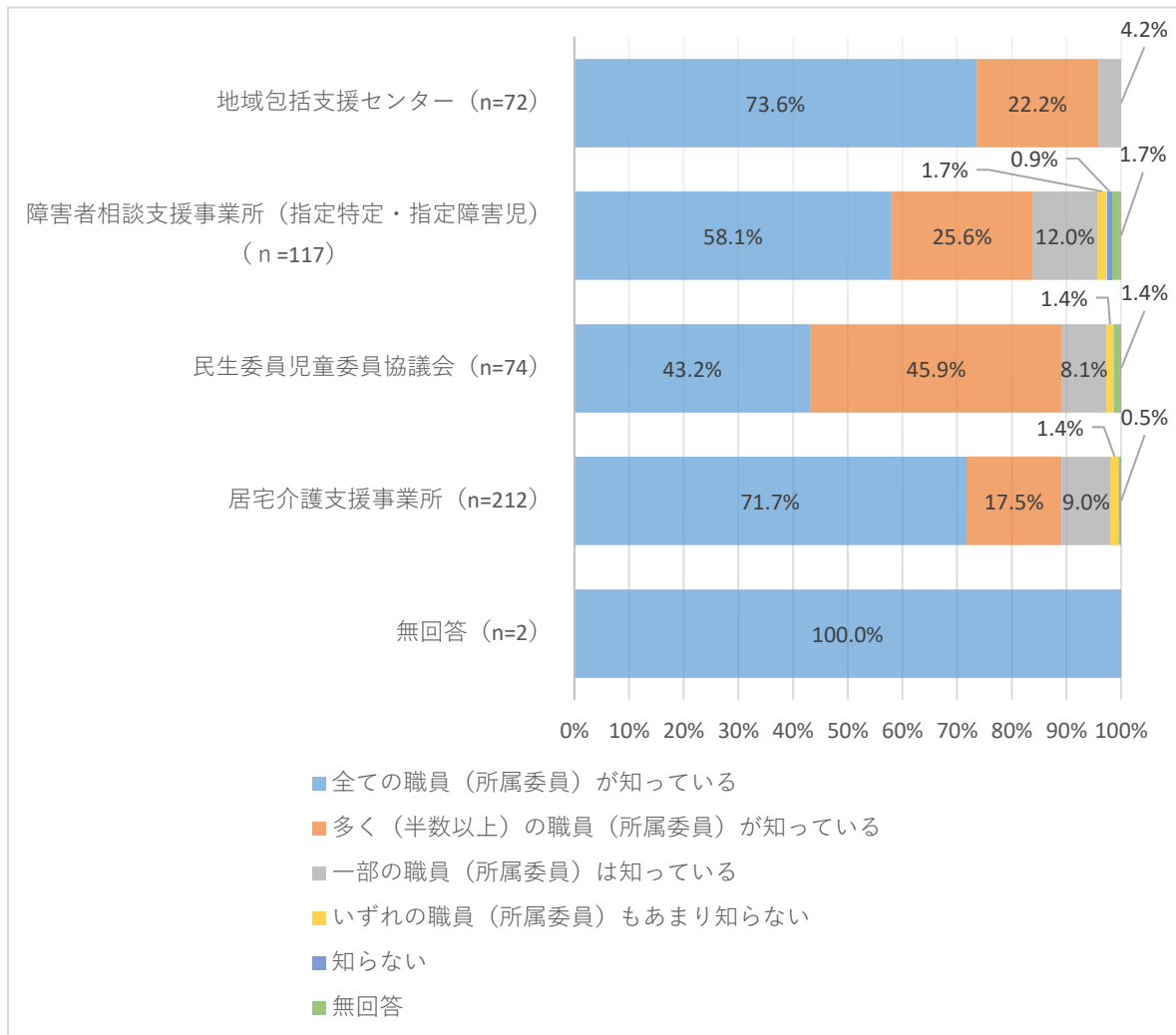
ヤングケアラーの概念については、「全ての職員（所属委員）が知っている」が64.4%で最も高く、次いで「多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている」が24.5%、「一部の職員（所属委員）は知っている」が8.8%となっている。



項目	回答数	割合
全ての職員（所属委員）が知っている	307	64.4%
多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている	117	24.5%
一部の職員（所属委員）は知っている	42	8.8%
いずれの職員（所属委員）もあまり知らない	6	1.3%
知らない	1	0.2%
無回答	4	0.8%
合計	477	100.0%

【支援機関別集計】

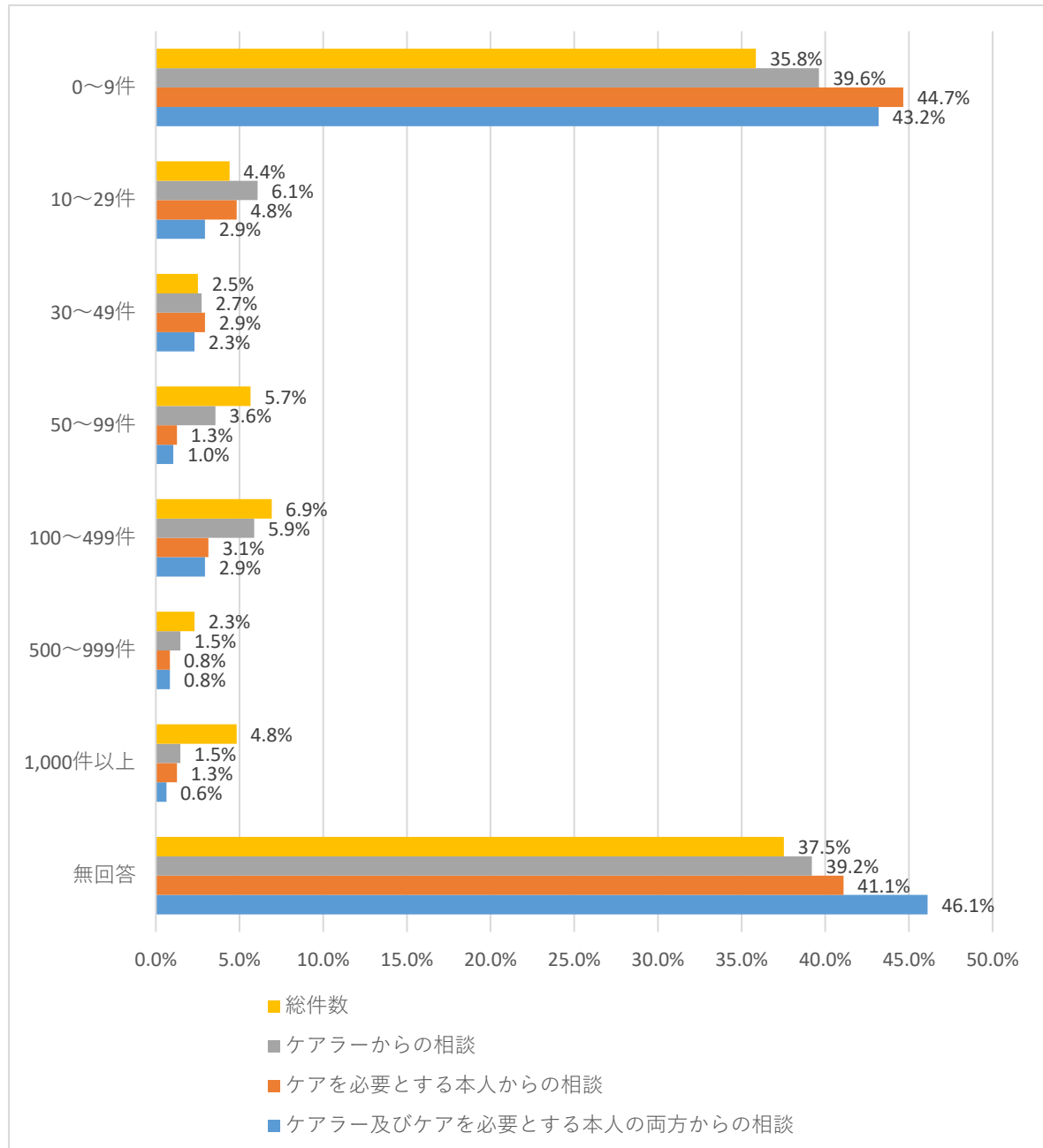
ヤングケアラーの概念について「全ての職員（所属委員）が知っている」割合は、地域包括支援センターが 73.6%、障害者相談支援事業所が 58.1%、民生委員児童委員協議会が 43.2%、居宅介護支援事業所が 71.7%となっている。



3) ケアラーについて

(1) 令和6年度にケアラーなどから受けた相談件数

相談件数については、「総件数」は「0～9件」が35.8%、「100～499件」が6.9%となっている。また、「ケアラーからの相談」は「0～9件」が39.6%、「ケアを必要とする本人からの相談」は「0～9件」が44.7%、「ケアラー及びケアを必要とする本人の両方からの相談」は「0～9件」が43.2%となっている。



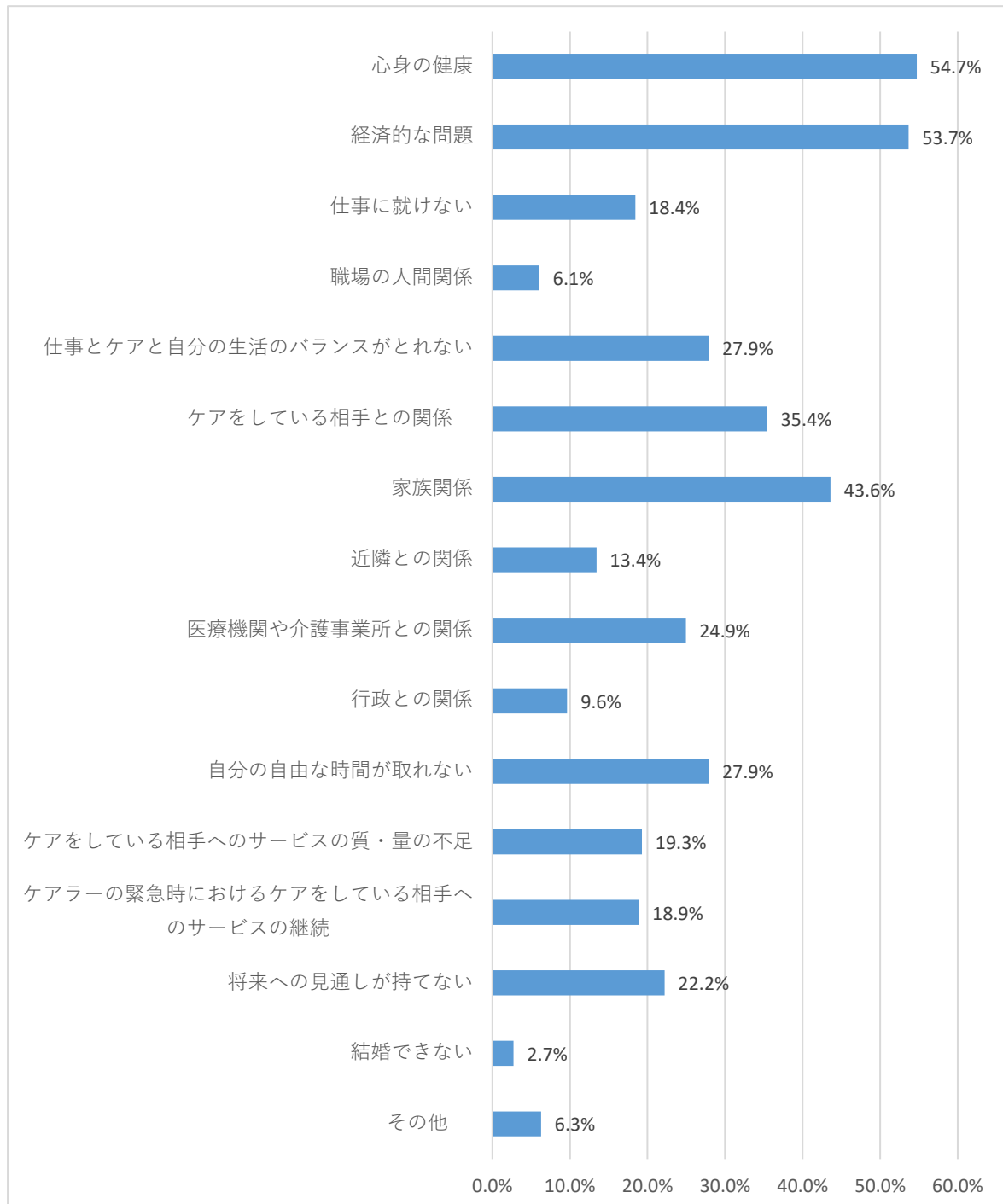
II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

項目	総件数		ケアラーからの相談		ケアを必要とする本人からの相談		ケアラー及びケアを必要とする本人の両方からの相談	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
0～9件	171	35.8%	189	39.6%	213	44.7%	206	43.2%
10～29件	21	4.4%	29	6.1%	23	4.8%	14	2.9%
30～49件	12	2.5%	13	2.7%	14	2.9%	11	2.3%
50～99件	27	5.7%	17	3.6%	6	1.3%	5	1.0%
100～499件	33	6.9%	28	5.9%	15	3.1%	14	2.9%
500～999件	11	2.3%	7	1.5%	4	0.8%	4	0.8%
1,000件以上	23	4.8%	7	1.5%	6	1.3%	3	0.6%
無回答	179	37.5%	187	39.2%	196	41.1%	220	46.1%
計	477	100.0%	477	100.0%	477	100.0%	477	100.0%

(2) ケアラーまたはケアを必要とする本人からの相談内容

ケアラーまたはケアを必要とする本人からの相談内容については、「心身の健康」が54.7%と最も高く、次いで「経済的な問題」が53.7%、「家族関係」が43.6%となっている。
(複数回答)



II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
心身の健康	261	54.7%
経済的な問題	256	53.7%
仕事に就けない	88	18.4%
職場の人間関係	29	6.1%
仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない	133	27.9%
ケアをしている相手との関係	169	35.4%
家族関係	208	43.6%
近隣との関係	64	13.4%
医療機関や介護事業所との関係	119	24.9%
行政との関係	46	9.6%
自分の自由な時間が取れない	133	27.9%
ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足	92	19.3%
ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続	90	18.9%
将来への見通しが持てない	106	22.2%
結婚できない	13	2.7%
その他	30	6.3%
回答者数	477	—

II 調査結果

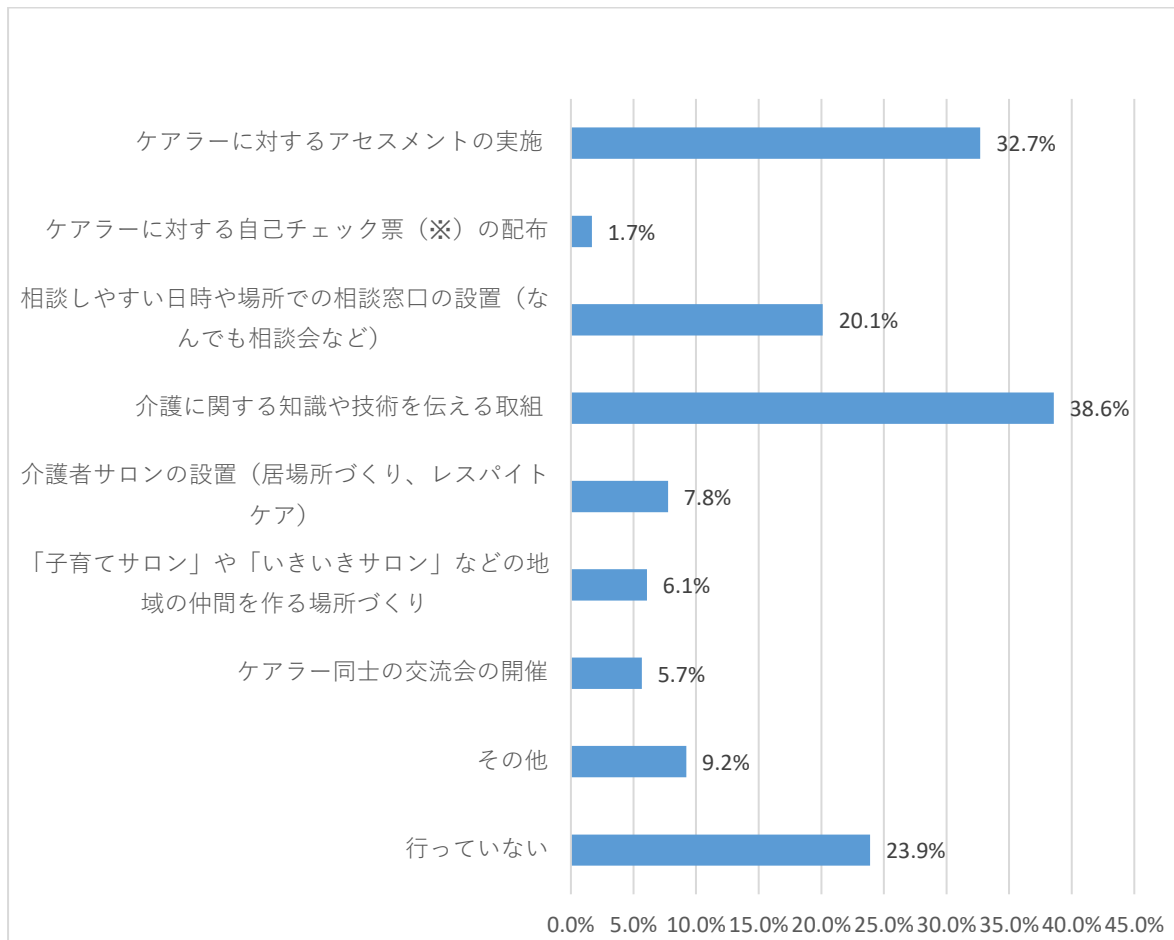
3. ケアラー支援機関調査

(3) ケアが必要な人をサービスにつなげる以外に行っているケアラー本人への直接的な支援

ケアが必要な人をサービスにつなげる以外に行っているケアラー本人への直接的な支援については、「介護に関する知識や技術を伝える取組」が 38.6%で最も高く、次いで「ケアラーに対するアセスメントの実施」が 32.7% 「相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置（なんでも相談会など）」が 20.1%となっている。

また、「行っていない」が 23.9%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアラーに対するアセスメントの実施	156	32.7%
ケアラーに対する自己チェック票(※)の配布	8	1.7%
相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置(なんでも相談会など)	96	20.1%
介護に関する知識や技術を伝える取組	184	38.6%
介護者サロンの設置(居場所づくり、レスパイトケア)	37	7.8%
「子育てサロン」や「いきいきサロン」などの地域の仲間を作る場所づくり	29	6.1%
ケアラー同士の交流会の開催	27	5.7%
その他	44	9.2%
行っていない	114	23.9%
回答者数	477	—

※自己チェック票：ケアラー本人が、家族のケアをしている自分の体調や気持ち、考え方を、ケアマネジャーなどの相談職員に伝えるためのチェック表(家族介護者支援マニュアル 厚生労働省平成30年3月)

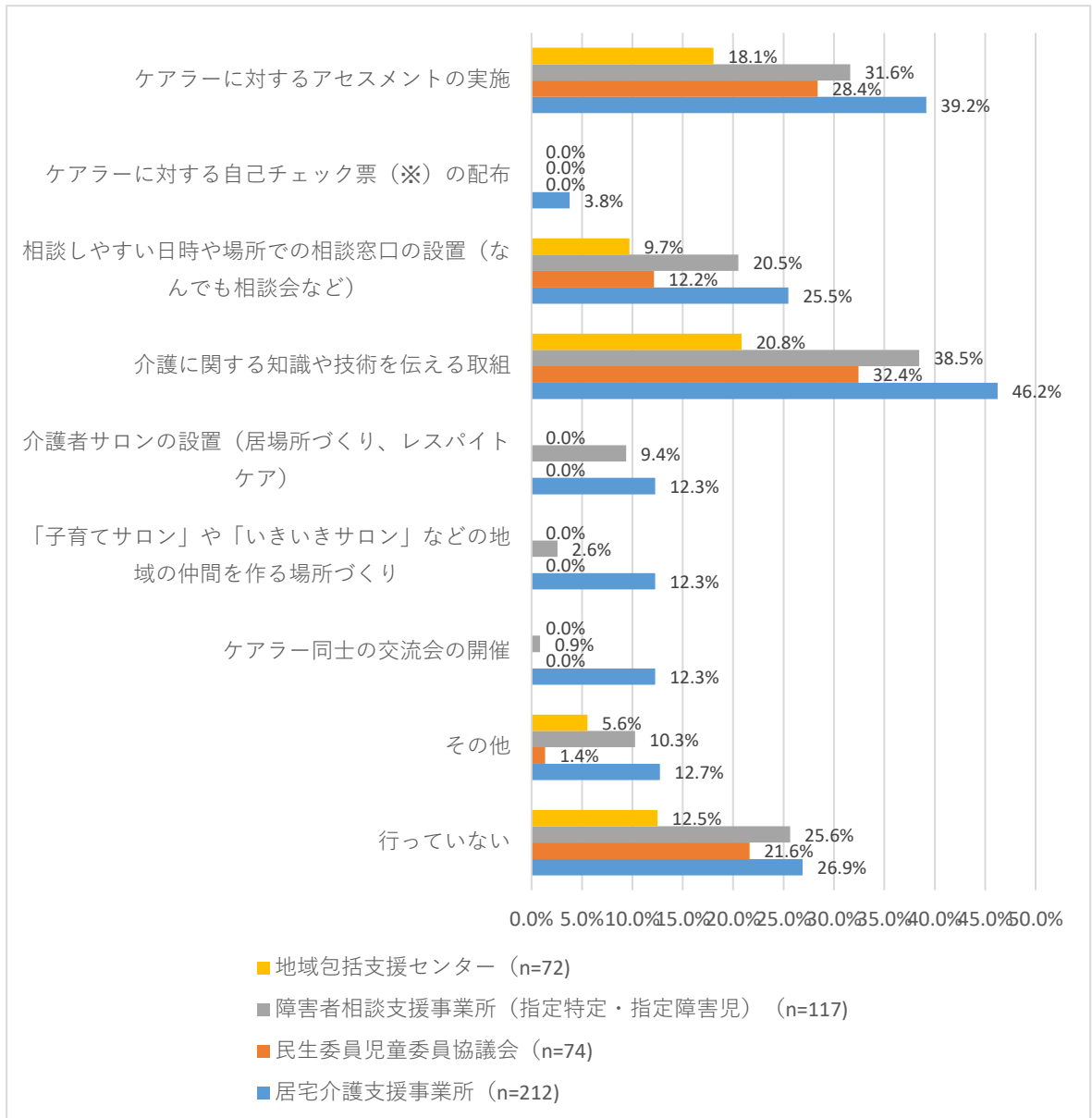
II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

【支援機関別集計】

地域包括支援センター・障害者相談支援事業所（指定特定・指定障害児）・民生委員児童委員協議会・居宅介護支援事業所でそれぞれ「介護に関する知識や技術を伝える取組」が20.8%、38.5%、32.4%、46.2%と高くなっている。

（複数回答）

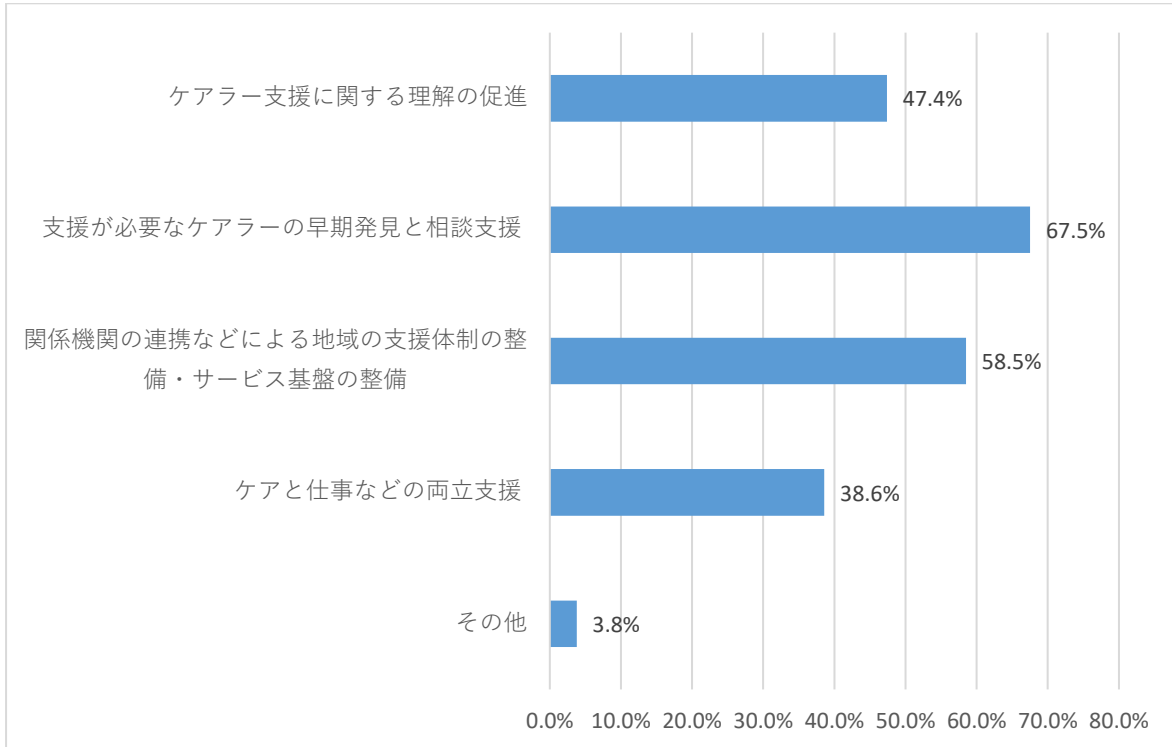


*無回答は、n=2

II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(4) 「(3) のケアラー本人への直接的な支援」以外で、ケアラー支援として必要なこと
 「(3) の直接的な支援」以外で、ケアラー支援として必要なことについては、「支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援」が 67.5%で最も高く、次いで「関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備」が 58.5%、「ケアラー支援に関する理解の促進」が 47.4%となっている。
 (複数回答)



*無回答は、n=2

(複数回答)

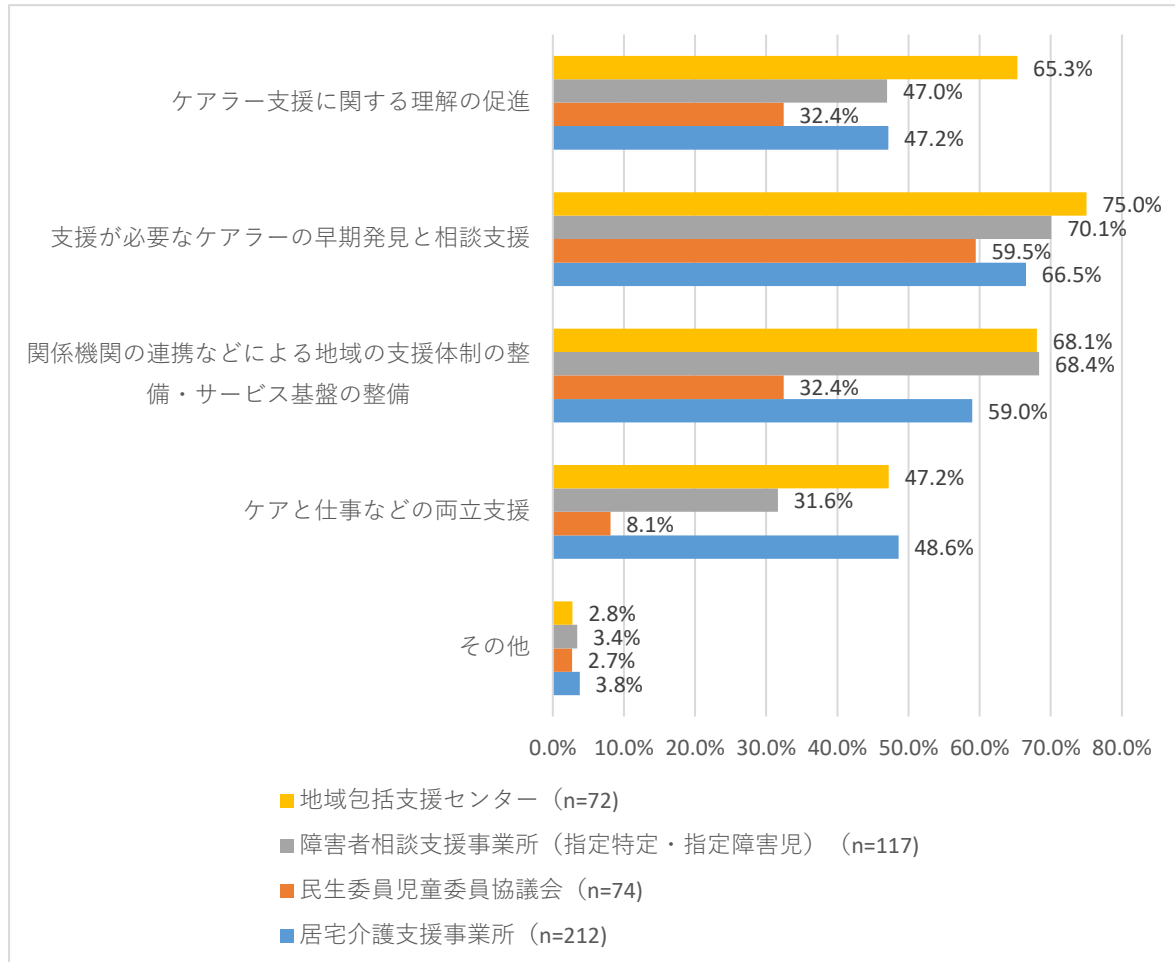
項目	回答数	割合
ケアラー支援に関する理解の促進	226	47.4%
支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援	322	67.5%
関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備	279	58.5%
ケアと仕事などの両立支援	184	38.6%
その他	18	3.8%
回答者数	477	—

II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

【支援機関別集計】

地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、民生委員児童委員協議会、居宅介護支援事業所では「支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援」がそれぞれ75.0%、70.1%、59.5%、66.5%と高くなっている。

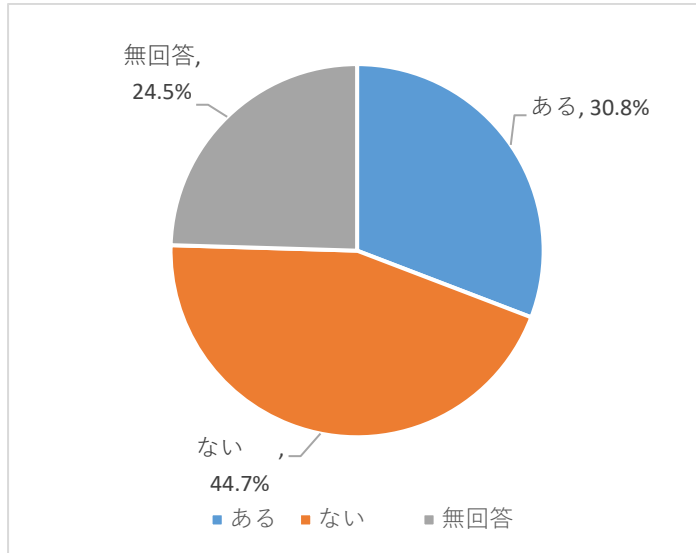


II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(5) 令和6年度に受けた相談で公的サービスの利用に至らなかった事例

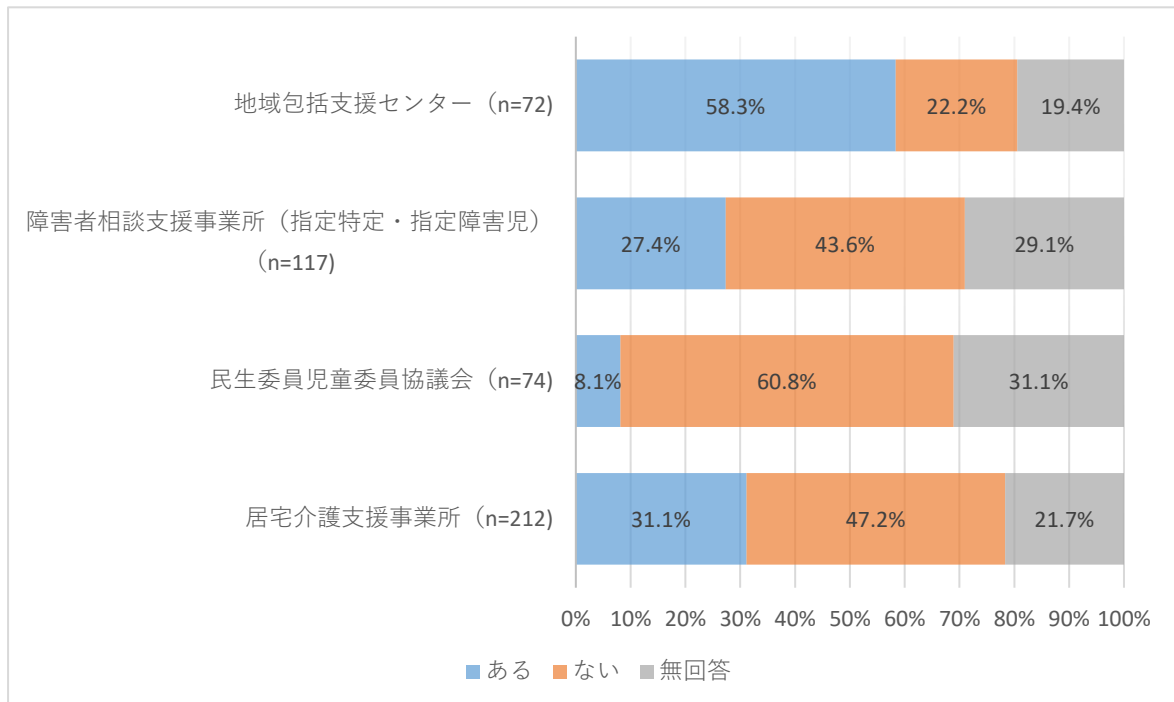
公共サービスの利用に至らなかった事例については、「ある」が30.8%、「ない」が44.7%となっている。



項目	回答数	割合
ある	147	30.8%
ない	213	44.7%
無回答	117	24.5%
合計	477	100.0%

【支援機関別集計】

「ある」が地域包括支援センターでは58.3%、障害者相談支援事業所では27.4%、民生委員児童委員協議会では8.1%、居宅介護支援事業所では31.1%と支援機関別で差がみられる。



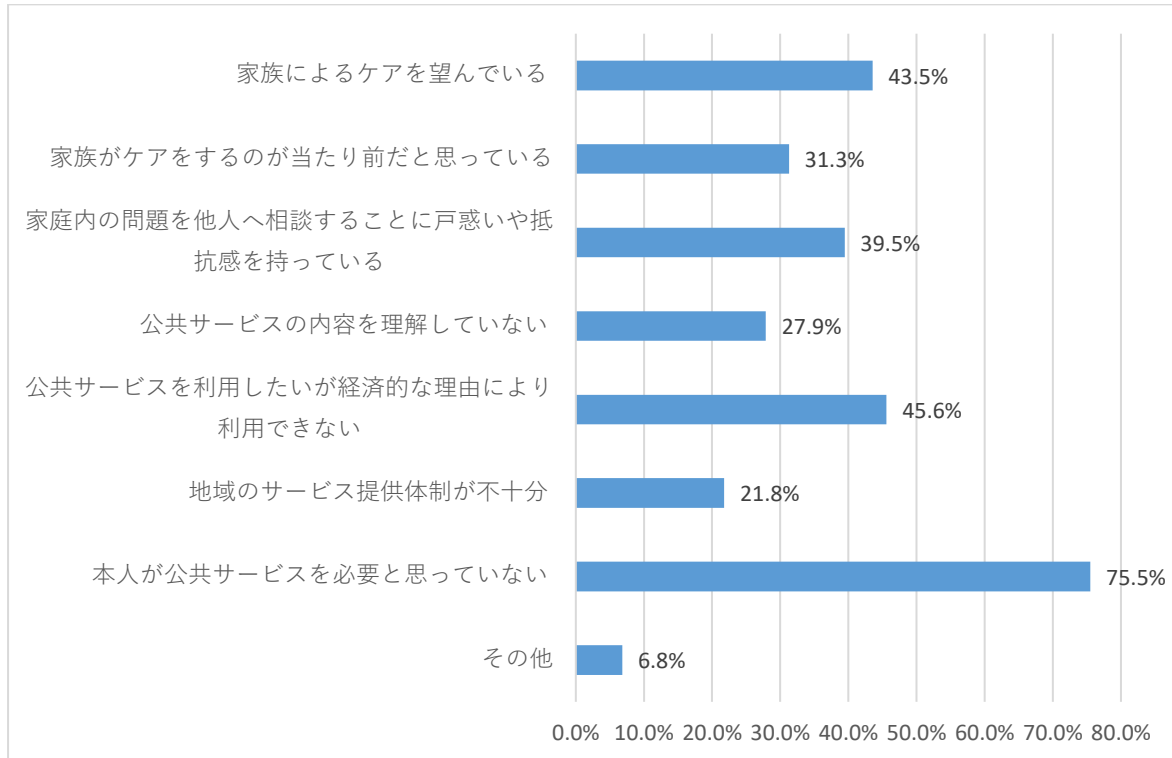
*無回答は、n=2

(6) 相談があったにもかかわらず、公的サービスの利用に至らなかった理由

① ケアを必要としている側（被介護者）の理由

公共サービスの利用に至らなかった事例について「ある」と回答した支援機関に、サービスの利用に至らなかった被介護者側の理由について聞いたところ、「本人が公共サービスを必要とっていない」が75.5%で最も高く、次いで「公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない」が45.6%、「家族によるケアを望んでいる」が43.5%となっている。

(複数回答)

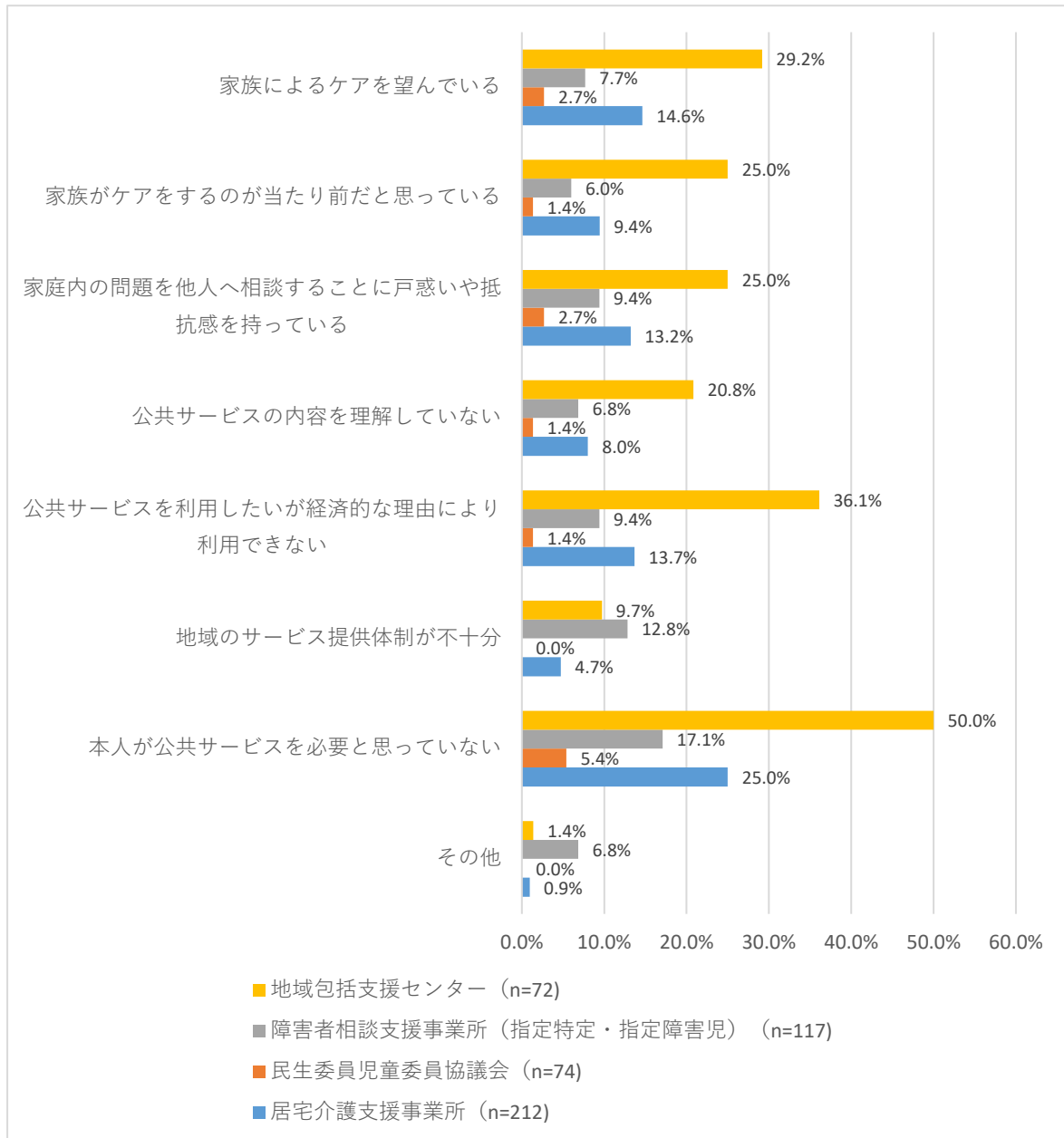


(複数回答)

項目	回答数	割合
家族によるケアを望んでいる	64	43.5%
家族がケアをするのが当たり前だと思っている	46	31.3%
家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている	58	39.5%
公共サービスの内容を理解していない	41	27.9%
公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない	67	45.6%
地域のサービス提供体制が不十分	32	21.8%
本人が公共サービスを必要とっていない	111	75.5%
その他	10	6.8%
回答者数	147	—
非該当	330	—
合計	477	—

【支援機関別集計】

地域包括支援センターでは「本人が公共サービスを必要とっていない」が50.0%と半数、障害者相談支援事業所では17.1%、民生委員児童委員協議会では5.4%、居宅介護支援事業所が25.0%とそれぞれ高くなっている。
(複数回答)

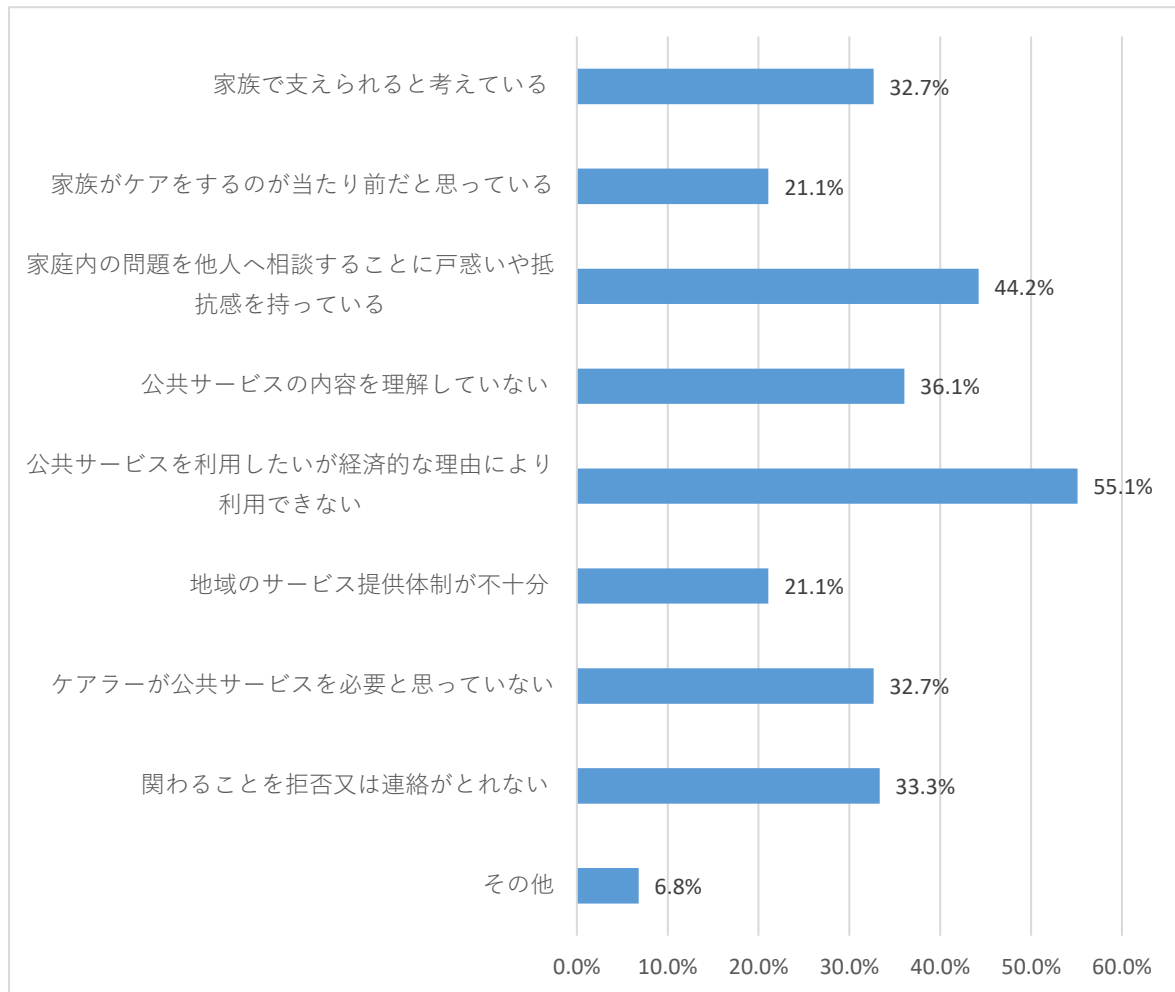


*無回答は、n=2

② ケアをしている側（ケアラー）の理由

公共サービスの利用に至らなかった事例について「ある」と回答した支援機関に、サービスの利用に至らなかったケアラー側の理由について聞いたところ、「公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない」が55.1%で最も高く、次いで「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」が44.2%、「公的サービスの内容を理解していない」が36.1%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

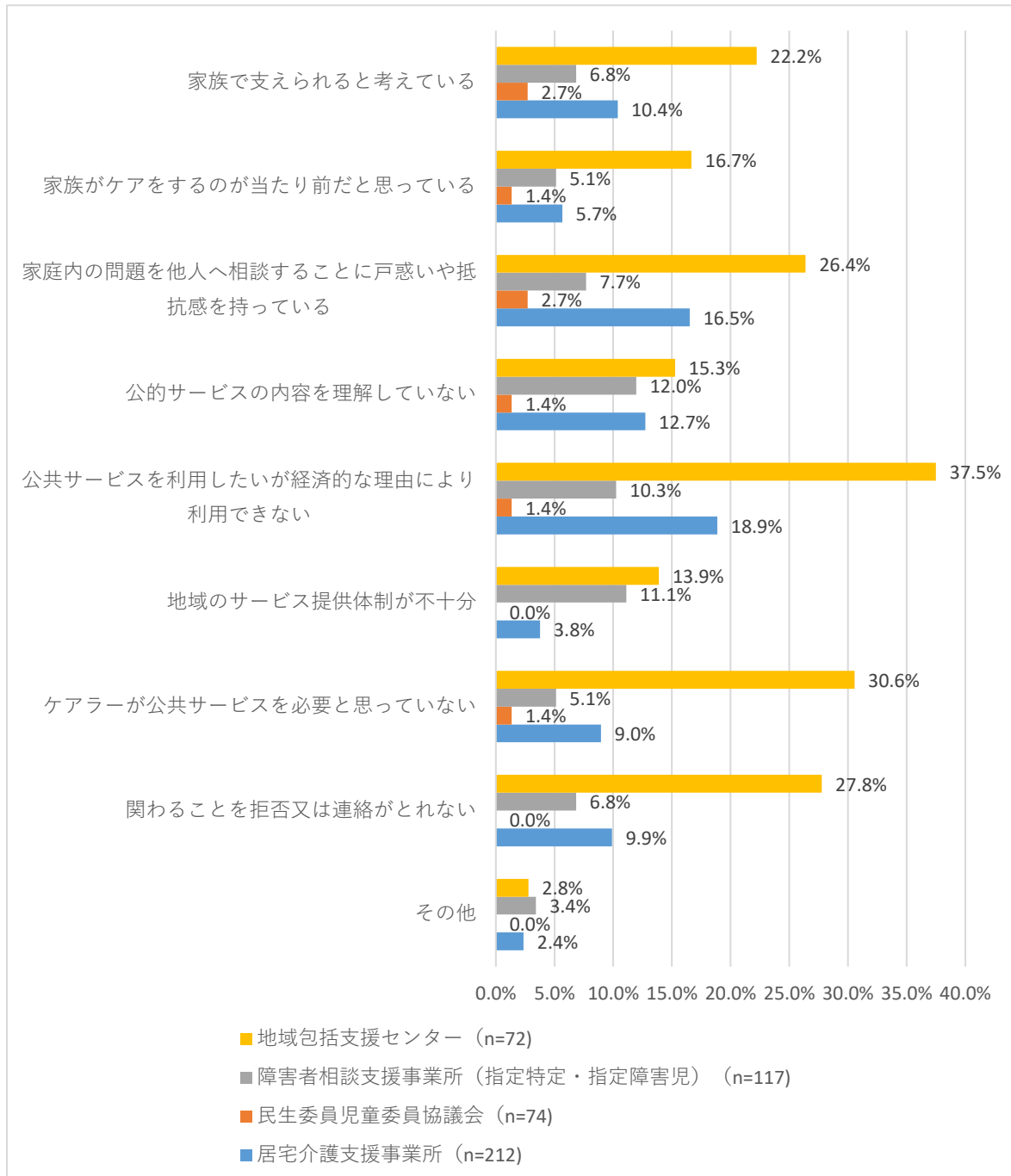
3. ケアラー支援機関調査

(複数回答)

項目	回答数	割合
家族で支えられると考えている	48	32.7%
家族がケアをするのが当たり前だと思っている	31	21.1%
家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている	65	44.2%
公共サービスの内容を理解していない	53	36.1%
公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない	81	55.1%
地域のサービス提供体制が不十分	31	21.1%
ケアラーが公共サービスを必要と思っていない	48	32.7%
関わることを拒否又は連絡がとれない	49	33.3%
その他	10	6.8%
回答者数	147	—
非該当	330	—
合計	477	—

【支援機関別集計】

地域包括支援センターと居宅介護支援事業所では「公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない」がそれぞれ37.5%、18.9%、障害者相談支援事業所では「公的サービスの内容を理解していない」が12.0%、民生委員児童委員協議会では「家族で支えられると思っている」「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」がそれぞれ2.7%と高くなっている。（複数回答）



*無回答は、n=2

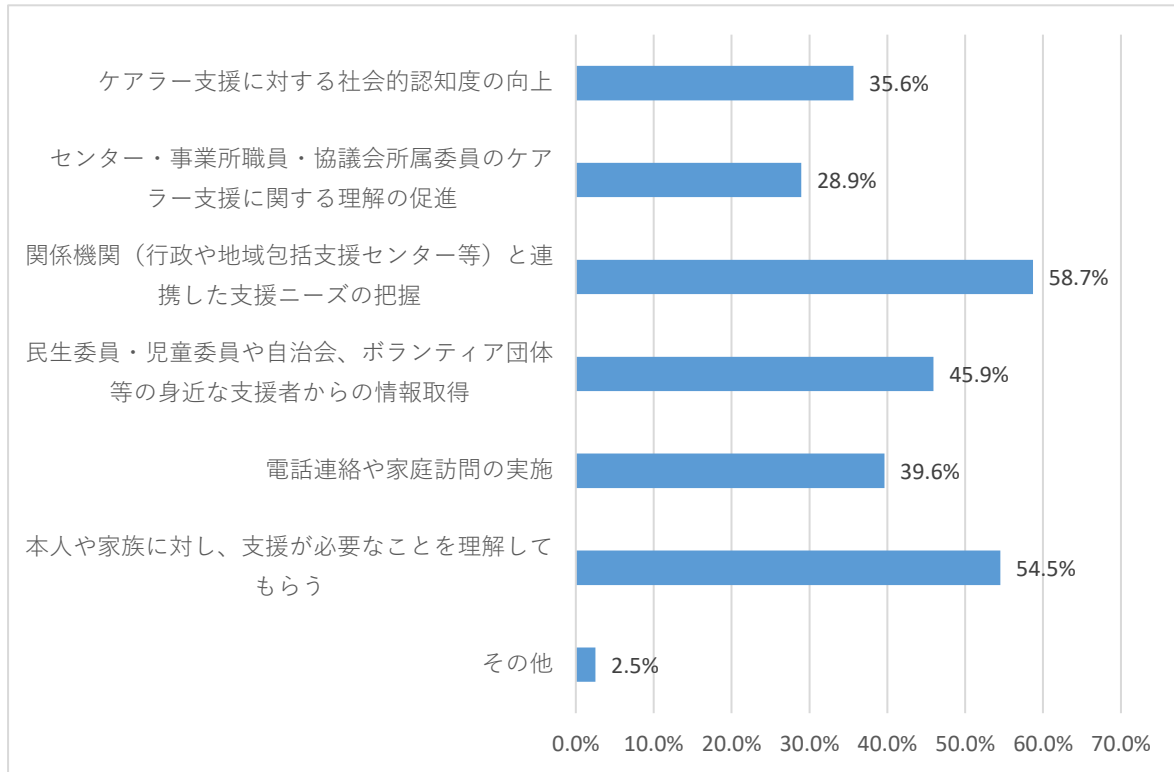
II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(7) 支援がつながりにくい家庭を支援に結びつけるために必要なこと

支援に結びつけるために必要なことについては、「関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握」が 58.7%で最も高く、次いで「本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう」が 54.5%、「民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」が 45.9%となっている。

(複数回答)



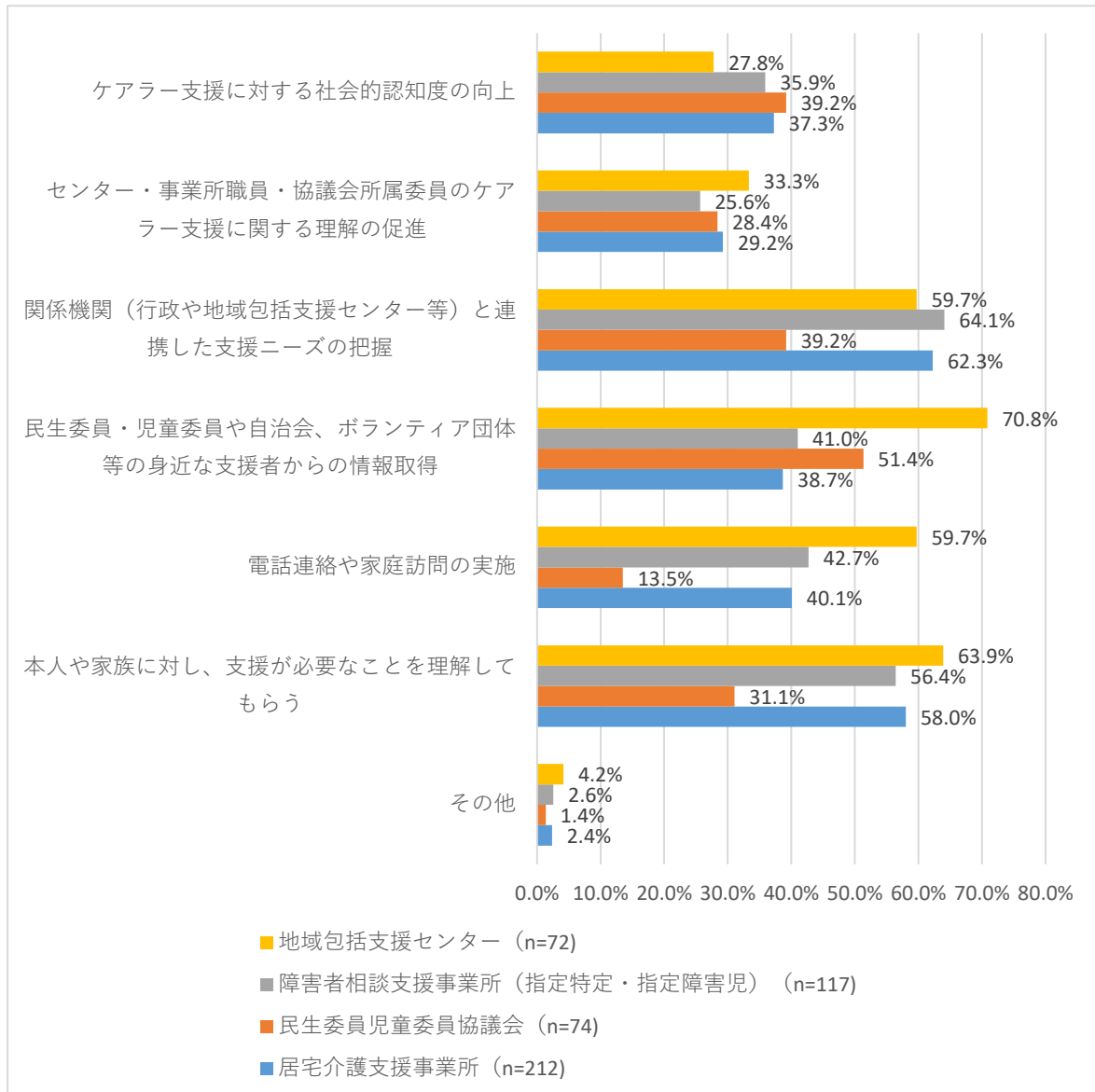
(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアラー支援に対する社会的認知度の向上	170	35.6%
センター・事業所職員・協議会所属委員のケアラー支援に関する理解の促進	138	28.9%
関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握	280	58.7%
民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得	219	45.9%
電話連絡や家庭訪問の実施	189	39.6%
本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう	260	54.5%
その他	12	2.5%
回答者数	477	—

【支援機関別集計】

地域包括支援センターと民生委員児童委員協議会では「民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」がそれぞれ 70.8%、51.4%、障害者相談支援事業所と居宅介護支援事業所では「関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握」がそれぞれ 64.1%、62.3%と高くなっている。

(複数回答)

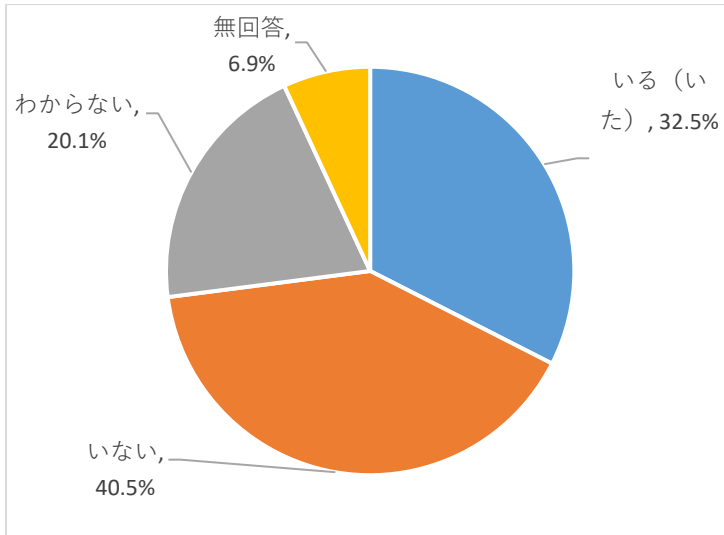


*無回答は、n=2

4) ヤングケアラーについて

(1-1) 関わっている（過去に関わった）家庭の中で、ヤングケアラーではないかを感じる子ども・若者の有無

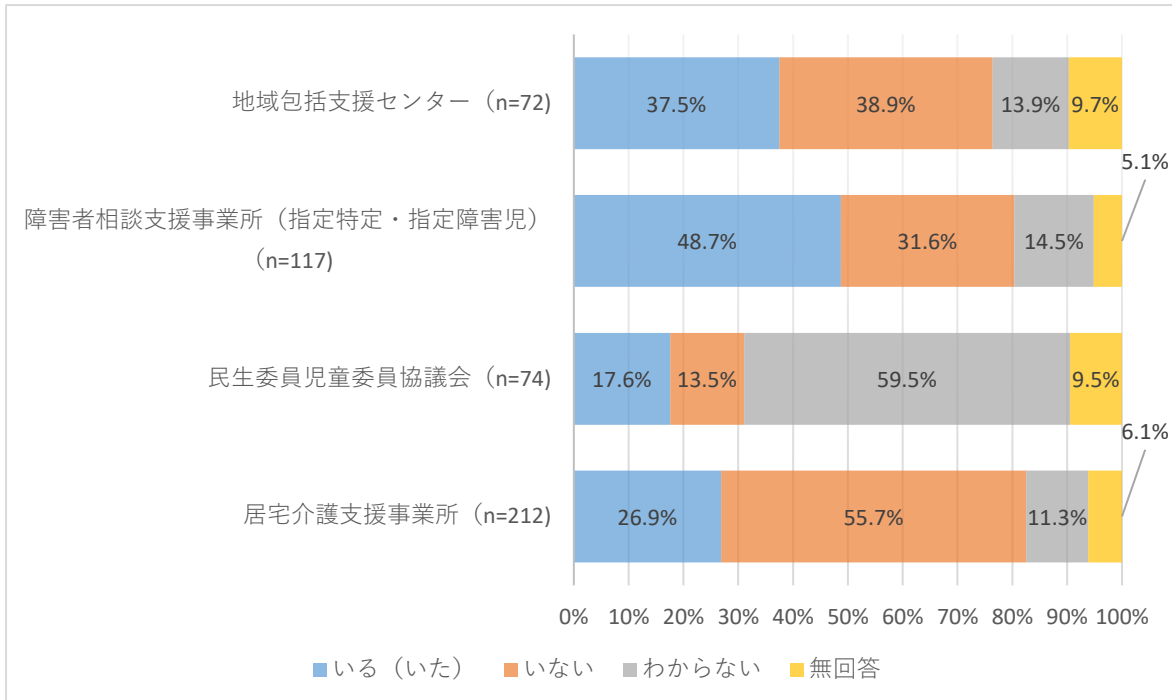
ヤングケアラーではないかを感じる子ども・若者の有無については、「いる（いた）」が32.5%、「いない」が40.5%、「わからない」が20.1%となっている。



項目	回答数	割合
いる（いた）」	155	32.5%
いない」	193	40.5%
わからない」	96	20.1%
無回答」	33	6.9%
合計	477	100.0%

【支援機関別集計】

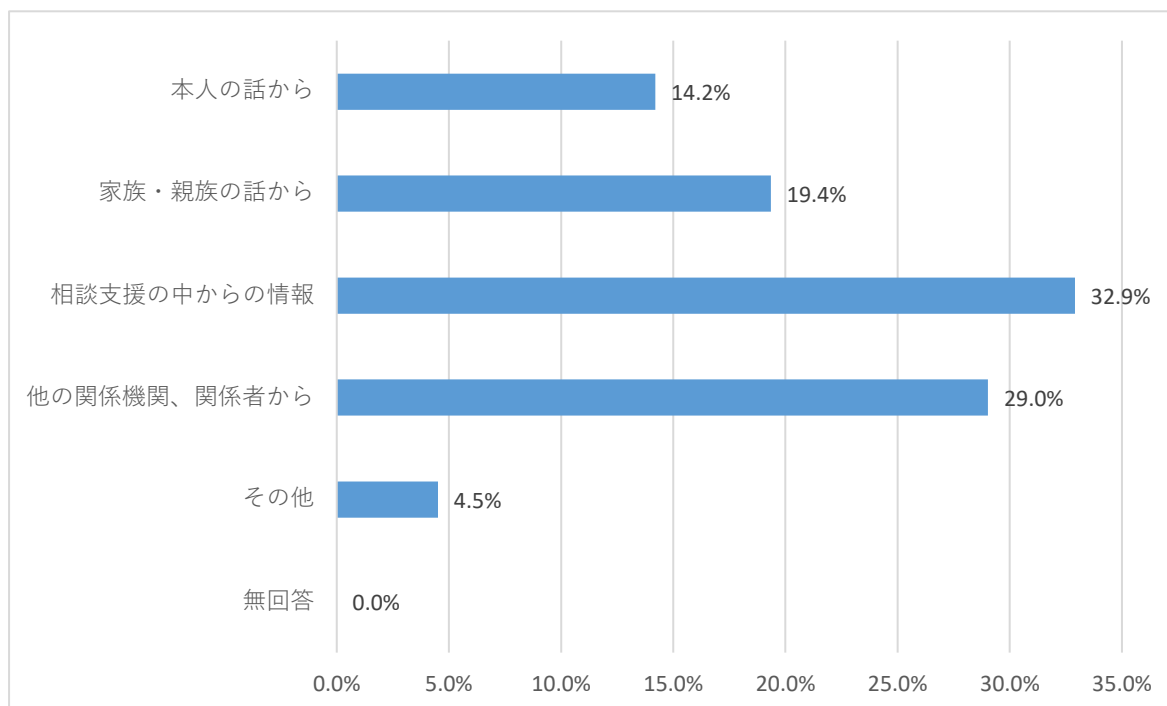
「いる（いた）」が、地域包括支援センターでは37.5%、障害者相談支援事業所では48.7%、民生委員児童委員協議会では17.6%、居宅介護支援事業所では26.9%となっている。



*無回答は、n=2

(1-2) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者を知ったきっかけ

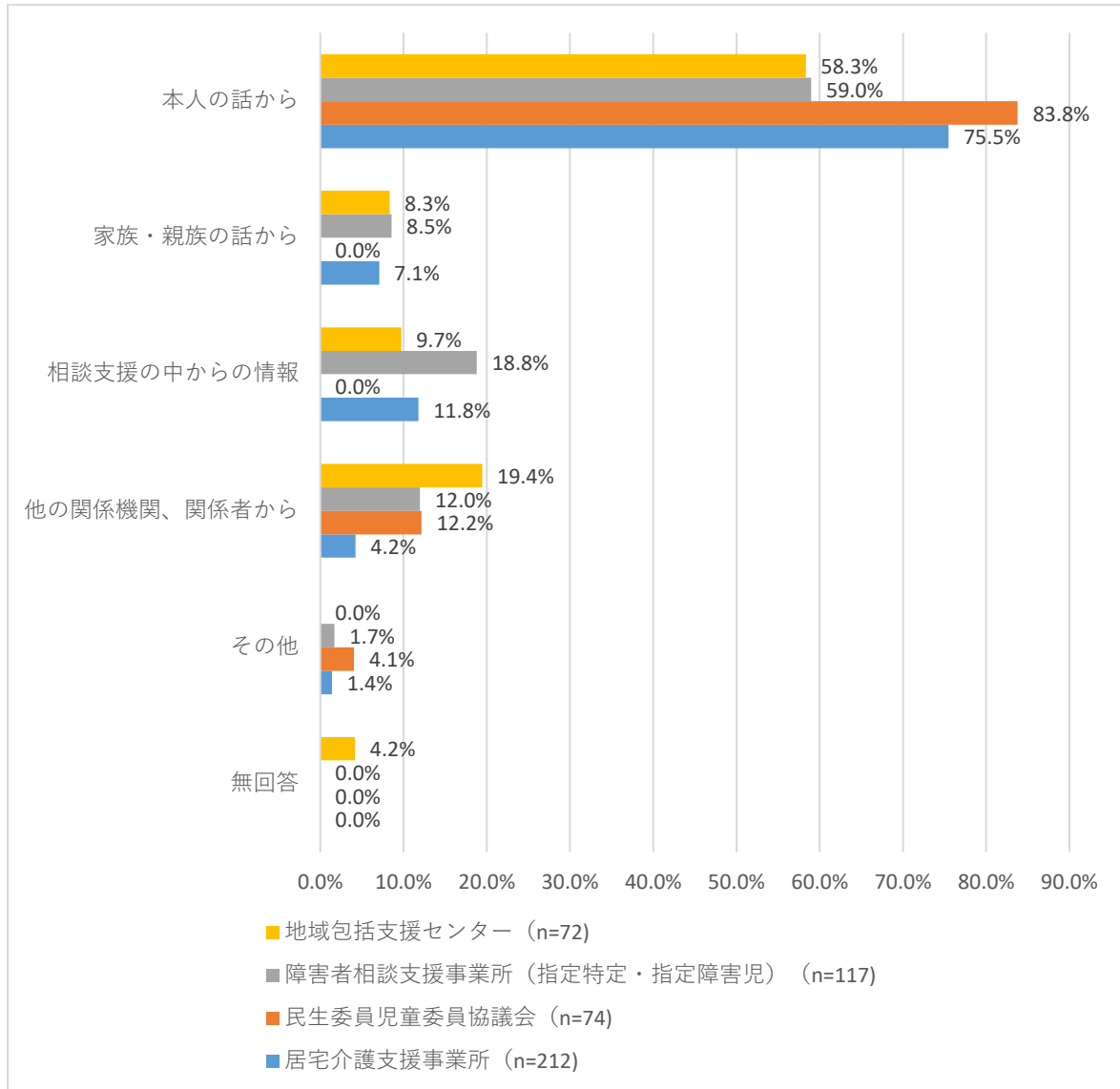
ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の有無について「いる(いた)」と回答した支援機関に、知ったきっかけについて聞いたところ、「相談支援の中からの情報」が32.9%で最も高く、次いで「他の関係機関、関係者から」が29.0%、「家族・親族の話から」が19.4%となっている。



項目	回答数	割合
本人の話から	22	14.2%
家族・親族の話から	30	19.4%
相談支援の中からの情報	51	32.9%
他の関係機関、関係者から	45	29.0%
その他	7	4.5%
無回答	0	0.0%
回答者数	155	100.0%
非該当	322	—
合計	477	—

【支援機関別集計】

地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、民生委員児童委員協議会、居宅介護支援事業所では「本人の話から」がそれぞれ、58.3%、59.0%、83.8%、75.5%と高くなっている。



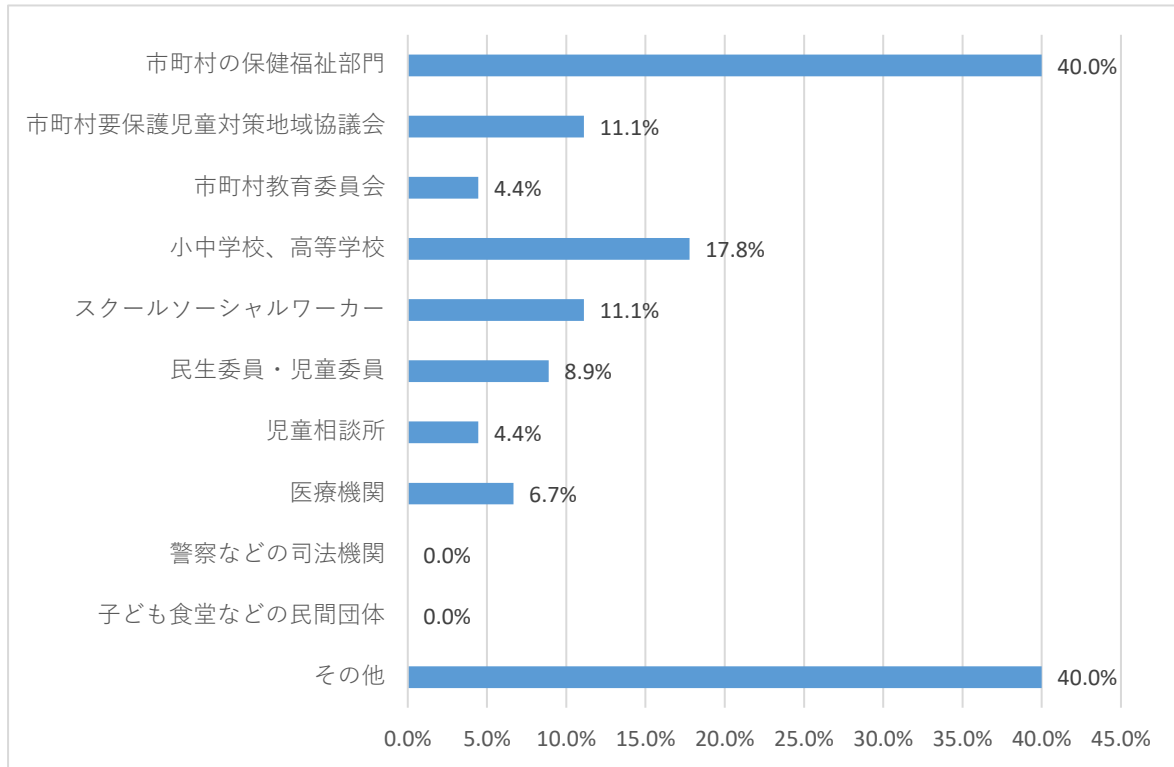
*無回答は、n=2

II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(1-3) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者を知ったきっかけとなった関係機関・関係者

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者を「ほかの関係機関、関係者から知った」と回答した支援機関に、きっかけとなった関係機関・関係者について聞いたところ、「市町村の保健福祉部門」が40.0%、次いで「小中学校、高等学校」が17.8%となっている。
(複数回答)



(複数回答)

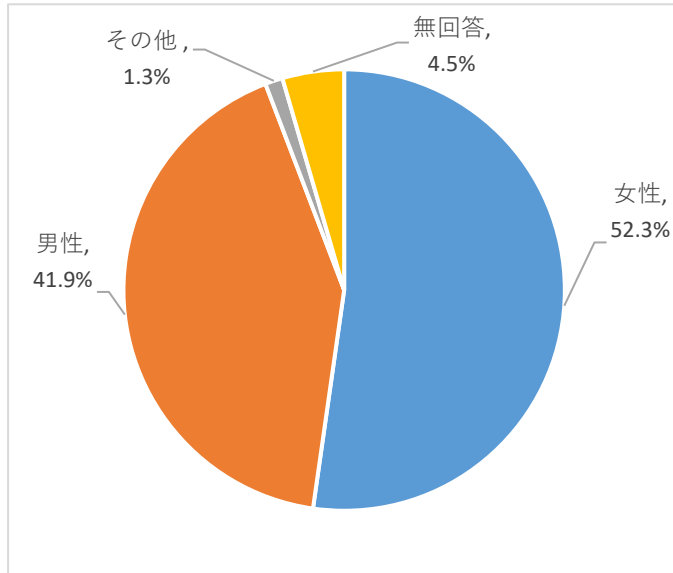
項目	回答数	割合
市町村の保健福祉部門	18	40.0%
市町村要保護児童対策地域協議会	5	11.1%
市町村教育委員会	2	4.4%
小中学校、高等学校	8	17.8%
スクールソーシャルワーカー	5	11.1%
民生委員・児童委員	4	8.9%
児童相談所	2	4.4%
医療機関	3	6.7%
警察などの司法機関	0	0.0%
子ども食堂などの民間団体	0	0.0%
その他	18	40.0%
回答者数	45	—
非該当	432	—
合計	477	—

II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(1-4) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の性別

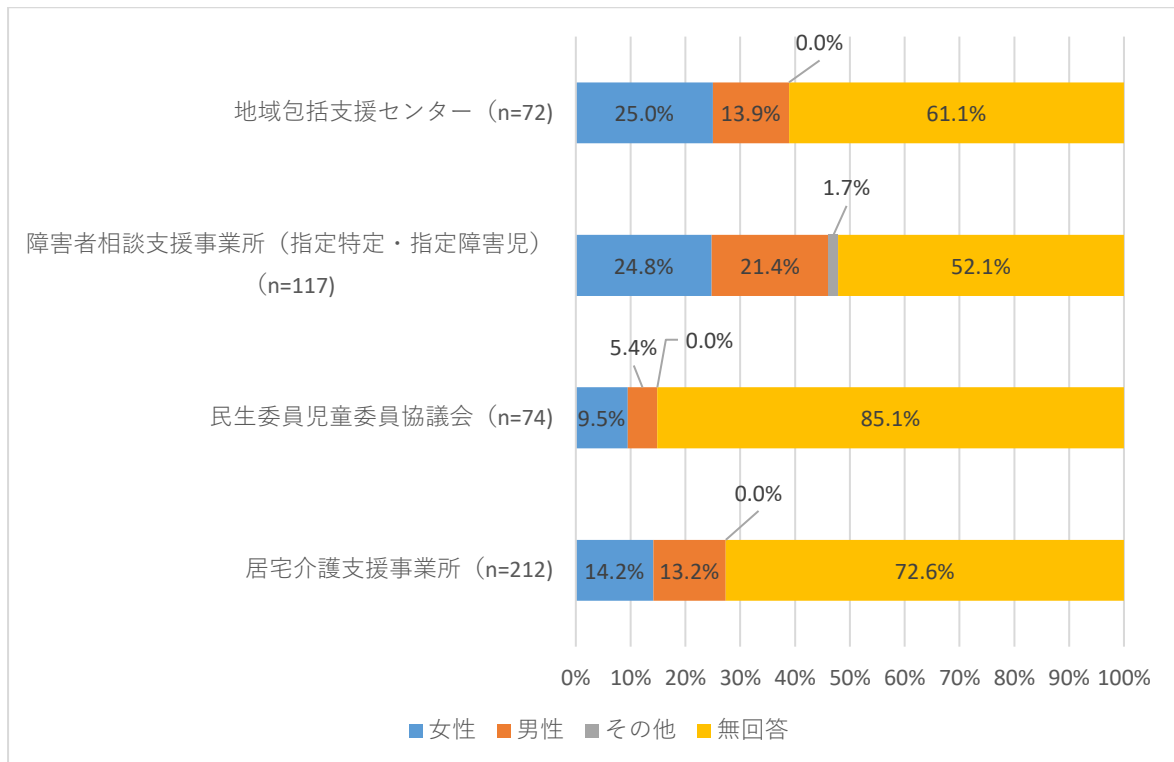
ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の性別については、「女性」が 52.3%、「男性」が 41.9%となっている。



項目	回答数	割合
女性	81	52.3%
男性	65	41.9%
その他	2	1.3%
無回答	7	4.5%
回答者数	155	—
非該当	322	—
合計	477	—

【支援機関別集計】

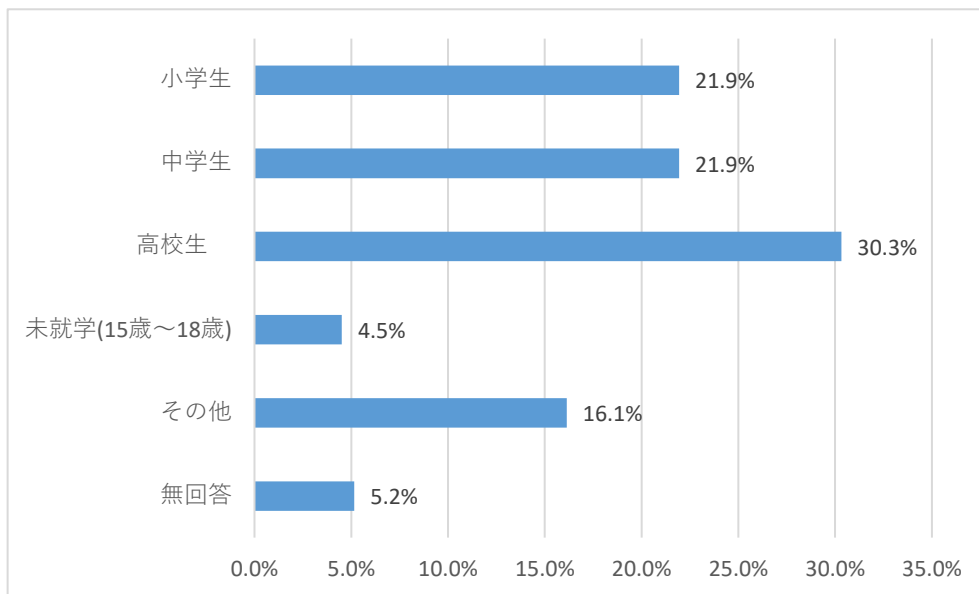
地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、民生委員児童委員協議会、居宅介護支援事業所では「女性」がそれぞれ、25.0%、24.8%、9.5%、14.2%となっており、各支援機関とも男性より高くなっている。



*無回答は、n=2

(1-5) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の年代

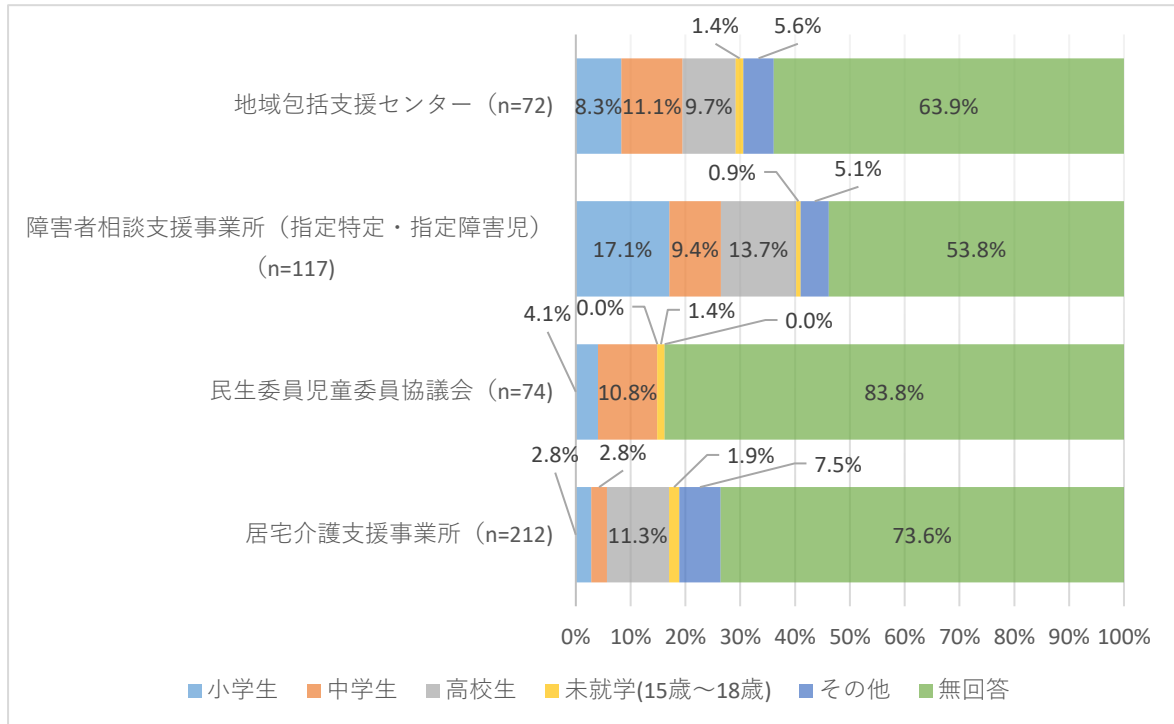
ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の年代については、「高校生」が30.3%で最も高く、次いで「小学生」「中学生」が21.9%となっている。



項目	回答数	割合
小学生	34	21.9%
中学生	34	21.9%
高校生	47	30.3%
未就学(15歳～18歳)	7	4.5%
その他	25	16.1%
無回答	8	5.2%
回答者数	155	—
非該当	322	—
合計	477	—

【支援機関別集計】

地域包括支援センター、民生委員児童委員協議会では、「中学生」がそれぞれ 11.1%、10.8% となっており、障害者相談支援事業所では「小学生」が 17.1%、居宅介護支援事業所では「高校生」が 11.3% と高くなっている。

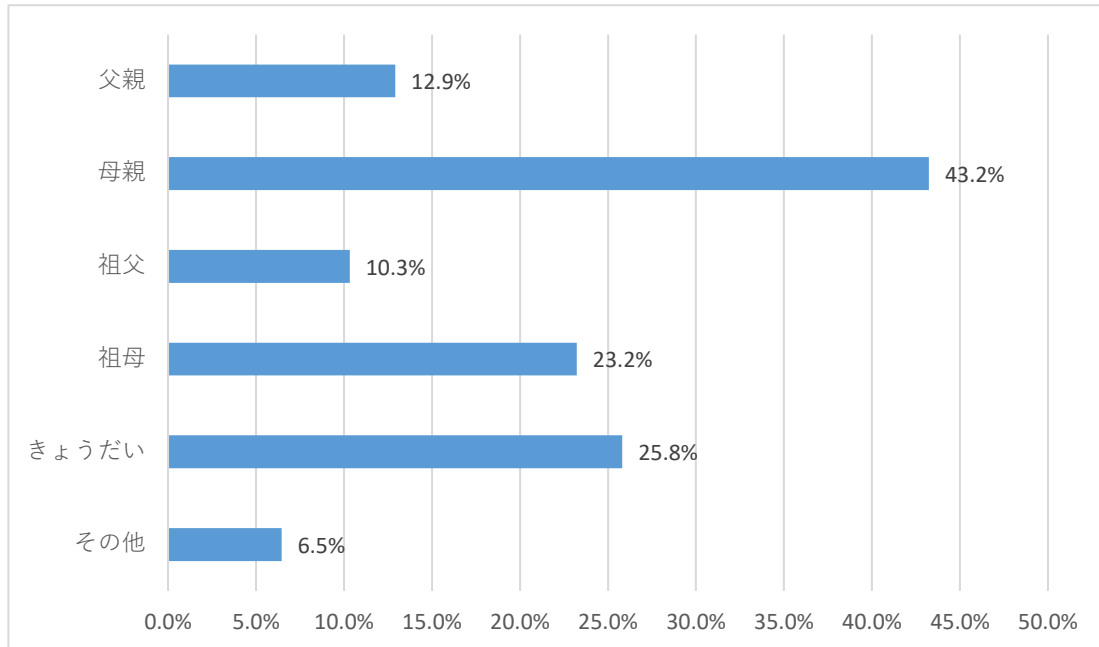


*無回答は、n=2

(1-6) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの相手

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの相手については、「母親」が43.2%で最も高く、次いで「きょうだい」が25.8%、「祖母」が23.2%となっている。

(複数回答)

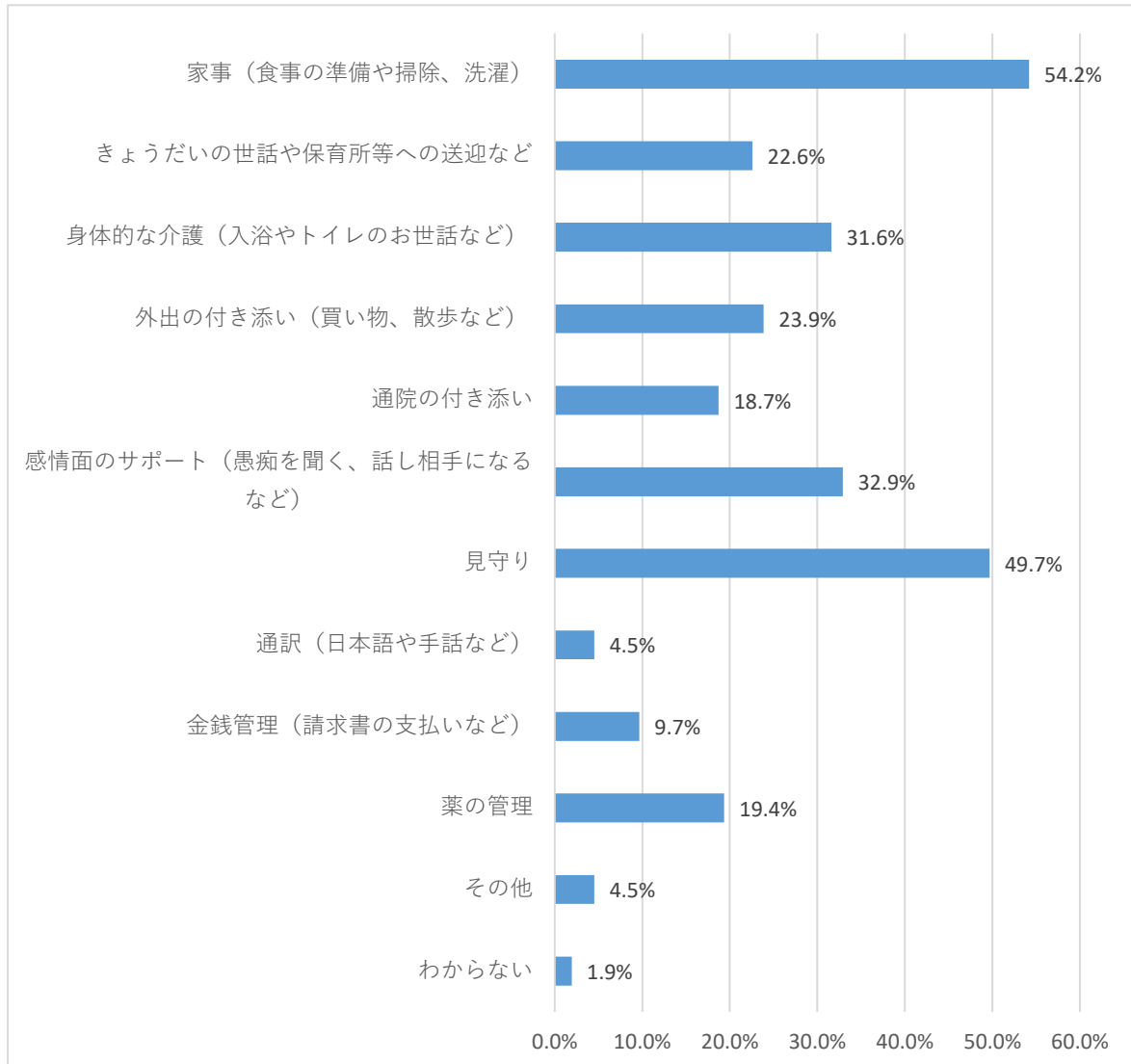


項目	回答数	割合
父親	20	12.9%
母親	67	43.2%
祖父	16	10.3%
祖母	36	23.2%
きょうだい	40	25.8%
その他	10	6.5%
回答者数	155	—
非該当	322	—
合計	477	—

(1-7) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの内容

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの内容については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が54.2%で最も高く、次いで「見守り」が49.7%、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」が32.9%となっている。

(複数回答)



II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

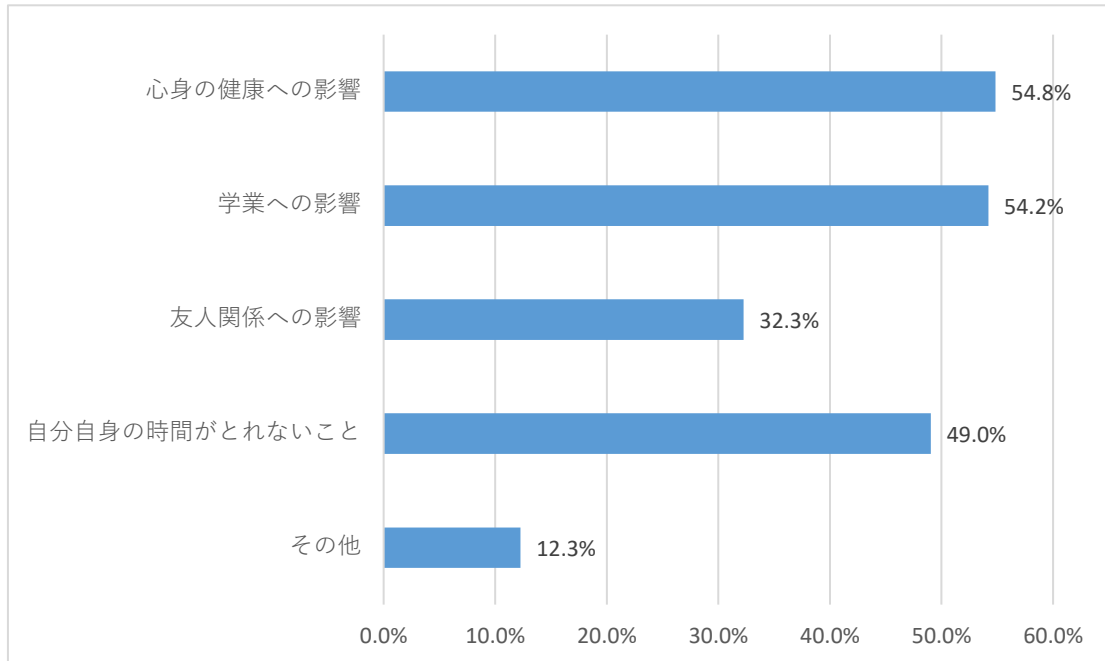
(複数回答)

項目	回答数	割合
家事（食事の準備や掃除、洗濯）	84	54.2%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	35	22.6%
身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	49	31.6%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	37	23.9%
通院の付き添い	29	18.7%
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	51	32.9%
見守り	77	49.7%
通訳（日本語や手話など）	7	4.5%
金銭管理（請求書の支払いなど）	15	9.7%
薬の管理	30	19.4%
その他	7	4.5%
わからない	3	1.9%
回答者数	155	—
非該当	322	—
合計	477	—

(1-8) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者へのケアによる影響

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者へのケアによる影響については、「心身の健康への影響」が 54.8%で最も高く、次いで「学業への影響」が 54.2%、「自分自身の時間がとれないこと」が 49.0%となっている。

(複数回答)



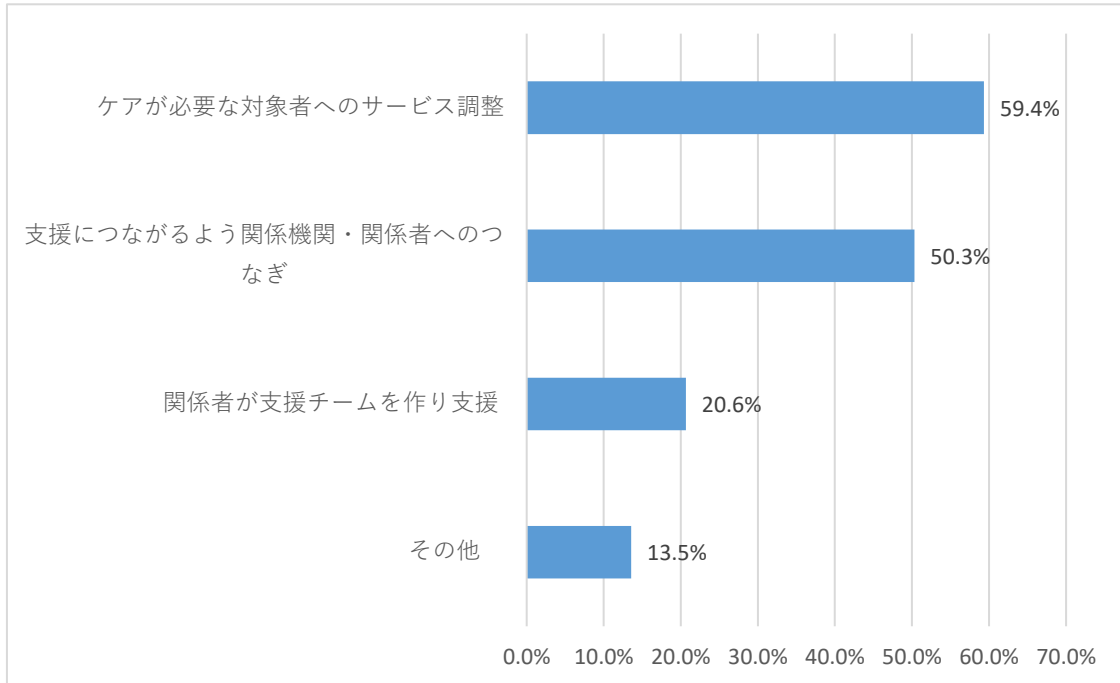
項目	回答数	割合
心身の健康への影響	85	54.8%
学業への影響	84	54.2%
友人関係への影響	50	32.3%
自分自身の時間がとれないこと	76	49.0%
その他	19	12.3%
回答者数	155	—
非該当	322	—
合計	477	—

II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(1-9) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者への支援の内容

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者への支援の内容については、「ケアが必要な対象者へのサービス調整」が59.4%で最も高く、次いで「支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」が50.3%となっている。
(複数回答)



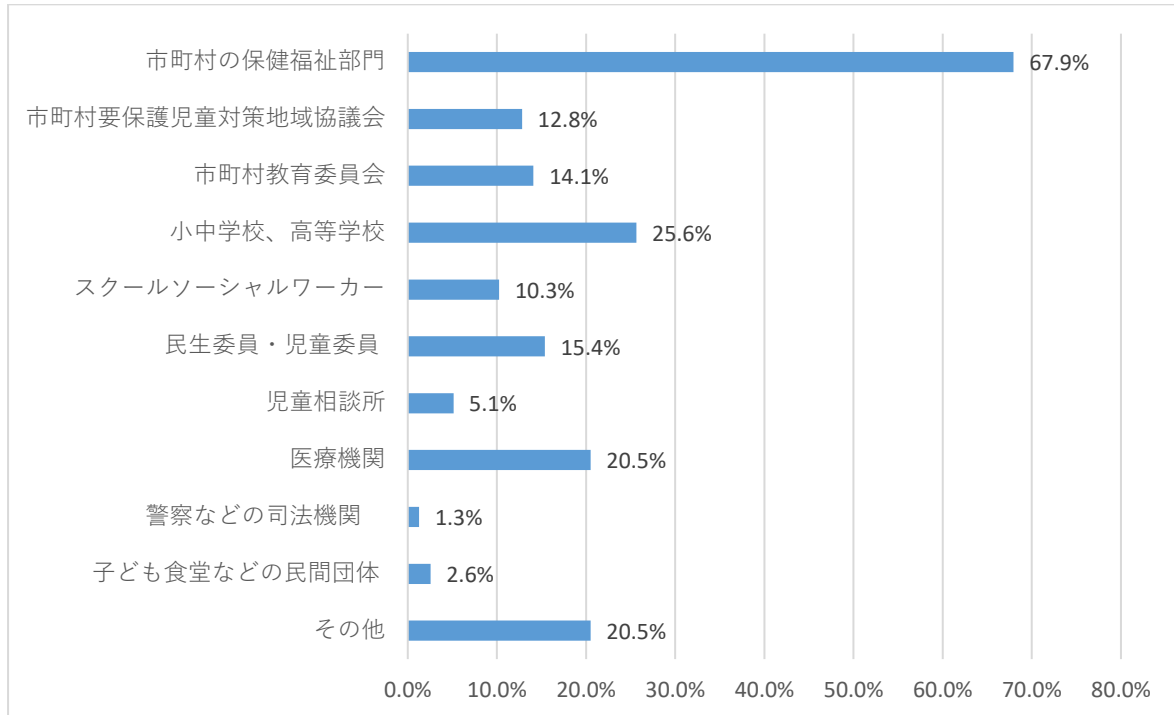
(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアが必要な対象者へのサービス調整	92	59.4%
支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ	78	50.3%
関係者が支援チームを作り支援	32	20.6%
その他	21	13.5%
回答者数	155	—
非該当	322	—
合計	477	—

(1-10) 支援へつないだ関係機関・関係者

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者への支援の内容について「支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」と回答した支援機関に、支援へつないだ関係機関・関係者について聞いたところ、「市町村の保健福祉部門」が 67.9%で最も高く、次いで「小中学校、高等学校」が 25.6%、「医療機関」が 20.5%となっている。

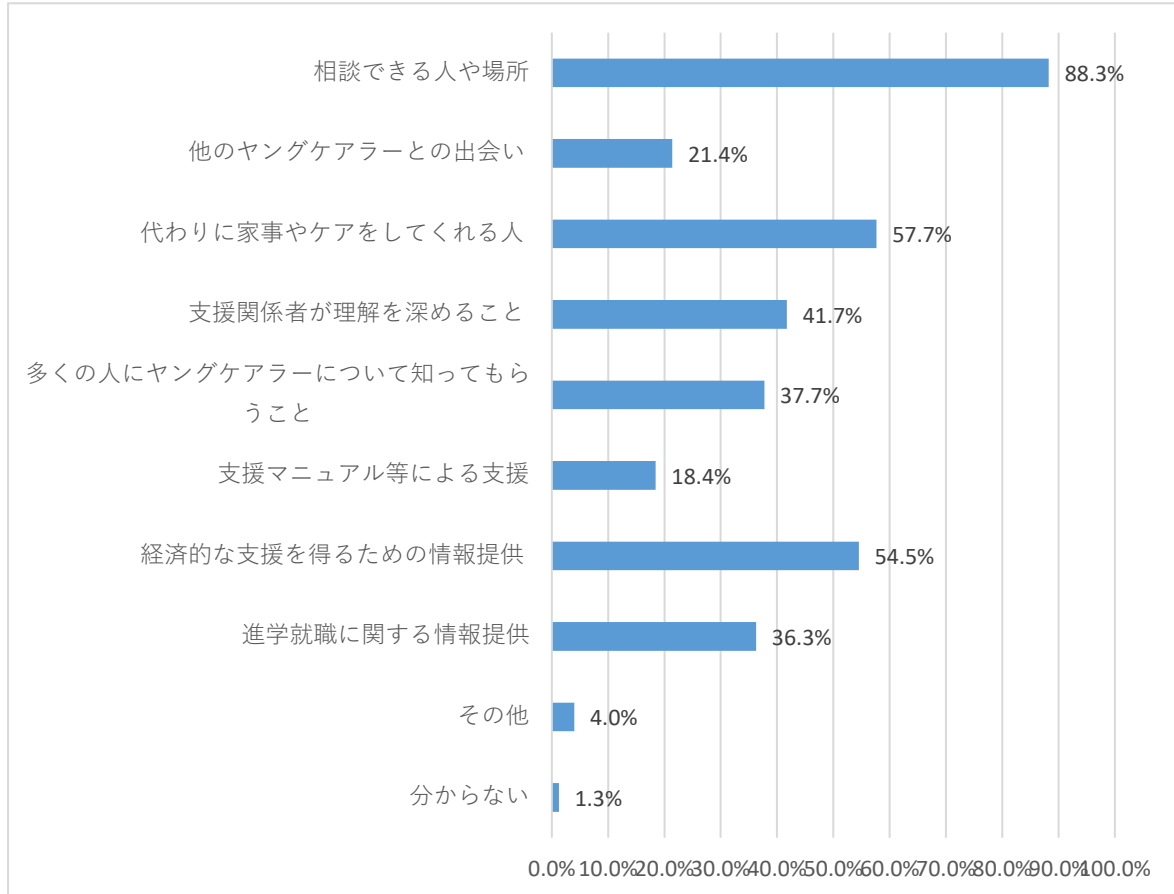
(複数回答)



項目	回答数	割合
市町村の保健福祉部門	53	67.9%
市町村要保護児童対策地域協議会	10	12.8%
市町村教育委員会	11	14.1%
小中学校、高等学校	20	25.6%
スクールソーシャルワーカー	8	10.3%
民生委員・児童委員	12	15.4%
児童相談所	4	5.1%
医療機関	16	20.5%
警察などの司法機関	1	1.3%
子ども食堂などの民間団体	2	2.6%
その他	16	20.5%
回答者数	78	—
非該当	399	—
合計	477	—

(2) ヤングケアラーである対象者に求められるサポート

ヤングケアラーである対象者に求められるサポートについては、「相談できる人や場所」が88.3%で最も高く、次いで「代わりに家事やケアをしてくれる人」が57.7%、「経済的な支援を得るための情報提供」が54.5%となっている。(複数回答)



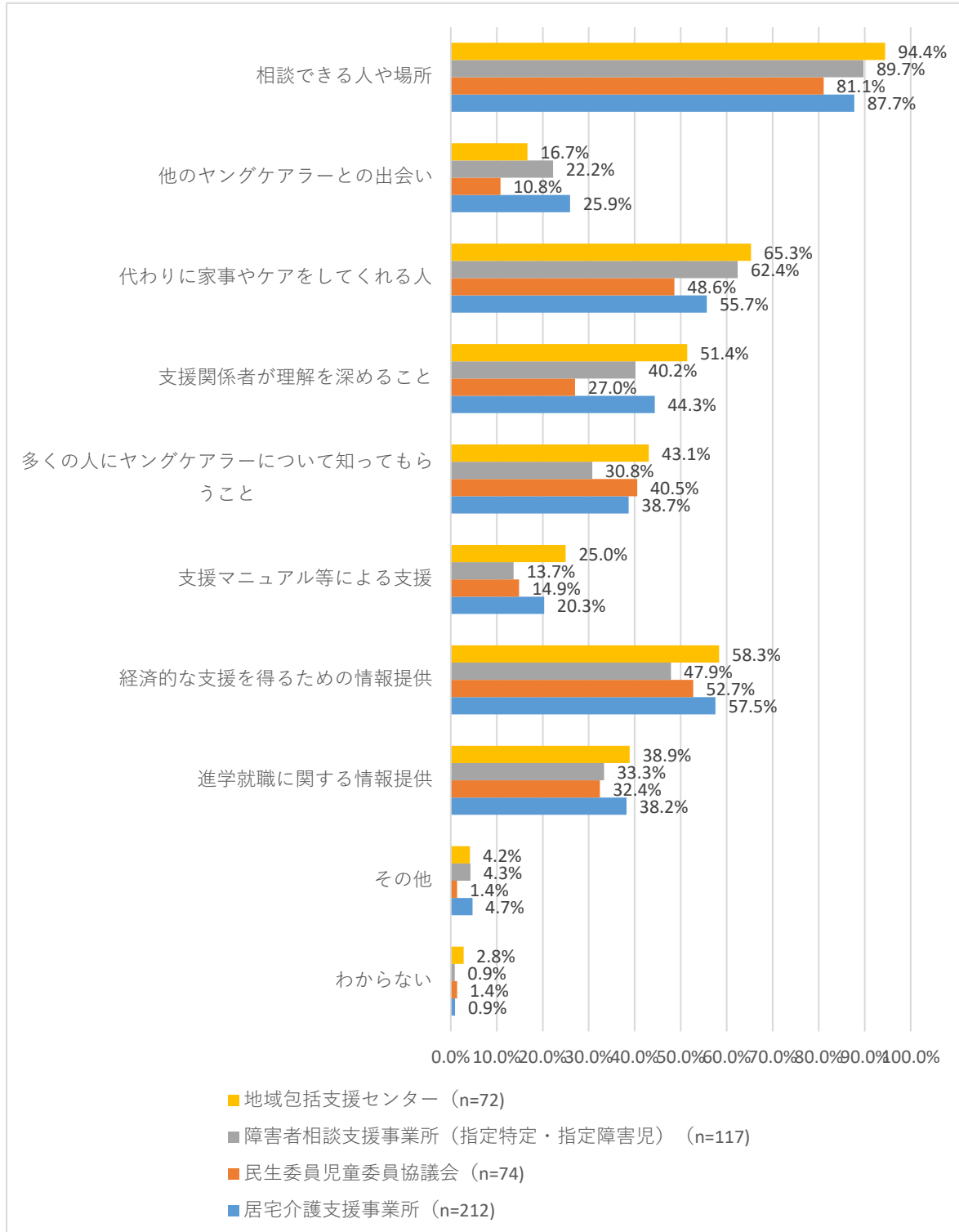
(複数回答)

項目	回答数	割合
相談できる人や場所	421	88.3%
他のヤングケアラーとの出会い	102	21.4%
代わりに家事やケアをしてくれる人	275	57.7%
支援関係者が理解を深めること	199	41.7%
多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうこと	180	37.7%
支援マニュアル等による支援	88	18.4%
経済的な支援を得るための情報提供	260	54.5%
進学就職に関する情報提供	173	36.3%
その他	19	4.0%
分からない	6	1.3%
回答者数	477	—

【支援機関別集計】

いずれの支援機関でも「相談できる人や場所」が最も高く、それぞれ 94.4%、89.7%、88.1%、87.7%となっている。

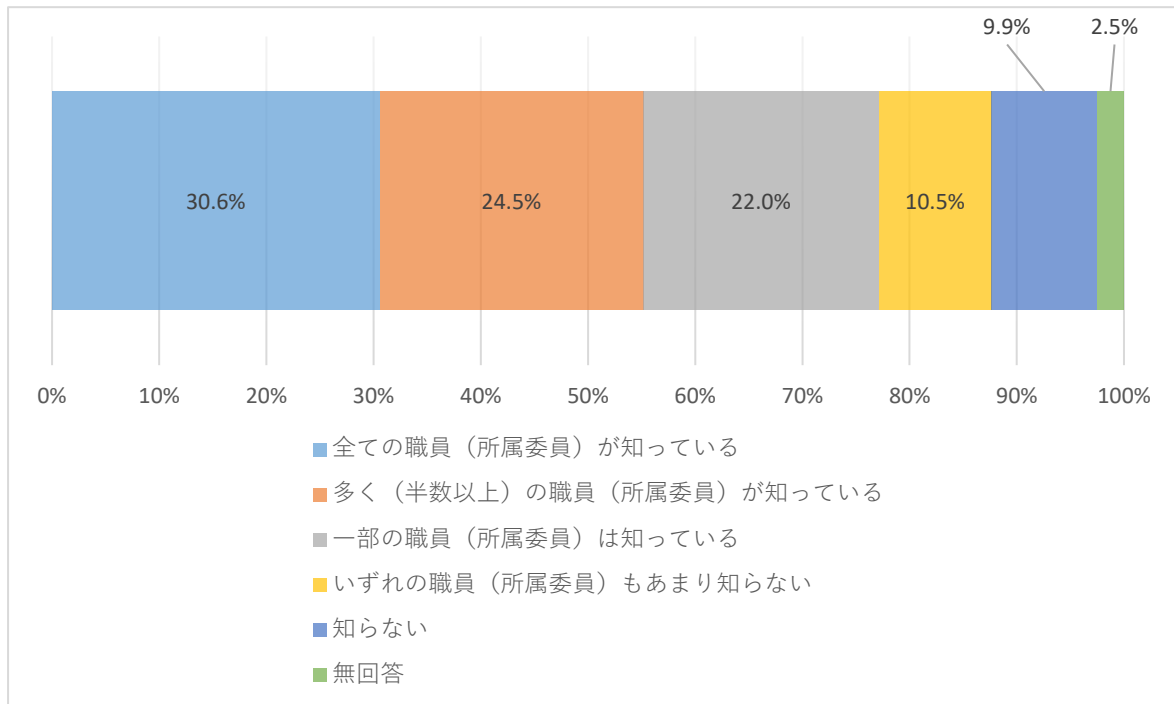
(複数回答)



*無回答は、n=2

(3) 「ダブルケア」という言葉の認知度

「ダブルケア」という言葉の認知度については、「全ての職員（所属委員）が知っている」が30.6%と最も高く、次いで「多く（半数以上）の職員（所属委員）は知っている」が24.5%となっている。



項目	回答数	割合
全ての職員（所属委員）が知っている	146	30.6%
多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている	117	24.5%
一部の職員（所属委員）は知っている	105	22.0%
いずれの職員（所属委員）もあまり知らない	50	10.5%
知らない	47	9.9%
無回答	12	2.5%
回答者数	477	100.0%

Ⅲ 資料編（調査票）

- 1 ケアラー調査票（当事者（高齢者））
- 2 ケアラー調査票（当事者（障害者））
- 3 ケアラー調査票（当事者（ダブルケア））
- 4 ケアラー調査票（ケアラー支援団体）
- 5 ケアラー調査票（支援機関・共通）

調査票の見本です。実際の回答はWEBでお願いします。

ケアラー支援に係る実態調査票（当事者（高齢者のケアラー））

調査へのご協力をお願い

○県では、「茨城県ケアラー・ヤングケアラーを支援し、共に生きやすい社会を実現するための条例」を制定(令和3年12月14日施行)し、ケアラー支援の各種取組を進めております。

○この度、ケアラーの実態を把握し、今後の取組を検討するため、調査を行うこととしました。

○この調査は無記名で行います。本調査へのご協力をよろしくお願いします。

*本アンケートは、当事者（高齢者のケアラー）用です。既に当事者（障害者のケアラー）用のアンケートに回答済みの場合は、本アンケートにお答えいただく必要はありません。（ケアをしている相手が高齢者と障害者の両方に該当する場合）

*各問においては、、（レ点、塗りつぶし）又は記述での回答をお願いします。

*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。また、「ケア」を行う方を「ケアラー」と言います。

1 あなた（ケアラー）ご自身について

n=217

（1-1）あなたの性別を教えてください。

男性 65 女性 148 その他 0 未選択 4

（1-2）あなたの年齢を教えてください。

- 10歳未満 0
 10～19歳 2
 20～29歳 1
 30～39歳 8

- 40～49 歳 1
- 50～59 歳 4
- 60～69 歳 7
- 70～79 歳 36
- 80～89 歳 103
- 90 歳以上 52 / 未回答 11

2 人目

- 10 歳未満 0
- 10～19 歳 0
- 20～29 歳 1
- 30～39 歳 0
- 40～49 歳 2
- 50～59 歳 3
- 60～69 歳 1
- 70～79 歳 10
- 80～89 歳 23
- 90 歳以上 7 / 未回答 170

3 人目

- 10 歳未満 0
- 10～19 歳 1
- 20～29 歳 0
- 30～39 歳 0
- 40～49 歳 0
- 50～59 歳 0
- 60～69 歳 2

- 70～79 歳 2
- 80～89 歳 2
- 90 歳以上 1 / 未回答 209

(8) ケアを受けている方は、現在どのような場所で生活していますか。選択肢の中から番号を選んで記入してください。⑤その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①)

1 人目 (別紙) 2 人目 () 3 人目 ()

選択肢：①在宅（同居） ②在宅（別居）※敷地内別棟、親族等の住宅も含む

③施設入所（居）中 ④病院に入院中

⑤その他 []

(9) ケアをしている相手の状況について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑪その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①、②)

1 人目 (別紙) 2 人目 () 3 人目 ()

選択肢：①身体の老化 ②認知症 ③身体障害 ④知的障害 ⑤依存症（アルコールや薬物など。依存症の疑いも含む） ⑥精神障害（依存症を除く。精神障害の疑いも含む）

⑦重症心身障害 ⑧医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の管理、痰の吸引など）

⑨難病 ⑩ひきこもり

⑪その他 []

(10) あなたが行っているケアの内容について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑫その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：

①、⑥)

1 人目 (別紙) 2 人目 () 3 人目 ()

選択肢：①買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている

②買い物同行などの外出の援助をしている

③通院の援助をしている

④ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている

⑤屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている

⑥本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている

- ⑦徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている
- ⑧服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている
- ⑨経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている
- ⑩役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている
- ⑪趣味や余暇の支援をしている
- ⑫その他 []

(11) 利用している(したことがある)サービスについて教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑦その他の場合は、数字と詳細を記入してください。

(例：⑧、⑬)

1人目(別紙) 2人目() 3人目()

選択肢：①通所サービス(デイサービス・デイケア等) ②訪問サービス(介護、看護等)

③宿泊サービス(ショートステイ等) ④移送支援サービス

⑤介護者サロン・カフェ等 ⑥利用していない

⑦その他 []

(12) あなたがケアをしている頻度はどれくらいですか？

毎日 128 週4～6日 6 週2～3日 29 週1日 16 月に数日 12 その他 7/

未回答 19

(13) あなたが1日にケアをしている時間はどれくらいですか？

1時間未満 26 1時間以上2時間未満 45 2時間以上4時間未満 59

4時間以上6時間未満 36 6時間以上8時間未満 11 8時間以上 22/未回答 18

(14) あなたがケアをするようになってどのくらいたちますか？

20年以上 7 10年以上20年未満 26 5年以上10年未満 50

3年以上5年未満 35 1年以上3年未満 59 1年未満 22/未回答 18

3 あなた(ケアラー)ご自身のケアの影響について

(15-1) あなたの健康や健康維持の状態について教えてください。(複数回答可)

身体的不調がある 84 精神的不調がある 59 睡眠不足である 58 通院している 81

持病があるが通院できない7 健康診断に行く時間が取れない7 休養がとれない70
運動不足である46 その他8[] 特に問題ない37

(15-2) あなたは、年に1度、健康診断を受けていますか。

受けている168 受けていない37/未回答12

(16) あなたは、自分のための時間(趣味や休息など)を充分にとれていますか?

とれている30 まあまあとれている76 あまりとれていない81 全くとれていない18
/未回答12

(17) ケアにより就労状況は変化しましたか?

ケアのために退職した⇒(18-2)へ11 ケアのために勤務時間を減らした22
ケアのために転職した8 ケアのために就労経験が無い10
ケアによる就労状況の変化はない122 /未回答44

(18-1) 就労を続けられている理由(複数回答可)※就労を続けている方のみ回答

各種サービスの利用47 家族のサポート57 勤務時間の短縮17
配置転換・勤務地変更2 転職7 介護休暇の取得8
相談先(相談相手)を紹介してもらったから3
生活上の工夫42 仕事を続けたいというモチベーション39
経済的な理由57 わからない10 その他10[]

(18-2) ケアを機に退職した理由(複数回答可)※ケアのために退職された方のみ回答

身体的疲労3 精神的疲労3 代わりにケアを担う人がいない9
サービスが利用できなくなった0 サービスは利用しているが、足りない部分がある2
業務が多忙でケアの時間がとれない2 介護と両立できる職場環境ではなかった2
退職を勧められた0 その他4[]

(19) あなたにとって、ケアを必要としている人のケアをすることがどのくらい負担になっていますか?

大変負担になっている49 やや負担になっている110
あまり負担になっていない36 全く負担になっていない10/未回答12

6 ダブルケアについて

(26) あなたは、「ダブルケア」という言葉の概念を知っていますか。

- 言葉とその概念を知っている 53
- 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない 44
- 言葉を知らない 106 / 未回答 14

(27) あなたは、育児と介護を同時に担う、ダブルケアを行っていますか。

- 行っている 26
- 行っていない 185 / 未回答 6

7 その他

(28) ケアラーにとっての悩みや行政や関係機関等への要望をご自由にお書きください。

以上で調査は終わりです。御協力ありがとうございました。

(回答済みボタンを押下後、以下を表示)

※(27)で、ダブルケアを「行っている」と回答した方は、お手数ですが、ダブルケアに関するアンケートにもご協力いただければ幸いです。

URL :

<https://0a61418f.form.kintoneapp.com/public/double3>

別紙 ケアラー支援に係る実態調査（高齢者のケアラー用）

n=217

(2)ケアラーを含めた同居人数

	人数
1人	18
2人	80
3人	51
4人	42
5人	13
6人以上	8
無回答	5

(5)ケアラーから見た被介護者との関係（続柄）

	1人目	2人目	3人目
父親（実父、義父含む）	45	14	1
母親（実母、義母含む）	86	22	3
夫	35	1	0
妻	21	1	1
祖父	1	0	0
祖母	3	1	0
その他	16	7	3
無回答	10	171	209

(6)被介護者の性別

	1人目	2人目	3人目
男性	82	19	4
女性	116	28	4
その他	0	0	0
無回答	19	170	209

(8)被介護者の生活場所

	1人目	2人目	3人目
在宅（同居）	135	21	4
在宅（別居）※敷地内別棟、 親族等の住宅も含む	57	21	4
施設入所（居）中	7	6	0
病院に入院中	4	1	0
その他	1	0	0
無回答	13	168	209

(9)被介護者の状況（複数回答）

状況	1人目	2人目	3人目
身体の老化	150	31	4
認知症	96	17	1
身体障害	39	7	1
知的障害	3	4	0
依存症（アルコールや薬物など。依存 症の疑いも含む）	4	0	0
精神障害（依存症を除く。精神障害の 疑いも含む）	11	3	1
重症心身障害	2	1	1
医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の 管理、痰の吸引など）	6	1	0
難病	8	0	2
ひきこもり	8	3	2
その他	15	2	0

(10)ケアラーが行っているケアの内容（複数回答）

ケアの内容	1人目	2人目	3人目
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている	159	26	3
買い物同行などの外出の援助をしている	90	18	2
通院の援助をしている	153	25	5
A T Mでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている	127	21	2
屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている	64	7	1
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている	127	19	5
徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている	35	2	2
服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている	86	8	3
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている	5	0	0
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている	126	27	1
趣味や余暇の支援をしている	38	7	1
その他	9	2	0

(11)利用している（したことがある）サービス（複数回答）

サービス	1人目	2人目	3人目
通所サービス（デイサービス・デイケア等）	128	13	2
訪問サービス（介護、看護等）	45	9	3
宿泊サービス（ショートステイ等）	37	8	0
移送支援サービス	7	1	0
介護者サロン・カフェ等	3	1	1
利用していない	40	19	1
その他	30	5	2

調査票の見本です。実際の回答はWEBでお願いします。

ケアラー支援に係る実態調査票（当事者（障害者のケアラー））

調査へのご協力をお願い

○県では、「茨城県ケアラー・ヤングケアラーを支援し、共に生きやすい社会を実現するための条例」を制定(令和3年12月14日施行)し、ケアラー支援の各種取組を進めております。

○この度、ケアラーの実態を把握し、今後の取組を検討するため、調査を行うこととしました。

○この調査は無記名で行います。本調査へのご協力をよろしくお願いします。

*本アンケートは、当事者（障害者のケアラー）用です。既に当事者（高齢者のケアラー）用のアンケートに回答済みの場合は、本アンケートにお答えいただく必要はありません。（ケアをしている相手が高齢者と障害者の両方に該当する場合）

*各問においては、、（レ点、塗りつぶし）又は記述での回答をお願いします。

*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。また、「ケア」を行う方を「ケアラー」と言います。

n=84

1 あなた（ケアラー）ご自身について

（1-1）あなたの性別を教えてください。

男性 15 女性 62 その他 2 /無回答 5

（1-2）あなたの年齢を教えてください。

- 10歳未満 0
- 10～19歳 1
- 20～29歳 5
- 30～39歳 8

- 40～49 歳 7
- 50～59 歳 3
- 60～69 歳 5
- 70～79 歳 5
- 80～89 歳 6
- 90 歳以上 2 / 無回答 5

2 人目

- 10 歳未満 4
- 10～19 歳 1
- 20～29 歳 1
- 30～39 歳 1
- 40～49 歳 2
- 50～59 歳 3
- 60～69 歳 1
- 70～79 歳 0
- 80～89 歳 3
- 90 歳以上 0 / 無回答 68

3 人目

- 10 歳未満 1
- 10～19 歳 1
- 20～29 歳 1
- 30～39 歳 0
- 40～49 歳 0
- 50～59 歳 1
- 60～69 歳 0

- 70～79 歳 1
- 80～89 歳 2
- 90 歳以上 0 / 無回答 77

(8) ケアを受けている方は、現在どのような場所で生活していますか。選択肢の中から番号を選んで記入してください。⑤その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①)

1 人目 (別紙) 2 人目 () 3 人目 ()

選択肢：①在宅（同居） ②在宅（別居）※敷地内別棟、親族等の住宅も含む

③施設入所（居）中 ④病院に入院中

⑤その他 []

(9) ケアをしている相手の状況について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑩その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①、②)

1 人目 (別紙) 2 人目 () 3 人目 ()

選択肢：①身体障害 ②知的障害 ③発達障害（知的障害を伴わない）

④依存症（アルコールや薬物など。依存症の疑いも含む） ⑤精神障害（依存症を除く。

精神障害の疑いも含む） ⑥重症心身障害 ⑦医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の管

理、痰の吸引など） ⑧難病 ⑨ひきこもり

⑩その他 []

(10) あなたが行っているケアの内容について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑫その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：

①、⑥)

1 人目 (別紙) 2 人目 () 3 人目 ()

選択肢：①買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている

②買い物同行などの外出の援助をしている

③通院の援助をしている

④ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている

⑤屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている

⑥本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている

- ⑦徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている
- ⑧服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている
- ⑨経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている
- ⑩役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている
- ⑪趣味や余暇の支援をしている
- ⑫その他 []

(11) 利用している(したことがある)サービスについて教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑥その他の場合は、数字と詳細を記入してください。

(例：②、④)

1人目(別紙) 2人目() 3人目()

選択肢：①通所サービス(生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等)

②居宅サービス(訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)

③ショートステイ(短期入所) ④移送支援 ⑤利用していない

⑥その他 []

(12) あなたがケアをしている頻度はどれくらいですか？

毎日 57 週4～6日 4 週2～3日 4 週1日 2 月に数日 5 その他 4 / 無回答 8

(13) あなたが1日にケアをしている時間はどれくらいですか？

1時間未満 3 1時間以上2時間未満 7 2時間以上4時間未満 13

4時間以上6時間未満 14 6時間以上8時間未満 6 8時間以上 31 / 無回答 10

(14) あなたがケアをするようになってどのくらいたちますか？

20年以上 36 10年以上20年未満 15 5年以上10年未満 9

3年以上5年未満 2 1年以上3年未満 7 1年未満 4 / 無回答 11

3 あなた(ケアラー)ご自身のケアの影響について

(15-1) あなたの健康や健康維持の状態について教えてください。(複数回答可)

身体的不調がある 31 精神的不調がある 24 睡眠不足である 28 通院している 31

持病があるが通院できない 3 健康診断に行く時間が取れない 1 休養がとれない 16

運動不足である 22 その他 0[特に問題ない 17

(15-2) あなたは、年に1度、健康診断を受けていますか。

受けている 47 受けていない 27 /無回答 10

(16) あなたは、自分のための時間(趣味や休息など)を充分にとれていますか？

とれている 16 まあまあとれている 28 あまりとれていない 30 全くとれていない 6
/無回答 4

(17) ケアにより就労状況は変化しましたか？

ケアのために退職した⇒(18-2)へ 8 ケアのために勤務時間を減らした 21

ケアのために転職した 4 ケアのために就労経験が無い 13

ケアによる就労状況の変化はない 24 /無回答 14

(18-1) 就労を続けられている理由(複数回答可) ※就労を続けている方のみ回答

各種サービスの利用 25 家族のサポート 22 勤務時間の短縮 20

配置転換・勤務地変更 0 転職 3 介護休暇の取得 3

相談先(相談相手)を紹介してもらったから 3

生活上の工夫 10 仕事を続けたいというモチベーション 10

経済的な理由 17 わからない 1 その他 6[]

(18-2) ケアを機に退職した理由(複数回答可) ※ケアのために退職された方のみ回答

身体的疲労 2 精神的疲労 1 代わりにケアを担う人がいない 6

サービスが利用できなくなった 1 サービスは利用しているが、足りない部分がある 2

業務が多忙でケアの時間がとれない 1 介護と両立できる職場環境ではなかった 1

退職を勧められた 1 その他 0[]

(19) あなたにとって、ケアを必要としている人のケアをすることがどのくらい負担になっていますか？

大変負担になっている 18 やや負担になっている 39

あまり負担になっていない 21 全く負担になっていない 2 /無回答 4

6 ダブルケアについて

(26) あなたは、「ダブルケア」という言葉の概念を知っていますか。

- 言葉とその概念を知っている 8
- 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない 25
- 言葉を知らない 46 / 無回答 5

(27) あなたは、育児と介護を同時に担う、ダブルケアを行っていますか。

- 行っている 8
- 行っていない 65 / 無回答 11

7 その他

(28) ケアラーにとっての悩みや行政や関係機関等への要望をご自由にお書きください。

以上で調査は終わりです。御協力ありがとうございました。

(回答済みボタンを押下後、以下を表示)

※(27)で、ダブルケアを「行っている」と回答した方は、お手数ですが、ダブルケアに関するアンケートにもご協力いただければ幸いです。

URL :

<https://0a61418f.form.kintoneapp.com/public/double3>

別紙 ケアラー支援に係る実態調査（障害者のケアラー用）

n=84

(2)ケアラーを含めた同居人数

	人数
1人	5
2人	7
3人	36
4人	18
5人	11
6人以上	3
無回答	4

(5)ケアラーから見た被介護者との関係（続柄）

	1人目	2人目	3人目
父親（実父、義父含む）	5	1	2
母親（実母、義母含む）	11	3	0
夫	3	0	0
妻	1	0	0
祖父	1	0	0
祖母	0	1	1
その他	58	11	4
無回答	5	68	77

(6)被介護者の性別

	1人目	2人目	3人目
男性	48	9	2
女性	29	7	5
その他	0	0	0
無回答	7	68	77

(8)被介護者の生活場所

	1人目	2人目	3人目
在宅（同居）	65	12	6
在宅（別居）※敷地内別棟、 親族等の住宅も含む	6	3	1
施設入所（居）中	7	2	0
病院に入院中	0	0	0
その他	0	0	0
無回答	6	67	77

(9)被介護者の状況（複数回答）

状況	1人目	2人目	3人目
身体障害	21	7	2
知的障害	39	4	2
発達障害（知的障害を伴わない）	18	5	1
[依存症（アルコールや薬物など。依 存症の疑いも含む）	5	0	1
精神障害（依存症を除く。精神障害の 疑いも含む）	10	2	1
重症心身障害	8	0	0
医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の 管理、痰の吸引など）	5	1	1
難病	7	1	1
ひきこもり	1	2	0
その他	8	2	2

(10)ケアラーが行っているケアの内容（複数回答）

ケアの内容	1人目	2人目	3人目
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている	57	13	5
買い物同行などの外出の援助をしている	45	9	3
通院の援助をしている	58	9	4
A T Mでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている	40	8	2
屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている	36	5	3
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている	55	10	5
徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている	9	1	0
服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている	39	5	4
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている	3	0	1
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている	61	12	3
趣味や余暇の支援をしている	43	8	3
その他	5	1	1

(11)利用している（したことがある）サービス（複数回答）

サービス	1人目	2人目	3人目
通所サービス（生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等）	59	9	4
居宅サービス（訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護）	18	2	1
ショートステイ（短期入所）	23	3	0
移送支援	6	1	0
利用していない	8	7	4
その他	7	0	0

調査票の見本です。実際の回答はWEBでお願いします。

育児と介護のダブルケアに関するアンケート

調査へのご協力をお願い

○県では、「茨城県ケアラー・ヤングケアラーを支援し、共に生きやすい社会を実現するための条例」を制定(令和3年12月14日施行)し、ケアラー支援の各種取組を進めております。

○この度、ダブルケアの実態を把握し、今後の取組を検討するため、調査を行うこととしました。

○この調査は無記名で行います。本調査へのご協力をよろしくお願いします。

本アンケート調査では、育児と介護を同時に行うことをダブルケアといい、このダブルケアを担っている方(以下「ダブルケア者」という。)を対象にアンケート調査を行います。

ダブルケアに該当する方は、問1からの質問にお答えください。(本アンケートへの回答は、1人1回となります。複数の施設から依頼があった場合も、1度回答したことがある方は重複してお答えいただく必要はありません。)

※このアンケートで「育児」とは、小学校就学前の未就学児の育児を指し、孫や他の子の世話などは含みません。

※このアンケートで「介護」とは、40歳以上の家族(ご自身や配偶者の父母や祖父母)の世話(手助け)を指します。

※このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。また、「ケア」を行う方を「ケアラー」と言います。

n=1406

【予備質問】 このアンケートの依頼を受けた施設等をお答えください。

保育施設(幼稚園、保育所、認定こども園、無認可保育所) 1354

地域子育て支援拠点 4

地域包括支援センター(高齢者のケアラー調査に回答した方) 5

居宅介護支援事業所(高齢者のケアラー調査に回答した方) 3

障害者相談支援事業所（障害者のケアラー調査に回答した方）2

その他0（具体的に： ） /無回答 38

問1 あなたは、ふだんお子さん（小学校就学前の未就学児のご自身の子）の育児をされていますか。（ひとつだけ） **必須**

※ここでいう「ふだん育児をしている」とは以下のようなことを指します。

- ・ 乳児又は幼児の世話や見守り
 - ・ 幼稚園/保育所/認定こども園/無認可保育所/塾/習い事等の送迎、つきそい、見守りや勉強/遊び/習い事などの手伝いや練習の相手
 - ・ 保護者会等への出席
- など

はい 1,357

いいえ 46 *お子さんがいない場合はこちらをお選びください。 /無回答 3

※「いいえ」と回答された方は、ここで終了となります。

問2 あなたはふだん家族の介護を行っていらっしゃいますか。（ひとつだけ） **必須**

※「介護をしている」とは、日常生活における入浴・着替え・トイレ・移動・食事などの際に何らかの手助けをする場合をいいます。

※介護保険制度で要介護認定を受けていない人や、自宅外（敷地内別棟、親族等の住宅）にいる家族の介護も含みます。ただし、病気などで一時的に寝ている人に対する介護はこれに含みません。

※はっきりと決められない場合は、1年間に30日以上介護している場合を「ふだん家族の介護をしている」とします。

はい 92

いいえ 1,261 ※「いいえ」と回答された方は、ここで終了となります。 /無回答 53

※問1で、ふだん育児をしていると回答し、問2で、ふだん家族の介護を行っていると答えた方（両方に「はい」とお答えの方）は、本アンケートでの「ダブルケアを担っている方」に該当しますので、以下の問3からの質問にお答えください。

（これ以降、n=89）

問3-1 あなたが介護をしている方について、あなたからみた続柄をお答えください。

（ひとつだけ）必須

※介護をしている方が複数いらっしゃる場合、最も介護に時間を割いていらっしゃる方についてお答えください。

自分の親または配偶者の親 58

自分の祖父母または配偶者の祖父母 18 /無回答 13

問3-2 あなたが介護をしている方について、具体的にあてはまる続柄をすべてお答えください。

（複数回答可）

自分の父親 17

自分の母親 36

配偶者の父親 5

配偶者の母親 16

自分の祖父 6

自分の祖母 14

配偶者の祖父 3

配偶者の祖母 4

1. ダブルケアについて

問4 あなたは、「ダブルケア」という言葉の概念を知っていますか。

- 言葉とその概念を知っている。24
- 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない 28
- 言葉を知らない。37 / 無回答 0

問5 あなたの性別を教えてください。(ひとつだけ) **必須**

- 男性 15
- 女性 73
- その他 1 / 無回答 0

問6 あなたの現在の年齢を教えてください。(ひとつだけ) **必須**

- 20歳未満 0
- 20～29歳 4
- 30～39歳 48
- 40～49歳 28
- 50～59歳 8
- 60～69歳 1
- 70～79歳 0
- 80歳以上 0 / 無回答 0

問7 あなたの婚姻の状況を教えてください。(ひとつだけ) **必須**

- 未婚 0
- 既婚 84
- 離別・死別 5 / 無回答 0

問8 現在あなたと同居されている方はどなたですか。当てはまるものをすべてお選びください。

(複数回答可) 必須

※ここでは、単身赴任や入院等で半年以上同居されていない場合は含みません。

- 父親(実父、義父含む) 12
- 母親(実母、義母含む) 21
- 夫 64
- 妻 14
- 祖父 5
- 祖母 8
- その他 43 ()

問9 あなたはふだん育児と介護をすることがどのくらい負担になっていますか。当てはまるものを

お答えください。(それぞれひとつだけ) 必須

問9-1 育児について

- 大変負担になってい 14
- やや負担になっている 40
- あまり負担になっていない 27
- 全く負担になっていない 8 / 無回答 0

問9-2 介護について

- 大変負担になっている 25
- やや負担になっている 49
- あまり負担になっていない 11
- 全く負担になっていない 4 / 無回答 0

問 10 あなたはふだん「育児」を行うことに対して、どのようなことが負担になっていますか。当てはまるものをお答えください。(それぞれひとつだけ) 必須

問 10-1 社会活動の制約(仕事や他の社会活動に支障が出る等)

- 大変負担になっている 21
- やや負担になっている 41
- あまり負担になっていない 22
- 全く負担になっていない 4 / 無回答 1

問 10-2 精神的負担感(報われない気がする、ストレスや孤独を感じる等)

- 大変負担になっている 14
- やや負担になっている 35
- あまり負担になっていない 30
- 全く負担になっていない 9 / 無回答 1

問 10-3 経済的負担感(費用が家計を圧迫している)

- 大変負担になっている 23
- やや負担になっている 37
- あまり負担になっていない 24
- 全く負担になっていない 5 / 無回答 0

問 10-4 肉体的負担感(体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等)

- 大変負担になっている 26
- やや負担になっている 40
- あまり負担になっていない 18
- 全く負担になっていない 4 / 無回答 1

問 11 あなたはふだん「介護」を行うことに対して、どのような負担を感じますか。当てはまるものをお答えください。(それぞれひとつだけ)必須

問 11-1 社会活動の制約(仕事や他の社会活動に支障が出る等)

- 大変負担になっている 32
- やや負担になっている 36
- あまり負担になっていない 14
- 全く負担になっていない 7 / 無回答 0

問 11-2 精神的負担感(報われぬ気がする、ストレスや孤独を感じる等)

- 大変負担になっている 34
- やや負担になっている 40
- あまり負担になっていない 13
- 全く負担になっていない 2 / 無回答 0

問 11-3 経済的負担感(費用が家計を圧迫している)

- 大変負担になっている 19
- やや負担になっている 27
- あまり負担になっていない 31
- 全く負担になっていない 11 / 無回答 1

問 11-4 肉体的負担感(体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等)

- 大変負担になっている 25
- やや負担になっている 44
- あまり負担になっていない 16
- 全く負担になっていない 2 / 無回答 2

問 15 あなたがダブルケアをするようになってからどのくらいたちますか。(ひとつだけ)必須

- 10年以上 5
- 5年以上10年未満 15
- 3年以上5年未満 14
- 1年以上3年未満 30
- 1年未満 20 /無回答 5

問 16 ダブルケアが始まった前後の就労の状況についてお伺いします。ダブルケアが始まる前と、
現在(始まった後)のそれぞれについてお答えください。(それぞれひとつだけ)必須

問 16-1 ダブルケアが始まる前

- 正規の職員・従業員 41
- 非正規の職員・従業員(パート・アルバイトを含む) 27
※ごく短時間でも勤務等をされている方はこちらをお選びください。
- 自営業、フリーランス等 8
- 無職(専業主婦・主夫、学生・その他) 11 /無回答 2

問 16-2 現在(ダブルケアが始まった後)

- 正規の職員・従業員 34
- 非正規の職員・従業員(パート・アルバイトを含む) 27
※ごく短時間でも勤務等をされている方はこちらをお選びください。
- 自営業、フリーランス等 11
- 無職(専業主婦・主夫、学生・その他) 13 /無回答 4

2. あなた(ケアラー)ご自身のケアの影響について

※以降は、ダブルケアによる影響等を把握するための設問となっております。「ケア」という表記は、育児と介護の両方のケアを含むものとして、お答えください。

問 17 あなたの健康や健康維持の状態について教えてください。(複数回答可)

- 身体的不調がある 36 精神的不調がある 42 睡眠不足である 36 通院している 12
 持病があるが通院できない 8 健康診断に行く時間が取れない 16 休養がとれない 41
 運動不足である 32 その他 4[] 特に問題ない 16

問 18 あなたは、年に1度、健康診断を受けていますか。

- 受けている 58 受けていない 30 / 無回答 1

問 19 あなたは、自分のための時間(趣味や休息など)を充分にとれていますか？

- とれている 1 まあまあとれている 26 あまりとれていない 44 全くとれていない 16
/ 無回答 2

問 20 ケアにより就労状況は変化しましたか？

- ケアのために退職した⇒(問 22)へ 8 ケアのために勤務時間を減らした 28
 ケアのために転職した 6 ケアのために就労経験が無い 2
 ケアによる就労状況の変化はない 38 / 無回答 7

問 21 就労を続けられている理由(複数回答可) ※就労を続けている方のみ回答

- 各種サービスの利用 24 家族のサポート 38 勤務時間の短縮 26
 配置転換・勤務地変更 2 転職 7 介護休暇の取得 8
 相談先(相談相手)を紹介してもらったから 1
 生活上の工夫 20 仕事を続けたいというモチベーション 24
 経済的な理由 38 わからない 3 その他 11[]

問 22 ケアを機に退職した理由(複数回答可) ※ケアのために退職された方のみ回答

- 身体的疲労 3 精神的疲労 3 代わりにケアを担う人がいない 7
 サービスが利用できなくなった 2 サービスは利用しているが、足りない部分がある 1
 業務が多忙でケアの時間がとれない 1 介護と両立できる職場環境ではなかった 5

退職を勧められた 0

その他 1[]

3. ケアに関する相談について

問 23 ケアが原因でケアラーである自分自身の生活や人生について何か悩みがありますか。

ある→(問 24)へ 62 ない→(問 25)へ 25 /無回答 2

問 24 ご自身の生活や人生に関する悩みについて選んでください。(複数回答可)

心身の健康 30 経済的な問題 39 仕事に就けない 11

職場の人間関係 6 仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない 24

ケアをしている相手との関係 21 家族関係 22 近隣との関係 4

医療機関や介護事業所との関係 8 行政との関係 4 自分の自由な時間が取れない 27

ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足 13

ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続 7

将来への見通しが持てない 25

結婚できない 0

その他 0[]

問 25 あなた以外で、ケアに協力してくれる人について教えてください。(複数回答可)

配偶者・パートナー 16

父 5 母 10 祖父 1 祖母 1 兄弟・姉妹 9 親戚 7 近所の人や知人 1

医療者やサービス事業所の人 7 その他 0[] 誰もいない 2

問 26 あなたが信頼して相談できる人や窓口・機関があれば教えてください。(複数回答可)

①ケアを必要としている本人のことを相談する窓口・機関

家族 61 家族会 4 地域包括支援センター 14 ケアマネジャー 37

障害者(児)相談支援事業所 9 子育て支援機関 4 民生委員・児童委員 0

介護者サロン 0 医療者やサービス事業所の人 21

電話相談窓口 0 その他 5[] 誰もいない 10

②ダブルケア者自身のことを相談する窓口・機関

- 家族 61 家族会 3 地域包括支援センター5 ケアマネジャー8
障害者（児）相談支援事業所 6 子育て支援機関 6 民生委員・児童委員 0
介護者サロン 0 医療者やサービス事業所の人 6
電話相談窓口 1 その他 9[] 誰もいない 16

問 27 もしもの場合、あなたに代わって被介護者のケアを担ってくれる人はいますか。

- いる 20 頼めばいる 29 頼めばいるが頼みにくい 21 いない 19 /無回答 0

問 28 あなたの体調不良を含めた緊急時にどう対応するか取り決めていますか。

- 取り決めている 18 取り決めているない 71 /無回答 0

問 29 災害時に備えた対応を取り決めていますか。

- 取り決めている 7 取り決めているない 81 /無回答 1

4. ダブルケアに際して求める支援について

問 30 ダブルケア者ご自身に必要なと思われる支援はありますか。（複数回答可）

- 電話や訪問による相談体制の整備 15 ダブルケア者に役立つ情報の提供 26
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保 49 気軽に情報交換できる環境の紹介・提供 20
勤務しやすい柔軟な働き方 46 就労及び再就職への支援 18
24時間対応の在宅サービスの提供 22 入居施設等の生活の場の整備・充実 21
保育施設等の入所（園）への配慮 18
災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス 15
ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続 13
社会的なダブルケア者支援への理解 22 専門職や行政職員のダブルケア者支援への理解 15
経済的支援 56
婚活支援 0
ダブルケア者の健康管理への支援 22

ダブルケアという言葉の認知度向上 18

その他 0 []

問 31 ダブルケアに関し、ご意見があれば自由にお答えください。 任意

()

※今後、ダブルケアの状況について数件、抽出でのヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、この調査の依頼を受けた施設名をご記入ください。

その場合は、施設を通じて依頼をさせていただきます。なお、アンケートには、名前や連絡先等の個人情報の記載はしないでください。

(抽出ですので、全員に連絡が行く訳ではありませんので、その点ご了承願います。)

施設所在市町村 () 施設名 ()
施設電話番号 ()

以上で調査は終わりです。御協力ありがとうございました。

出展：内閣府のウェブサイト (https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/wcare_research.html)、

PDL1.0 (https://www.digital.go.jp/resources/open_data/public_data_license_v1.0)

※本調査は、内閣府のウェブサイトに掲載されている、内閣府委託調査「平成 27 年度 育児と介護のダブルケアの実態に関する調査報告書」(平成28年3月)の付属資料、付表(2)の調査項目を加工して作成しています。

調査票の見本です。実際の回答はWEBでお願いします。

ケアラー支援に係る実態調査票（ケアラー支援団体）

調査へのご協力をお願い

○県では、「茨城県ケアラー・ヤングケアラーを支援し、共に生きやすい社会を実現するための条例」を制定(令和3年12月14日施行)し、ケアラー支援の各種取組を進めております。

○この度、ケアラーの実態を把握し、今後の取組を検討するため、調査を行うこととしました。

○本調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。また、「ケア」を行う方を「ケアラー」と言います。

団体名（ _____ ）

n=13

問1 貴団体会員のケアラーとしての悩みについて、あてはまるものを選んでください。(複数回答可)

その他の場合は、具体的な内容を記入してください。

- 自身の心身の健康 9
- 経済的な問題 9
- 就労に係る問題 10
- 職場の人間関係 5
- 仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない 9
- ケアをしている相手との関係 7
- 家族関係 7
- 親族関係 6
- 近隣との関係 3
- 医療機関や介護事業所との関係 8
- 行政との関係 7
- 自分の自由な時間が取れない 8
- ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足 9
- ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続 9
- 年老いた親が障害のある子どもを介護し続ける「老障介護」の問題 11
- 介護の「家族依存」の問題 8

将来への見通しが持てない 7

結婚できない 4

その他 1

その他記述欄

問2 ケアラーに求められる（必要と思われる）支援について選んでください。（複数回答可）

その他の場合は、具体的な内容を記入してください。

電話や訪問による相談体制の整備 8

ケアラーに役立つ情報の提供 9

気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保 10

気軽に情報交換できる環境の紹介・提供 10

勤務しやすい柔軟な働き方 7

就労及び再就職への支援 5

24時間対応の在宅サービスの提供 8

入所施設やグループホームなど地域の受け皿（暮らしの場）の整備・充実 11

災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス 10

ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続 11

社会的なケアラー支援への理解 9

専門職や行政職員のケアラー支援への理解 9

経済的支援 10

ケアラーの健康管理への支援 9

婚活支援 4

その他 1

その他記述欄

問3 貴団体におけるダブルケアという言葉の概念に関する認知度を教えてください。

- 全ての会員（役員）が知っている。 3
- 多く（半数以上）の会員（役員）が知っている。 4
- 一部の会員（役員）は知っている。 4
- いずれの会員（役員）もあまり知らない。 2
- 知らない。 0

問4 ケアラー支援や民間支援団体に対する支援の要望などがありましたらお書きください。

以上で調査は終わりです。御協力ありがとうございました。

調査票の見本です。実際の回答はWEBでお願いします。

ケアラー支援に係る実態調査票
支援機関（地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、民生委員児童委員協議会、居宅介護支援事業所）

調査へのご協力をお願い

○県では、「茨城県ケアラー・ヤングケアラーを支援し、共に生きやすい社会を実現するための条例」を制定(令和3年12月14日施行)し、ケアラー支援の各種取組を進めております。

○この度、ケアラーの実態を把握し、今後の取組を検討するため、調査を行うこととしました。

○本調査へのご協力をよろしくお願いします。

*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。また、「ケア」を行う方を「ケアラー」と言います。

所在市町村（ ） 支援機関名（ ）

n=477

(I 事業所の種別)

問1 事業所種別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 地域包括支援センター 72
2. 障害者相談支援事業所(指定特定・指定障害児) 117
3. 民生委員児童委員協議会 74
4. 居宅介護支援事業所 212
- 無回答 2

問2 ご回答いただく方の職種を教えてください。(複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。)

1. センター長・管理者・会長 215
2. 保健師(看護師) 22
3. 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士 115
4. (主任)介護支援専門員 199
5. (主任)相談支援専門員 64
6. (主任)相談支援員 2
7. 就労支援員 1
8. 民生委員・児童委員 57
9. 主任児童委員 15

10. その他の職種 28 ()

(Ⅱケアラー・ヤングケアラーの認知度)

問3 貴センター・事業所・協議会におけるケアラー・ヤングケアラーに関する認知度を教えてください(あてはまる番号1つに○)。

① ケアラーという言葉の概念について

1. 全ての職員(所属委員)が知っている 309
 2. 多く(半数以上)の職員(所属委員)が知っている 113
 3. 一部の職員(所属委員)は知っている 42
 4. いずれの職員(所属委員)もあまり知らない 9
 5. 知らない 1
- 無回答 3

②ヤングケアラーという言葉の概念について

1. 全ての職員(所属委員)が知っている 307
 2. 多く(半数以上)の職員(所属委員)が知っている 117
 3. 一部の職員(所属委員)は知っている 42
 4. いずれの職員(所属委員)もあまり知らない 6
 5. 知らない 1
- 無回答 4

(Ⅲケアラーについて)

問4 令和6年度に、ケアラーなどから受けた相談件数などを教えてください。

問4-1 相談延べ件数の総数()件 ※別紙

(1) うちケアラーからの相談()件 ※別紙

(2) うちケアを必要とする本人からの相談()件 ※別紙

(3) うちケアラー及びケアを必要とする本人の両方からの相談 ※別紙
()件

※相談件数を把握していない場合は空欄でも差し支えありません。

問4-2 ケアラー又はケアを必要とする本人からの相談で、該当する相談内容について選んでください。(複数回答可)

1. 心身の健康 261
2. 経済的な問題 256
3. 仕事に就けない 88
4. 職場の人間関係 29
5. 仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない 133
6. ケアをしている相手との関係 169
7. 家族関係 208
8. 近隣との関係 64
9. 医療機関や介護事業所との関係 119
10. 行政との関係 46

11. 自分の自由な時間が取れない 133
12. ケアをしている相手へのサービスの質・量の不足 92
13. ケアラーの緊急時におけるケアをしている相手へのサービスの継続 90
14. 将来への見通しが持てない 106
15. 結婚できない 13
16. その他 30 []

問5 ケアラー本人への直接的な支援として、ケアが必要な人をサービスに繋げることに以外に、どのような支援を行っていますか。（複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。）

1. ケアラーに対するアセスメントの実施 156
2. ケアラーに対する自己チェック票（※）の配布 8
3. 相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置（なんでも相談会など） 96
4. 介護に関する知識や技術を伝える取組 184
5. 介護者サロンの設置（居場所づくり、レスパイトケア） 37
6. 「子育てサロン」や「いきいきサロン」などの地域の仲間を作る場所づくり 29
7. ケアラー同士の交流会の開催 27
8. その他 44 ()
9. 行っていない 114

※自己チェック票：ケアラー本人が、家族のケアをしている自分の体調や気持ち、考え方を、ケアマネージャーなどの相談職員に伝えるためのチェック票（家族介護者支援マニュアル（厚生労働省：平成30年3月））

問6 問5でお答えいただいた直接的な支援以外で、ケアラー支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。）

1. ケアラー支援に関する理解の促進 226
2. 支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援 322
3. 関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備 279
4. ケアと仕事などの両立支援 184
5. その他 18 ()

問7 令和6年度において、貴センター・事業所・協議会（所属委員）が受けた相談の中で、ケアを必要としている人が、公共サービスの利用に至らなかった事例はありますか（あてはまる番号1つに○）。

1. ある 147 2. ない 213 無回答117

問8 問7で「ある」と回答したセンター・事業所・協議会（所属委員）に伺います。

相談に繋がったにも関わらず、公共サービスの利用に至らなかった理由は何ですか。（複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。）

①ケアを必要としている側の理由

1. 家族によるケアを望んでいる 64
2. 家族がケアをするのが当たり前だと思っている 46
3. 家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている 58
4. 公共サービスの内容を理解していない 41
5. 公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない 67
6. 地域のサービス提供体制が不十分 32
7. 本人が公共サービスを必要と思っていない 111
8. その他 10 ()

②ケアをしている側（ケアラー）の理由

1. 家族で支えられると考えている 48
2. 家族がケアをするのが当たり前だと思っている 31
3. 家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている 65
4. 公共サービスの内容を理解していない 53
5. 公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない 81
6. 地域のサービス提供体制が不十分 31
7. ケアラーが公共サービスを必要と思っていない 48
8. 関わることを拒否又は連絡がとれない 49
9. その他 10 ()

問9 支援に繋がりにくい家庭を支援に結びつけるために、どのようなことをしていますか。(どのようなことが必要だと考えていますか) (複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。)

1. ケアラー支援に対する社会的認知度の向上 170
2. センター・事業所職員・協議会所属委員のケアラー支援に関する理解の促進138
3. 関係機関(行政や地域包括支援センター等)と連携した支援ニーズの把握 280
4. 民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得 219
5. 電話連絡や家庭訪問の実施 189
6. 本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう 260
7. その他 12 ()

(IVヤングケアラーについて)

問10 貴センター・事業所・協議会(所属委員)が関わっている(過去に関わった)家庭の中で、ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者はいますか。(いましたか)

1. いる(いた) 155
 2. いない 193
 3. わからない 96
- 無回答 33

問11 問10で「1. いる(いた)」と答えた方に質問します。(それ以外の方は、問12に進んでください。)

貴センター・事業所・協議会(所属委員)が関わっている(過去に関わった)、そのような子ども・若者のうち最も印象に残る子ども・若者について、以下の問いに答えてください。 n=155

問11-1 その子ども・若者を知ったきっかけは何ですか。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。

1. 本人の話から 22
 2. 家族・親族の話から 30
 3. 相談支援の中からの情報 51
 4. 他の関係機関、関係者から 45
 5. その他 7 ()
- 無回答 0

問 11-2 問 11-1 で「4. 他の関係機関、関係者から知った」と答えた方に質問します。
(それ以外の方は、問 11-3 に進んでください。)

その子ども・若者を知ったきっかけとなった、関係機関・関係者にあてはまるものを教えてください。(複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。) n=45

1. 市町村の保健福祉部門 18
2. 市町村要保護児童対策地域協議会 5
3. 市町村教育委員会 2
4. 小中学校、高等学校 8
5. スクールソーシャルワーカー 5
6. 民生委員・児童委員 4
7. 児童相談所 2
8. 医療機関 3
9. 警察などの司法機関 0
10. 子ども食堂などの民間団体 0
11. その他 18 ()

問 11-3 その子ども・若者の性別を教えてください。 n=155

1. 男性 65
2. 女性 81
3. その他 2
- 無回答 7

問 11-4 その子ども・若者の年代を教えてください。 n=155

1. 小学生 34
2. 中学生 34
3. 高校生 47
4. 未就学(15歳～18歳) 7
5. その他 25 () 歳くらい) 無回答 8

問 11-5 その子ども・若者がケアをしている(していた)相手はだれですか。(複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。) n=155

1. 父親 20
2. 母親 67
3. 祖父 16
4. 祖母 36
5. きょうだい 40
6. その他 10 ()

問 11-6 その子ども・若者がケアをしている(していた)内容は何ですか。(複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。) n=155

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯) 84
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 35
3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) 49
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など) 37
5. 通院の付き添い 29

- 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど） 51
- 7. 見守り 77
- 8. 通訳（日本語や手話など） 7
- 9. 金銭管理（請求書の支払いなど） 15
- 10. 薬の管理 30
- 11. その他 7（ ）
- 12. わからない 3

問 11-7 その子ども自身に、どのような影響が生じている（生じていた）と思いますか。
（複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。） n=155

- 1. 心身の健康への影響 85
- 2. 学業への影響 84
- 3. 友人関係への影響 50
- 4. 自分自身の時間がとれないこと 76
- 5. その他 19（ ）

問 11-8 その子ども・若者へはどのような支援を行っていますか（行いましたか）。（複数
選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。） n=155

- 1. ケアが必要な対象者へのサービス調整 92
- 2. 支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ 78
- 3. 関係者が支援チームを作り支援 32
- 4. その他 21（ ）

問 11-9 問 11-8 で「2. 支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」と答えた
方に質問します。（それ以外の方は、問 12 に進んでください。）

支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎを行った、関係機関・関係者に
あてはまるものを教えてください。（複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内
容を記入してください。） n=78

- 1. 市町村の保健福祉部門 53
- 2. 市町村要保護児童対策地域協議会 10
- 3. 市町村教育委員会 11
- 4. 小中学校、高等学校 20
- 5. スクールソーシャルワーカー 8
- 6. 民生委員・児童委員 12
- 7. 児童相談所 4
- 8. 医療機関 16

- 9. 警察などの司法機関 1
- 10. 子ども食堂などの民間団体 2
- 11. その他 16 ()

問12 ヤングケアラーである対象者に求められるサポートは何だと思いますか。(複数選択可。「その他」の場合は、具体的な内容を記入してください。)

- 1. 相談できる人や場所 421
- 2. 他のヤングケアラーとの出会い 102
- 3. 代わりに家事やケアをしてくれる人 275
- 4. 支援関係者が理解を深めること 199
- 5. 多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうこと 180
- 6. 支援マニュアル等による支援 88
- 7. 経済的な支援を得るための情報提供 260
- 8. 進学就職に関する情報提供 173
- 9. その他 19 ()
- 10. 分からない 6

問13 ヤングケアラーへの支援に当たり、注意すべきだと思う点は何だと思いますか。(括弧内に具体的に記入してください。)

()

問14 ヤングケアラーの支援について、すでに取り組んでいること、今後、取り組めそうなことなどがあれば記載してください。その他、ヤングケアラーについて自由に記載してください。

(括弧内に具体的に記入してください。)

()

(Vダブルケアの認知度)

問15 貴センター・事業所・協議会におけるダブルケアという言葉の概念に関する認知度を教えてください(あてはまる番号1つに○)。 n=477

1. 全ての職員(所属委員)が知っている 146
 2. 多く(半数以上)の職員(所属委員)が知っている 117
 3. 一部の職員(所属委員)は知っている 105
 4. いずれの職員(所属委員)もあまり知らない 50
 5. 知らない 47
- 無回答 12

以上で調査は終わりです。御協力ありがとうございました。

別紙 ケアラー支援に係る実態調査（支援機関用）

問4 相談延べ件数

0～9 件：171
10～29 件：21
30～49 件：12
50～99 件：27
100～499 件：33
500～999 件：11
1,000 件以上：23
無回答：179

（1）うちケアラーからの相談

0～9 件：189
10～29 件：29
30～49 件：13
50～99 件：17
100～499 件：28
500～999 件：7
1,000 件以上：7
無回答：187

（2）うちケアを必要とする本人からの相談

0～9 件：213
10～29 件：23
30～49 件：14
50～99 件：6
100～499 件：15
500～999 件：4
1,000 件以上：6
無回答：196

(3) うちケアラー及びケアを必要とする本人の両方からの相談

0～9 件：206
10～29 件：14
30～49 件：11
50～99 件：5
100～499 件：14
500～999 件：4
1,000 件以上：3
無回答：220